

差引殘

金五千貳百九拾參萬六千五百九拾四圓拾四錢五厘

外

金參千貳百七萬六千五拾壹圓八拾貳錢九厘

償金 利子 總額

合計 金八千五百壹萬貳千六百四拾五圓九拾七錢四厘

使 用 未 定 額

果シテ然リトセハ結局ノ未定額五千乃至八千萬圓ノ内ヨリ貳千貳百萬圓ヲ金ニテ分割ノ上政  
府カ日本銀行ヨリ借入タル無利子紙幣銷却金ヲ該行ニ返濟シ多少國家ニ對スル義務ヲ負擔セ  
シメ以テ金貨準備ヲ充足セシムルモ亦一方法ナラン然ルモ尙ホ不足ヲ告ケナハ以テ其殘餘ノ  
使用未定額(之レハ軍事實金トシテ金)ヲ一時準備ノ用ニ供セシムルモ又可ナラン

第四節 將來金吸收ノ政策

抑諸國ノ金本位ヲ實施シ若クハ將來之カ採用ヲ期スルモノ其最モ困難トスル所ハ金ノ調達ニ  
在リ況ンヤ今日ノ如ク金價ノ騰貴セル際ニ於テオヤ然ルニ我邦ハ幸ニ清國ヨリ獲タル償金ノ  
存スルアリテ今後數年間ハ前陳ノ如キ便宜ヲ有スルモ將來ニ於テ金準備ノ缺乏ヲ來サ、ルノ  
策ヲ講セスンハ他日ニ至リテ困難ヲ讓サンモ知ルヘカラス例ヘハ朝鮮ノ砂金若クハ内地ノ產  
金ヲ買收スルカ如キ或ハ倫敦其他ノ金貨國市場ニ於テ本邦ノ公債債券ノ賣買ヲ盛ナラシムル  
カ如キ就中金貨國ヘノ輸出ヲ増進スルカ如キ現在若クハ將來ニ於テ政府ノ施スヘキ金貨吸收  
ノ政策ハ一ニシテ足ラサルナリ

第七章 本位改正ノ影響

金銀ノ時價ニ基キタル金本位ヲ實施スルトセハ經濟上ノ激變ヲ避クルニ足ルヘシト雖モ物價  
ハ多少下落スルヲ免レサランカ但現行幣制ノ儘ニシ措クモ輸入獎勵ノ結果外ニ正貨ヲ失ヒテ  
内ニ物價ノ下落ヲ來サ、ルヲ得サルヘシ果シテ然ラハ物價ノ騰貴殆ント極度ニ達シタル今日  
幣制ノ改革ニ依リテ物價ヲ幾分カ下落ノ傾向ニ導クハ正貨ヲ外ニ失フノ不利ナキノミナラス  
却テ輸出ヲ獎勵スヘキハ勿論一般消費者特ニ細民ヲ利スルモノニシテ就中勞働者ノ如キハ物  
價下落ノ爲メ恰モ勞銀ノ増加シタルト同一ノ結果ヲ生スヘシ加フルニ政府ノ歲計ニ於テ物品  
購買費及外國仕拂金ノ減少ハ是亦間接ニ國民ノ負擔ヲ減スルモノト云ハサルヲ得ヌ又外國貿  
易ニ於テハ從來ノ如ク銀價下落ノ爲メ輸出ヲ増進シ若クハ之ヲ獎勵スルカ如キハ期スヘカラ  
サルモ又爲替相場ノ變動ニ依リ金貨國ニ對スル商業取引ニ滯滯ヲ來スコトナカルヘシ即チ我  
外國貿易ハ將來投機若クハ之ヲ獎勵スルカ如キハ期スヘカラサルモ又爲替相場ノ變動ニ依リ  
金貨國ニ對スル商業取引ニ滯滯ヲ來スコトナカルヘシ即チ我外國貿易ハ將來投機若クハ危險  
ノ性質ヲ脱シテ自然ノ國力ノ發達ニ伴ヒ増進スルモノトナルヘシ唯支那若クハ朝鮮ノ如キ銀  
貨國ニ對シテハ今日我邦ノ金貨國ニ對スルカ如ク輸出品價格ノ騰貴ニ依リ幾分カ我輸出ヲ減  
スルコトナキヲ保セス然レトモ貿易ノ滯滯ハ銀價ノ激動ニ歸因スルモノニシテ必ラスシモ銀  
價下落ノ爲メニアラス銀價ノ變動昔日ノ如クナラサルニ於テハ是亦深ク憂フルニ足ラサラン  
トス況ンヤ他ノ政策ニ於テ銀貨國トノ貿易ハ之ヲ獎勵スルヲ得ルニ於テオヤ外國貿易平穩ニ  
行ハル、トキハ内地商工業ニ於テモ亦投機的企業ノ物與ヲ抑壓シ始メテ真正ノ發達ヲ期スル  
コトヲ得ヘキナリ殊ニ金本位ハ開明諸國ノ通制ニシテ一度此制ヲ採用セハ所謂世界ノ經濟流



域ニ加入スルコト、ナリ本邦ノ地位ヲ高ムルコトハ敢テ問ハストスルモ所謂世界共通ノ經濟程度ニ達スルトキハ將來ニ於ケル財政及金融上ノ利益ハ頗ル大ナルモノアラシ今日ノ好時期決シテ失フヘカラス若シ往昔經過シテ機會ヲ失セハ他日ニ大改革ヲ實行センコト殆ント望ムヘカラス

第八章 現行法令ノ變更

以上陳述セル所果シテ實行セラル、モノトセハ法令ノ改正ヲ要スルモノ頗ル多カラシ今試ニ其重要ナルモノ、ミヲ左ニ略記ス

第一 貨幣條例 現行ノ貨幣條例ハ不完全ナルヲ免レス全然改正ヲ要スヘキモノナリト雖モ今其變更スヘキ要點ヲ舉クレハ左ノ如シ

削除スヘキモノ

壹圓銀貨ノ鑄造ニ關スル事項

改正スヘキモノ

新金貨ノ鑄造ニ關スル事項

追加スヘキモノ

最輕量目ヲ定ムルコト

自然ノ磨損及故意削取ノ爲メ減量シタル貨幣ノ引揚竝ニ其費用ノ負擔

第二 造幣規則壹圓銀貨ノ鑄造ニ關スル事項ヲ削除シ新貨ニ關スル事項追加ヲ要ス

第三 明治十八年第十四號布告政府紙幣漸次銀貨交換改正ヲ要ス

第四 兌換銀行券條例

削除スヘキモノ

各條 (銀地金)

追加スヘキモノ

銀貨準備ニ關スル事項

第五 銀行紙幣ハ銀行條例第四十九條ニ通貨ト交換云々トアルヲ以テ改正ヲ要セス

第六 墨銀ノ通用ヲ禁止スルノ件制定ヲ要ス

第七 明治二十二年大藏省令第三號流通不便ノ金銀貨交換方改正ヲ要ス

第八 五拾錢以下ノ小紙幣ノ通用禁止ヲ要ス

第九 明治十一年布告第二號通貨ノ溶解等禁止ノ件ハ序ニ廢止スルモ可ナラシ

第四項 貨幣法ノ制定

既ニ金貨準備ヲ得ルノ途開ケ貨幣制度改正ノ機正ニ熟セルヲ以テ以上ノ調査ニ基ツキ大藏大臣伯爵松方正義ハ明治三十年二月二十五日ヲ以テ貨幣法其他附屬法案ヲ閣議ニ提出セリ其ノ議即チ左ノ如シ

幣制ノ得失ハ國家ノ經濟及財政上重大ノ關係アリ茲ヲ以テ明治維新兵馬倥傯ノ際舊政府制定ノ幣制改革ニ著手シ大阪ニ造幣局ヲ置カレ廣ク各國古今幣制ノ得失ニ鑑ミ明治四年新貨條例ヲ制定シ金以テ本位トシ開港場限リ通用ノ爲メ貿易銀ヲ鑄造發行セラル然ルニ當時舊政府



ノ後ヲ承ケ内外多事國用給セズ不得止紙幣増發ノ事アリ之ニ加フルニ數百年來封建鎖國ノ弊習ニ流レ商業不振工業不起爲メニ貿易ハ年々巨額ノ不平均ヲ告ケ正貨ヲ海外ニ驅逐セルヲ以テ金貨ハ殆ント市場ニ跡ヲ止メス開港場ノ貿易ハ僅カニ外商ノ輸入セル弗銀ヲ媒介トシテ取引ヲナスノ景況ニ陥リ不便云フヘカラサルヲ以テ明治十一年ニ至リ斷然貿易銀ノ通用區域ヲ一般内地ニ及ホシ尋テ明治十二年ニ至リ貿易銀ト弗銀ト竝價通用ヲ公許シ以テ幣制一時ノ急ヲ救フコトニ決セリ此時ニ當リ明治十年西南戰爭ノ爲メ政府紙幣貳千七百萬圓ノ發行アリ又明治九年國立銀行條例改正後銀行紙幣ノ發行參千四百餘萬圓ノ多キニ達シ内地流通紙幣漸ク過多トナリ從ツテ其價格正貨ニ比シ漸次ニ低落シ其結果物價ハ非常ニ騰貴シ金利ハ昇リ公債ハ下落シ輸出入ハ益々不平均ヲ告ケ正貨ハ益々海外ニ流出シ人民ハ奢侈ニ奔リ經濟並財政ノ狀況非常ノ危殆ニ陥リ慘毒云フヘカラス此ニ於テ廟議深ク憂慮セラル、所アリ速カニ幣制ヲ整理シ經濟並財政ヲ革新シ國家永遠ノ基礎ヲ固フスルノ大方針ヲ定メラレ銳意實行ヲ期セリ依テ明治十四年橫濱正金銀行ノ整理ニ著手シ以テ海外ニ對スル金融機關ノ規模ヲ擴張シ明治十五年日本銀行ヲ設立シ金融流通ノ方法ヲ講シ尋テ兌換銀行券條例ヲ定メ明治十六年國立銀行條例ヲ改正シテ銀行紙幣銷却ノ方案ヲ立テ茲ニ紙幣畫一ノ基礎漸ク成ル而シテ政府發行ノ紙幣ハ先ツ豫備札ヲ引上ケ或ハ金札引換公債證書ヲ發行シ或ハ歳入ヲ増シ歳出ヲ節シ差引歳入殘餘ヲ以テ紙幣銷却ノ元資ニ充テ或ハ準備金ヲ運用シテ正貨ヲ吸收シ以テ紙幣ノ兌換ニ充テ一方ニ於テハ紙幣ノ發行高ヲ減シ一方ニ於テハ正貨ヲ蓄積シ漸次紙幣ノ價格ヲ回復シ終ニ明治十九年一月一日ヲ以テ紙幣ノ兌換ヲ實施シ銀紙ノ價格同一トナリ茲ニ漸ク幣制整理ノ一段落

ヲ見ルニ至レリ爾來本邦ノ經濟ハ實ニ駭々トシテ進ミ商業ハ繁昌シ工業ハ起リ貿易ハ常ニ輸出超過ト爲リ正貨ハ年々流入シテ日本銀行ノ兌換準備ハ大ニ増加セリ而シテ財政亦共ニ好況ニシテ高利ノ公債ハ低利ニ整理シ歲計ハ年々數百萬圓ノ剩餘ヲ生シ其額積テ數千萬圓トナルニ至レリ

幣制ノ整理ハ明治十九年ヲ以テ一段落ヲ告ケタルモ是レ纔ニ不換紙幣ヲ整理シテ銀貨兌換トナシタルニ止リ未タ以テ金本位ノ本體ニ復スルコト能ハス然ルニ世界銀價ノ實況ヲ觀察スルニ鑛業及ヒ製鍊術ノ進歩並銀床ノ發見ニ伴ヒ其產出年々非常ニ増加シ價格從テ低廉ニ赴クヲ以テ商工業ノ進歩シタル諸國ニ於テハ物價ノ變動ト通用上ノ不便トヲ恐レ銀貨ヲ鑄造スルコトヲ停止シ所謂排銀政策ヲ實施セリ此ニ於テ銀ハ產出増加スルニ拘ハラズ貨幣トシテノ需用ハ反テ減スルノ傾向トナリ價格益々下落ニ赴ケリ之ニ反シ金ハ各國爭テ吸收ヲ力ムルヲ以テ其價格騰貴スルニ拘ハラズ其產額ハ濠洲及カリホルニヤ金鑛發見後ハ最近年ノ阿弗利加金ノ發見マテ事口減少ニ傾キ益々價格ノ上騰ヲ來セリ形勢如斯ナルヲ以テ列國ハ金貨國ト銀貨國トニ分レ相互ノ間貿易上ノ不利從テ商工業ノ不便少ナカラサリシヲ以テ各強大國一時銀價維持策ヲ講究シ相協同シテ金銀兩本位ヲ行ハンコトヲ發議シ會合數回一モ協議ノ纏ルニ至ルモノアラサリキ各國中北米合衆國ハ其領内ニ數多ノ銀山アリ銀價ノ高低ニ最モ利害ヲ感スルコト強ク從テ國中ニ強大ナル可銀黨ヲ生シ政治上少ナカラサル勢力ヲ有スルヲ以テ最モ熱心ニ兩本位論ヲ主張シ前後二回單獨ニ國內限リ兩本位制ノ實行ヲ試ミタルモ其目的ヲ達セスシテ止メリ此ニ於テ列國中形勢ヲ傍觀セルモノ相尋テ斷然金本位ニ移リ若クハ銀貨鑄造ヲ停止シ若ク



ハ盛ニ金ヲ吸收シ銀ノ輸入ヲ防キ以テ金本位實施ノ準備ヲナセリ而シテ世界中銀吸收ノ二大中心ノ一タル印度ハ明治二十六年ニ於テ機勢ヲ察シ突然銀貨自由鑄造ヲ廢シ金計算ヲ取ルノ方策ヲ實施セリ本邦ニ於テハ久シク不換紙幣ノ整理中ニアリテ銀價下落ノ問題ハ深ク痛痒ヲ感セシテ經過セリ然ルニ明治十九年銀紙同一トナリシ後ハ此ノ問題ハ一日モ看過スヘカラサルモノトナリ熱心ニ注意ヲ怠ラス而シテ世界ノ大勢ハ到底動スヘカラス印度モ決心スルニ至リタルヲ以テ時機モハヤ一日モ猶豫スヘカラス此ニ於テ明治二十六年ノ秋廟議貨幣制度調査會ヲ置キ幣制得失ノ調査ヲ命セラル同會ハ熱心周密ニ調査ニ從事シ年ヲ閱スル一年餘越ヘテ明治二十八年七月ヲ以テ調査ノ結果ヲ復命セリ其復命ニ依ルニ我邦ノ幣制ハ改良ノ必要アリトナシ其新ニ採用スヘキ本位ハ金タルヘキコトヲ斷言セリ而シテ金本位實施前ニ先以テ金ノ蓄積ヲ必要トスル旨ヲ附言セリ其詳細ハ載セテ同會ノ報告ニアリ

世界ノ大勢ハ彼カ如ク貨幣制度調査會ノ報告モ亦斯ノ如シ金本位實施ノ必要モハヤ疑ヲ容レズ依テ爾來專ラ金吸收ノ方策ヲ求メタリ恰モ好シ下ノ關係約ニ依リ清國ハ償金二億兩ヲ支拂フコトヲ約セリ然ルニ清國ハ償金支拂ノ爲メ公債ヲ歐洲ニ於テ募集スルノ必要アルヲ以テ彼我ノ便益ヲ計リ償金ハ英京ニ於テ金貨ヲ以テ受取ルコトニ追約セリ茲ニ於テ金ノ吸收ニハ非常ノ便益ヲ得タリ

今ヤ從來日本銀行ノ兌換準備中ノ金貨參千參百餘萬圓及償金ヲ以テ取寄ニ係ル金貨六千五百餘萬圓合計九千八百餘萬圓(之ヲ新金貨ニ換算スレバ)九百四拾萬圓餘ノ多キニ上リ金貨本位ヲ實施スルノ機實ニ熱セリト云フヘシ此機ハ實ニ千載一遇ノ好機ニシテ再ヒ得ヘカラス廟議ノ斷然速カニ決スル

所アラント熱望ニ堪ヘサルナリ

今法案ニ具スル所ノ金本位實施方法ノ大要ヲ述ヘンニ現今通用ノ壹圓銀貨ト略同價格ノ金貨ヲ造ラントス此ノ如クナルトキハ現在ノ貸借並租稅ノ負擔其他現存ノ關係ニ變動ヲ與フルノ憂ヲ避ケ得ヘキナリ而シテ壹圓銀貨ノ製造ヲ廢止スルト同時ニ兌換銀行券及ヒ政府發行ノ紙幣ハ金貨交換ノ制トナシ從來發行ノ壹圓銀貨幣ハ別ニ特別ノ資金ヲ設ケテ漸次其整理ヲ完了シ之レカ回收ニ從テ補助銀貨幣ヲ發行シ以テ茲ニ金本位ヲ樹立セントス輓近本邦ノ貿易ハ長足ノ進歩ヲナシタリ之ニ依テ將來ヲ推ストキハ一層ノ發達ヲナスヘキ望アリ加フルニ本邦ノ地形タルヤカリホルニヤ及濠洲ノ如キ金產出國ト連ナルヲ以テ金ノ吸收ニハ頗ル便ナルモノアリ又支那朝鮮ヨリ輸出スル所ノ金モ少カラサルヲ以テ貿易上ノ手段ニ依リ其產金ヲ吸收シ得ルノ途ナキニアラス果シテ然ラハ金準備ノ維持ハ敢テ難キニアラサルヘシ又金本位ノ實施ハ歐米諸國貨幣市場ノ中心ト我邦市場トヲ聯絡セシメ相互ノ間氣脈ヲ通スルノ便ヲ開キ貿易ノ發達期シテ俟ツヘキナリ而シテ支那朝鮮等ノ銀國ニ對シ金貨國ト競爭ヲナス上ニ於テ我ハ地形ノ接近其他生産上必要ナル事項ニ富メルヲ以テ深ク憂フルニ足ラサルヘシ之ニ反シテ他日若シ銀價ノ下落一層甚シキニ至ルトキハ支那朝鮮等ノ銀國ハ金貨國ニ對スル輸出貿易上多少競爭ノ利ヲ占ムル所アルハ免レサルヘキモ之レ亦一時ニ止リ幣制改革ニ依テ生スル利益ト比較スルニ足ラサルナリ

之ヲ要スルニ貨幣ノ基礎今日ノ如ク動搖常ナクシテハ決シテ經濟ノ確實ト貿易ノ發達トハ望ムヘキニアラス果シテ然ラハ償金ニ依テ回收シタル金ノ外出セサルノ今日若クハ臨時偶發ノ



事變ノ爲メニ意外ノ妨害ヲ蒙ラサルノ前茲ニ完全ナル金本位制ヲ採用スルノ基ヲ開キ現存ノ關係ニ動搖ヲ與ヘスシテ能ク確實鞏固ナル基礎ノ上ニ貨幣ノ制度ヲ置キ本邦ノ經濟ヲ發達セシメ國家ノ地位ヲシテ一層高カラシメントス今日ハ當ニ其時機ナリ一度此期ヲ失セハ目的ヲ達センコト容易ニ望ムヘカラス故ニ希クハ斷行ノ一日モ速ナランコトヲ別紙貨幣法案及特別會計法案其他ノ附屬法律案貨幣ノ形式竝參考表ヲ添付シ茲ニ閣議ニ提出ス

(別紙)

貨幣法案

- 第一條 貨幣ノ製造及發行ノ權ハ政府ニ屬ス
- 第二條 純金ノ量目二分ヲ以テ價格ノ單位ト爲シ之ヲ圓ト稱ス
- 第三條 貨幣ノ種類ハ左ノ九種トス

金貨幣

- 貳拾圓
- 拾圓
- 五圓

銀貨幣

- 五拾錢
- 貳拾錢
- 拾錢

白銅貨幣

五錢

青銅貨幣

- 壹錢
- 五厘

第四條 貨幣ノ算則ハ總テ十進一位ノ法ヲ用キ壹圓以下ハ壹圓ノ百分ノ一ヲ錢ト稱シ錢ノ十分ノ一ヲ厘ト稱ス

第五條 貨幣ノ品位ハ左ノ如シ

- 一 金貨幣 純金九百分參和銅一百分
- 二 銀貨幣 純銀八百分參和銅二百分
- 三 白銅貨幣 「ニッケル」二百五十分參和銅七百五十分
- 四 青銅貨幣 銅九百五十分錫四十分亞鉛十分

第六條 貨幣ノ量目ハ左ノ如シ

- 一 貳拾圓金貨幣 四匁四分四厘四毛四(十六)グラム(六六六五)
- 二 拾圓金貨幣 二匁二分二厘二毛二(八)グラム(三三三三)
- 三 五圓金貨幣 一匁一分一厘一毛一(四)グラム(二六六六)
- 四 五拾錢銀貨幣 三匁五分九厘四毛二(十三)グラム(四七八三)
- 五 貳拾錢銀貨幣 一匁四分三厘七毛七(五)グラム(三九一四)



- 六 拾錢銀貨幣 七分一厘八毛八(二)グラム六九五五
  - 七 白銅貨幣 一匁二分四厘四毛一(四)グラム六六五四
  - 八 壹錢青銅貨幣 一匁九分〇厘〇毛八(七)グラム二二八〇
  - 九 五厘青銅貨幣 九分五厘〇毛四(三)グラム五六四〇
- 第七條 金貨幣ハ其額ニ制限ナク法貨トシテ通用ス銀貨幣ハ拾圓マテ白銅貨幣及青銅貨幣ハ壹圓マテヲ限リ法貨トシテ通用ス
- 第八條 貨幣ノ形式ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第九條 金銀貨幣純分ノ公差ハ金貨幣ハ一千分ノ一銀貨幣ハ一千分ノ三トス
- 第十條 金銀貨幣量目ノ公差ハ左ノ如シ
- 一 金貨幣貳拾圓ハ每片八毛六四(〇)グラム〇三二四〇一千枚毎ニ八分三厘(三)グラム二二五〇拾圓ハ每片六毛〇五(〇)グラム〇二二六九一千枚毎ニ六分二厘(二)グラム三二五〇〇五圓ハ每片四毛三二(〇)グラム〇一六二〇一千枚毎ニ四分一厘(一)グラム五三七五〇トス
  - 二 銀貨幣ハ各種共每片二厘五毛九二(〇)グラム〇九七二〇五拾錢銀貨幣ハ一千枚毎ニ一匁二分四厘四(四)グラム六五〇〇〇貳拾錢銀貨幣ハ一千枚毎ニ八分三厘(三)グラム二二五〇拾錢銀貨幣ハ一千枚毎ニ四分一厘(一)グラム五三七五〇トス
- 第十一條 金貨幣ノ通用最輕量目ハ貳拾圓金貨幣四匁四分二厘十六(六)グラム五七五〇拾圓金貨幣二匁二分一厘八(八)グラム二八七五五圓金貨幣一匁一分〇厘五毛四(四)グラム二四三八トス
- 第十二條 金貨幣ニシテ磨損ノ爲通用最輕量目ヲ下ルモノ及銀貨幣白銅貨幣又ハ青銅貨幣ニ

シテ著シク磨損シタルモノ其他流通不便ノ貨幣ハ其額面價格ヲ以テ無手数料ニテ政府ニ於テ之ヲ引換フヘシ

第十三條 貨幣ニシテ模様ノ認識シ難キモノ又ハ私ニ極印ヲ爲シ其他故意ニ毀傷セリト認めルモノハ貨幣タルノ效用ナキモノトス

第十四條 金地金ヲ輸納シ金貨幣ノ製造ヲ請フモノアルトキハ政府ハ其請求ニ應スヘシ

附 則

第十五條 從來發行ノ金貨幣ハ此ノ法律ニ依リ發行スル金貨幣ノ倍位ニ通用スヘシ

第十六條 從來發行ノ壹圓銀貨幣ハ金貨幣壹圓ノ割合ヲ以テ政府ノ都合ニ依リ漸次之ヲ引換フヘシ

前項引換ノ結了マテハ金貨幣壹圓ノ割合ヲ以テ無制限ニ法貨トシテ其通用ヲ許シ通用禁止ノ場合ニ於テハ六箇月以前ニ勅令ヲ以テ之ヲ公布スヘシ通用禁止ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年内ニ引換ヲ請求セサルトキハ爾後地金トシテ取扱フヘシ

第十七條 從來發行ノ五錢銀貨幣及銅貨幣ハ從前ノ通り通用スヘシ

第十八條 此法律發布以後ハ壹圓銀貨幣ノ製造ヲ廢ス但シ右期日以前ニ政府ニ輸納シタル銀地金ハ此限ニ在ラス

第十九條 此ノ法律ニ抵觸スル從前ノ法令ハ總テ之ヲ廢止ス

第二十條 此ノ法律ハ第十八條ヲ除ク外明治三十年十月一日ヨリ施行ス

理 由



本邦ハ往時金ノ產出多ク慶長以來多數ノ金貨ヲ鑄造セリト雖モ安政開港以後本邦金銀ノ比價其當ヲ失セシカ爲メ金ノ流出甚シク殆ント其弊ニ堪ヘス明治維新ノ初メ第一著手ニ幣制ノ改革ヲ企畫シ金貨本位ヲ採用セリ然ルニ當時紙幣ノ制宜シキヲ失シ正貨ノ輸出ヲ促シ明治十一年ニ至リ一時止ムコトヲ得ス銀貨ノ一般通用ヲ公許セリ茲ニ於テ貨幣條例上金貨ヲ以テ本位ト爲スト雖モ實際銀ハ諸般計算ノ基礎トナリ銀圓ハ唯一ノ本位タルノ地位ヲ占メ以テ今日ニ至レリ然ルニ今ヤ金銀ノ關係ハ大ニ其趣ヲ異ニシ又往日ノ比ニアラス世界ノ大勢ト我邦經濟ノ進歩發達ハ銀貨本位ノ不利ヲ感セシムルニ至レリ加フルニ戰後大ニ本邦經濟財政ノ擴張ヲ要スルモノアリ金本位復舊ノ機今日ニ逼レリ而シテ日清事件ノ結果金ノ供給ヲ得タルハ頗ル容易ニシテ此機ニ乘シ斷然本位ヲ金ニ基シ將來益我經濟財政ノ發達ト鞏固トヲ圖ラント是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

貨幣整理資金特別會計法案

- 第一條 壹圓銀貨幣及流通不便ノ貨幣引換交換ノ爲メ貨幣整理資金ヲ置キ其歲入歲出ハ一般會計ト區分シ特別ノ會計ヲ設置ス
- 第二條 明治三十年度以後造幣局特別會計作業益金ハ貨幣整理資金ニ充ツヘシ
- 第三條 交換ノ上引揚タル壹圓銀貨及流通不便ノ貨幣ヲ地金トシテ賣却スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得
- 第四條 每會計年度ニ於テ貨幣整理資金特別會計ノ決算上該資金ニ過剩ヲ生スルトキハ其過剩金ヲ該資金ニ編入スヘシ

第五條 政府ハ毎年貨幣整理資金特別會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ帝國議會ニ提出ス  
 第六條 貨幣整理資金ノ收入支出ニ關スル規定ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

理由

貨幣制度改革ニ就キ壹圓銀貨幣交換其他貨幣整理ノ爲メ資金ヲ要シ其會計ハ一般會計法ニ依リ難キヲ以テ本案ヲ提出ス

明治十七年第十八號布告兌換銀行券條例中改正法律案

第一條中「銀貨」トアルヲ「金貨」ト改ム

第二條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ銀貨及銀地金ハ引換準備總額ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條中「金銀貨」トアルヲ「金貨」ト改ム

附則

此ノ法律ハ明治三十年十月一日ヨリ施行ス

理由

貨幣制度ノ改革ニ伴ヒ兌換銀行券引換ノ方法ト其準備トニ改正ヲ要ス是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

明治十八年第十四號布告中改正法律案

明治十八年第十四號布告中「銀貨」トアルヲ「金貨」ト改ム

附則



此ノ法律ハ明治三十年十月一日ヨリ施行ス

理由

貨幣制度ノ改革ニ依リ政府紙幣引換ノ方法ヲ改正スルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

明治十二年第三十五號布告廢止法律案

明治十二年第三十五號布告廢止ス

理由

貨幣制度ノ改革ニ依リ洋銀並價通用ヲ禁止スルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

貨幣ノ形式

(之ヲ略ス)

右幣制改革ノ議ハ廟議ノ容ル、所トナリ明治三十年三月一日ヲ以テ政府ハ貨幣法其他附屬ノ法律案ヲ第十期帝國議會ヘ提出セリ。(其條文ハ開議提出ノモト)右法律案ハ三月三日ヲ以テ衆議院ノ議事日程ニ上リ當日大藏大臣松方伯爵ハ該法案提出ノ理由ヲ演說セリ。(此ノ演說ハ載セテ本編第一二章第二節ニアリ參照スヘシ)大藏大臣ノ說明終ルヤ幣制改革ノ案ハ一時ノ財政策ニアラサルカ又之カ急施ヲ要スル所以及銀貨處分ノ期限ニ就テ質問スル者アリ同大臣ハ之ニ對シ決シテ一時ノ財政策ニアラス又之カ急施ヲ要スル所以ハ金準備流出ノ虞アルニ依ル而シテ銀貨處分ノ期ニ至リテハ今日之ヲ確定スル能ハサルモ政府ハ決シテ其時期ヲ失セサルヘシト答ヘタリ又幣制改革ノ結果本邦公債ハ外人ノ所

有ニ歸シ爲ニ之カ借換償還ニ不便アラサルカノ質問アリ大藏次官ハ之ニ對シ公債ニハ一定据置年限ノ規定アリ其期限後ハ政府ハ何時ニテモ之ヲ償還スルノ權利ヲ有シ毫モ差支アラサルコトヲ答ヘ第一讀會ニ於テハ採決ノ上特別委員二十七名ニ付託セラレタリ

衆議院特別委員會ハ三月五日其第一回ヲ開キ先ツ貨幣法案ニ關スル疑義ヲ質シ六日第二回ニ於テモ亦質問ヲ繼續シ更ニ其大體議ニ移リ賛否ノ議論盡キテ採決セシニ十二名ニ對スル十四名ノ多數ヲ以テ之ヲ可決セリ九日第三回ニ於テ逐條討議ニ移リ第二條ニ於テ金銀比價ヲ法案提出前三箇月ノ平均相場ニ依ルヘシトノ修正說竝ニ金一銀十六ノ比價ヲ保存スヘシトノ修正說アリ共ニ採決ノ上消滅ニ歸シ第三條ニ於テ貳拾錢銀貨ヲ削リ貳拾五錢銀貨ヲ設クルノ修正說(後段參照)竝ニ貳拾五錢銀貨ヲ追加スルノ修正說アリ共ニ採決ノ上消滅ニ歸シ第五條第六條ニ關シ補助貨ノ品位改正ノ修正說(同上)アリ採決ノ上消滅ニ歸シ第十五條ニ於テ舊金貨引換ニ關スル但書追加ノ修正說アリ採決ノ上消滅ニ歸シ第十六條ニ於テ壹圓銀貨ハ本法實施ノ日ヨリ通用ヲ禁止シ其引換期限ヲ一箇年トスルノ修正說(同上)アリ採決ノ上消滅ニ歸シ進ンテ本案確定議ニ移リ九名ニ對スル十五名ノ多數ヲ以テ之ヲ可決セリ貨幣整理資金特別會計法以下三案ニ就テモ亦一ノ異議ナク之ヲ可決セリ

特別委員會ノ結果ハ三月十日ヲ以テ之ヲ本會議ニ報告シ其第一讀會ヲ繼續セシカ本案ニ對シ繼續委員付託ノ動議アリ採決ノ上九十八名ニ對スル百六十名ノ多數ヲ以テ之ヲ否決シ進ンテ本案ノ討議ニ移リ多數ヲ以テ第二讀會ヲ開クコトニ決シ其第二讀會ニ於テハ第三條ニ於テ貳拾錢銀貨ヲ削除シ貳拾五錢銀貨ヲ設クルノ修正說アリ(後段參照)第六條ニ於テ補助貨品位改正ノ修正



說アリ(同上二)第十六條ニ於テ壹圓銀貨ハ本法實施ノ日ヨリ通用ヲ禁止シ引換期限ヲ一箇年トスルノ修正說(同上三)及引換期限ヲ單ニ一箇年トスルノ修正說(同上四)アリ何レモ採決ノ上少數ニテ消滅ニ歸シ多數ヲ以テ第三讀會ニ入り採決ノ上多數ヲ以テ確定セリ貨幣整理資金特別會計法案以下三件モ亦讀會ヲ省略シ多數ヲ以テ之ヲ可決シ茲ニ全ク貨幣法案以下四件ハ衆議院ヲ通過シ即日貴族院ニ送付セラレタリ

今貨幣法案ニ對シ衆議院本會議ニ於ケル議員ノ贊否及修正意見ヲ舉クレハ左ノ如シ

反對說ノ一 (第一讀會ニ於テ重岡薫五郎)

本案ニ就キマシテ私ハ反對ノ意見ヲ有スル者テコサイマス、デ先ツ本案ニ對シマシテ利害ノ關係ヲ廣ク説キ及サウト致シマシタナラハ或ハ貨幣ノ性質ト致シマシテハ如何ナル性質ノモノカ適當テアルトカ又金銀兩者間ニ於ケル所ノ相場ハ將來如何ナル變動ヲ生スルカ又既往ニ於テハ如何ナル景況テアツタカト云フ事柄ヲ一々述ヘルト云フ事柄ハ甚タ必要テアルヤウニ考ヘラレマスルケレトモ併シ此等ノコトヲ諒々シク申シマヌルナレハ或ハ此ノ議場ハ寧ロ經濟學ノ講釋場ニ變スルヤウナ傾カコサイマス又多數ノ辯士モコサイマシテ今日此等ノ詳キ所ノ話カラシテ説始メルト云フ事柄ハ遺憾ナカラ本場ニ於テ出來ヌテコサイマスルカラ致シマシテ唯本員ハ此問題ニ就キマシテ先ツ今日日本問題ヲ實行スル所ノ時機テアルカ如何又此方法ト云フモノハ本問題ヲ決スル上ニ就テ最良ノ方法テアルカトウテアルカ此方法ヲ執ツテ斷行ヲ致シタナラハ將來ニ於ケル所ノ貨幣ノ問題ハ完全ニ行レテ日本ノ繁榮幸福ヲ圖ルテアラウカトウテアラウカト云フコトヲ述ヘルコトカ大切テアリマスカラ此點ニ就キマシテ寧ロ實際ト

今日ノ方法ニ就キマシテ聊カ論辯ヲ致サウト考ヘル次第テコサイマス先ツ本問題ニ就キマシテ今日カ幣制ノ改革ヲ致シマスルノ時機テアルカトウテアルカ幣制改革ノ時機カ今日ヲ以テ最モ好イ時テアルカトウカト云フ點ハ此本問題ヲ決スル上ニ於キマシテ最モ必要ノ問題テアル、デ時機如何ト云フコトニ就キマシテハ本員ノ考ヘル所又本員カ歐洲各國ニ於ケル又亞米利加ニ於ケル所ノ此財政上ノ有様ヲ考ヘテ見マヌルニ今日ハ甚タ幣制改革ノ時期テナイト云フ、斯フ云フ斷案ヲ下スノテアルソレハナセテアルカト申シマヌルナラハ諸君世界ノ大勢ヲ御覽ナサイマセ又世界ノ中テ金貨ノ制度ヲ執リ金貨ヲ以テ主タル所ノ貨幣トシマスル所ノ各國ノ有様各國ノ經濟上ノ有様ハ如何テアルカト云フコトヲ御觀察ニナレハ一番分ルノテアル此金貨國ニ於ケル所ノ經濟上ノ有様ハ諸君カ御存ノ如ク千八百七十三年即チ我明治六年ニ於キマシテ獨逸カ金貨制度ヲ採リマシテ幣制ノ改革ヲ致シマシテ以來今日ニ至ルマテ歐洲ノ金貨國ノ經濟社會ニ於キマシテハ實ニ金貨ノ制度カラ致シマシテ物價ノ上ニ大イナル低落ヲ致シ物價ノ低落ハ延ヒテ商工業ノ不景氣トナリ勞働者ノ不必要トナリ銀行ノ破産トナリ農業カ衰頹ニ傾キマシテ種々ノ實ニ云フヘカラナル經濟上ニ於テ忌ムヘキ所ノ現象ハ各國皆受ケテ居ルノテアルソレ故ニ金貨國ニ於キマシテハ種々ナ議論カアツテ此形勢ヲ挽回致シ明治六年以前ニ於ケル所ノ經濟界ノ圓滑ナル所ノ有様ヲ回復シヤウト云フニハトウ致シタラヨカラウカ、デ此方法ハ如何致シタラヨカラウカト云フコトニ就キマシテハ實業家ハ勿論學者ハ勿論世ノ中ノ財政家ハ勿論皆頭ヲ痛メマシテトウカ是カ最良ノ方法ヲ採ツテ回復ノ策ヲ講シタイ、銘々ニ考ヘテ居リマシテ或ハ此等ノ輿論カ延ヒテ復本位ノ同盟トナリ或ハ又是カ擴カリマシテ萬



國復本位ノ同盟論モ今日随分盛ニ行ハル、コトテアル又學者間ニ於キマシテモ金貨制度ヲ採ル事柄ハ賛成テアル金貨ノ單本位論者テアルト云フ事柄ハ自分ニ主張ヲ致シマスルケレトモ併シ今日ノ如ク各國カ金ニ傾イテシマヒ金貨ヲ皆採ラネハナラヌト云フ所ノ形勢ニ傾キマシタ爲ニ今日ノ衰頹ヲ來タシ此衰頹ノ多クハ遺憾ナカラ金單本位ヲ主張スルコトモ出來ヌ寧ロ何カ方法カアルナラハ復本位論ヲ主張シテモ宜シイ又世界各國ノ同盟カ出來ルナラハ其同盟ニ加ツテモ宜シイト言ツテ萬國復本位ノ貨幣會モ世界ノ各國ニ於テハ行レタ所ノ次第テコサリマス此ノ如ク歐洲各國ニ於ケル狀況變革ノ狀況ハ私カ申述ヘシ通テコサイマシテ今日金貨諸國ニ於キマシテハトウカ此幣制ヲ改革シテ金貨ヲ都合好致シ或ハ銀貨制ヲ之ニ加ヘテ復本位ニスルカ或ハ何カ金銀ノ間ニ相當ナ割合ヲ附ケテ以テ此經濟社會ノ衰頹ヲ挽回シタイト云フ議論カ實ニ盛ンナル次第テアル然ルニ今日ノ形勢ニ於テ我邦カ舊來採リ來ツタ所ノ名ハ金貨本位テコサイマスケレトモ其實ハ銀貨國テアル銀貨本位テアルト云フ其銀貨本位ヲ俄ニ變シマシテ金貨ニ變ヘルト云フコトハ如何テコサリマセウカ殆ト世界ノ大勢ヲ見ナイ世界ノ經濟上ノ有様ヲ全ク眼中ニ置カナイ實ニ亂暴ナル處置ト云ハナケレハナラヌノテコサリマス此ノ如キ急激ナル亂暴ナル處置カ決シテ今日ニ於テ其時機テアルカトウテアルカ金貨國ハ寧ロ進ンテ銀貨國ニ變センカト云フ議論カ盛ンナル時ニ向ツテ吾ハ此銀貨制ヲ廢シテ金貨ニ俄ニ移ラウト云フノハ如何ナル必要カアツテ之ヲスルノテアルカ實ニ私共ハ此ノ如キ改革ニ就キマシテハ所謂世界ノ經濟ヲ見ナイ亂暴ナ處置ト斷言シマシテ反對ヲ致サ、ルヲ得ヌ次第テアル、デ或ハ私カ此ノ如ク復本位テアルトカ萬國復本位ノ同盟會テアルトカ斯フ云フコトヲ申シ

マシタラハ政府案ニ賛成ノ諸君ハ必ス云フテアラウ、イカサマサフ云フ議論カ歐洲諸國ニアルノテアル併ナカラ是ハ學者ノ妄想テアル學者ノ夢テアル、コンナ夢ノヤウナ事柄ヲ何カ故ニ信スルノテアルカト云フ事柄ヲ言フ人カコサリマスルカ是ハ唯此ノ如キ瞞著ナル手段ヲ以テ所謂世界ノ經濟上ヲ掩ハントスル所ノ手段ニ過キヌノテアル諸君カ各國經濟學者——經濟學者ノ有名ナル人々ニ就イテ議論ヲ御聽キニナリ又新聞上ニ於ケル所ノ金貨國ノ經濟社會ノ有様ヲ御覽ニナツタナラハ決シテ私カ申上ケル事柄ハ間違カナイ次第テアリマスソレ故ニ今日ハ先ツ時機ヲナイト云フ事柄カ私ノ反對ヲスル第一ノ原因テコサリマスカ儲テ本法カ衆議院ニ提出サレマシタ所ノ前後ノ景況ニ就キマシテ果シテ本案ヲ議院ニ提出スルニ就イテ十分議員ニ熟考ヲセシムルノ餘地時間ヲ與ヘタカトウカ又世ノ中ニ向テ本問題ハ如何テアルカ此問題ニ對スル所ノ意向ハ如何テアルカト云フ事柄ヲ先ツ立憲政體ノ國ト致シマシテ輿論ノ政治ヲ執ルト云フ國ニ於キマシテハ此等ノ餘地又準備ト云フ事柄ハ極テ必要ナ次第テコサリマスル政府ハ本問題ヲ如何ニシテ提出致シマシタカ吾々カ御大喪ニ就キマシテ京都ニ參リ其參ツテ居ル折頃ニ於キマシテ政府ノ或ル部内テ金銀幣制ノ問題ハ今日必要テアル改革カ今日必要テアルト云フ所ノ議論カ或ル二三ノ人ニ起ツテ俄ニ是ハ面白カラウ宜カラウト云フヤウナ所カラ遂ニ花カ咲キマシテ俄ニ内閣ノ決議トナリ遂ニ本院ニ其問題ヲ提出スルニ至ツタ次第テアル是等ハ如何テコサリマセウカ此點ニ就キマシテ先キニ栗原議員カラ致シマシテ松方總理大臣ニ質問ヲ致シタコトカコサリマスカ總理大臣カ言ハル、ニハ彼ノ印度ノ幣制改革ヲ見スマヤ印度ニ於テハ如何テアツタカ幣制問題ヲ出ス時ニ於テ議院ハ驚イタテハナイカ此ノ如ク政府ハ



秘密ニスル必要カアル又秘密ニスルカ幣制問題ニ就イテハ最モ適當ナ方法テアルト云フ辯論  
 カアツタノテアル是ハ如何テコサリマセウカ私ハ此ノ如キ答辯ヲ承リマシテハ甚タ此議會  
 日本帝國ノタメニ惜ムノテアルナゼナレハ印度ノ幣制改革ハ何テ致シマシタカ所謂財政上ノ  
 都合ニ依ツテ試驗的ニ英吉利カ印度ニ向ツテ我屬國ニ向ツテ斷行シタ所ノ次第テアル所謂屬  
 國ニ向ツテ試驗的ニシタヤウナ事柄ヲ我日本ニ向ヒ我日本帝國ニ向ツテ致シマシテ此ノ如ク  
 シタイノテアル印度ノ如クニアシライタイノテアルト云フヤウナ事柄ヲ聽キマスノハ私議員  
 ト致シマシテ吾々四千萬ノ代表者ト致シマシテハ之ヲ聞クニ甚タ惜ムノテアル吾々ハ決シテ  
 印度屬國ノ取扱ハ受ケナイノテアル日本帝國四千萬人ノ人民ヲ代表スル神聖ナル議場ニ於テ  
 正々堂々ト議論カシタイノニ印度ヲ以テ之ニ比較セラレルノハ甚タ其當ヲ得スト云フコトヲ  
 私ハ諸君ニ斷言シテ憚ラヌテコサリマス此ノ如ク私カ今日ハ時機テナイト申シマスルナラハ  
 或ハ政府ノ人ハ又本案ニ賛成ヲ表セラレル人ハ言フテコサリマセウ今日ハ幸ニモ日清戰爭ノ  
 結果トシマシテ償金カ多分ニ國庫ニ這入ル是ハ預合ヒノ方法ニ依ツテ日本銀行ノ手ニ這入ル  
 テハナイカ既ニ多分ノ償金カ道入ツテ此時機ニ於テ幣制ノ改革ヲスルノハ最モ好時機テアル  
 此時機ヲ失シタナラハ又幣制ノ改革ハ何時望ンテモ出來ナイテアルト云フコトノ議論カ最モ  
 盛ナノテコサリマス是ハ如何テコサリマスルカ私ハ今日之ヲ斷行シナクテモ決シテ此償金ハ  
 使ツテ海外ニ出シテシマハナクテモ宜シイイカサマ償金カコサイマスルケレトモ此償金ハ所  
 謂日本銀行ノ準備金ト致シマシテ積ンテ置イテ宜シイノテアル之ヲ銀貨ニ引換ヘルトカ銀貨  
 ニ鑄潰ストカ云フヤウナ必要ハ更ニナイノテアル唯兌換券ニ對スルノ準備トシテ品物カアレ

ハ宜シイノテアルカラシテ今日得タル所ノ金貨カ必要ナモノトシタナラハ庫ノ中ニ積ンテ置  
 イテ少シモ差支ナイノテアル唯幾ラカ兌換引換ニ對スル所ノ銀貨ノ準備カアリサヘスレハソ  
 レテ十分テアルソレ故ニ政府カ今日幣制ノ改革ヲシナカッタナラハ此折角取ツタル金ヲ使ツ  
 テシマウ又時機カナイヤウニナルト云フ事柄ハ如何テコサリマセウカ畢竟議員杯ニ威ンヲ喰  
 ハスヤウナ實ニ淺薄ナル所ノ處置テハコサイマスマイカ金ハ何時マテモ積ンテ置ケル積ンテ  
 置テサウシテ時機カ來タナラハ其時機ニ向ツテ斷行シテ更ニ差支ヘノナイコトヲアル若シ假  
 リニ之ニ一步ヲ讓リマシテ使ハネハナラナイ折角取ツタ金貨モ使ハネハナラヌト致シマシタ  
 所テ其必要カアルナラハ使ツテモ宜シイノテアル若シ他日ニ於テ幣制改革ノ必要カ今日カ時  
 機テアル今日斷行シナケレハナラヌト云フ所ノ時節カ到來致シマシタナラハ其時ニ金貨公債  
 ヲ募ツテ金貨公債ヲ積ンテ以テ幣制ノ改革ヲ致シテモ出來ルノテアル今日ヲ棄テタナラハ又  
 出來ナイ取返ノ付カナイト云フ所ノ問題テハ決シテナイコト、私ハ考ヘル既ニ塊地利ノ幣制  
 改革ハ如何テコサリマシタ外債ヲ募集シ外債ノ募集ニ依テ此幣制ノ改革ヲシタト云フ事柄ハ  
 諸君ノ御存ノアルコトヲコサリマスカラシテ今日時機ヲ外セハ又斷行ノ出來ナイト云フ事柄  
 ハ少シ輕舉ナル所ノ言ヒ方テハナイカト私ハ深ク信スル所ノ次第テコサイマスソレカラ次ニ  
 本案ニ反對シマスル所ノ理由ト致シマシテ此幣制改革ハ果シテ我邦ノ貿易ノ利益補填スルニ  
 必要ナルモノテアルカトウテアルト云フ點ニ就イテ最モ本員ノ苦慮致シマス所ノ點テコサリ  
 マス我邦ノ貿易ハ私カ喋々申スマテモコサイマセス銀貨ノ制度ヲ採リマシテ銀價カ段々下落  
 スル度ニ世界各國ハ非常ニ貿易ノ不振ヲ唱ヘ經濟社會ノ衰頹ヲ唱ヘテ居ル折柄ニ於キマシテ



我邦ハズン、生産ハ膨脹ヲ致シ國ノ富ヲ餘計造リ外國ノ貿易ヲ盛ンニスルト云フ事柄ハ諸君カ御承知ノコトテアル又此等ノ點ニ就キマシテハ既ニ貨幣調査會ニ於キマシテ異口同音ニ我邦ノ貿易ハ主トシテ銀貨ノ制度ニ依ツテ此發達ヲ致シタト云フ事柄ヲ誰モ申シテ居ル次第テコサリマス此ノ如キ報告カアル確ナル所ノ報告カアル皆吾々ノ心中ニ於テ此貿易發達ハ主トシテ銀貨ノ制テアルト云フコトヲ認メマシテ尙ホ今後ノ貿易ノ發達モ益々此銀貨ノ制度ニ依ツテ得ヲ獲ントスルノ曉ニ於キマシテ何カ故ニ之ヲ改革スルノテコサイマセウ果シテ貿易上ニ損カアリ不利カアルト云フナラハ又理窟ノ分ル話テコサリマスケレトモ貿易上ノ發達スル所ノ一ノ原動力トナリ大原動力トナツテ居ルモノヲ捨テ、日本ノ貿易ヲスル果シテ將來如何ナル所ノ形勢ニ陥ラシムル所ノ豫算カアルノテアルカ或ハ此點ニ就キマシテ松方大藏大臣ハ貨幣、金銀ノ歩合ノ相場力ニ對シテ貿易ノ上ニ障礙ヲ及ス相場力狂フタメニ貿易上ニ種々ノ妨害ヲ受ケルイカサマ是ハ一ノ理窟テコサイマシテ私モ日本カ金貨制ヲ執ツテ英吉利ト貿易スル時ニ同シ金貨制ノ二ツノ國テ相對シマシテ貿易ヲスルナレハ金銀ノ相場ヨリ生スル所ノ困難ト云フモノハ避ケラル、ト云フ事柄ハ私カ認メテ居ルノテアル併ナカラ日本ハ新大國トシマシテ世界ノ競争場裡ニ立ツテ貿易ノ輸贏ヲ爭ハネハナラヌト云フ時ニ當リマシテ如何テアリマセウ唯爲替相場ニ依テ一ノ僅ナル困難カアル斯ウ云フ様ナル事柄ヲ理窟トシマシテ改革ヲスルノ必要ハドウテアルカ私ハモウ一ツソレヨリ大ナル所ノ利益カアリマシテ貿易ノ盛ナル所ノ原動力テアル所ノ此銀貨テアルナラハ此銀貨ハ少々爲替上ニ於テ多少ノ不便カアリ損カアルトシテモ此損ハ僅テアルカラシテ是ハ棄テ、大ナル利益ヲ取ラウト云フ所ノ望ミテ

アルソレ故ニ少ク共日本ノ外國貿易ヲ盛ナラシメ日本ノ産業ノ發達ヲ與ヘヤウトスル所ノ諸君ナラハトウシテモ此銀貨制度ヲ棄テルト云フコトヲ先ツ今日ニ於テ主張スルコトハ出來ナイノテコサリマスソレハ即チ本案カ外國貿易ノ衰頹ヲスル所ノ原因トナラント云フ所ノ點カラシマシテ反對ノ意ヲ表セナケレハナラヌノテアル次ニ私カ本案ニ對シマシテ反對ヲ致シマスルノハ此法案ヲ通過致シマシタ後ニ政府カ唱ヘル所ニ依リマシレハ壹億五千萬圓ノ合貨即チ金銀貨ヲ集メテ之ヲ準備トイタシ此準備ニ依テ先ツ幣制改革ノ完全ナル鞏固ナル所ノ手段ヲ執ルコトテアルト云フコトヲコサリマスルカ、イカサマ壹億五千萬圓ト云フ金ハ容易ナラヌ金テアル又得難イ金テアルト云フコトハ私ハ認メマスルカ果シテ日本今日ノ狀況ニ考ヘテ見マシタナラハ壹億五千萬圓ノ準備金カ幣制改革ヲ完全ニ行ハセ其準備金カ鞏固ナルモノテアツテ千萬年ト云ヘハ長イコトヲコサリマスカ三五年十年間モ先ツ續テ準備金カスツカリ減ラズニ座ツテ居ルカトウカト云フ事柄ヲ考ヘテ見マシタナラハ甚タ懸念ナル所ノ事實カ茲ニ顯レテ來ルノテアル即チ今日ノ時勢ハドウテコサイマスルカ日清戰爭ノ結果トシマシテ償金カ這入ル、償金カ這入ツタト云フ事柄ハ著シク通貨ノ上ニ膨脹ヲ來シ膨脹ヲ來シタノミナラス償金熱ト云フモノカ日本人民ノ頭ニ這入ツテ銘々ノ融通カ宜シイ種々ナル所ノ變化カ出マシテ此等ノ原因ヨリシマシテ物價ノ上ニ非常ニ騰貴ヲ致シ輸出入ノ上ニ甚タ不平均ヲ致シ既ニ昨年ノ如キハ五千六百萬圓ト云フ大金ヲ海外ニ出シマシタノテアル此ノ如キ今日ノ狀況ハ實ニ忌ムヘキ嫌フヘキ所謂獨逸國カ佛蘭西ヨリ五十億フランノ償金ヲ得マシテ償金熱ニウカサレテ償金ノタメニ大イナル損害ヲ及シ貿易ノ上ニ不平均ヲ數年間及シタト云フコトハ皆諸君



ノ御承知ニナル所テアル此ノ如キ事柄ハ今日我邦ニ於テモ尙ホ數年間ハトウシテモ續カサルヲ得ヌノテアル如何ニ致シマシテモ此熱ノ冷メルマテノ間ハ所謂數年ノ間ハ貿易上ニ於テ不平均ヲ生スルト云フ事柄ハ最モ明カナル事柄テアリマス或ハ昨年ノ如ク五千餘萬圓ノ金カ貿易上ニ不平均ヲ生シナイカモ知レマセケレトモ尙ホ數千萬圓ノ不平均ハ必ス本年ニ於テモ生シ明年ニ於テモ生スルト云フコトハ私ハ斷言シテ差支ナイコトテアラウト信スル既ニ一月ニ於ケル所ノ輸出入ノ不平均ニ於テモ百何拾萬圓ノ金カ出タト云フコトハ既ニ御承知ニナルコトテアラウ此等ノ點カラ致シマシテモ先ツ數年間ハ貿易上ノ不平均ヲ生スルト云フ事柄カ明カナル事實テアリマシタナラハトウテコサイマセウ準備金ハイカサマ壹億五千萬圓アルト申シテモ一方ニ於テ輸出入ノ不平均カラソロ／＼金カ出マシタナラハ到底此準備金カ如何程アツテモ底ノナイ囊テアル直チニ流れ出テシマフノテアルカラシマシテ私ハ今日ノ狀況ニ於テ此準備金カ維持サレ得ルカ甚タ今日ノ形勢ヨリシテ氣遣ニ堪ヘナイト云フコトヲ諸君ニ御吹聴ヲ致スノテアル雷ニ貿易上ノ不平均カラ是等ノ事カ生シマスルノミナラス今日海外ニ流出シマシタ壹圓銀貨カコサイマス此銀貨ハ壹億餘萬圓銀貨カ出テ居ルノテコサイマス併シ此壹億餘萬圓ノ金ノ中テ政府ハ再ヒ金テモ上ツタ時ニ日本ニ舞戻ツテ來ル所ノ銀貨ハ僅ニ八百萬圓カ千萬圓足ラステアル斯フ云フ事柄ヲ政府ハ主張スルノテアリマスカ併シ壹億餘萬圓ノ金カ尙モ海外ニ出マシタ以上ハ吾々ハ此金此銀貨ト云フモノハ決シテ八百萬圓ヤ千萬圓位テ見越シヲ付ケルト云フコトハ隨分輕イ請合テハコサイマスマイカ此八百萬圓ハ政府ノ唱ル所ニ依リマスレハ各所在ノ領事ヲシテ調ヘサセタト云フコトテコサイマスカ領事カ其國ニ流通

スル所ノ日本ノ銀貨カ幾ラアルカト云フ事柄ハ精密ニ調ヘルコトカ出來マセフカ隨分粗漏ナル報告テハ實際ナカラウカ既ニ領事ノナイ國テ或ハ香港—柴棍テアルトカ或ハ厦門テアルトカ日本ノ領事館ノナイ國テ日本ノ貨幣ノアル時ニハトウシタカト云フニ是ハ領事カナイカラ調ヘル方法カナイスフ云フ豫想ヲ以テ此準備金カ鞏固テアルト云フ事柄ヲ唱ヘマシタナラハ如何テアル若シモ壹億萬圓ト云フ金カ支那ノ内地ニ渡ツテ種々ニ傷ヲ付ケラレ或ハ潰サレテ居ル或ハ支那人カ貯藏シテ持ツテ來ナイカモ知レマセウ併シ尙數千萬圓ノ金ハ準備金ニ繰込テ置カナケレハナラヌト云フコトハ從來ノ事實ニ徴シテ明カナルコトテアル此ノ如ク準備金ニ於キマシテモ壹億五千萬圓ハ甚タ鞏固ト云ハレヌ日本ノ形勢トシマシテ此準備金ハ鞏固テナイト云フ事柄ハ只今申シマサルヤウナ次第テコサイマスルカ此ノ如キ事ヲ申シマスレハ本案ニ賛成ナル諸君ハ必ス云フテアラウ果シテ準備金カ流出シ易イ數年ノ後ニハ流出スル氣遣カアルト云フナラハ矢張銀貨制度ヲ執ツテモ同シ事テハナイカ今日ノ儘テ抛ツテ置テモ此準備銀貨ト云フモノカ流れ出ルテハナイカサスレハ金ニシテモ銀ニシテモ同一テアルト云フ駁論ヲナサル、テコサイマウカ是ハ金銀其物ニ於ケル所ノ社會ノ需要社會ノ好ミ社會ノ嗜好此等ヲ知ラナイテアル今日各國ニ於ケル所ノ財政上ノ有様ヲ見マスレハ成ルヘク自國ニ向ツテ金ヲスイ吸收シ金ヲ取ツテ來テ自分ノ準備金ヲ鞏固ニ致シ自分ノ財政ヲ固ク致シテ互ニ金ノ取合ニナツテ居ル所カ此世界ノ有様テアル此時ニ於キマシテ一方ニ於テハ時機カアレハ銀貨ヲ排斥シヤウト云フ斯フ云フ所ノ國カアル此國ニ向ヒマシテ日本カ腹ノ中ニ大切ニ金ノ暖メテ居リマシタナラハ他カラ吸取ル所ノ力カ強カツタナラハソレカ出テ行クノテアル之一反シ



テ銀貨テアツタナラハ世界カソレ程スイ吸收シテ取ラネハナラヌト云フ欲望カナイカラスイ  
 吸力欲望ノ上ニ就イテ大變ナ懸隔カアルカラ銀貨ト致シテ準備金カ如何テアルカト云フコト  
 ニ於キマシテ同シヤウナ譯テハコサイマスルケレトモ實際ニ於ケル所ノ結ニ依テ見マシタラ  
 ハ二者ノ間ニハ大ナル事柄ハ諸君カ御承知ニナツタナラハヨカラウト思フ此ノ如キ準備金ニ  
 於キマシテハ甚タ不安心テアル此準備金カ將來ニ於テ維持サレルカドウテアルカト云フコト  
 ハ諸君ノ十分御了解ニナルコトテアリマシテモ尙ホ準備金ニ就キマシテ甚タ危險ナル點ヲ申  
 シマスルナラハ我邦ハ遺憾ナカラ關稅カ獨立シテ居ナイ所ノ國テアル關稅カ獨立シテ居ナイ  
 國テコサリマスルカ故ニ世界ニ於キマスル所ノ金貨ヲ吸收スル所ノ力カ段々強フコサイマシ  
 テ其強イ所ノ力カ唯準備金ヲズン、引出ス所ノ有様カ來タ時ニ於テ之ヲ防ク所ノ堤防ハ果  
 シテトレテアル若シ關稅カ獨立致シテ居マシタナラハ一國ノ周リニ向ツテ大イナル鞏固ナル  
 堤防ヲ築キマシテ此準備金ノ流出ヲ防クト云フ事柄カ出來マスノテコサイマス其堤防一即チ  
 關稅テアル關稅ヲ隨意ニ定メマシテ保護稅ヲ掛ケマシテ此準備金ノ流出ヲ防キ得ル所ノ堤防  
 カ各國即チ文明諸國ニ於テ造リ得ルノテコサイマスルケレトモ遺憾ナカラ我邦ハ稅權回復シ  
 タト云フノハ其名ノミテコサイマシテ實際ニ於キマシテハ未タ稅權ノ回復ハ出來テ居ナイノ  
 テアル所謂日本ノ稅率即チ海關稅ハ各國トノ協定即チ相談ツクテ出來タノテコサイマスカラ  
 シテ一朝準備金ノ流出ヲ防カンナラス所ノ必要カアツテ堤防ヲ設ケントシタ所テ此堤防ハ決  
 シテ設ケルコトハ出來ナイ方法テアル是カ即チ我邦ニ於キマシテハ最モ準備金ノ大切ニ保護  
 スル所ノ方法カ缺ケテ居ルト云フ事柄ヲ私カ斷言スルノテコサイマス、テ此ノ如ク保護スル方

法モナシ日本ノ貿易上ノ傾キハ甚タ流出ニ傾イテ居ルト云フ事柄ヲ見マスレハ壹億五千萬圓  
 ト云フ金ハ決シテ之ニ安心シテ安閑ト眠ルコトハ出來ナイテアリマスルト云フ事柄ハ諸君モ  
 十分御承知ニナラネハナラナイノテアリマス、デ此ノ如キ危險カコサイマスノミナラス政府ハ  
 何カ故ニ本問題ヲ咄嗟ノ間ニ決シ何故ニ此問題ヲ議會ニ於テ是非トモ通過サセネハナラナイ  
 ト云フ所ノ必要ニ臨ンタ所ノ眞正ナル誠ノ事實カ何處ニアルカ何處ニ原因カアルト云フ事柄  
 ヲ私ハ探究シテ見マスレハ政府ハ決シテ本問題ヲ出スノハ財政上ノ都合ニハ依ラナイ今日カ  
 幣制改革ノ時機テアルト云フコトヲ認メタカ故ニソレ故ニ本問題ヲ出シタト云フケレトモ併  
 ナカラ諸君カ本年度ノ豫算ニ於ケル所ノ歳入ノ不足即チ六千餘萬圓ノ金ト云フモノハ是非公  
 債ヲ以テ募ラナケレハ此世帯ト云フモノハ所謂世渡リハ出來ナイト云フ所ノ必要ニ迫ツテ來  
 テ居ル併ナカラ六千萬圓ト云フ大金ハ日本ノ經濟社會ニ於テ果シテ募リ得ルカトウカト云ナ  
 フ事柄ハ一目瞭然テアツテ誰モ此ノ如キ大金ハ募リ得ナイト云フコトハ主張シ斷言シテ憚ラ  
 イノテアルソレ故ニ政府ハ議會ニ向ツテ此金ハ六千萬圓ハ内債ヲ募ツテ都合ヲ立テルトハ申  
 シマスケレトモ併ナカラ到底出來ナイト云フ事柄ヲ腹ノ中テ見マスカラシテ何カ都合カツク  
 方法カアレハト云フ所ノ單純ナル理由カラシテ遂ニ財政上ノ都合カラ會計上ノ遣リ繰リカラ  
 シテ本問題ヲ提出致シ幣制ノ改革ヲ致シ日本ハ銀貨ヨリ金貨制度ヲ取ツタト斯フ云フコトニ  
 ナツタラハ各國ノ文明諸國ノ金貨國ニ於キマシテハ進ンテ日本ヘ資本ヲ供シ日本ノ公債ヲ  
 買入レテ與レルタラウ、ソウスレハ六千萬圓ノ金ハ財政上見事融通カ出來ルコトニナルテアラ  
 ウト云フ豫想カラシテ遂ニ本問題ヲ出スニ至ツタテハナイカト私ハ信スルノテアル果シテ此



ノ如キ本案ヲ決定シタ後ニ於テ外國ノ資本家カ澤山資本ヲ日本ニ下ロスカトウテアルカ是ハ最モ氣遣ハシイ點テアル政府ハ本問題ヲ決スルナラハ安イ利息ノ資本カ澤山這入ツテ來ルト云フ想像ハ或ハアヘコヘニ反對ノ結果ヲ見ルカモ知ナイノテアル即チ日本ハ舊來銀貨制度ヲ執リ銀貨制度ニ依ツテ國家ノ發達ヲ來シ國產ノ隆盛ヲ來スノテアリマスルニ一朝社會ノ熱カ金ニ傾キ金ヲ皆執ル文明諸國ハ金ヲ執ルカラシテ吾々モ文明諸國ノ仲間入ヲシタカラシテ金制度ヲ執ルカ宜シカラウト云フアサハカナ志ヲ以テ財政上ノ大變革ヲシタト云フコトハ各國ハ日本ニ向ツテ信用ヲ置クカモ知レヌカ日本ハ今日ノ法ニ依ツテ國力ノ發達ヲ來シタケトモ最早金貨制度ヲ執ツタナラハ今後ノ進歩スル所ノ速力ハ最早是テ止ルテアラウシタナラハ日本ノ財政ハ將來見据カツイテ居ルカラシテ此國ニ向ツテ資本ハ下サヌト斯フ云フヤウナ結果カ生スルカ知レナイ故ニ私ハ政府カ豫想スル之ニ依テ六千萬圓ノ金ヲ作ラウト云フノハ所謂淺知恵テハナカラウカト心配致シマス是ハ決シテ日本ノミテハナイノテアル一體此幣制上ノ改革ハ大抵ノ國ヲ見マスルト借金ノ都合ニ依リ自分ノ國カ多分ノ外國債ヲ有シマシテ其外國債ハ常ニ金貨テコサイマシテ其金貨テアルカ故ニ其利息ニハ金貨ヲ拂ハナケレハナラナイ金貨ヲ拂フカ故ニ年々金銀ノ比價カラ生スル所ノ差カラ致シマシテ利息ハ据ハリテアリマスケレトモ金ニ直シテ拂フトキニハ澤山ニ要ツテ甚タ困ツテ居ル斯フ云フヤウナコトカ重大ナル所ノ原因トナリマシテ各國幣制ノ上ニ於テ遂ニ改革ヲ及シタト云フ事柄ハ私カ隨分各國今日マテ改革ヲシマシタ所ノ諸國ニ就キマシテ往々見ル所ノ次第テアル政府カ決シテ是等ヲ隱シテ斯フ云フ理由ヲハナイトカ何トカ言ツテ餘リ満足ナル顔ヲシテ居ル事柄ハ隨分餘所々々シ

イ話テアツテ寧ろ漢白ニ是ハ財政上ノ都合テアルト云フコトヲ斷言シテ言フノカ漢白テ宜シイノテアル既ニ塊地利テアリ或ハ將ニ金制度ヲ探ラントスル所ノ露西亞テアラウトモ此等ノ國ハ佛蘭西英吉利杯ノ富ノアル國ニ向ツテ負フ所ノ外債ハ澤山テアツテ其國ハ銀貨ノ制度テアルカラ金ヲ買ツテ利子ニ拂ハネハナラヌ又其金貨ヲ一々拂フトキニ於テハ金銀ノ差カラシテ不利益カアルト云フ理由カラシテ此等ノ國カ幣制改革ノ手段トシテ遂ニ金本位ノ制度ヲ採ツタト云フ事柄ハ先ツ今申シタヤウナ塊地利ナリ又アルゼンタインチリコーサイマス其外何レノ國ニ於キマシテモ多少財政上ノ都合カラシテ此ノ如キ幣制ノ改革ヲシタト云フハ事實ニ徴シテ明カテアル是カ政府カ本案ヲ提出スル所ノ第一ノ理由テコサイマスケレトモ第二ニモウ一ツアラウト思フ即チ第二ノ理由ト云フモノハ松方伯ハ財政上ノ財政界ニ於ケル所謂經濟界ニ於ケル所ノ實ニ有力ナル人テアル又其信用ニ於キマシテモ誠ニ私共ノ感服スル程ノ人テコサリマス此人カ昨年内閣ヲ組織致シ松方内閣ヲ組織シタナラハ日本ノ財政界ノ上ニ於テハ實ニ大イナル所ノ信用ヲ博シ松方伯ノ伎倆ヲ財政界ニ於テ見ルト云フコトハ事業家經濟家民間ノ隨分金持連中カ竊ニ以ンタ所ノ次第テアル然ルニ實際内閣組織以來日本ノ經濟界ハトウテコサリマセウ諸君カ昨年ノ秋以來御承知ノ通恐慌ガ起リバニツクカ起ルト云フ種々ノ風評カ日本ニ起リ其風評ノタメニ日本ノ經濟ハ如何動亂スルテアラウカト云フ事柄ハ皆々心配ヲ致シタ所ハ次第テアリマシタカ併シ幸ニシテ今日ハトウヤラスフヤラ回復ニ傾イメヤウテアリマスケレトモ併シ松方伯ノ財政上ノ伎倆ハ遺憾ナカラ今日マテ見ル事カ出來ス寧ろ恐慌カ起リハシナイカト云フヤウナ事柄ノ内閣組織以來其様ナ有様テアリマスケラシテ今日ハ



ドウカ何か松方伯ノ信用ヲ維持シ將ニ信用カ幾ラカ傾キハセヌカト云フ今日ニ於テ是等ノ問題ヲ議スルハ實ニ内閣ノ信用松方伯ノ財政上ノ伎倆ヲ維持スル爲ニ必要テハナイカト云フ所ノ論點カ此問題ヲ提出スル所ノ大理由ニナツテハ居ナイカト云フコトヲ私カ竊ニ想像ヲ致スノテコサリマス果シテ此ノ如ク唯一時ノ功名心一時ノ政策一時ノ冒險ニ依テ果シテ日本ノ幣制カ都合ヨク往ツタラハ誠ニ松方内閣ノミナラス日本帝國ノタメニ萬々歳テコサイマスケレトモ若モ失策ヲ致シマシタラトウテコサイマセウ唯政治家ノ權謀ノタメニ少シ位ノ政策ヲ用ヒルコトハ政治家トシテ許シマスカ一國ノ盛衰ニ關スル大問題ヲ自家ノ藥囊ノ中ニ供スル自家ノ權謀材料ニ供スルコトハ現政府ノタメニ惜ム次第テアル餘リ長ク致シテハ諸君ノ御退屈テコサイマスカラ反對ノ理由ハ此ノ如キ次第テコサリマス

反對說ノ二(第一讀會ニ於テ田口卯吉)

諸君此度我政府カ新ニ貨幣制度ヲ改革セラル、ニ就キマシテハ松方大藏大臣モ既ニ之ニ就イテ過日御演說カアリ又昨日モ河島代議士ノ雄辯カコサイマシテ諸君ハ既ニ此本案ニ對シテハ餘程御意見ヲ固メラレタヤウニ見受ケマス又本員ノ見ル所ヲ以テスルノニ此議場ノ大勢ハ既ニ松方伯ノ彼ノ御上手ナル御演說カナクトモ大概賛成ヲ表セラレテ居ルヤウニ見受ル然レトモ私ハ此度ノ此松方伯ノ制定セラレタル金貨本位ハ古今無類世界無比ノ金貨本位テアルト云フコトヲ諸君ニ申上ケネハナリマセヌ古今無類世界無比ノ金貨本位ヲ定メラル、ニ當ツテ假令議會ノ勢ハ如何ナリトモ私ハ之ニ對シテ一言反對意見ヲ述ヘテ諸君ノ御熱考ヲ請ハネハナラヌノナス之ニ就キマシテ昨日河島代議士ヨリ數千萬言ノ御演說カアツテ餘程種々ノ點ニ就

イテ御議論カコサイマシタ私ハ河島君ヲ尊敬スル以上ハ同君ノ御演說ニ對シテハ一々辯駁ヲ加ヘナケレハナラスノテコサイマスルカ昨日ハ記憶シテ居リマシタケレトモ今日ハ其趣意ノ大體ハ實ニ五里霧中ニアル如キ思フナシテ一々之ニ對シテ駁論ヲ加ヘル事カ出來マセヌノヲ惜ム又實ハ駁論ヲ加ヘストモ宜イカト思フノテス唯其御議論ノ種々ノ點ニ涉ツテ居リマスケレトモ大要——本案ニ對シテ賛成ヲ述ヘラレタル其要點ヲ伺ヒマシレハ近時——近年ノ金銀ノ比價ハ凡ソ金一銀三十内外テアルソレ故ニ本案ニ於テ金一銀三十二餘ト定メタ本案ハ適當テアルト云フ數言カ本案ニ對シテ賛成ノ御趣意ト思ハル、ノテス金一銀三十内外テアルカ三十二ノ比價カ適當テアルト云フノカ其御論既ニ其數語ノ中ニモ自家挿著ガアルテアラウト本員ハ信スル先ツ河島君ニ對シテハ之タケテ宜カラウカト思フ而シテ更ニ一言ヲ加ヘテ置カネハナリマセヌノハ河島君竝ニ政府委員等ノ言葉ニ於キマシテモ本案ハ十分ノ熱議ヲ凝シタ既ニ貨幣制度調査會等ヲモ立テ、之ニ十分調査セシメタト云フ事テコサイマスカ私ハ此言葉ニ對シテハ十分ニ不平ヲ述ヘネハナリマセヌ若シ本案カ貨幣制度調査會ノ意見ヲ採用シタルナラハ私ハ其政府竝ニ河島君等ノ言葉ハ其當ヲ得テ居ルト思ヒマスルカ本案ニ於テ貨幣制度調査會ノ意見若クハ調査ト云フモノハ一モ採用シテナイノテス貨幣制度調査會ハ決シテ金本位ヲ主張シナイ貨幣制度調査會ノ多數ハ現今ノ有様ヲ以テ可ナリト云フノテコサイマス事口銀本位論者ノ多イ有様テコサイマシタ而シテ其中ニ金本位論者ハ勿論アツタ併ナカラ此度政府カ出サレタルカ如キ金貨本位ヲ主張シタル者ハ一人モナカッタト言ツテ宜イノテス稍本案ニ近イノハ阪谷君ノ案テアツタテス併ナカラ阪谷君ノ案ト雖モ今日ノ壹圓銀貨ヲ皆排斥シテ法貨



以外ニ逐拂ツテ而シテ金貨本位ヲ立テラレト云フマテノ議論ヲ立テラレタノテハナイ今日ノ壹圓銀貨ハ依然今日ノ如ク通用セシメテ置クト云フ案テアツタノテス成程サウテコサイマセウ今日世界ノ金銀比價ノ大勢ヲ見又世界ノ經濟論ヲ知ル者カ銀貨排斥ト云フヤウナコトハ決シテ出來ナイ此ノ如キ議論ハナスコトハ出來ヌノテアルサレハ阪谷君ト雖モソレマテノ論ハ主張シナカツタ然ルニ此新案ハドウテコサイマス諸君モ御承知ノ如ク銀貨排斥壹圓銀貨ハ皆法貨以外ニ排斥スルト云フ案ニナツテ居ル直ニ銀貨通用國ナル日本國ヲシテ直ニ英國ノ如キ金貨本位ニスルト云フノカ本案ノ大精神テアル而シテ私カソレニ對シマシテ尙ホ古今無比萬國無類ノ金貨本位ナリト言フ所以ハ何ソ金一銀二十八餘ト云フ如キ金貨本位ハ實ニ古今無比萬國無類ト言ツテ宜イノテアリマス而シテ當ニソレノミナラス今後五年間ハ日本一國ニテ萬國ヲ敵ニ受ケテ複本位ヲ行フト云フ金貨本位ナノテス此ノ如キ金貨本位テコサイマスカラ貨幣制度調査會ニ於テ曾テ此ノ如キ案カ出タコトハナイ政府ハ十九年以來熱考ニ熱考ヲ加ヘ鄭重ニ調査ヲセシメテ此案ヲ立テラレタト言ハレマスケレトモ私ノ考テハ此案ハ鄭重ニ調査セラレタモノトハ信スルコトヲ得ス恐クハ極ク近頃ニ至ツテ出來タモノテアラウ最初ハ銀貨ハ今日ノ如ク通用セシメラル、考テアツテ近頃ニ至ツテ此銀貨ハ通用シテハ不都合タト云フコトニ氣付カレテ而シテ斯ル新案カ出タモノト思ハレルテス咄嗟ノ新案テアル貨幣制度ハ決シテ此ノ如ク匆卒ナル考ヲ以テ定ムヘキモノテハナイト私ハ信用致シマス、デ私ハソレ故ニ今諸君ニ向ツテ先ツ此貨幣制度ヲ行ヒタル後ニ如何ナル事情カ我邦ニ此經濟上ニ起ルカ——專ラ財政上ニ起ルカト云フコトヲ申上ケテ見タイト思フ此貨幣制度ト云フモノハ松方大臣或ハ政府委

員ノ或ル御方カ述ヘラレマシタカ金一銀三十二ト云フ比價カ當分狂ハヌト云フ見込ニ於テデス始テ困難ナク實行ノ出來ルモノテアル若シ今後金カ下落スルト見テモ不都合カ起ル金カ騰貴スルト見マシテモ不都合ノ起ルモノテアル政府委員——松方伯ノ言葉ニ依テ見テモ將來金ハ騰貴シ銀ハ下落スル如キ口氣カ見ヘマス昨日河島君ノ御説ノ如キハ銀ハ銅ト同シ如モノニナルト云フコトヲコサイマシタカ此ノ如キコトカアリマシタナラハ此貨幣制度ヲ實行スルノニ尙更ノ不都合カ起ルテアラウト思フ先ツ試ニ將來此五年間銀貨カ下落シタリト假定致シマセウカ例ヘハ金一銀三十二ト云フ割合ニナツテ居リマスルカ若シ此銀カ——此五年間ニ銀塊ニシテソレヨリ少シ下ツタト見マセウカ例ヘハ壹圓ニ就イテ拾錢モ銀貨カ下落シタリト見マセウカ然ラハ政府ノ此豫算ニ於テ凡ソ六千萬圓ノ銀塊ヲ鑄潰ス案ニナツテ居ル五千萬圓ノ内地ノ流通ノ銀貨竝ニ海外カラ輸入シテ還ツテ來ル銀貨カ凡ソ千萬圓アルト見ル凡六千萬圓ト見テ居ル私ハモット多イト考ヘテ居リマスルカ政府カ見定メタル最少ノ數即チ六千萬圓ノ銀貨ヲ鑄潰ス必要アリト見マシテモ若シ銀貨カ壹圓ニ就イテ拾錢モ下落致シマシタナラハ即チ凡ソ六百萬圓ノ國庫ノ損失カアルノテス誠ニ諸君輕々ニ御考ヘデコサイマスケレトモ銀貨モ少シ下落スレハ貴重ナル銀貨ヲ鑄潰シテ下落シテ居ル銀塊ニ直シテ海外ニ賣ルソレニ就イテ今後五箇年間ニ於テ六百萬圓ノ損失カアル況シテヤ海外ニ流通シテ居ル所ノ銀貨ハ私ノ考ヘル所ヲ以テスルト決シテ壹千萬圓バカリテハナイ更ニ多イノテス然ラハ其損失額ト云フモノハ更ニ多ク而シテテス彼ノ河島君ノ如キ若クハ當局者ノ或ル人ノ如キ銀貨下落ガモット甚カツタナラハ壹圓ニ就イテ拾錢トコロテナク貳拾錢モ參拾錢モ下落シタナラハ國庫ニトノ位ノ損



先カコサイマセウ諸君ハ一タヒ此制度ヲ定メタル後ニ銀貨鑄造廢止ト云フコトヲナサレマス  
 カ此事ハ決シテ容易ナルコトヲハナイ此事業ヲヤルニ就イテハ彼ノ有名ナル「ビスマーク」モ閉  
 口シタノテス最初日耳曼帝國カ新ニ起ツテ彼ノ國ヲシテ英國ノ如ク純然タル金貨本位トナサ  
 ウト思ツテ其國ノ法貨ヨリ總テ逐拂ハントスル恰此案ノ如キモノヲ以テ新ニ貨幣制度ヲ定メ  
 ヤウトシマシタ所カ扱銀貨ヲ排斥スルニ就キマシテハ損カアル加之テス例ヘハ今私カ例ヲ設  
 ケタル如ク壹圓ノ銀貨ヲ鑄造シテ九拾錢ニ賣出ス八拾錢ニ賣出シタ所カ流通上ニ少シモ益ナ  
 クシテ國庫ニ非常ノ損失カアル所カラ遂ニ「ビスマーク」ノ如キ者モ其事ヲ決行セスシテ却テ今  
 日ト雖モ「ターレル」銀貨ト云フモノハ日耳曼ニ無制限ニ法貨トナツテ通用シテ居ルノテハコサ  
 イマセスカ今日カラ考ヘマスレハ日耳曼ノ地位ハ實ニ幸福ナル地位テアツテ彼時ハ金一銀十  
 六テアツタ世界ノ相場カ——ソレ故ニ今ノ「ターレル」ノ銀貨ヲ無制限ニ法貨トシテ通用サセテア  
 リマシテモ差支ナイ併ナカラ今日日本ニ於テ金一銀三十二ノ比價ノトキニ此日耳曼ノ地位トハ  
 違ヒマス此壹圓銀貨ヲ通用サセテ居リマシタナレハ他日銀ノ相場カ狂ツタトキニハ又我邦ヲ  
 シテ復本位ノ地位ニ立タシムルコトテコサイマスカラドウシテモ一度ハ鑄造サナクテハナラ  
 スト云フ地位ニ立チマセウ即チ諸君ハ前ニ申上ケマシタ通最少ノ數ヲ以テシマシテモ相場カ  
 狂ヘハ六百萬ノ損失カアル若シ銀カ非常ニ下落スレハトノ位損失カアルカ知レヌト云フコト  
 マテモ冒シテ此新案ヲ決行シヤウトナサルカ勿論當局者必スソレニ就イテハ補助貨幣ヲ鑄ル  
 カラ其利カアルト仰セラル、テアリマセウ併ナカラ補助貨幣ノ通用ト云フモノハ自ラ限カア  
 ル壹圓銀貨ノ通用ト補助貨幣ノ通用ト分量カ違フノテス補助貨幣ヲ若シ壹圓銀貨程鑄マシタ

ナラハ補助貨ト云フモノ、價ハスグニ減ツテシマイマス決シテ補助貨タルノ效ヲナシマセヌ  
 故ニ此ノ如キ場合ニ於キマシテハ補助貨ノ利ヲ以テ決シテ壹圓銀貨ヲ鑄造スノ損害ト云フモ  
 ノヲ價フコトノ出來ヌコトハ諸君ノ豫メ覺悟ナサラナケレハナラヌコト、思フテス然ルモ尙  
 ホ諸君ハ此ノ如キ將來ニ銀貨下落ナシト云フコトノ保證カ十分出來マスカテ銀貨下落ノ時ハ  
 先ツ此ノ如クテ私ノ今日ノ考ハ銀貨下落ヨリ銀貨騰貴ノ方ノ恐レヲ餘計ニ抱イテ居ル者テス  
 若シ此一度新貨幣制度ヲ定メマシタ後ニ銀貨騰貴セハドウテアル金貨下落セハドウテアル私  
 ハ若シ金貨カ下落致シマシタナラハ金一銀三十二ヨリ下落致シマシタナラハ外國ノ下落シタ  
 ル金貨カ直チニ日本ニ這入ツテ來テ日本ニ流通シテ居リマスル壹圓銀貨ヲ直ニ海外ニ運出シ  
 テシマウコトテコサイマスカラ前ニ申シマシタ如ク壹圓銀貨鑄造シト云フコトノ損失ハナイ  
 ノテス國庫ニ其損失ハナイト云フコトハ諸君ト共ニ之ヲ喜フ併ナカラテス其下落ニシテテス  
 更ニ一層甚シカツタナラハ即チ金一銀三十二ヨリ下落シタル場合ハソレテ宜シイカ金一銀二  
 十八ヨリ下落シタナラドウテアル此二十八ノ補助貨幣ト云フモノハ皆海外ヘ流出シテシマヒ  
 マセウ日本ノ此經濟界ニ補助貨幣ノナイコトニナリマシタナラハ如何テス國トシテ補助貨幣  
 ノナイ國ト云フ者ハナイノテス補助貨幣カナクナツタナラハ吾々ハ實ニ人力ニ乘ルコトカ出  
 來ス顔ヲ刷ルコトモ出來ス辨當ヲ食フコトモ出來ヌテコサイマセウ此懸念ハ諸君ナイト云フ  
 コトハ保證セラル、カ當局有司ハドウシテ此保證カ出來マセウ今日此點ニ就キマシテハ懸念  
 ヲ抱クモノハ私一人テナイテス民間ノ商業會議所等ニ於テモ此懸念カアル此委員會ニ於キマ  
 シテモ此懸念ヲ出シタ原案賛成者ノ中ニモ此懸念ヲ出シタ人カ往々アルノテス然ラハ此懸念



ト云フモノハ決シテ杞憂ト云フコトハ出來ナイテス萬一アツタナラハ實ニ大變ナコトテハコ  
 サイマセヌカ併ナカラテス單ニテス金一銀二十八少シ位ニ止マツタナラハマタ宜シイ若シ此  
 變カテス金一銀十九以下ニ下ツタナラハドウテコサイマセウ此事ハ私ハ決シテ空言ヲ言フノ  
 テハナイ彼ノ明治二十三年ニ亞米利加ニ於テテスセルマン條例ノ行レマシタルトキニハ金一  
 銀十九ニナツタト云フコトハ當局者ノ吾々ニ報道シタ調ニ依テモ平均カ明治二十三年ニ於テ  
 ハ十九ニナツテ居ルノテス試ニ此金銀ノ相場カ金一銀十九ニナリマシタナラハ金一銀二十八  
 ノ補助貨幣ノ如キハ何レニ飛ンテシマフカ疾クニ飛ンテシマフノミナラス今日ノ比價ヲ以テ  
 準トシタラ金貨ト云フモノハ下落シテ米價ハ必ス今日拾壹圓ノモノナラハ拾五六圓ニ直チニ  
 飛フテコサイマセウ然ラハ此月給ヲ取ツテ居ル所ノ小官吏若クハ勞動ナド、云フモノ、困難  
 ハ云フマテモナク國立銀行ノ如キハテス金貨ヲ以テ資本トシテ居ル者テコサイマスカラ其資  
 本カ減シタル理窟ニナル彼二十三年ニ日本銀行カ金貨ヲ持ツテ居ツテ非常ノ損シテ殆ト元ノ  
 總裁ノ如キハ餘程ノ困難ヲシタト云フコトハ先ツ私共親シク知ツテ居ル事テスアノ困難ハ日  
 本銀行テアツタカラ堪ヘタノテス若シ今後此ノ如キコトカアツテ總テノ銀行——國立銀行竝ニ  
 私立銀行凡ソ金貨ヲ以テ資本トシテ居ル銀行カ皆此ノ如キ損ヲ被ルト云フ事ニナリマシタナ  
 ラハ即チ恐慌ト云フモノモ起ラナイトハ云ヘマスマイ私ハ此場合ニ於テ、ス之ハ即チ金貨ノ  
 動クテアル明治二十三年ノ如キ變ハテス銀貨ノ騰貴シタノテナイ金貨カ動イテ此ノ如キ事件  
 カ起ツタノテアルト云フコトハ私ハ彼ノ貨幣制度調査會ノ調査ニ依テ諸君カ證明セラレンコ  
 トヲ希望スルノテス彼ノ貨幣制度調査會ノ調査ニ依レハ物價ヲ元トシテ調査スル所ニ依テ見

レハ金利ノ種々ノ變動ト云フモノハ金貨カ餘計動イテ銀カサウ動カナカツタト云フコトハ明  
 ニ証シテ居ルサレハテス明治二十三年ノ如キ變カアリマシレハ凡ソ金貨國ニ於テハ商人職人  
 其他種々ナモノカ皆困難ヲ被ル而シテ日本ニ於テハソレ程困難ヲ被ラヌ僅ニ日本銀行、正金銀  
 行位ニ止ツテ其世界ノ大波瀾ヲ知ラスシテ濟ムト云フ譯合ハ全ク銀貨本位國テアツタ御蔭テ  
 アルト云フテヨカロト思フノテス其外歐米諸國ニ於テ、ス金貨本位トシテ居ル國ニ於テ或  
 ハ銀行ノ破産カアリ或ハ會社ノ同盟罷工カアリ種々ノ經濟上ノ慘狀ノ多イト云フコトハ私ノ  
 多言ヲ要セスシテ諸君御承知テコサイマセウ皆ソレハテス金貨本位タルカ爲ニ其本位カ種々  
 ニ變動致シマシルカラ其弊害ヲ被ツタノテアルサレハ今後テス此ノ如ク變動カ——明治二十三  
 年ノ如キ變動カ我此世界ノ經濟上ニ起ルマイカ私ハ起ルト云ハナケレハナラズナゼテアル歐  
 羅巴竝ニ亞米利加等ノ諸國ハ皆此變動ノアランコトヲ希望シテ居ルノテスナンテアル諸君モ  
 度々御聽キテコサイマセウガ萬國複本位ト云フコトヲ行フト云フノテス歐羅巴諸國ハ皆此萬  
 國複本位ト云フコトニ熱心ニシテ居ル何故ニ熱心ニテ居ル皆之ハ物價ヲ騰貴セシメヤウト云  
 フ趣意ニ出ツルノテス申スモノハ歐羅巴諸國ハ明治六年以後日耳曼カ彼ノ貨幣制度ヲ定メ  
 マシテ金貨本位ヲ行ヒマシタ以後羅典同盟ニ於テ銀貨自由鑄造ノ廢止カアリ亞米利加ニ於テ  
 金貨本位ノ制定カアリ種々ニ此金貨本位ト云フ流行熱カ流行リマシタ爲ニ萬國皆金貨ヲ本位  
 トスルト云フ所カラシテ世界ニアリモシナイ——サウ澤山アリモシナイ所ノ金貨ヲ各國皆奪合  
 ツテ本位ト致シマシルカラ物價ハ下落スル物價カ下落シマシルトキニハ商人ハ品物ヲ買ヘハ  
 其庫ノ中ニ於テ品物カ下落スル製造人ハ品物ヲ製造スレハ其製造シテ居ル間ニ品物カ下落ス



ル農民ハ穀物ヲ作レハ作ル間ニ穀物ハ下落スル明治六年ヨリ今年ニ至ルマテ歐羅巴ノ物價ハ大概半分ニ下落シテ居ル恰モ我邦ニ於テ明治十五年以後十八年ニ至ルマテニ此紙幣回復ノトキニ物價カ下落シタト同シ有様テスサレハ金貨本位ノ熱ニ浮カサレテ一時此ノ如クナリマシタガ今ハ金貨本位ノ苦サハ堪ヘスシテドウシテモ之ハ金貨ノミヲ貨幣ニシテ居ツテハ物價ハ下落スルカラ貨幣ヲ多クシナケレハナラヌ銀貨ヲ貨幣ヨリ排斥シタレハコソ此ノ如キ惡シキ景況ヲ呈シタル故ニ銀貨ヲ貨幣ニシテ置カネハナラヌト云フ議論カ起ツタ途ニ古昔行レテ居ル所ノ萬國複本位論ト云フ者カ起リ萬國複本位ニスレハ銀貨モ共ニ貨幣ニナルカラサウスレハ此物價カ騰貴スルト云フ趣意テ複本位ヲ唱ヘルノテス私ハ今萬國複本位ノ論カ必ス歐羅巴諸國ニ行レルト云フコトヲ諸君ニ保證スルコトハ出來マセヌ併ナカラ人民カ此物價下落ニ苦シシテトウシテモ之ヲ救ツテ貰ハナケレハナラヌト云フコトハ亞米利加ナリ英吉利佛蘭西ナリ獨逸ナリ何レノ金貨國モ皆然リト云フコトハ諸君ニ申上ケテ宜シイノテスサレハ之ヲ救フハドウテアルカ其今日唱ヘル所ハ萬國複本位テアル併ナカラ其方法ノコトカ行レサル彼ノ亞米利加ノ如キハ既ニ屬此銀ヲ餘計使フト云フコトヲ居ルノテス何ンテアルカ亞米利加ニ於テハ今マテブランド條例ナル者カアリ或ハ「シャーマン」條例ナルモノカアツテ縱令萬國ハ協議ヲシテ貨幣ヲ造ラストモ其國內ニ於テ銀貨通用ノ部分ヲ殖スカ爲ニ今マテ政府ヲ以テ民間ノ銀塊ヲ買テ銀貨ニ鑄テ通用スル恰モ今日ニ於テ亞米利加ノ實況ハ一弗ノ銀塊ヲ買ヘハ二弗ノ貨幣カ鑄ラレルト云フ話ニナルサレハ之ヲ行ヘハ國庫ニモ非常ニ益カアルノテス彼ノ「シャーマン」條例ノ如キハ實ニ國庫ニ益カアル而シテナゼ之ヲ行ハヌカ亞米利加一ツテソレヲ行ヒ

マスレハ成程國內ニ於テ銀貨ノ通用部分ハ殖ヘテ物價モ幾ラカ恢復セシムル力ハアリマスケレトモ其國カラ金貨カ餘計外國ニ出マスルカラ即チ彼ノ「グリーブランド」ノ如キモ廢シタノテス日耳曼ヲモ佛蘭西ヲモ此等ハ縱令萬國カ複本位ヲ行ハストモ彼ノ其國ニ流通シテ居ル所ノ銀貨ヲ即チ無制限ノ法貨トナツテ居ル所ノ銀貨ヲ餘計鑄ルト云フ事ハ今日テモナシ得ル事テナシテ其政府ニ利益ノアル而シテ其人民ニ益ノアルコトテアルテス他日此ノ如キ方法テモ兎ニ角歐羅巴諸國ト云フモノハ此銀貨ノ通用部分ト云フモノヲ殖シテ物價ヲ騰貴セシメナケレハ逆モ人民カ往立タヌ金貨本位ノ下ニ立ツテ苦ンテ居リマスカラ是非共此物價ヲ騰貴セシムル方法ヲ探ラナケレハナラヌト云フコトハ明カナ事實ナントス今日新聞紙上ニ於テ見ル所ニ依テ見テモ亞米利加ノ「マッキンレ」カ萬國複本位論ヲ宣言シタヤウテコサイマスルカ「マッキンレ」ハ實ニ萬國複本位論者ナント又亞米利加ノ大統領トシテ其國ノ人民カ物價下落ニ苦ンテ居ル慘狀ヲ見テ之ヲ救フ方法ヲ立テナケレハナラヌノテス恰モ早ク申シテ見マスルト我邦ニ於テ先年此議場ニモ盛ニ出タル彼ノ地租輕減論ト同シ意味ナントス——米價カ下落シテ居ル地租ヲ輕減シテ貰ハナケレハナラヌト云フ同シ意味テ物價カ下落シテ困ルドウシテモ貨幣ヲ殖シテ吳レロ銀貨ヲ貨幣トシテ通用シテ吳レロト云フノカ即チ萬國複本位論ノ名ヲ以テ現レテ居ルノテコサイマスカラ是ハ諸國何レノ政府テモヤルニ違ヒナイ是モヤリマシタナラハ即チ銀貨ノ價ハ回復スル銀ノ價カ回復シマスレハ此度政府カ定メタル貨幣法案ト云フモノハ直チニ破壞シテシマウノテス凡ソ貨幣制度ヲ改革スルコト此ノ如ク輕卒ナル脆キ所ノ貨幣法ト云フモノヲ漫リニ定メルモノテハアリマスマイ英國ノ如キテス彼ノ十進法ノ貨幣制度ヲ定メルト



云フ「シルリング」ペンニー」ト云フモノハ十進法ニナツテ居ラス。テス之ヲ改革スルコトスラモ今日ハ尙ホヤラヌ。今日日本ニ於テ金貨本位ニスルモ宜シイ併ナカラ金貨本位ニシテ少シ亞米利加テ以テ相場カ狂フト此日本カラ補助貨幣ヲ奪ハレルト云フ如キ貨幣制度ヲ定メルト云フノハ匆卒テアルノミナラス實ニ危険千萬ナル貨幣制度ト云ハナケレハナラヌト思フノテスサレハ私ノ怪シク思フノハ原案賛成者タル進歩黨ノ中ニモテス此貨幣制度ニ對シテハ危険ヲ感セラレテ居ル既ニ特別委員ニ於テモ此貨幣制度ヲ修正シテ金一銀二十四トスルト云フ案ノ出タノテス金一銀二十八ノ補助貨幣ト云フモノハ危険テアルト云フ論カ出ラレノテス然トモ金一銀二十四ト云フ論ハ實ニ根據ノナイ話テ凡ソ貨幣ヲ定メルニ當ツテハ何カノ根據カナケレハナラス是ナラハ安全ナリト云フ根據カナケレハナラヌノテス二十四ナドト云フノハ實ニ思付キノ凡ソ宜カラウ位ノ御考ト見ナケレハナラヌサレハコソデス私ハ特別委員會ニ於キマシテ此案ヲ進歩黨ノ御方ヨリ出サレタ時分ハ二十四ト云フ案ハトウ云フ所カラ出タカト云フコトヲ尋ネマシタ所カ是ハ明治二十五年以後二十九年ニ至ルマテ四年間ニ就イテ平均シテ見ルト凡ソ其位テ大丈夫テアルト云フ併ナカラ此ノ如キ案ハ平均ヲ以テ定ムヘキモノテハナクテ最低價ヲ以テ定ムヘキモノテアルト云フ併ナカラ此ノ如キ案ハ平均ヲ以テ定ムヘキモノテハナクテ最低價ハ最低價テハナク金一銀二十二幾ラト云フ割合ニナツテ居ルサレハ金一銀二十二ニナリマシタナラハ二十四ト云フ補助貨幣ノ法案ト云フモノモ矢張海外ニ出ルノテアルテス況シテヤニ二十三年ニハ金一銀十九ニナツテ居ル此當局者カ吾々ニ調ヘテ送ツタ案ニ依リマシテモ十九ニナツテ居ルテス事實ヲ申シマヌレハ最低價ハ十九ヨリ低イノテアル平均ニ於テ十九ニナツテ

居ルノテ事實彼ノ年ニハ銀貨カ百六圓ニナツテ居ルテス百圓ノ金貨ト百六圓ノ銀貨ト同シ價ニナツテ居ル所カラ云ヒマヌレハ金一銀十七位テコサイマセウサレハ新ニ貨幣制度ヲ定メル時ニ當ツテテス矢張萬國カ行ツテ居ル如キ方法ヲ以テ金一銀十六若クハ補助貨幣ハ十四此法案ヲ定メナケレハナラヌ凡ソ此世界ニ於テ金銀比價ト云フモノハ記録アツテヨリ以後明治六年ニ至ルマテハ大概金一銀十五半テアルノテス金一銀十五半テアレハコソ世界ノ金銀ノ比價——貨幣上ニ認メテ居ル所ノ金銀ノ比價ト云フモノハ大概金一銀十五若クハ十四位ニナツテ居ルテスソレヲ今新ニ金一銀二十八ト定メルト云ノハ——金貨本位ヲ定テ金一銀二十八ト云フ事ニナサレルニ於テハ是ハ即チ古今未曾有萬國無類ノ金貨制度ト云ハナケレハナラヌテス、テ私カ若シ本案ニ對シテ實ニ此新ニ立テラル、所ノ貨幣制度ヲ十分ニ修正シテテス今後世界ノ相場カ如何ニ狂ハフトモ亞米利加若クハ歐羅巴ニ於テ此銀價恢復ノ勢力カ如何ニ強カラウ共此貨幣制度ヲシテ危険ナラシメサル安全ナル貨幣制度ヲ新ニ造ルト云フ主意ナラハ茲テ金貨ヲ本位トスルト同時ニ矢張原案ニアル所ニ比シテ五拾錢以内ノ補助貨幣モ半減ニシナケレハナラス補助貨ノ分量ヲモ半減シナケレハナラヌソレト同時ニテス彼ノ一ハ銀貨排斥ト云フ如キ法貨ヨリ銀貨ヲ逐拂フト云フカ如キ世界無類ノ經濟論今日世ニ容レラレサル所ノ經濟論テス此經濟策ヲ取除ケテ矢張壹圓銀貨ト云フモノヲ無制限ニ我邦ニ通用セシメルト云フ策ヲ立テネハナラヌソレハ即チ今日五拾錢銀貨ト同シ形ノモノヲ壹圓ニテ之ヲ無制限ニ通用セシメルト云フ方法ヲ立テルノカ宜イノテス眞ニ金貨本位ヲ立テル安全ナル金貨本位ヲ立テルト云フノハソレヨリ外ニ策ハナイ此新案ノ如キ姑息ナコトハ逆モイケナイ併ナカラテス此ノ如クス



ルハ實ニ貨幣上ノ大改革テアル今日流通ヲシテ居ル所ノ壹圓銀貨ヲ皆排斥シテシマウ今日流通シテ居ル所ノ補助貨モ皆排斥シテシマウ而シテ流通シナイ所ノ金貨ヲ新ニ造リ又新規ニ補助貨ヲ造ルト云フカ如キハ是ハ貨幣上ノ大改革テアツテ實ニソレハ容易ニ行フヘキコトテナイテス寧ろ進歩黨ノ諸君カ金一銀二十四ノ補助貨ヲ造ルト云フカ如キ位ノ御説カアルナラハ實テ此位マテ御論シナサルカ宜シイ併ナカラ此ノ如キ大改革ハ容易ニ行フヘキコトテナイノミナラス今日歐羅巴諸國ニ於ケル景況カ此ノ如ク始終不安テアル銀貨恢復ト云フ論カ常ニ盛ナ時ニ當テ新ニ貨幣制度ヲ改革スルト云フコトハ實ニ向フ見スノ話世間見スノ話テ隣ヲ以テ大キナ岩屋テモ作ツテ居ル處ニ持ツテ往ツテ直チニ大キナ庫ヲ立テルト云フヤウナ話テ世間見スノ話ト云ハナケレハナラヌサレハテス今私カ見ル所ヲ以テスルノニ今日ハ決シテ日本ニ於テ貨幣制度ヲ立テル時テナイ新ニ改メル時テナイ世間ノ金銀ノ比價カ稍靜定シテ靜ツタ時ヲ待ツテ而シテ之ヲ定ムルカ實ニ至當テアラウト思フテスデ私ハ殊ニ此進歩黨ノ諸君カ金一銀二十四ト云フヤウナ考ヲ持タレテ金一銀二十八ト云フ補助貨ノ仕組ハ危險ナル貨幣制度テアルト云フコトヲ信セラレテ居リナカラテス認メテ居リナカラテス其説カ容レラレナイト原案ニ賛成スルト云フノハ驚クノテス即チ若シサウ云フナラハ危險ナリ信セラレテ居ツテモ原案ヲ賛成スルト云フコトニナルテセウ危險ナル貨幣制度ヲ立テ、日本國ニ於テ萬一ノ變カアレハ補助貨カナクナツテモ原案カ宜シイト云フノハ是ハ原案賛成ノ仕方カ奇妙ナル仕方テアル何テ原案ヲ賛成スルノタ其時ニハ理窟カアルカ御味方黨タラウト云フヨリ外ニ仕方カナイナセウ國ノ制度ヲ立テル時ニハサウ云フ譯テハナイテス危險ナリト信シタナラハ御ヨシナサ

ルカ宜イ又金一銀二十四ナト、云フ割合ハ實ニデタラメナ御考テアル私ハ統計ヲ示シテ原案ヲ示シタル統計ヲ以テシテモ二十四ノ危險ナコトハ矢張二十八ニ讓ラナイ寧ろ危險ナル制度ハ立テヌト云フマテニ男ラシク反對ヲナサレテハ如何テセウ私ハ之ニ就イテハイツレ原案賛成者ヨリ其辨明カアルテアラウト思ヒマスカ兎ニ角此原案トシテ出テ參リマスルト今日ノ議會ハ大概御賛成ニナル傾ヲ持ツテ居ル併ナカラ危險ト云フコトカ分ツタナラハ之ハ今日改メル必要ハナイノテスカラ直チニ反對ナサレタラ宜カラウ一度此金貨ヲ出シテ後ニ唯今申シマシタ銀貨下落テ「ビスマーク」カ閉口シタヤウナ事變カ起ツテモ之ヲ改メ直スト云フコトモ出來ス又一度此制度ヲ定メテ後ニ補助貨幣カ皆外國ニ輸出スルト云フ時分ニスグ補助貨幣ヲ鑄直スト云フコトモ出來ヌテス諸君ハ此ノ如キ危險ナルコトヲ決スル地位ニ立ツテ御出ナンテスソレテモ尙ホ原案ヲ賛成ナサルカ私ハ之ニ對シテハ最早多言ヲ要サヌト思フ唯殊ニ一言ヲ加ヘテ置カナケレハナラヌノハ此案ノ行レルト云コトノ世上ニ分リマシタヨリ此案ノ賛成者ノ中ニハテス隨分此相場ニ關係ヲ持ツテ居ツテ或ハ株式ノ騰貴杯ヲ見込シテテス而シテ此案ノ通過ヲ希望セラレテ御出ノ御方カアルヤウ思フ私ハ諸君ニ對シテ一言ヲシナケンハナラヌノハ若シ此相場テモナサルト云フコトナラ私ハ諸君ト共ニ口ヲ交ヘナイ併ナカラ若シ此自身ノ持ツテ御出ナサル株ノ値カ上ツタノカ嬉シイト云フ位ナ御話ナラソレハ即チ元々ナノテス此方案ニ依レハ從來百九拾貳圓バカリノ金貨カ貳百圓ニナルト云フ話タカラ即チ百九拾貳圓ノ株ヲ持ツテ居ラルナラハ貳百圓ニナツタノテ即チ元々ナノテス諸君少シモ原案ヲ賛成シテモ有難イ事ハナイノテセウ何ニ依テ原案ヲ賛成セラレルカ私ハ此ノ如キコトテ原案ヲ賛成セラ



ル、ノハ餘程損益利害ヲ知ラヌ御方ト私ハ言ハナケレハナラヌ而シテ若シ株ヲモ見込ヲ立テ  
 ルト云フ御方カ此中ニ居ラル、ナラハソレハ以テノ外ノ事テ私ハサウ云フコトナラハ原案ニ  
 假令賛成ノ意見ヲ持ツテ居ツテモ尙ホ反對シナケレハナラヌト思フノテス、テ終ニ臨ンテ更ニ  
 一言當局者ニ向ツテ申述ヘテ置カネハナラヌ事ハ當局者ハ此案ノ出テヨリ倫敦並ニ紐育等ノ  
 銀價カ下落シタ日本ノ勢力ハ驚クヘキテアルト云フ事ヲ誇ラレテ滿場ノ諸君ニモ對シテ誠ニ  
 自ラ喜ハル、如キ語氣ヲ申サレマシタカ是ハ分リ切ツタ話テス諸君ヨ日本ニ於テ日本政府カ  
 金一銀三十二ト云フ割合ヲ定メテ新ニ貨幣制度ヲ作ルト云フノハ詰リ百九拾貳圓ノ金貨ヲ貳  
 百圓ニ買ツテヤルソト云フ廣告ト同シ事テス試ニ日本政府カテス東京ニ於テ東京ノ米價カ拾  
 壹圓ノ時ニ拾貳圓ヲ買ツテヤルト云フ事ヲ廣告ナサツタナラハ東京ノ米價ハ直チニ拾貳圓ニ  
 上カリマセウ大阪ノ米價モ直チニ上カリマセウ仙臺ノ米價モ直チニ上カリマセウ詰リ此法案  
 ハ百九拾貳圓ノ金貨ヲ貳百圓ニ買ツテセルソト日本政府カ廣告シタト同シコトアルサレハ  
 倫敦ナリ紐育ノ金貨相場カ直チニ上リ銀價カ下落シタト云フノハ分リ切ツタ話テアル而シテ  
 此結果ハトウナルカト云ヘハ倫敦アタリカラ金塊ヲ輸送スル便利ヲ持ツテ居ル香港上海銀行  
 「オリエンタル」銀行カ儲ケルテス直チニドシ、金貨ヲ持ツテ來テ大阪ヘ持ツテ來テ鑄テ賣フ  
 ト云フタケノ話ヲ少シモ驚イタ話ハナイ試ニ日本シヤナイ彼ノ布哇政府ノ如キ小サナル政府  
 カ新ニ金貨本位ヲ立テ、テスコナ割合ヲモ立テ、御覽ナサイ矢張倫敦ナリ紐育ノ相場ハ狂  
 フ少シモ怪ムニ足ラヌ却テ此ノ如キ大袈裟ヲ買方ヲシタノヲ怪ムト云フ位ノ話テス寧ろ相場  
 ノ實際ヲ知ラスト云フ話テ諸君ハ彼ノ當局者カ此ノ如キ事ヲ云ハレタニ就イテ獨リ日本ノ勢

力ノ強イコトヲ誇ル如キ御喜ヒノ如キ御考カ出ルカ知ラヌケレトモ決シテソレ程御喜ニナル  
 程ノ事實テナイト云フコトヲ一言申シテ置カナケレハナラヌテス私ノ申述ヘル所ハ以上ノ如  
 キコトニ止マリマス唯滿場ノ諸君ニ申上ケマスノハ吳々モ此ノ如キ新案世界無類ノ新案ヲ輕  
 輕ニ賛成セラル、ト云フコトハ是非トモ御止メテ願ヒタイ金貨本位タカラ宜シイ河島君ノ如  
 キハ唯金貨本位カ宜シイト云フタケノ御説テアルソレハ簡單ナ話テ金貨本位カ良イトカ銀貨  
 本位カ良イトカ云フコトハ是ハモ一議論ニナラヌコトテ唯新ニ貨幣制度ヲ定メルト云フトキ  
 ニハ其制度カ何危險ナキヤ如何外國ノ相場カ狂ツテ來テ直チニ貨幣ヲ鑄直サナケレハナラヌ  
 ヤウナ危險ナキヤ如何ソレ等ノ點ハ十分ニ此實際ニ事務ヲ執ルニ任スルモノハ攻究スヘキコ  
 トテアラウト思フテス若シ我帝國議會ニシテ、ス輕々ニ原案タカラ賛成スルト云フ如キ議員  
 カ揃ツテ居ナイ議會ナラハ此案ノ如キハ直チニ排斥スヘキモノト思ヒマスルカ此滿場ノ諸君  
 ハ如何ナル議員テアリマスルカ尙ホ私ハ投票ノ上ニ於テ諸君ノ御舉動ヲ拜見致サウト思ヒマ  
 ス

反對說ノ三 (第三讀會ニ於テ栗原亮一)

本問題ニ就キマシテハ多衆諸君ノ意向ハ既ニ御定マリト存シマスカラシテ敢テ諸君ノ意見ヲ  
 續スコトヲ求メルノテハアリマセスナレトモ本案ハ實ニ國家重大ノ問題テアリマシテ私モ貨  
 幣調査會ノ委員ノ一人トナリマシテ其時本員カ此會ニ議ヲ提シタルコトカアリマス即チ私ハ  
 金本位論ヲ學說ニ於テ探ルモノテアリ金論ヲ探ルモノニシテ本案ニ反對トハ如何カト云フ諸  
 君ニ御疑念カアリマセウカ私ハ此金本位論ヲ探ルカ故ニ已ムコトヲ得ス本案ニ反對ヲシナケ



レハナラステアリマス私カ此調査會ニ於キマシテ許テ議ヲ提出シタル所ハ四箇條テアリマス  
 第一ハ將來我邦ハ金貨單本位ヲ期スル事第二若シ將來列國貨幣會議テ複本位制ヲ採用スルニ  
 至ラハ之ニ加盟スル事第三我邦ニ於テ金貨單本位ヲ期スル以上ハ今日ヨリ財政上及經濟上ニ  
 差支ナキ限金貨吸收ノ策ヲ取ル事第四現今我邦ノ貨幣制度ヲ改正スルハ其時期ニアラサルヲ  
 以テ現行制度ニ依ル事是レ私カ貨幣調査會ニ於テ審査ノ結果ヲ提出シタル議論テアリマス尙  
 ホ今日ニ至ルマテ私ハ固ク此議論ヲ守ツテ居ルノテコサイマス政府ヨリ本案ヲ提出致シタル  
 ハ貨幣調査會ノ意見ヲ採用シテ此法案ヲ提出シタルモノテアルト云フ如クニ政府委員ヨリモ  
 段々ト演説カアリマシタカ概シテ此調査會ニ於キマシテハ色々議論カ岐レマシタカ其中ニ銀  
 論者ナトカ最も多クアリマス又金本位論ヲ採ル所ノモノモ今日ノ形勢ニ於テ直チニ之ヲ實行  
 スルト云フノ議ヲ採リタルハ阪谷芳郎君テアツテ而シテ其案タルヤ今日ノ銀ヲ無制限ニ金ト  
 併セ用ユルト云フノ議一時複本位制ノ如キ議論テアツタノテス要スルニ直ニ之ヲ實行スルト  
 云フハ唯一人テアツタノテアリマスサウシテ此調査會ニ於ケル議論ト云フモノハ實ニ其決議  
 ハ多ク踳躩ヲセラレテ居ルヤウナ有様テアリマス決シテ貨幣調査會多數ノ意見ニ依テ成ツタ  
 モノテアリマセス尤モ當局者カ自ラ責ニ任シテ斷行スルニ於テハ敢テ調査會ノ意見ヲ實行シ  
 ナケレハナラヌト云フコトハアリマセヌ然レトモ調査會ノ意見ナルモノハ此ノ如キモノテア  
 ツテ之ヲ輕卒急速ニ行フト云フノ議論ハ實ニ少カツタノテアリマス其當時ニ於テ償金ノ我邦  
 ニ入ルト云フコトハ色々協議ノアツタコトテアリマス此ノ如キ事實モアツタルニ其事ヲ先見  
 スル能ハスシテ斯ル調査會カ議決ヲシタモノテアリマセヌ償金ノコトヲモ參考ニ加ヘタルナ

レトモ先ツ今日日本ノ經濟上ノ有様ニ於テハ之ヲ急ニ行ハナイ方カ宜イト云フ決議テアツタ  
 ノテス實ニ此ノ如キ問題ハ我帝國ノ國是ニ關スル大問題テアリソシテ決シテ黨派感情ヲ以テ  
 爭フノテハアリマセヌ公平ニ事實ニ我日本帝國ノ爲ニ考ヘマシタル所テハ此ノ如キ所ノ法案  
 ニ依テ之ヲ行フトハ甚タ危險ナリト感スルノテアリマス如何トナレハ此ノ如キ危險ナル案  
 カ行レタルナラハ或ハ萬一僥倖ニ致シテソレニ成功スルカモ知レヌ併ナカラ實ニ危險ナル所  
 ノ一種ノ山仕事テアル故ニ若シ黨派心ヲ以テスルナラハ此ノ如キ危險ナル案ヲ現内閣ニ行ハ  
 シメテ其失敗ヲ見ルト云フ方ノ却テ黨派心テアリマスカ併ナカラ真正ノ黨派トシテハ之レハ  
 黨派ノ弊テアツテ此ノ如キコトヲ思フヘキモノテハアリマセヌ故ニ私カ真正ニ此ノ人民ノ爲  
 ニ思ツタル時分ニハ若シ此案ハ即チ真正ノ金貨本位論カアリマスナラハ私ノ宿論テアリマス  
 カラ此ノ宿論ノ行ル、程實ニ愉快ナルモノハアリマセヌ喜ンテ贊成スルノテアリマス併ナカ  
 ラ熱本案ヲ按スルニ危險ナルコト、思ヒマス又此ノ本案ノ精神トスル所ハ一時一國限一復本  
 位制ヲ行フト云フコトニナツテ居ル即チ是ハ私ノ素論ト大ニ反對スルノテアリマス此ノ法案  
 ニ對シテ第一ニ觀察ヲ要スル所ハ金貨本位制ヲ行フニ於テ金貨準備ハ果シテ足ルヤ否ヤト云  
 フコトテアルト思ヒマス又果シテ此金貨本位制カ準備金カ足ルト致シマシテモ其ノ準備ト云  
 フモノヲ十分ニ維持スルコトカ出來ルヤ否ヤ即チ此ノ準備金カ維持出來ルヤ如何ハ色々原因  
 カアリマスカ先ツ第二ニ我邦貿易輸出入ノ上ニ於テ權衡ヲ得ルト云フコトヲ最も大切テアリ  
 マス第三ニハ縱シ準備金ト云フモノカ足り又輸出入ノ權衡ニ於テ憂フル所モナク果シテ假ニ  
 此ノ如ク致シテモ今日急ニ此ノ法案ト云フモノヲ法律トナサシメテ行フトコトカ果シテ適當テ



アルヤ否ヤ此ノ三點カ最モ必要ナルコト、思フノデアリマス此ノ三點ニ就イテ簡單ニ述ヘル  
 テアリマスカ即チ政府ノ云フ所ニ依リマシテ金貨準備ハ新金貨ニ直シテ壹億九百萬圓アルト  
 云フコトデアリマス是ハ日本銀行在來ノ金貨ヲ新金貨ニ換算シタル參千參百萬圓トソレカラ  
 預合ヒ方法ニ依レルモノ七千貳百貳萬圓其ノ他合セテ壹億九百萬圓ニナルト云フコトデア  
 而シテ銀貨ハ幾何アルカト云ヘハ銀塊ト銀貨ト合セテ日本銀行ニ四千貳百七拾五萬圓ト云フ  
 コトデアリマス真正ニ此ノ金貨本位ヲ行ハントスレハ今中野君ヨリ御議論カアリマシタカ此  
 ノ金銀ヲ併セ行フト云フコトハ甚タ危險ナルノデアリマス真正ノ金貨本位制ヲ行ハントスレ  
 ハ銀貨ノ處分ヲ致シテ其ノ銀ハ補助貨トシテ用ヒナケレハナラヌノデアリマス然ラハ金貨本  
 位制ヲ行フニハ壹圓銀貨ノ處分ハ急ニ行ハナケレハナラヌ然ルニ壹圓銀貨ノ内地流通高ハ幾  
 何アルカト云フニ參千九百萬圓程アルト云フコトテス又壹圓銀貨ノ新嘉坡其ノ他東洋諸國ニ  
 流通シテ居ル高ハ壹千萬圓以内テアルト云フコトデアリマス政府ニ初メ段々ニ質シタル所テ  
 ハ先ツ海外ニアル銀貨ハ參千萬圓アルト云フコトデアリマシタソレハ壹億貳千萬圓ハカリカ  
 海外ニ出テ居ルカ多クハ鑄潰サレテ居ルカラシテ其ノ四分ノ一即チ參千萬圓位カ我邦ニ歸ツ  
 テ居ルデアラウト云フコトデアリマシタカ是ハ表面ノ照會テハナカツタデアリマスカ其後政  
 府カ段々ト調ヲ致シタト云フテ委員會ニ於テ得タル報告ハ其銀貨ノ在高ハ八百六拾貳萬圓餘  
 テアルト云フ——甚タ少ナイ壹千萬圓以内ト云フコトデアリマス併ナカラ是ハ果シテ壹千萬  
 ニ止マルヤ否ヤ此ノ報告ヲ得タルノハ其ノ時ニ當ツテ各領事館等ニ電報ヲ發シテ之ヲ得タト  
 云フコトデアリマス此ノ報告書ヲ見マスルノニ元山ハ電報カ未著デアルト書イテアリマス此

ノ調ハ果シテ正確ナルモノデアルヤ否ヤ吾々ハ疑ヲ存スルノデアリマス壹億貳千萬圓ノ中四  
 分ノ一即チ參千萬圓位ハ引換ヲシナクテハナラヌト云フノ覺悟ヲシナケレハナラヌト思ヒマ  
 スカ假ニ政府ノ言フカ如ク内地ニ參千九百萬圓海外ニ壹千萬圓ト致シマシテモ即チ四千九百  
 萬圓デアリマスカ此ノ四千九百萬圓ノ銀貨ノ處分ヲ致サントスルナラハ即チ新金貨壹億九百  
 萬圓ノ中ヨリ四千九百萬圓ヲ引換ヘルトスルナラハ殘ル所ノモノハ新金貨僅ニ六千萬圓ト相  
 成ルノデアリマス此ノ法案ニ於キマシテハ壹億九百萬圓ノ四分ノ一即チ貳千七百貳拾五萬圓  
 ハ銀貨準備ヲ許スト云フコトニナツテ居リマス現ニ日本銀行ニアル所ノ銀貨銀塊カ四千七百  
 拾五萬圓ト致シマシタナラハ即チ之ハ四分ノ一ニ超過ヲ致シテ居ルカラシテ千四百五拾萬圓  
 ノ銀ト云フモノハ日本銀行カ或ハ補助貨ニスルカ兎ニ角吐出スコトニシナケレハナラナイテ  
 アル純粹ノ金本位ヲ行ハントスルナラハ此ノ如キ銀貨ノ處分ヲシナケレハナラヌデアリマス  
 其處分ヲシナクツテ金銀兩方ヲ竝ヒ用ヒ此銀貨ヲ舊ノ儘ニ置クト云フコトハ實ニ其相場ノ變  
 動ニ依テ危險千萬ナル理デアリマス或ハ言フニ此壹億九百萬圓ニ銀貨ヲ加フレハ壹億五千萬  
 圓デアル之ニ對スル紙幣貳億萬圓ト云フモノハ是ハ甚タ鞏固ナル準備デアルト云フコトデア  
 リマス成程紙幣ト此正貨ノ準備ヲ言ツタル時分ニハ左様デアリマセウケレトモ併シ日本カ此  
 金本位制ヲ施イテ之ヲ實際ニ行ヒ即チ金看板ヲ出シタル時分ニハ此爲替ト云フモノハ總テ金  
 貨ヲ引換ヘナケレハナラナイ即チ此爲替ノ取付ケト云フモノ、貿易ノ權衡如何ニ依テ或ハ之  
 ヲ取付ケラル、カ又此ノ如ク取付ケラレナクトモ出來ルカト云フコトハ大イニ貿易上ニ關係  
 スルコトデアリマスサレハ紙幣ニ對シテ此準備金ト云フモノカ十分デアリマシテモ一方ニ外



國貿易力權衡ヲ得ナカツタ時分ニハ又準備ト云フモノモ甚タ手薄キニ至ルト云フ憂カ大イニアルテコサイマス今日我邦ノ外國輸出入ノ上ニ於キマシテハ先刻來モ段々議論カアリマシタ此ノ準備ト云フモノハ金ニ致シテモ銀ニ致シテモ輸入超過ノアツタル時分ニハ同シ譯フアルカラシテ別ニ金銀ニハ關係ノナイコトアル此ノ如キ議論カ屢アリマシタ最モ其通テノリマズ併ナカラ今日日本カ此金兌換制度ヲ行フニ當ツテハ今在ルヨリモ尙ホ多クノ金貨ヲ吸收致シ又出ル所ノ金貨ト云フモノハ少ナイ様ニズルト云フコトカ最モ大切ナル場合ニナツテ居ルノテアリマス此ノ如キ場合ニ臨ンテ輸出入ノ權衡ヲ失ツタル時分ニハ金貨濫出ノ如キ場合ニ至ツテハ折角ノ此制定ト云フモノモ維持カ困難ニナルノテアリマス故ニ此金ト云フコトニ重キヲ置イテ特ニ論セヌケレハナラナイノテアリマス二十九年ニ於テ輸入ノ超過アツタト云フコトハ屢諸君ノ御演說カアリマシタカ併シ此ノ輸入超過ノ上ニ於テ如何ナルモノカ超過フシテ居ルノテアルカ隨分此輸入ノ超過ナルモノモ其入レル所ノ物品ニ依テハ強チ之ヲ憂フルニ足リマセヌケレトモ併シ二十九年ニ於キマシテ超過シタル所ノ其輸入品ハ如何ト云フコトヲ細カニ見タル時分ニハ五千參百萬圓ノ輸入カ超過シ輸出ノ減少カ千八百萬圓以上モアツタテコサイマス御承知ノ如ク生絲茶等カ米國ノ政治變動ノ爲ニ停滯ヲ致シテ其輸出ノ減少モアリマシタカ即チ此輸出ノ減少ト輸入ノ超過トヲ合セテ五千參百萬圓トナリマスカ純粹ノ輸入ノ超過ハ四千貳百萬圓テアリマス此四千貳百萬圓ハカリノ輸入超過カアツタノテコサイマス而シテ此輸入超過ハ二十九年年度ハ即チ戰後テアツテ種々奢侈又購買力カ増加シタカラシテ二十九年ハ全ク別テアル是ヲ以テ決シテ他日ノ事ヲ云フコトカ出來ナイト云フ議論テアリマスケレ

トモ併シ此輸入超過ノ趨勢ハ今日ニ止ツタル譯テアリマセヌ今年ニ至リマシテモ現ニ一月ノ如キ百四拾七萬圓餘ノ輸入超過ヲ致シテ居ル二月ニ於テモ凡ソ此ノ如クトウシテモ此輸入超過ノ趨勢ト云フモノハ未タ容易ニ免レナイテアリマス而シテ其輸入シ來ル所ノモノハ何テアルカト云フナラハ多クハ消耗品テアリマス即チ棉花綿絲綿布ノ如キモノカ合セテ千五百萬圓ハカリモ是カ輸入ノ超過テアリマス總數テハアリマセヌ此ノ如キ消耗品カ輸入超過テアリマシテ多クハ是ハ威ハ絲ニ製シテ東洋地方ニ賣出スモノモアリマスケレトモ大抵ハ内地ニ之ヲ使ヒ潰シタノテアリマスル此ノ如クニ其千五百萬圓バカリノ二十八年ヨリモ多ク輸入カアリマシテ而シテ之ヲ絲ニ製シテ海外ニ賣出シタル所ノモノハドノ位増加シタカト云フト僅ニ參百萬圓シカ増加シテ居ラヌテアリマス此ノ如ク輸入シタルモノハ多クハ之ヲ内地ニ消費ヲ致シ之ヲ精製品トシテ海外ニ輸出サレタルモノハ其タ少イノテアリマス然ラハ此輸入超過ナルモノハ決シテ安心ヲ致シテ喜フヘキコトテハアリマセヌ大ニ憂フヘキコトテアリマス之レニ反シテ是マテ我邦ハ銀貨國トシテ大ニ利益ヲ得テ居ツタテアルカ併シ我邦カ金貨國ト相成ツタル時分ニハ此利益ト云フモノハ全クナクナツテ其銀貨國ト金貨國トノ反對ニ立ツテザウシテ銀貨國ヘノ輸出ト云フモノハ段々減少致スコトハ免レヌノテアリマス此ノ如ク輸入超過ガ或ハ今年ニモ止マヌ尙ホ來年モ止マヌ此勢ヲ以テ往ツタル時分ニハ即チ貿易上ノ權衡ヲ失ツテカラニ詰リ此金兌換制度ヲ施イテモ金貨濫出ヲ致シ此兌換制度ヲ危フスル甚シキニ至ツテハ遂ニ兌換制ヲ若シモ一時中止スル如キコトアル時分ニハ即チ日本ノ破産ヲ世界ニ布告スル譯テアリマス或ハ今日ハ幸ニ償金カ我手ニ這入ツテ居ルカラシテ決シテ此機ヲ失フヘカラス



此際ニ於テ是非金貨制度ヲ布カナケレハナラヌト云フノ議論テアリマスカ此償金トシテ我邦ニ導入ツテ居ル金貨ハ今日金兌換制ヲ布カスンハ此金ハ海外ニ逃去ツテシマフト云フコトハ決シテアリマセヌ却テ此兌換制度金看板ヲ早ク立ツタケレトモカ内輪ノ身代ハ出入勘定償ハス致シテ却テ買フ物多クシテ賣ル物少ナイ斯ウナツタ時分ニハ折角ノ金看板ヲ立ツテモ遂ニ此兌換ヲ止メルカ如キコトニ至リマシタ時分ニハ此金看板ハ直ニ引込メテ身代限ヲセンケレハナラヌト云フ危険カアルノテアリマス二十九年ハ別物テアル此ノ如キ連年ニ輸入超過カ決シテナイト云フノ御議論モアリマシタケレトモ私ハ決シテ左様ハ思ハナイ曾テ調査シタル所ニ依リマスニ彼ノ紡績電氣航海ノ事業ニ致シマシテ器械原料外國ヨリ仰ク所ノ會社テアリマス凡ソ此戰後——戰前ニ比シテ是カラ日本カトレ程ノ事業力起リドレ程ノ外品ヲ仰クテアラウカト云フコトノ調査ニ依リマスレハ少シク時日ハ經テ居リマスケレトモ古イ調テハアリマセス此器械原料ヲ外國ニ仰ク所ノ會社ノ資本金額ハ我邦ニ於テ一億四百貳拾參萬圓餘アル二十九年十二月末ノ拂込濟資本金額ハ七千貳百貳拾四萬九千圓餘テアル三十年六月末拂込濟資本金額ハ八千九拾四萬八千圓餘テアル即チ僅カ半年以内ニ於テ此資本金額カ一千萬以上ノ増加ニナツテ居ルノテアリマス此壹千萬圓ノ資本カ悉ク海外ノ器械原料ヲ買フニ充テルモノテハアリマセスケレトモ此中ノ或ハ半分トカ幾ラトカ云フモノハ海外ニ多ク仰カネハナラヌノテアリマス先ツ此金ト云フモノハ概シテ海外ニ仕拂フヘキモノカ多イト見ネハナラヌノテアリマス此ノ如キニ戰後我邦ノ膨脹ヲ致シテ事業ハ大ニ發達ヲナシ又從ツテ外品ヲ購フ所ノ高ト云フモノモ多クナツテ居ルノテアリマス又近來我邦ニ於テハ鐵道事業カ大ニ勃興ヲシテ

此事業ノ爲ニ熱心盡力セラル、所ノ諸君モ少カラスコトテアリマス即チ此鐵道ト云フモノカ日本ニ起リマス時分ニハ其材料ヲ海外ヨリ購フモノハ餘程多イテアリマス願書ニ就イテ調ヘタ所テハ二十九年七月三十一日マテノ出願テ同日迄處分ノ濟マサル鐵道會社カ百九十六アツテ其資本金額ハ參億貳千九拾萬圓餘テアルト云フコトテアリマス此内三分一カ許可セラレ資本金額壹億圓トシ先ツ凡ソ其三割ト云フ者カレール其他外品ヲ仰ク者ト致シタル時分ニハ即チ參千萬圓ハカリハ凡ソ海外ヨリシテ輸入ヲ仰カネハナラヌ是程ノ仕拂ヲセンケレハナラヌ譯ニナツテ居リマス又彼ノ公債募集金ヲ以テ支辨スヘキ所ノ官設鐵道ニハ是レハ議會ニ於テ協贊ニナツテ居ルテアリマスルカ是モ七千七百萬圓餘リアルノテアリマス此ノ如ク我邦ノ事業大ニ發達ヲ致シテ從テ外國ヨリ物品ヲ仰ク所ノモノハ將來ナカク、多イノテアリマス此ノ如キ事業ヲ存在シテ居ル間ト云フモノハ輸出超過ヨリハ輸入ノ超過ト云フモノハマタ數年間免レナイト思フノテアリス或ハ我邦ニ於テ貿易商工業ノ發達ヲ致シタルノハ決シテ是ハ金銀貨變動ノ爲テハナイ銀貨ノ御座テハナイト云フ議論カ湧イテ來タテアリマス貨幣調査會ニ於テモ此日本カ當時銀貨圖ラアツタ爲ニ其差益ノ爲ニ大ニ利益ヲ致シテ即チ輸出ノ増進ヲシタト云フコトハ是ハ調査委員全體ノ認メテ居ル所ノ事實テアリマシテ歷々此報告書ニモアリマス吾々ハ此銀貨下落ト云フコトニノミ重キヲ措クモノテハアリマセス併ナカラ此銀貨ト云フモノハ暫ク我日本國ヲ益シタト云フコトハアルノテアリマス然ルニ此ノ如キ事實ト云フ者ハ調査報告書ニ認メテ居リナカラ今日ニナツテハ却テ政府委員ハ之ヲ打消ス所ノ反證ヲ擧ケ來ツテ居ルテアリマス實ニ銀貨ハ可哀サウニ其時分ニハ忠義ニ日本ノ爲メ働イテ居ツタモノテア



ルニアレハ一體不都合ナヤツタト云フヤウナ俄ニ銀貨ヲ惡ルク云フヤウナ所ノ反證テアルト云ツテ此政府ノ證書ノ中ニ擧ケテ居ルテアリマス其云フ所テハ若シ此金銀比價變動ノ爲ニ日本ノ貿易カ發達シタルト云フナラハ即チ金貨國ニ對スル所ノ我邦ノ貿易ハ此銀貨下落ノ時分ニ最モ盛ニナラネハナラヌ譯テアルニサウハナツテハ居ラス云フコトカ表ニ擧ケテアリマスルカ併シ之ハ餘リ銀ヲ誣ヒタル論テアラウト思フノテアリマス金貨國ニ對スル所ノ我邦ノ貿易ハ最近十年間ニ於テ輸出ノ方カ多クナツテ居ル即チ此銀貨ノ用ヒラレテ居ル間ト云フモノハ輸出超過ノ此效益ト云フモノハアツタノテアリマス但シ之ハ二十九年ヲ除イテノ計算ニナツテ居リマス即チ毎年平均壹千七百七拾萬圓餘ト云フモノハ金貨國ニ對シテ輸出超過ヲ致シテ居ル即チ當時銀貨ハ其動ヲ致シテ我邦ニ利益ヲ與ヘテ居ツタニ相違ハナイ譯テアル銀貨國ニ對スル所ノ我邦ノ貿易ハ最近十年間ニ於テ輸入ノ超過トナツテ居ルテアリマス若シ茲ニ急ニ我邦カ金貨國ト相成ツタル時分ニハ此銀貨國ニ對シテハ輸入超過ハ益多キヲ加ヘルコトハ疑ハステアリマス即チ銀貨國ヨリハ輸入超過ガ毎年平均凡ソ壹千百萬圓バカリニナツテ居ルテアリマス此ノ如クニ此金貨準備ノ上ニ於キマシテモ又貿易權衡ノ上ニ於キマシテモ甚タ吾々ハ日本國民ノ爲ニ深ク之ヲ憂フルテアリマス今日純然タル金貨本位制ヲ行フコトノ出來ナイト云フノハ成程政府ノ方ニ於キマシテモ大藏省ハ當時ヨリ金論者カ多クツタノテアリマス如何ニモ純粹ノ金貨本位制ヲ行ヒタイニハ相違ハナイ併ナカラ此金貨本位制ヲ純粹ニ行ハントスル時分ニハ銀貨ノ處分ヲシナケレハナリマセヌ之ニ就テ銀貨引上ノタメ五六千萬ノ金カ特ニイル譯テアル其ノ準備ヲスルニ就イテ若シ銀貨ヲ賣ラントシタ時分ニハ即チ別ニ財源

ヲ求メテ之ヲ行フト云フコトヲスルカ此財源ナキカ爲ニ餘儀ナク一時銀貨ノ處分ヲスルコトカ出來ナイ是ニ於テ已ムヲ得ス金本位ト云ヒナカラ矢張銀ノ處分ヲ致サスシテ此法律案ヲ見テモ政府ノ都合ニ依リ漸次ニ之ヲ引換ヘ何時ヤルト云フコトハ明言シナイノテアリマスル如何ニ金貨本位カヤリタクテモ其準備カ出來ナイト云フ併ナカラ又是ハ吾々別ニ考案カアリマスケトモ此處テハ申サヌノテアリマス果シテ此準備カ今ハ隨分アリマシテモ他日不足ニナルト云フ憂カアリ又此銀貨ヲ處分致タイケレトモ其處分シタル時分ニハ此處ニ金貨準備ノ上ニ不足ヲ告クル譯テアルカラ已ムヲ得ス其名ハ金貨本位テアルカ其實ハ一時一國限リト云フヤウナル實ニ危險千萬ナル所ノ法案カ出タノテアリマス此處ニ至ツテハ復本位論者ト雖モ一時一國限リノ復本位制ト云フモノハ甚タ危險ニシテ又之ヲ實際ニ行フヘカラサルコトハ學術經驗ノ上ニ於テ既ニ極ツテ居ル所テアリマス故ニ復本位制論者ト雖モ此議論ニハ反對テアリマスカラシテ即チ田口君ノ如キハ列國復本位同盟論ヲ唱ヘラレタノテアリマス此ノ如キ所ノ法案ニナリマシテハ是等諸君ノ意思ニモ全ク反對シタル譯テアリマス此復本位制ニ伴フ所ノ弊害ハ實ニ金銀ノ上ニ於テ法定比價ヲ置キマシテモ法定ノ相場カ狂フタル時分ニハ或ハ金貨濫出トナリ或ハ銀貨濫出トナリ極テ危險ナリト云フコトハ私カ此處ニ述ヘステモ諸君ノ御承知ノ事ト思ヒマス此ノ如ク準備ニ於テモ甚タ危險カアツテ又其制度ノ上ニ於テモ甚タ不安心テアル此ノ如キ危險ナル所ノ制度ト云フ者ヲ何ガ爲ニ急ニ之ヲ行ハントスルノテアルカ吾々ハ其必要ヲ見ナイノテアリマス即チ急ニ金貨本位制ヲ行フタル所ノ國ニ於キマシテモ此ノ如キ咄嗟ノ間ニ之ヲ行フト云フヤウナコトハ決シテナイノテアリマス即チ獨逸ノ如キハ最モ急



激ニ此本位制ヲ行ツタモノテアリマスケレトモ併シ其間ニ尙ホ年月ヲ置イテアルノテアリマ  
 ス即チ千八百七十一年五月佛蘭西ト平和條約ヲ致シテ十二月ニ銀貨自由鑄造ヲ禁シタ即チ其  
 時ニ於テ金銀ノ比價ヲ定メ千八百七十三年ノ七月ニ至ツテ始メテ此金本位制ヲ實施シタノテ  
 アリマス必スヤ此ノ本位制ヲ改革スルノ道ニ於キマシテハ其準備年限ト云フモノヲ置クノテ  
 アリマス又獨逸ハ聯邦統一ノ政略上ヨリ幣制統一ノ必要モアリ急ニ之ヲ行フタノテアル又露  
 西亞ハ今ヤ金本位制ニセント致シテ急ニ之ヲ行ツテ居ル我邦モ之ヲヤラナケレハナラヌト云  
 フヤウナル議論モアリマス併ナカラ彼ノ露國カ金本位制ヲ布カントスルニ於キマシテハ實ニ  
 準備ノ爲ニ是迄汲々トシテ其考案ヲ回シ金貨ヲ外國ヨリ吸收シ或ハ西比利亞等ニ依リ吸收シ  
 テ此金ハ即チ露西亞ノ中央銀行ニ永遠ノ預金トシテ露西亞ハ不兌換ノ紙幣ヲ發行致シテ居ッ  
 タノテアリマス此ノ如ク一方ニハ金貨ヲ吸收致シテ其金貨ノ外ニ出サレナイヤウニ之ニ對ス  
 ル不兌換ノ紙幣ヲ發行シ準備漸ク今日ニ至リマシテ整ヒタルカ故ニ今之ヲ行ハントスルノ事  
 實ニ及ンテ居ルノテアリマス決シテ之ヲ一朝一夕ニシタノテハアリマセヌ又我邦ハ決シテ露  
 國ノ緩漫ナル政略ヲ探ラヌテモ即チ獨逸ノ如ク戰捷ノ餘勢ヲ以テヤリマシタ時分ニハ是程ノ  
 年月ヲ積マナクテモ宜イテスガ併シ此準備基金ヲ十分安全ニ積置キ豫メ銀貨ヲ處分スル爲ニ  
 銀貨ノ自由鑄造ヲ禁シテ即此純然タル金本位ニ移ルト云フコトハ各國皆同然ノコトテアリマ  
 ス實ニ今日ノ如キ所ノ此制度ハ其名ハ金本位テアツテ實ハ危險千萬ナル所ノ復本位制ヲ一國  
 限リ之ヲ行フト云フコトテアリマシテ賻金本位制テアリマス此ノ如キ其銀貨ノ處分モセスシ  
 テ此危險ナル所ノモノヲブラ／＼トサセテ置イテヤルト云フコトハ實ニ危險テアルト云フコ

トハ吾々ノ私論テナイ聞ク所ニ依レハ内閣中ニ於テモドウモ此ノ如キ法案テハ不備テアル又  
 事實其銀貨ノ處分ト云フモノヲ早クセスシテ此一國限リノ復本位制ニ陥ツテ甚タ往ケナイカ  
 ラ其年月ト云フモノヲ明カニ極メルカヨカラウ最モ之ヲ急ニセンケレハナラヌト云フ所ノ議  
 論ヲ立テラレタ人モアルト云フコトヲ確ニ聽テ居リマス深ク此制度ノ爲ニ又帝國ノ爲ニ思フ  
 所ノ當局者ナラハ此邊ニ最モ注意シナケレハナラヌノテアリマス大藏大臣ハ實ニ是ハ宿論テ  
 アル決シテ一朝一夕ノ目論見テナイト云フコトヲ言ハレマシタ若シ大藏大臣ニ致シマシテ果  
 シテ此先見ノ明アツテ此案ヲ立テマシタナラハ一タシカ松方伯ハ十九年ノ頃此金貨本位制ヲ  
 唱ヘタト云フ事ヲ先日申サレタノテアリマス誠ニ先見威服テアリマス然ルニ二十三年五六月  
 ノ頃ホヒテアリマシタカ金貨五百萬圓ト云フモノヲ金百圓ニ就イテ銀百參拾貳參圓ノ割合ヲ  
 以テ之ヲ賣却サレタコトカアリマス松方伯ハ若シ果シテ此金貨制度ヲ行ハレル所ノ先見カア  
 リマシタ時分ニハ此ノ如ク安ク早ク此金貨ヲ賣ラナクツテモ今日マテ之ヲ存シテ置キマシタ  
 時分ニハ實ニ其政策ヲ行ハル、上ニ大ナル助ケトナツタノテアリマス其時ニ於テ之ヲ安ク賣  
 ツタルカ爲ニ今日ノ相場ニシタラハ凡ソ參百萬圓バカリノ損失トナツテ居ルノテアリマス此  
 ノ如ク先見カアツテ此法ヲ出サレタト云フコトテアリマシタナラハ十九年ノ頃ヨリ此金貨本  
 位制ヲ唱ヘラレテ居ラレナカラ二十三年五六月ニ至ツテ此五百萬圓ノ金貨ヲ賣ラレタト云フ  
 モノハドウ云フモノテアルカ決シテ私ハ其先見ナルコトヲ信シナイテアリマス當ニ先見テナ  
 イノミナラス今回ノ議會ニ向ツテ此ノ如キ法案ヲ提出セラレタト云フモノハ吾々考フル所決  
 シテ他ニ其理由ナイト思フノテアリマス即チ彼ノ六千萬圓ノ公債募集ノ爲ニ或ハ公債ヲ海外



ニ賣出スカ如キ是等ノ政策ヲ行フニハ金本位制ヲナケレハ誠ニ外國ノ體面カ惡イト云フ所ヨ  
 リシテ全ク是ハ財政上一時ノ窮策一時ノ遺謀ノ爲ニ此ノ如キ法案ヲ出サレタモノト吾々ハ思  
 ハサルヲ得ヌノテアリマス松方伯ハ實ニ吾ニ抱負カアルト云フコトヲ言ハレタノテアリマス  
 果シテ其ノ抱負アレハ如何ト云フコトヲ熱見テ居レハ此法案カ出タノテアリマス若シ松方伯  
 ニシテ眞ニ抱負カアルト云フコトナラハ果シテ此金貨本位ノ制度ヲ以テ財政ヲ救ハントスル  
 ナラハ此金貨本位制度カ即チ財政ト最モ關係アル所ノモノテアリマス若シ金本位制ノ此法  
 律カ財政ト關係ナキモノテアルト云フナラハ此財政ヲ整理シ歳入ノ不足ヲ補フニハ何ヲ以テ  
 スルカ然ラハ此本案ニ致シテ財政ト關係ナイト云フナラハ言ヒ換ヘレハ即チ大藏大臣松方伯  
 ハ唯抱負アルト云フノミニ致シテ其實一ノ抱負ナシト云ハサルヲ得ヌノテアリマス誠ニ此案  
 ニ就キマシテハ實ニ貨幣制度調査會ノ意見ト云フモノモ蹂躪セラレテ居ルノテアリマス又國  
 民多數ノ意見ト云フモノモ蹂躪セラレテ居ルテアリマス本員ハ決シテ四千萬同胞婦女子  
 至ルマテ之ヲ諮リ下等社會ニ至ルマテ之ヲ諮レト云フノテハアリマセヌ或ハ此ソレノ商業  
 機關ハ商業會議所テアリ其他色々アリマス即チ京濱間同盟銀行ニ於テモ先刻中野君カ述ヘ  
 ラレタ如ク意見モ出テ居ル此ノ如キ所ノモノニ向ツテ能ク其意見ヲ徹シテヤルト云フコトカ  
 必要テアル此調査會ノ意見ト云フモノハ何時何日之ヲ行フト云フコトヲナク致シテ其影響或  
 ハ之ヲ改革スル必要アリヤ否ヤ若シ改革スルトシタナラハ如何ナル制度ヲ採ルカト云フコト  
 カ本體テアツタノテアリマス依テ私ハ此處ニ長イコトハ要サステアリマス即チ此處ニ述ヘタ  
 ル所ノコトヲ簡單ニ茲ニ一ノ文章ニ縮メテ之ヲ讀デシマイニ致ステアリマス吾々ハ決シテ其

成案ナク致シテ唯之ニ反對スルモノテアリマセヌ又私ハ金貨本位制度ニハ最モ熱心ナルモノ  
 ナアリマス故ニ此金貨本位制度ヲシテ日本ニ安全ニ行ハシメル鞏固ニ行ハシメルニハ凡ソ  
 此ノ如キ所ノ方法ヲ以テセヌケレハナラヌト云フコトヲ私ハ深ク信スルノテアリマス唯茲ニ  
 之ヲ一讀シテ置キマス「一金貨本位實行ハ直ニ金貨單本位制トシ其準備年限間ニ於テハ本案  
 ノ如キ金銀兩本位制類似ノ制度ヲ行ハサル事二ハ今日ハ金貨本位實行ノ準備ニ止ムル事三ハ  
 實行ノ準備トシテ銀貨自由鑄造ヲ停止スル事四ハ準備年限間ハ金銀比價法定歩合ヲ改定スル  
 ニ止メ依然銀貨兌換制ヲ存スル事テアリマス五ハ準備年限間政府ノ銀貨鑄造高ハ兌換券ノ兌  
 換準備ニ必要ナル額ヲ標準トスル事六ハ準備年限間ハ貿易ノ權衡ヲ失ハサルヲ要シ且ツ勉メテ  
 金貨吸收ノ策ヲ取り又價金特別會計法ノ運用ニ依リ金融市場ノ緩急ヲ計リ金貨ヲ失ハサル方  
 針ヲ取ル事七ハ若シ財政上公債ヲ海外ニ賣出スノ必要アラハ別ニ金貨公債ヲ發行スルノ途ア  
 ノ急忽ニ我邦ノ幣制ヲ改革スヘカラサル事八ハ金貨本位實行マテハ壹圓銀貨回收ノ爲メ其交  
 換準備トシテ金貨壹億九百萬圓以外凡ソ五千萬圓ノ金貨貯藏ヲ期スル事テアリマス九ハ金貨  
 兌換準備ノ基礎確立ヲ俟テ金貨本位ヲ實行スル事テアリマス十ハ金貨本位實行ノ時ハ金本  
 位トナシ銀貨ハ一切補助貨幣タラシムル事テアリマス

修正說ノ一 (第二讀會ニ於テ小坂善之助)

私ハ此銀貨幣ト云フ貳拾錢銀貨ヲ貳拾五錢ニ改メル意見ヲ出シマス此貳拾五錢ノ銀貨ノ必要  
 ト云フコトハ既ニ東京商業會議所銀行集會所橫濱商業會議所等カラ意見カ出テ居リマス是ハ  
 實際此商業上ノ取引ニ於テ最モ必要ナ貨幣ト私共ハ認メテ居ル是ハ委員會ニ於テモ其事ハ述



へマシタケトモ多數ヲ得ナイテ否決トナリマシテコサイマスルデ甚タ遺憾ノコト、思ヒマス  
 貳拾錢ノ銀貨ハ即チ此拾錢ヲ二ツテ間ニ合フコトニナリマスケレトモ貳拾五錢ト云フコトニ  
 ナリマスルト之ニ白銅一ツ加ハルト云フヤウナコトニナル此今世ノ中ニ在ル所ノ貨幣ノ中テ  
 製造ノ一番多イモノハナシテアルカト云フト五錢ノ白銅テアル此製造ノ多イ所ノ白銅ト云フ  
 モノハ成丈世ノ中ニ少ナクシタイト云フ考ヲ私共持ツテ居ル此ノ東京銀行集會所等カラハ貳  
 拾錢ノ外ニ貳拾五錢ヲ加ヘルト云フ意見カ出テ居リマス貳拾錢ト貳拾五錢ト云フモノヲ二ツ  
 世ノ中ニ流通サセルヤウニスルト誠ニ紛ラシイコトニナリマスカラ私ハ貳拾錢ト云フモノハ  
 廢シテ更ニ貳拾五錢ト云フ銀貨ヲ鑄造スルト云フコトカ宜カラウト思フノテスドウカ此貳拾  
 五錢ノ貨幣ヲ拵ヘルト云フコトニ諸君ノ御賛成ヲ得タイモノト思ヒマス

修正說ノ二 (第二讀會ニ於テ阿部興人)

本員ハ此第六條中ニ修正ヲ致シタイト云フ意見テアリマス修正ハ如何テアルカト申シマスレ  
 ハ此四ノ五拾錢トアリマス下ニ四ノ五拾錢銀貨幣三匁五分ノ處之ヲ三匁ソレカラ括弧致シマ  
 シテ十一「グラム」ニ五ソレカラ次ニ五ノ處「貳拾錢銀貨幣一匁二分四厘」グラム「五其次ニハ拾錢銀  
 貨幣六分」グラム「二五」ス様ニ修正カ致シタイト云フ譯テコサイマスデ固ヨリ本員ハ御承知ノ  
 通金貨本位ヲ望ムノテアリマスサウシテ此修正ヲ持出スト云フ者ハ希望ノ金貨本位制ヲシテ  
 鞏固ノ上ニモ益鞏固ナラシメント欲シマスル希望ヨリ出レルコトテアリマス御案内ノ如ク本  
 案ノ割合ト申スハ即チ本位ト補助貨トノ割合ハ金一銀二十八七五強ニナツテ居リマス然ルニ  
 唯今申述へマシタ如クニ改メマスルト金一銀二十四ノ割合トナルテノコサリマス故ニ是ヨリ

必要ト認メマシタ理由ヲ述へマスニ當リマシテハ一々五拾錢若クハ貳拾錢拾錢ノ量目ヲ申ス  
 ヨリハ矢張唯今申シタ金一銀二十四ト云フコトニ一括シテ申述へス何故ニ斯様ナ必要カアル  
 カナセ此改正ヲ望ムヤト申シマスレハ本案ノ如キ二十八七五ト申スルハ此金一ニ對シマスレ  
 ハ僅ニ今日一割内外ノ開キホカナイノテコサリマス御案内ノ如ク此法ヲ改正致シマシテモ  
 即今通用致シテ居ル所ノ六千萬圓モアル所ノ壹圓銀此壹圓銀ノ所ニ比較シテ見マスレハ矢張  
 補助貨ト申スルハ僅ニ一割ホカ間カ開イテ居ナイノテコサリマス又今申シタ壹圓銀ニ比較ス  
 ルノ外ニ今一ツ即今ノ倫敦ノ銀相場ト比較シテ見マスルト即チ即今ノ銀相場ハ倫敦ニ於テハ  
 金一銀三十二強ニ居リマス此世界ノ金銀ノ大市場ナル倫敦ノ相場ニ比較シテ見テモ僅々一割  
 ノ開キホカナイノテコサリマス又モウ一ツ取ツテ見マスレハ今年一月ノ此平均相場金銀ノ比  
 價ハ幾ラテアツタト申シテ見マスレハ金一ニ對シテ銀カ三十一・二七弱テコサイマス之ニ比シ  
 テ見マスルト又前ノ二例ヨリハ開キカ少ナウコサリマシテ僅ニ百分ノ九強ホカ隔ツテ居リマ  
 セヌノテコサリマスモウ一ツ確メテ見マスレハ我邦ノ明治二十五年ヨリ昨二十九年十二月マ  
 テノ此五年間ノ毎月ノ平均ヲ取ツテ見マスレハ銀ノ價ヲ申スレハ金一ニ對シテ二十・〇一ニ居  
 リマス此五年間ヨリ平均ヲ取ツテ今日此法案ニアル所ノ補助貨ニ較ヘテ見レハ却ツテ補助  
 貨ノ位地カ逆ニ居リマシテ却テ銀ノ方カ補助貨ノ銀分ノ下ニ居ルト云フコトニナツテ居リマ  
 ス全ク補助貨ヲ定ムルノカ反對ノ位地ヲ現シテ來テ居ルト云フ有様テコサイマス、即今ノ相  
 場ニ比シ此法律ニ比シテ僅カ一割若クハ一割以内ノ開デシテ今申ス二十五年以來昨年末マテ  
 ノ平均ニ比スレハ却テ反對ニ百分ノ五以上ノ開キヲ持ツテ居ルト云フ割合テコサイマス、カヤ



ウナ有様テコサイマスレハ本案ノ如ク致シ置キマスレハ一朝僅ニ銀ノ相場カ騰貴致シマシテ  
 僅ニ一割若クハ一割少シ以上ニナリマシタラ如何ナ有様ヲ呈スルテアラウカ、カヤウニ見マス  
 レハ却テ其時ニハ變ナ有様テ補助貨カ本位ニ比シテ又良貨トナツテシマフ兩本位ノ時ニ良貨  
 カ惡貨ヲ逐フト云フコトハアリマスカ遂ニ補助貨カ却テ本位金貨ヲ逐フト云フヤウナ奇觀モ  
 出來ストハ申セヌコトテアリマス全ク本末位地ヲ變動スルコトハナイトハ申サレマセスト心  
 配致シマスルノテコサリマス若シ一朝ニ左様ナコトカアツタト致シマスレハトウナルカト申  
 シテ見マスレハ補助貨ハ直チニ海外ニ吸收サレテシマフト云フコトハ明カニ出來ルコトテア  
 ラウト思ヒマス又昔ニ海外ニ吸收セラレルノミナラス内國ニ於テモ早速鑄潰サレテシマフト  
 云フ結果ヲ來スト云フコトハ是亦明ナル事實テアラウト思ヒマス内國テ鑄潰サレルハ未タ内  
 國ニ殘ツテ居レハ強ヒテ申セハ尙ホ可ナリテコサリマス海外ニ飛去ルト云フコトニ至ツテハ  
 恐ルヘキコト、本員ハ思フノテアル其時ニ至リマスレハ政府ハ高地金ヲ買ヒ高キ造幣ノ材  
 料ヲ買フテ手數ヲ掛ケテ補助貨ヲ鑄造スレ補助貨力造幣局ノ門外ニ出ルヤ否ヤ直ニ地金ニ變  
 ヘル鑄潰サレルト云フコトニナラウト思ヒマス其時ニナリマスレハ國家ノ直接ノ損害ト云フ  
 モノハ非常ニ多クナルノミナラス又民間ノ不便ト云フモノハ更ニ大ナルモノト思フノテコサ  
 リマス如何トナレハ補助貨ニ打歩ヲ出シテモ求メナケレハナラスト云フヤウナ大奇觀カ或ハ  
 生スルカモ知ラヌノテアリマス幾ラ斯ウ定メテ置イタ以上ハ補助貨ニ不自由ヲ感シタト申シ  
 テモ補助貨ヲ鑄造セスニハ置カヌテ矢張尋ク材料ヲ買フコトハ損ヲ致シテモ買ハナケレハナ  
 ラスト云フコトニ至ラウト思ヒマス、カヤウナ危險ニ瀕シハシナイカト云フ法ヲ今日制定致シ

テ置キマスヨリハ此貨幣ノ條例ヲ改メルニ際シテハ寧ロ勇氣ヲ奮ツテ共ニ此事ヲ改正致シタ  
 ラヨカラウト云フ望テコサリマス、デ或ハカヤウナ論カコサリマセウ此大抵補助貨ノ開キト云  
 フモノハ何レノ國ノ貨幣制度ニ見テモ一割若クハ一割以内ニ居ル然レハ我邦ノ今日ノ定メ方  
 モ其例ニ依ツタラハ何モ差支ハナイテハナイカト云フコトモコサリマス是ハ少シ辯シテ置カ  
 ナケレハナラヌコト、思ヒマス如何トナレハ其一割位ノ現在諸國ニ行ハレテ居ル開キト云フ  
 モノハ今日ノ制定ニ方ツテ致シタモノテナイ吾々以前昔ニ致シタモノタカラ其時ニ取ツテハ  
 ソレテ宜カツタノテアル其舊套ヲ踏襲シテ今日ニ至ツテモ諸國カソレテアルカラ我邦モ此改  
 良スヘキ時機ニ遭遇シタニモ拘ラス矢張昔ノ如キ有様カ宜シイテハナイカト云フコトハ是又  
 少シク以前ニ拘泥シ過キテ世ノ變轉シテ行クト云フ時機ヲ知ラヌモノテアラウト思ハレル、デ  
 ナセ以前ハサウ云フコトテ置イタカト申セハ以前置イタノハ其時ニ理窟カアツタノテ又今日  
 以前ニ拘ラス變ヘナケレナラスト云フノハ本員ノ考ヘル所テハ固ヨリ必要ト認メル簡條カア  
 ル試ニ西洋ノ紀元千七百零一年以來千八百七十五年此百七十年間千七百零一年ノ頃ハ御承知  
 ノ通日本テ元文小判ヲ鑄タ時分ノコト元祿—アノ元祿小判ノ改正ト相前後シテ居ル時テコサ  
 リマス殆ト同一ト云フテモ宜シイ時期ソレカラ又千八百七十五年ト申スト日本ノ現行ノ貨幣  
 條例ヲ制定シタト殆ト同時テコサリマス此千八百七十五年マテ百七十五年間ノ長年間ハ金銀  
 ノ價ハ世界テ如何ノ有様テアツタト云フ事ヲ調ヘテ見マスレハ大凡比價ハ金一ニ對シテ銀十  
 五、二一ソレヨリシテ金一銀十五、九八誠ニ殆ト一定ト云フテモ宜シイ其僅ナ間ヲ昇降シテ居リ  
 マシタ世人モ此金ト銀トノ價ハ一定不動ナモノテアルト云フ觀念ヲ抱イテ居ツタ位テコサリ



マス固ヨリ此長イ年期ノ間ヲナセ斯克アツタカト申セハ是ニハ種々ナ原因カコサリマセウ其  
 一二ノ例ヲ擧ケテ見マズレハ或ハ金銀ノ産出ノ方法カマダノ進ンテ居ラナカッタ其採掘上  
 ニ於テ進マナシダヨリシテ出ル所ノ量カ殆ト一定シテ居ツタト云フコトモアリマセウシ又貨  
 幣制度ノ各國デ採ル所カ區々ニナツテ居ルト云フ事モコサリマセウシ又或ハ國ト國トノ間ノ  
 交通カ限ラレテ今日ノ如ク金銀領國ナシト申シテ水ノ流ノ如ク互ニ相平均スルト云フコトモ  
 ナカッタ、カヤウナコト其他種々ナ原因ヨリシテ此長時間一定ノモノニシテ世人モ金銀ノ間ニ  
 ハ動キカナイモノテアルト云フ觀念ノアツタ次第テアルト思ヒマス故ニ其間ニ於テ一割違ヒ  
 テ置ケハ危険カナイト感シタノモ殆ト無理ナラヌ事テアルト本員ハ信スルノテアル然ルニ其  
 後ノ有様ハ如何テアルカ試ニ調ヘテ見マズレハ千八百七十六年ニハ前ニ申シタ金一銀十五、九  
 八カラ銀ハ大ニ下落シテ十七、八八トナリテ參リマシタ又其後五年千八百八十一年ニハ十八、一  
 六トナツテ居ル又千八百八十六年ニハ二〇、七八トナツテ居リマス尙ホ五年經過致シマシテ千  
 八百九十一年ニハ二〇、九二トナツテ居リマス尙ホ最近ノ千八百九十六年ニハ三十一、六一ト斯  
 フ大開キヲシテ居ル初メ五年間ニハ一割若クハ一割少シ以上ノ相違ヲ致シテ居リマシタカ最  
 近ノ處ニ至リマシテ五年間ニ四割以上ト云フ變動ヲ來シテ居ルノテアル然レハズツト昔ニ於  
 テ一割ノ開キテ安心シテ居ツタ時節ハ遠クノ昔ニ通り越シテ今日ノ時代ハ此通ノ大變動ヲ來  
 シツ、アルノテアリマス下落既ニ此ノ如ク致シマシタナラハ、マダノ下落スルテアラウト云  
 フ見込モコサリマス又此反對ニ考ヘテ見マズレハ下落カ此通りテアレハ此一朝反動カ來ツテ  
 騰貴スルコトモ決シテナイコトモナイト言ハレヌノテコサリマス若シ此通りノ大變動カアル

以上ハ一度反對ヲ現シテ來タト云ヘハ一割ハ愚カニ割ノ變動ヲ來スト云フコトハ決シテナイ  
 トハ斷言カ出來ヌノテアリマス然レハ今日ニ制定スルニ當ツテ以前ノ法ヲ踏襲セシテ宜シ  
 ク本位ヲシテ安心ノ位地即チ補助貨ノ開キヲ十分ニシテ置イテ補助貨ノ變動ノ爲ニ本位ヲ侵  
 サル、ト云フコトノナイ様ニ致シテ置クト云フコトハ宜シク今日ニ慮ツテ置クコトカ必要テ  
 アラウト考ヘマス之ニ就テ田口君ハ色々ノ論ヲ引カレマシテ昨日ノ委員會若クハ今日ノ本會  
 ニ於テモ此事ヲ申サレマシタケレトモ蓋シ是ハ本位ト云フコト、或ハ本位ノミナラス兩本位  
 ト云フヤウナ考杯カ一緒ニ集合シテ居ルノテハアリマスマイカト本員ハ思ヒマス昨日田口君  
 ハ一割ノ差カ恐ロシウシテ二割ニスルト云フノハ五十歩百歩ト言レマシタガ此ノ譬ハ茲ニ  
 ハ當ルマイト思ヒマス試ニ田口君ノ説カラ譬ヲ取ツテ見マシテ茲ニ海岸ニ漁夫ノ住居ガアル  
 ト御覽ナサイ其漁夫ハ御承知ノ如ク海ニ密接ノ稼ヲシテ居リマスカラ海ト餘リノ隔リニハ居  
 ラレマセン其海ナルモノカ數年間平カテ池ノ如キ海テアル然ルニ一朝其トウカシテ潮流ノ鹽  
 梅若クハ隔リカ少ナクテ大變激浪ヲ惹起スト云フコトニナツテ家ヲ移サナケレハナラヌ場合  
 ニ或ハ今マテハ百間ノ隔リカドウシテモ二百間ノ隔リヲ取ラナイテハ安心テナイト致シマシ  
 テ移ルニ當ツテ田口君ノソレハ怖ハケレハ山ノ奥ニ道入ツテシマヘト云フ議論ハ極端ナル話  
 テアラウト思フ山ノ奥ニ道入ルト海トノ關係ヲ絶タナケレハナラヌ漁夫トシテ海トノ關係ヲ  
 シテ一方ニハ關係ノコトヲ絶ツコトカ出來ナイ一方ニ安全ヲ保タウト思ヘハ百間ノ位地カ危  
 ウカツタラ二百間ヲ保タウト云フコトハ蓋シ智者ノコトテアラウト思ヒマスソレヲ管ニ一割  
 テ怖ハイカラニ割開ケルノハ五十歩百歩ト云ヘハ漁夫ニ山ニ往ツテシマヘト云フト同シコ



トテ本員ノ一向解セヌコトテアリマス此事ハ長ク辯スルニ及ヒマセヌ蓋シ田口君ノ比例ニ云  
 フモノハ極端ナル事ヲ取ラレタノテ我自説ヲ確メルカ爲ニ強ヒテ取ラレタ説テアルト本員ハ  
 考ヘルノテアル當ニ本員カ斯克危険ナリト感スルノミナラス當局者モ蓋シ危険ヲ感シ居ル  
 ノヲ認ムルノテアル如何トナレハ委員會ニ於テ本員カ之ニ關スル質疑ヲ起シマシタ際ニ政府  
 委員ハ辯シテ申シマスニ左様ナ事モ絶無トハ言ハレマスマイガ今日ハ金ノ大勢ハ下落ニ傾イ  
 テ居ル間ハ絶無トハ言ハレヌ若シ左様ノコトニ一朝遭遇シタトキハ補助貨ヲ改鑄スルヨリ他  
 ニ仕方カナイ如何ニモ左様ナコトニ遭遇スレハ改鑄スルヨリ仕方ハアリマスマイ併ナカラ其  
 懸念カアルナラハ何ソ今日此法ヲ改メルニ當ツテ改鑄セサル惟フニ當局者モ此改鑄ハ其必要  
 即チ漸次危険ヲ避ケテ置クト云フコトハ心配サレテ居ルノテコサイマセウケレトモ今日現在  
 流通致シテ居ル所ノ貳千貳百萬圓ト云フ所ノ補助貨ヲ一朝ニ改メルノカ困難ト云フコトカ一  
 ツ考ニ浮ンテ居ルテアラウト思フ併ナカラ貳千貳百萬圓ノ補助貨ハ如何ニモ少數ナル額トハ  
 申サレマセヌカ此度此法案ヲ行フタナラハ補助貨ハ幾ラヲ要スル少ナクモ四千萬五千萬ノ補  
 助貨ハ増發シナケレハナラヌノテアル然ラハ其中ノ貳千萬圓ノ改鑄ニ恐レテ幾分カ危険ノ懸  
 念アルモノヲ四千萬五千萬ノ補助貨ヲ造ルト云フ事ハ是ハ少シク考ヘテ貫ハナケレハナラヌ  
 コト、本員ハ信スルノテアル固ヨリ本員カ此通ニ改メルト申シテモ一朝ニ現在ノモノヲ皆潰  
 シテ直クト流通ヲ止メテシマフト云フテナイ徐々ニ引換ヘテ居タラ宜シイ何モ今日此法ヲ制  
 定シタカラト申シテ即日補助貨ヲ止メルト云フコトテナイ竝ヒ行レテ居テ漸ク以テ引換ヘテ  
 往クニハ何ニモ差支ナイコトテアル又或ハ斯様ナ話モアリマセウ此通致シテモ此補助貨ヲ鑄

造スルハナカ〜容易ナコトテナイ一朝一夕ニハ行ハレヌト云フ説カアリマスソレハ尤モナ  
 コトテアリマス一夜造リニハ參リマセヌサリナカラ先ツ補助貨ノ中テ今度鑄變ヘルニ最モ必  
 要ナルハ五拾錢テアルト思ヒマス今日此現在シテ居ル所ノ六千萬圓モ七千萬圓モアル所ノ壹  
 圓銀貨ヲ引換ヘルニハ多ク補助貨ヲ以テスル即チ五拾錢ノ補助貨ヲ以テ引換ヘナケレハナラ  
 ス然ルニ今後五拾錢銀貨ヲ製造スルト云フ事ハ少ナクトモ參千萬圓以上ハ鑄造シナケレハナ  
 ラヌ然ルニ現在ノ五拾錢銀貨ハ如何程アルカト申セハ漸ク參百萬圓程シカナイ然ラハ參千萬  
 圓ノ五拾錢銀貨ヲ造ルト云フ其事ハ既ニ免カレヌノテアルナラハ同シク參千參百萬圓一參百  
 萬圓ヲ改造スルト云フ事ニ何ノ憚ル所カコサリマセウカ試ニ製造年限ハトレタケ掛ツタナラ  
 ハ鑄造カ出來ルカト申セハ政府委員ノ説テハ五拾錢銀貨テアレハ一箇月百萬枚ハ確ニ鑄造カ  
 出來ルト云フ百萬枚即チ五拾萬圓參百萬圓ノ改鑄ニハ六箇月ノ日ヲ要シタラ出來ル參千萬圓  
 ヲ今度増加シテ鑄ルニハ餘程長イ月日ヲ要シマス其月日ヲ要スル中ニ僅ニ六箇月ノ月日カ暇  
 カナイト云フコトハ是亦言ハレナイ話テアラウト思ヒマス決行スルニ差支ナイ決行セサルノ  
 テアルト本員ハ信スルノテアルモウツ茲ニ補助貨ヲ斯様ニ改メ本位トノ開キヲ多ク致シマ  
 スルナラハ鑄造ノ多カラウト云フ論カコサイマスカ是亦杞憂ト云ハナケレハナラヌ此鑄造カ  
 多イト云フ事ハ當ニ補助貨ノ本位貨幣トノ開キカラ來ルモノテハコサイマセヌ成程現行致シ  
 テ居ル所ノ五錢ノ白銅貨是ハ鑄造カ多イト云フコトヲ承リマス併シ此白銅貨ハ御案内ノ如ク  
 餘程模様モ粗テアル模様ノ粗ナルノミナラス確カ聞ク所テハ白銅貨ハ現在五錢ノモノカ鑄造  
 費ハ六厘位テ出來テ居ルト聞イテ居ルサウ云フ所ノ材料ト通用ノ價格トニ大ナル開キカアル



カラ已ムナク賈造ヲ誘起スルト云フコトモ是亦免レヌコトテアラウト思フ又是マテ、モ偶ニハ銀貨等ニ賈造カアリマスルカ是ハ決シテ銀其物ヲ以テ賈造スルテハナクシテ銅若クハ其他ノモノヲ以テ賈造スルノテコサイマスカラ此補助貨ノ開キヲ多クシタト申シテ決シテ賈造ノ憂ハナイト思ヒマスモウツ之レニ就イテ申シテ置カネハナリマセヌ此補助貨ノ開キヲ多ク致シマシタレハ物價カ騰貴スルト云フ説ヲ承リマスカ是ハ大ナル間違テアリマスマイカ蓋シ補助貨タルモノ、性質ヲ御知リハナイノデアロウ又モウツ申セハ如何ニモ日本ノ慶長以來屢金銀貨ヲ改造シタ時分ニ品質ヲ悪ルクシ量目ヲ輕ク致シタ其時ニ物價カ變動シタト云フコトハ本員ハ確ニ聞イテ居リマスソレハ事實ト信シテ居ル併ナカラソレハ金銀ニ本位ト補助ト二ツノ手段ヲ貨幣ニ執ルト云フコトヲ知ラナンダノテ同シ名ヲ以テ呼ンテ居ツタ爰ソ知ラン人カ壹圓ト思フテ居ル中ニ正味ハ六拾錢カ七拾錢ノモノニシタト云フヨリ物價ニ變動ヲ起シタノテアルデ今日ニ於テソレ等ヲ若シヤ御考ヘニナリ若クハ此補助貨ノ改鑄ノ爲ニ物價カ騰貴スルト云フコトハ前申ス通り以前ノ貨幣ノ有様ヲ知ラス若クハ今日ノ本位ト補助トノ區別ヲ御解シナイノテアルマイカト本員ハ疑フノテアルデ申上ケマスレハマダノ此上ニ之ヲ必要トスル理由ハアリマスルカ要スルニ斯様ニ改メテ置ク今日ノ即チ此大改革ヲナス際ニ當リマシテ併セテ此事ヲ致シテ置クト云フコトハ所謂今日ノ法案トシテ益鞏固ノ上ニ鞏固ヲ加ヘサスコトハ本員カ信スルノミナラス之カ爲ニ物價ノ變動モ經濟社會ノ影響モ何モ與ヘナイコトデアリマスカラドウソ諸君ハ篤ト御勘考ノ上御賛成アラントコトヲ請ヒマス

修正説ノ三 (第二議會ニ於テ中野武營)

本員ハ第十六條ヲ修正致シマス其修正文案ハ從來發行ノ壹圓銀貨ハ本法施行ノ日ヨリ其通用ヲ禁止シ政府ハ金貨幣壹圓ノ割合ヲ以テ之ヲ引換フヘシ但通用禁止ノ日ヨリ起算シ滿一箇年内ニ引換ヲ請求セサルトキハ爾後地金トシテ取扱フヘシ此修正ヲ希望致シマスル趣意ハ政府カ此法案ヲ提出シテ金單位ヲ行フニモ拘ラス第十六條ニ於テ其趣意ヲ缺イテ居ルノテアル申セハ金單位ヲ行フニモ拘ラス暫クノ間ハ複本位ヲ行フト云フ斯様ナンテアル是ハ甚タ危険ノコトテアルノテアリマスデ一國カ孤立ヲシテ複本位ヲ行フ以上ニ於テ甚タ危険困難ナルコトハ私カ辯スル迄モナク已ニ諸君ノ御了知ノコトヲコサリマスルカ現ニ此十六條ヲ存シテ置ケハ其通ノ危険ニ臨マナケレハナラスノテアルソレ故ニ本員ハ此法案ヲシテ此法案ノ精神ヲ貫キ行ヒマスル上ニ於テハ是非此十六條ニ修正ヲ加ヘナケレハナラスト信シテ居リマス即チ此壹圓銀ト申スモノヲナルヘク速ニ處分シテシマハナケレハナラス金單位ヲ行フト同時ニ銀ト云フモノ、通用ヲ止メナケレハナラスノテアル補助貨幣ノ外ニ最早日本ニハ金單位即チ金貨幣ヨリ外ニハナイ兌換紙幣ヲ一方ニ出スノハ是ハ別段テコサイマスカ金貨幣ノ外ニ銀貨幣ハナイト云フコトニ致サスケレハナラヌノテアル然ルニ此ノ如ク急迫急速ニ致シタナラハ甚タ政府ノ取計ニ差支ヲ來シハセヌカスウ云フ懸念カアル即チ此本法施行ノ日十月一日ヨリ通用ヲ止メルト夥シイ引換ヘニ來ルタラウ直チニ此引換ニ來ル準備カ出來ルテアラウカ否カ第一ニハ政府ハ引換ヲシマスルノニ如何ナル手續ニ差支カ來ステアラウカ即チ新金貨ノ鑄造ヲスル外ニ取扱フニ何カ差支ハアリハセヌカ此二點ヲ明ニシタナラハ此修正案ト云フモノハ少シモ行フニ差支ナイト云フコトヲ御了諾ニナルダラウト考ヘテ居ルソレハ現ニ此壹圓銀ノ如



何ナル世間ニ有様ヲナシテ居ルカ本員ノ考ヘル所テハ日本國內ニ此壹圓銀カ日常如何ナル運轉ヲ致シテ居ルカト云フコトヲ考ヘテ見マスト殆ト此壹圓銀ト云フモノハ日常ノ取引ニハ形ヲ見セヌノテアル實ニ此壹圓銀ト申スノハ取扱ニ不便ナル貨幣テアル誰モ壹圓銀ヲ以テ物ノ取引スルモノハ殆トナイト申シテ宜イノテアル唯開港場杯ニ支那人ノ手ニ存シタリ銀行ノ中ニ幾分カ存シタリ或ハ田舎ノ金満家或ハ豪家等ニ幾分カ存シテ居ルト云フヤウナ有様テ日常烈シイ取引ヲシヨルヤウナ中ニ壹圓銀ヲ見ルコトノ甚タ少ナイ曾テ日本銀行ノ局ニ當ツテ居ル人ノ話ヲ聽キマシタカ壹圓銀ヲ引換ニスルト云フハ差向キトウ云フ有様ヲナスアラウカト云コトハ日本銀行ノ當局者ノ話テハ壹千萬圓バカリノモノテアルダラウ決シテ其上ニ過分ノモノハアルマイ斯ウ云フ話ヲ承ツテ居ル如何ニモ私ハサウテアラウト信シテ居リマス又海外ニ出テ居リマスルモノハトレ程アルカト云事ハ政府委員ノ答辯ニ依リマスレハ八百萬圓餘—九百萬圓バカリノモノテアル決シテ壹千萬圓以上ノモノハナイ是ハ即チ近時ノ此法案カ出テ以來各外國ノ領事ニ政府カ聞質シタ所ト公報ニ依ツタ報告テコサリマスソレ是ヲ併セテ見マスルト今此十月一日ヨリ通用ヲ禁止シマシテモ差シテ私ハ差支ナイト思ヒマス即チソレマテニ用意ハ十分出來得ラレルト思ヒマス一箇月掛レハ壹千萬圓ノ製造ハ出來得ルト云フコトヲ承ツテ居ル又政府委員カ之ニ改正ヲ此ノ如クスルハ一方ニハ基金ト云フモノヲ置カヌケレハナラス即チ貨幣整理資金特別會計法ト云フモノカ今日ノ日程ニ上ツテ居リマスカ之ハ差支ヘルナゼトナレハ銀圓カ戻ツテ參ル—ソロ—戻ツテ來ルノヲ此處へ入レ込メテソレテ製造シテ補助貨幣ニシテ出シテサウシテ順々ニ移リ變ツテ往カウト云フカ政府ノ見込テアル然

ルニ通用ヲ禁止シマスルト云フト資金ト云フモノヲ一旦此處へ備ヘテ是ヲ鑄造シテサウシテ引換ヘテ往カヌナラスカ最初ニソレタケノ資金ヲ造ラヌケレハナラス其資金ヲ募ルニ就イテ或ハ公債ヲ起サナケレハナラス如何テアルソレ等ハ甚タ困難テアルト云フ答辯ヲ得タノテアル本員ノ考テハ決シテソレ等ノ爲ニ公債ヲ募ル必要ハナイノテアル即チ此貨幣整理資金特別會計法ト云フモノヲチヨツト改正ヲ加ヘサヘスレハ宜イテアル即チ政府ハ日本銀行ヨリ借入金ヲナスコトカ出來ルト云フ箇條ヲ此箇條ノ中へ入レサヘスレハ直様整フノテアル又實際引換ト云フモノハ眞ニ其物カ働キヲナシツ、アルモノナラハサウ俄ニ引換ニ來ルヘキモノテハナイ一箇年ノ餘地カコサイマスレハ慌シク持ツテ來ルヤウナコトハナイ況ヤ此法ヲ實施スルマテニハマタ四月カラ數ヘテ見テモ六箇月ノ時間カアル其六箇月ノ時間ニマタ處分スルコトモ出來得ラレルノテアル漸々ニ少ナクシテ往クコトカ出來ルノテコサイマスサウシテ見レハ新貨ヲ鑄造スル上ニモ差支ナク又整理スル資金ト云フモノモ別段面倒ヲ見スシテ即チ日本銀行カラ其入用ノ分ダケノ資金ヲ借入置イテサウシテ仕拂フテ參レハ結果ハ對ナンテコサリマス前ニ備ヘルノト持ツテ來タモノヲ以テソロ—ト引換ヘルト云フタケノ違ナンテサヤウ致シテ政府ノ案ノ如クスレハ政府ハ一番便利カ宜イ別段資金モナクシテ壹圓銀カ戻ツテ來ルノヲソレ—引換ヘテ往クカラエライ宜イヤウテアルカ之カ爲ニ時日ヲ要セナケレハナラス若シ政府ノ望ム如ク徐々緩慢ニ處分ヲスル際ニ當ツテ何カ銀貨ニ變動ヲ起スコトカアツタ時分ニハドウ云フ有様ヲナステコサイマセウ若シ銀カ高クナツタラ決シテ引換ニハ來ス引換ニ來スノミナラス外國人ハ即チ却テ日本ノ銀圓ヲ引取ルコトニナルノテアルサウスルト政府カ



望ンテ居ル補助貨幣ヲ——壹圓銀ヲ取入レテ補助貨幣ヲ鑄立テ、往カウト云フ事ハ出來ナイ——  
 補助貨幣ニ換ヘテ往カウト云フ望ハ出來ヌテ高イ銀ヲ他カラ買テ來テ補助貨幣ヲ鑄造シナケ  
 レハナラヌ若シ又銀貨カヒトウ下落ヲ致スカ此下落ノ結果ハドシノ引換ヘラレマス引換ヘ  
 ラル、ト其結果ハ日本政府ハ安イ銀ヲ以テ高イ金ト引換ヘテ往カナケレハナラヌトチラニ上  
 ガツテモ下ガツテモ悠々閑々ニ付シテハ居ラレヌ日本政府ソレ自身カ損失ヲシナケレハナラ  
 ス又民間ニ取ツテハトウ云フ有様テアルカト云ヘハ金ト銀トカ貨幣トナツテ雙方通用ヲスル  
 ト云フ曉ニハ必ス一旦定メタ所ノ分量テイツマテモ相場カ据ツテ居リマスレハ差支ハアリマ  
 セスケレトモ金ト銀トハ日々動キヨルソレ故ニ高クナツタ安クナツタト云フ度毎ニ打歩ヲ出  
 シ或ハ割引ヲスルト云フ煩雜カ起ツテ參ル況ヤ發行禁止後ニ於テ五箇年ノ引換ヲ猶豫ヲスル  
 即チ五箇年間猶豫シテ引換スルカ如キハ實ニ甚シイコトデアルト思フ將來五箇年ノ間ニ此銀  
 ノ有様カドウ變化ヲ來スヤラ實ニ分ラヌノテアル其分ラヌ危險ナモノヲ五箇年間ナンボデ換  
 ヘテヤラウ幾ラテ引換ヘテヤラウト云フ保證ヲ日本政府カ有ツテ居ルノハ實ニ危險千萬デア  
 ル如何ニモ是カ補助貨幣トカ或ハ紙幣ノヤウナモノナレハ其通用ヲ止メ其引換ノ期限カ盡キ  
 タラハ反古ニナツテシマフ或ハ分量ノ少ナイ地金ニナツテシマフナラ政府ハ德義トシテ飽マ  
 テモ時間ニ猶豫ヲ付ケ得ラレル餘地ヲ與ヘ五年テモ十年テモ猶豫ヲ與ヘ引換ヘルノハ政府ノ  
 德義ニ相違ナイカ銀貨ト云フモノハ銀其物ニソレダケノ價ヲ持ツテ居ルノテアル外國ニズン  
 スン行ハレテ往キヨルノデハナイ銀其物ノ目方ニ對シ價ニ對シテ行ハレテ往キヨルノデア  
 決シテ紙幣ヤ補助貨幣トハ道理ノ違ツテ居ルモノデアアルソレ故ニ外國ニズンノ行ハレテ居

ルモノ其物ニソレタケノ價カアルトスレハサウ何時マテモ擔保シ保證ヲ致シテ置カイテモ宜  
 シイソレ故ニ一箇年ノ餘地ヲ置キマスレハ十分タト私共ハ考ヘテ居ル一箇年テモマダ少シク  
 長過キハセスカト云フ感カコサイマスケトモ先ツ情ヲ量ツテ先ツ一箇年トシタラ宜カラウト  
 シテ此修正文ヲ出シタノテコサリマス右様ナ次第テコサリマスカ故ニ此法案ノ精神ヲシテ實  
 地ニ貫徹スルヤウニ致シ此法案ノ爲メニ金銀複本位ノ如キ弊ノナイヤウニシ、サウシテ全ク金  
 單本位カ行ハレマシテ民間ニソレカ爲ニ不幸ヲ被ルコトノナキヤウ一國庫ニ不幸ヲ被ルコト  
 ノナイヤウニ此兩點ヲ考ヘテ見マスルト是非此壹圓銀貨幣ヲ速ニ處置致シマス事カ一番必要  
 ナコト、私ハ考ヘマス此法案カ修正ニナリマシタナラハ始テ金單本位ノ實カ舉ルノテコサイ  
 マス況ヤ從來ノ例ニ依テ見マスレハ紙幣ノ通用ヲ禁止スル如キ貨幣ノ通用ヲ禁止スル如キコ  
 トハ法律ヲ以テ定ムヘキカ當然デアソレハ如何ニ便宜トハ云ヘ此法律上ニ勅令ヲ以テ出サ  
 スト即チ行政官ノ見計ヒテ出サスト云フコトハ不都合ナコトテハアリマスマイカ是程ノ大問  
 題是程ノ大改革ヲナスナラハ立法部ニ於テ是マテ認メテ居ル所ニ依テ是限リヤレト云フノハ  
 當然デアアル然ルニ行政官ノ都合ニ依テ漸次之ヲ引換ヘルトカ或ハ見込カ立ツタナラハ勅令ヲ  
 以テ通用期限ヲ禁止スル期限ヲ定ムルソト云フ如キコトハ誠ニ先キノ極リノ付カスコトテ立  
 法府テ調査スルト云フコトハ私ハナイト思フ是程ノ大改革ヲ此程ノ大英斷ヲナスナラハチヤ  
 ント其期限マテヲ立法府テ定メテサウシテ其期限内ニ於テ行政官ハ其方針ヲ以テ行ヒ務メサ  
 スト云フコトカ私ハ當然ト考ヘルノデアリマス之カ若シ本員等ノ望ム所ノ如ク此案ノ修正カ  
 整ヒマシタナラハ此貨幣整理資金特別會計法ニ於テ第二條ノ二項ニ前項ノ外資金ノ必要アル



トキハ政府ハ借入金ヲナスコトヲ得此場合ニ於ケル利子ノ割合ハ大藏大臣之ヲ定ム此一項ヲ入レマスレハ政府ハ差支ナク行ハレテ往クノテアリマス諸君ノ御賛成ヲ請ヒマス

修正説ノ四 (第二讀會ニ於テ木村誓太郎)

本員ノ修正ハ唯今中野君ノ修正ト能ク似テハ居リマスカモウ一ツ私ハ簡單ナ修正テアリマス第十六條ノ第二項ノ「滿五箇年」ト云フノヲ「五」ト云フ字ヲ「一」ト直スタケテアリマス其理由ニ於キマシテハ政府委員ノ豫算委員會ニ於テ答辯セラレタル所ニ依テ見マスルト此五箇年ト定メタノハ紙幣引換ノ例ニ依テ五箇年ト定メタ者テアルト云フ答辯カシテアリマス併シ紙幣ト此銀ノ交換トハ性質カ違フト云フコトヲ唯今中野君カラ述ヘラレマシタカラ最早私カラハ喋々述ヘマセス併ナカラ彼ノ中野君ノ御説ノ如ク東京横濱ノ商業會議所ノ意見ノヤウナ餘リ急激ノコトテハ往クマイト云フ私ノ考テ唯此原案ノ六箇月以前ニ勅令ヲ以テ公布セラレルコトモ此儘原案通り致シテ最早禁止ト定ツタ以上ハ此後五箇年ヲ据置クト云フコトハ五箇年中ニ金貨ノ變動ヲ來タシマシタトキニ餘程障害カラウト考ヘマスカラ是ハ一年テ宜カラウト考ヘマス又此ノ如クシマスレハ政府ニ於キマシテ別ニ交換資金ヲ要スルコトモナカラウト考ヘマシテ單ニ五箇年ト云フコトヲ一年トスル修正テアリマスカラドウカ御賛成ヲ請ヒマス

貴族院ニ於テハ右貨幣法案竝ニ附屬法律案ハ三月十五日ヲ以テ其議事日程ニ上リ同日大藏大臣伯爵松方正義ハ其提出ノ理由ヲ演説セリ即チ左ノ如シ

諸君今日ハ貨幣法案カ議場ニ上リマシタカラ改正ヲセネバナラヌ理由ヲ開陳致シマス貨幣制度ニ於キマシテハ此良否如何ハ實ニ國家ノ利害國民ノ休戚ニ關係致シマスル經濟上ノ重要ノ

大事件デコサイマスルコトハ申スマテモアリマセヌ抑我邦ノ幣制ノコトハ凡ソ慶長以來ノコトニ就イテ種々ノ歴史モアリマスルケレトモ是ハ諸君カ御承知ノコトテコサイマセウト存シマスカラ最早略シテ申シマセヌ併ナカラ維新以來ノ實歴ハ大略開陳セネハ其改正ヲ要スルノ理由カ分カリマセヌカラ申述ヘマス明治初年ニ於キマシテハ諸君カ飽クマテ御承知ノ通り貨幣ノ制度ハ實ニ錯亂致シテ居リマシタソレテ明治四年ニ貨幣制度ヲ改メ所謂貨幣條例ト云フモノカ制定セラレタノテコサイマス是カ其節制定ニナツタ譯テ其節ハ純然タル金單位ノ制テコサイマス然ルニ維新ノ初國事多端已ムヲ得スシテ紙幣ノ發行ニナリ此紙幣ハ所謂太政官札ト云フモノカ一番初テコサイマシテコレハ十三年ヲ期シテ夫々始末カ著ク所ノ方法ニアリマシタカ如何ニセン國事益多事ニ亘ツテ其結果ヲ收ムルコト能ハサルノミナラス其上ニ段々紙幣モ種々ノモノカ増加シ遂ニ十年ノ役ニ於キマシテハ多數ノ増發トナリ其紙幣ハ下落スルト云フヤウナ狀況ニナリマシタト云フヤウナ實況テコサイマシテ如何ニ貨幣條例上ニ金單位ノ純粹ナル制度テアリマシテモ最早僅ノ金ハ其不換紙幣ノ全國ニ滿チテ居ル爲ニ外國ニ轉々驅逐サレマシタ是レハ引換ノナイ紙幣カ世ノ中ニ充滿シテ居ルトキハ金銀ハ外國ニ驅逐サルルト云フコトハ所謂經濟學上ノ原理テコサイマセウ所テ紙幣モ唯今申スヤウニ段々ト下落シマシタカ其ノ節ハ輸入ハ増加シ輸出ハ減シ實ニ十二年十三年十四年十五年マテト云フモノハ上下云フヘカラサル景況テコサイマシタコトハ最早諸君ノ御熟知ノコトテコサイマスルカラ詳シク申シマスルニモ及ヒマセヌカ段々政府ハ苦心經營致シテ十九年ノ一月ニ致リマシテ銀紙ノ交換ヲ行ヒマシタ先ツ是テ一段落ハ運ヒマシタ次第テコサイマス然ルニ當時ヨリ當職ニ



在ル者ハ銀ノ追々下落スルコトニ就キマシテ大ニ苦心致シテ居マシタト云フモノハ最初ノ貨幣條例ハ純然タル單本位テアリマシタ所カ十一年ニ壹圓銀ヲ内地一般ニ通用セシムルト云フ事ニナリマシテ以來最早兩本位ノ姿トナリソレヨリ致シテ兩本位トコロテナク金ハ其跡ヲ絶チマシテ銀ハカリノ世ノ中ニナツテ居マシタカラ已ムヲ得ス此銀ト云フ所テ交換ヲ始メマシタノテコサイマス然ルニ其銀ハ時々相場カ動キマシテ實ニ如何ナル結果ヲ生スルテアラウカト當時ヨリモ餘程當職ノ者ハ苦心致シテ居リマシタト申シマスルカ諸君モ御承知ノ通りニ歐米各國ニ於テ金銀ニ就キマシテ種々ノ議論カアルノミナラス各國ノ制度ノ立テ方カ時々變化シテ來ルヤウナ景況テアリマシテ明治六年ノ頃ヨリ獨逸カ金本位ヲ斷然行ヒマシタ時カラ致シマシテソレヨリ引續イテ瑞典諸國ナトモ行ヒ或ハ羅典同盟國ハ銀貨ノ自由鑄造ヲ禁止スルトカ云フヤウナ景況ニ至ル度毎ニ銀ハ下落シ或ハ又實際ニ於テ各國カ銀ヲ排斥スル姿ニナリ金ヲ吸收スルノ策ヲ講スルヤウナ實況ニ移ツテマイリマシタソレモ畢竟原因カアルコト、考ヘマスルカ諸君ハ能ク御熟知テモコサリマセウケレトモ一言申シマスカ明治初年ノ頃ハ世界中ノ銀ノ產出カ六十萬、オンス位テコサイマシタ所カ漸々產出ハ増加致シマシテ近年ハ壹億八千萬、オンスト云フ產出ニ上ツタノテコサイマスソレテ明治初年ノ時分即チ貨幣條例ナトノ制定セラル、時分ハ金一銀十六ト云フ所ニ定ツテ居リマスカ近年ニナリマシテハ其倍ニモナルト云ヤウナ割合ニナツテ居マス又金ハ明治三年頃ハ五百萬、オンスモ全世界テ產出致シマシタカ今日即チ壹千萬、オンス計リノ產出ニナツテ居リマス右ノ如ク產出カ段々増加致シマシタ結果カラ致シマシテ今日ノ銀ノ相場ハ大變ナ下落ヲ致シマシタ明治三年頃ハ六十何、オンスト云

フ邊テコサマスカ今日ハ一、オンスカ二十九、ベンス内外ニ落チタノテコサイマスサウ云フ景況テ實際銀ノ產出ハ殖ヘル所カ世界各国ノ有様ハ段々銀ヲ貨幣ニ排シテ往クト云フ様ナ有様テコサイマス然ルニ又明治二十五年ニ成マシテ地地利モ幣制ヲ金本位ニ改革ヲ致シマシテ夫ヨリ引續イテ英國領東印度ハ金本位ニ向フ所ノ政策ヲ決定シマシタ其景況カラ致シマシテ俄然甚シイ下落ヲ又告ケマシタテコサイマス所テ我政府モ二十七年ニハ勅令ヲ以テ貨幣調査會ヲ設定セラレ貴衆兩院ノ中ヨリモソレノ委員ヲ選定ニナツテサウシテ其調査會カ二十八年ニ了リマシタノテアリマス所カ此調査會ノ趣意ト云フ者モ此ノ如ク我カ執ツテ居ル所ノ銀カ下落シテ往ク有様ニ至ツテハ如何ニ之レヲ處理致シタナラハ國家ノ利益ヲ全フシ得ラル、テアラウカ是カラ利益ヲ増進スルニハ如何ナル本位ヲ採用ス可テアラウカト云フ趣意ニ他ナラメテコサイマス其問題カ調査會テ種々調査ニ成マシタ結果ハ段々議論モ有マシタ様子ニ見ヘマスルカ結果ニ至リマシテ將來ハ日本ノ貨幣制度ヲ定ムルニハ金本位ニスルカ宜イト云フ説カ多數ヲ占メマシタ是ハ委員中ノ多數ノ説ニ歸スル所テコサイマス之ニ反シテ復本位ノ制ヲ採ルカ宜イト云フノハ兩名テアツタノテコサイマス併シ金本位ニ將來方向ヲ探ツテ本位ヲ改正スルカ宜イト云フ説テ有マシタカ奈何セン當時ハ金準備カ有マセナダカラ先ツ當時ハ準備ヲ爲ヘキ時テアル即チ金ヲ蓄積スヘキ時テ有ト云フ報告テ有マシタ然ルニ我政府ニ於キマシテモ成程其時ニハ其調査ノ報告ヲ得マシタ迄テアリマシタカ併シ既ニ其報告ヲ得マシタ時ハ最早日清ノ役モ結了ニナツタ時分テコサイマシテ馬關條約ニ依テ償金ヲ受取ル事ニナツテ居マシタカ其節ノ約束テハ馬蹄銀ヲ約定カ致シテ有マシタケレ共今ノ様ナ調査



ノ報告モアリ又ハ政府當路ノ人ノ見ル所モアリ致シマシテ此馬關條約ヲ定ツテ居タ馬蹄銀モ英ノ磅ニテ受取ル事ニ北京ニ於テ約束ヲ致シマシタノテコサイマスル是モ即チ固ヨリ見込ノアル事テコサイマシテ此日本ノ幣制モ兎角當分ノ有様テハ濟マナイ此ノ如ク浮沈極リモナイ銀ヲ標準ニシテ逆モ農商工ノ進歩ヲ圖ツテ行ク事ハ難イ事テアルト云フ所ノ見込モ有マシタカラ此ノ如ク準備ニ注意致シマシテ即チ第一ニ銀ノ條約ヲ改メマシタ次第テコイマス所テ矢張其苦心經營ノ順序ヲ立テマシタカ中々一朝ニ運ヒ兼ネマシタ去ナカラ種々ニ心ヲ用ヒマシタ結果トシテ今日ニナリマシテハ日本銀行ノ所有ニ歸スヘキ金地金ハ殆ト壹億萬圓以上ニ達スル積テコサマスカ又壹圓銀ノ外ニ出マシタ數モ大概取調ヘマシタ所カ現存シテ無疵ニ通用致シテ居ルモノハ澤山テナイト云フ見込モ立チ旁致シマシテ今日ハ我貨幣條例モ改正スルノ時機トシテ恰モ宜シイノテアリマシテ準備金ト云ヒ銀ノ相場モ餘リ近來ハ甚シイ相場ノ狂ヒモナイカラ茲テ改正スル時機ハ最早至レリト斯ウ云フ見込ヲ立テマシテ此案ヲ提出致シマシタ次第テコサイマス此條例ノ改正ノ眼目ト致シマス所ハ固ヨリ以前ノ金本位ニ立返リ且ツ夫ニ就キマシテ此單本位ノ純金ノ量ヲ二分ト定メマス事テアリマス是マテノハ四分テコサイマスノレヲ二分ト定メマスサウシテ先ツ一言テ申シマスルト是マテノ金貨ハ倍ニナルト云フヤウナ割合テコサイマス此箇條トソレカラ又現在行ハレテ居ル所ノ壹圓銀貨ハ廢シテ純粹ナル金本位ニ致シタイト云フ所カ主眼テコサイマス此ノ如ク貨幣ノ制度カ變更致シマシテモ第一物價ノ變動モサシタル事モコサイマスマイ又貸借上ニ於キマシテモ算當上ニ不公平ナ事モナシ又ハ租稅徵收ニ於キマシテモ變ハル事モナシト云フ所ハ餘程力メテ注意ヲ致シタ所アリ

マス餘計ナ事テコサイマスケレトモ假令金ノ準備カ十分テアルト云ツテ是マテノ貨幣條例ニ依テ金本位ニ致スト云フコトハ今日ハ最早難イコトテコサイマセウ如何トナレハサウ云フ變更ヲ致シマシタナラハ物價ハ半額ニ減シ貸借上負債者ハ大變ナ迷惑ヲ致シ實ニ云フヘカラサルノ困難ヲ來ステコサイマセウ最早今日此ノ如ク物價モ上リ又貸借上ノ契約モ關フテ居ル今日ニナリマシテハ最早是マテノ金貨ヲ以テ金本位制ニ復スルト云フコトハ最早事實出來難イコト、考ヘマソソレテ今申ス通ニ金貨ノ分量ヲ半分ニシマシテ是マテノ割合ニシマスト半分即チ四分ノモノカ二分トナルコトニ致シマシタ此割合カラ貳拾圓ナリ拾圓ナリ五圓ナリノ金貨ヲ製造シテサウシテ之ヲ本位トスルヤウニ致シマスルナラハ社會ニ何モ變動ナシニ標準トスル所ノ目的モ固クナリ從テ農工商ノ事業モ實著ニ發達致シマセウ最此貿易上ニ於キマシテハ諸君カ御承知ノ通實ニ今日ハ此相場ノ浮沈極リナク毎年毎月動搖致シテ居ルヤウナ姿テアリマシテ實ニ貿易上我邦ニ取ツテ大ナル損テコサイマセウト考ヘマソソレテ是カラ又貿易ノ發達ヲ圖ルコトハ最モ努ムヘキノコトテコサイマスルカ其肝腎ナル尺度トナリ標準トナル貨幣カ始終浮沈極リノナイ品テアツテハ貿易ノ健全ナル發達ハ求メ度モ求メ得ラレス道理テコサイマス故ニ先ツ貿易ノ發達ヲ鞏固ナラシメンコトヲ求メマスルナラハ一番此貨幣ノ制度ヲ鞏固ニスル所ノ根本的ノ改良ヲ致シマスルコトカ要用テコサイマセウ又戰後ノ經營ト云フコトモ種々コサイマセウカ此貨幣制度ノコトヲ十分ニ堅固ニ改良シマシタナラハ之カ百般ノ戰後經營ノ基礎ニナルコト、存シマス幸ニ衆議院テハ可決モ致シマシタコトテコサイマスルカ當院ニ於キマシテモ諸君御審議ノ上ニ此國家經濟上ノ問題テモコサイマシテ實ニ重大ノ事件



テコサイマスルカ故ニ願クハ速ニ御協賛ヲ得ルコトヲ切ニ冀ヒマスル次第テコサイマスル  
 右大臣ノ演說終ルヤ幣制改革以後ノ殖産興業幣制改革ノ利益壹圓銀貨引換壹圓銀貨ノ流通高物  
 價騰貴等ニ關シ質問アリ大臣ハ之ニ對シテ詳細ニ答辯シ而シテ特別委員十五名ニ付託セラレタ  
 リ  
 特別委員會ハ三月十六日ヲ以テ其第一回ヲ開キ十七日十八日ヲ通シテ大體及逐條ニ關スル質疑  
 ヲナシ二十二日ニ於テ大體議ニ移リ多數ヲ以テ之ヲ可決シ進ンテ逐條議ニ移リ一ノ修正ナク之  
 ヲ可決セリ其結果ハ二十三日ヲ以テ之ヲ本會議ニ報告シ反對說アリシモ多數ヲ以テ第二讀會ニ  
 移リ是亦一ノ修正ナク多數ヲ以テ之ヲ可決シ更ニ第三讀會ニ移リ毫モ異議ナク之ヲ可決セリ今  
 其第一讀會ニ於ケル小幡篤次郎ノ反對說ヲ舉クレハ左ノ如シ

諸君此貨幣法案ハ申スマテモナク重大ナ問題テコサイマシテ先刻委員長ノ御報告ニナリマシ  
 タ通度々審議ヲ盡シマシタ上ニ金本位ヲ採リマススト云フコトニ多數ノ贊成カコサイマシテ可  
 決ニナリマシタテコサイマスカ其委員中我銀貨本位ヲ主張致シマス者ハ本員一人ト申スマウ  
 ナ次第テコサイマシテ委員會ノ有様ヲ見マシテモ亦今日議院ノ形勢ヲ見マシテモ此法案ノ大  
 勢ハモウ極ツテ居リマス之ヲ辯解シヤウナト、考ヘマス次第テハコサイマヒスカ唯此銀本位  
 カ國家ノ爲ニ大ナル功勞ノアツタ銀本位ト存シマスノテ此銀本位ノ爲ニ一片ノ告辭ヲ與ヘマ  
 スコトハトウモシナクチャアナラヌト存シマスニ依テ暫ク御清聽ヲ煩シマス其始リニ當リマ  
 シテ此間大藏大臣ヨリ先年コサイマシタ貨幣調査ノ時ニ金本位カ多數テアツタト云フコトノ  
 御報告テコサイマシタカ此前ニチト御報告ニ落チマシタコト、思ヒマスルコトカコサイマス

ルテ一應申上ケテ御參考ニ供シマス全體此銀本位ト云フコトニ就キマシテ貨幣調査會ニ於キ  
 マシテ度々調査ヲ致シマシタ結果此銀本位カ國家ノ爲ニ損害カアルカ利益ニナルカト云フコ  
 トヲ調査ヲ致シマシタ時ニ今日マテノ其時マテノ有様テハ決シテ損害ハナイ國ノ爲ニ利スル  
 コトカ大ナルモノタト申スコトニ多數ヲ以テ決シマシタ併シ是カラ後ニ之ヲ變ヘル必要カア  
 ルカナイカト申シマス時ニ至リマシテ十五人ノ内ニ七人タケハ此銀本位ノ儘ニ置イテ不都合  
 ハナイト云フ事ニナリマシテ後ト八人ト申スモノカ變ヘナクチャアナラヌ後ニ追々今ト申ス  
 テハナイカ追々變ヘナケレハナラヌト云フ議決テコサイマシタ其一名ノ多數テコサイマシタ  
 カ其一人ノ多數ノコサイマシタ八人ノ内ニ復本位ニシヤウト申ス者カ兩人金本位ニシヤウト  
 云フ者カ六人テコサイマシタ其六人ト先ノヲ八人七人トニ對シマシテ先ツ銀貨本位ヲ採ツテ  
 差支ナイト云フ者カアリマシテ其内ニ變ヘナケレハナラヌト申シマス内ニ兩人復本位說カコ  
 サイマシテ多數ニナリマシタト云フヤウナ結果テコサイマス其事ハモウ既ニ過去リマシタア  
 トテコサイマスカラ今日辯明ハチト無用ノヤウテコサイマスカ一應其事ヲ申上ケマス夫カラ  
 尙本論ニ進入リマス前ニ少シ述ヘテ置カナクチャアナラヌ事カコサイマスノハ今日物價ノ騰  
 貴ト云フモノヲ專ラ銀ニ歸シマスケレトモ之ニハトウモ少シ外ノ物カ混ツテ居ルコト、考ヘ  
 マス其物價ノ騰貴ノ中テモ最モ著シク騰貴シマシタモノハ米價テコサイマス此米價ト申シマ  
 スル者ハ銀ノ手傳ヒモコサイマシタト思ヒマスガ昨年ナトハ不作カ大ニ之ニ手傳ツテ居ルト  
 云フコトヲ考ヘナケレハナラヌ昨年ハ不作テコサイマシタ諸方ニ水害カコサイマシタタメニ  
 大ニ米價ノ騰貴ヲ助ケテ居リマス事ハ事實テコサイマスソレカラ今一ツハトウモ二十七八年



ノ役テ公債募集ナトカコサイマシテ随分是マテノ金ヲ即チ金持テコサイマス其金持ノ持ツテ居マシタ財本ノ其道ヲ變ヘマシテ一度公債トナリマシテ政府ニ這入リマシテソレカ出マス所ノモノハ是マテ餘リ商賣ナドニ從事致サヌ所ノ人手ニ落チマシテ其人達カ種々様々ノコトニ之ヲ用ヒマシタト云フコトカ一ツソレカラソレニ伴ヒマシテ段々日本銀行ノ通用兌換券ノ數ヲ増シマシテ貳億幾ラカト申シマスモノニ上リマシタ次第テコサイマス是等ノ通貨ノ膨脹ト申シマスモノカ大ニ物價騰貴ノ助ヲナシテ居ルト考ヘマス必ス是ハ銀下落ノ上カラ來ツタト申スコトハ私ハ考ヘマセヌ今一ツ此除外例ノコトハ昨年米國ノ商賣貿易カ甚タ不結果テコサイマシタト申スモノハトウモ大統領選舉ノ爲メニ金ニナラウカ銀ニナラウカト申シマスルヤウナ氣遣カコサイマシタカ爲ニ貿易ヲ大變ニ控ヘマシテ亞米利加ハ甚タ不景氣テコサイマシタカ爲ニ日本ヨリ輸出致シマス絲テコサイマストカ茶ト云フモノカ大ニ賣高ヲ少クシタト云フヤウナコトカコサイマシテ是モ今日ノ物價ノ騰貴ト云フモノニ伴ヒマス中ノ幾ラカ景氣カ悪ルク商賣カ悪ルイト云フコトノ手傳ヲ致シテ居ルト云フコトモ一ツノ除外例ト御考ヘ下サレナクチャアナラスト思ヒマス是ハ平年ニ歸シマシタナラハ此ノ如キ不結果ハナカラウト思ヒマス所テ本論ニ這入リマスルカ私ハ金テモ銀テモ其探リマス所ノ本位ハ何物カ宜シイト云フコトニハ餘リ拘泥致シマセヌ唯其國ノ利益ニナルト云フ本位カ一番宜シイト考ヘマス是カ時計テコサイマストカ指環ト云フモノテコサイマスレハ金ノ方カ宜シイト云フノハ是ハ極ツタ話テコサイマスカ貨幣トシテ用ヒマスルニハ其國ニ利益ノアルモノカ一番宜シイ其貨幣ノ性質タルヤ變動ノ少ナキモノカ宜シイト云フコトハ是ハモウ原則テ極ツテ居ルトコトテコサイ

マスカ其變動カ最少クシテ漸次ニ殖ヘテ參リマスルト云フモノテコサイマシタナラハモウ一番宜シイデコサイマセウガ奈何センサウ云フ次第ニハ參リマセヌ所テ今日ノ世界ノ有様テ金ノ騰貴ノタメニ斯ルトウモ結果ニナツタト云フ説モコサイマスレハ銀ノ下落ノタメニ起ツタト云フ説モコサイマスカ是ハ兩方トモ各據所カコサイマスレハ之ヲ闢ハセルト云フコトニ至ツテハ一向果シカナイコトテコサイマスガ併シ此貨幣調査ノ時ニモ取調ヘマシタノニ銀ノ下落ハ物價ニ比シマシテ變動カ少イ此金ノ騰貴ノ方カ却テ變動カ多イト申ス事ニ此調査ノ時ノ結果ハ斯クナリマシタ決シテ本員一己ノ説テハナイノテコサイマスト申シマスノハ其少イ金ノ中ニ歐米諸國ノ重ナル文明國ハ悉ク其少イ金ノ中ニ飛込シタソレカタメニ金ノ騰貴一甚シク騰貴致シマシタ又其諸國テ用ヒテ居マスモノカ貨幣トシテ銀ヲ使フ事ヲ止メマシテ銀モ下落致シタニ相違ナイ、ダガ其騰貴カラ來マシタ所ノ結果ヲ金ニ歸スルノ甚シイモノモコサイマスレハ銀ノ下落ニ歸スルコトカ甚シイモノモコサイマスカドチラモ之ハ水掛論テアラウト考ヘマステ私ハ却テ銀ノ方カ却テ金ヨリカ變動カ少イト考ヘマスルノテ銀テ差支ナイト考ヘマス其銀ヲ日本テ使ヒマシタ所テ今日マテノ有様ハトウナツテ居ルカト云フト國民ニ何モ難儀ヲ與ヘテ居ナイ今日モ何モ困難ヲ與ヘテ居ナイソレカタメニ農工商トモ繁昌致シマシテ決シテ生産興業カ萎靡振ハヌト云フ有様ハトウコヲ見テモ見ヘナイノテコサイマス又今日ヨリ此有様ヲ持續スルコトモ出來ルテアラウト考ヘマス然ルニ之ヲ今日幣制改革ヲシナクテナラヌト申シマスルノハトウモ其有様ハ世間ノ流行ヲ逐フテトウモ世間テ金ヲ用ヒテ居ルカラシテ已レモ用ヒナケレハナラヌト云フコトノ考ヨリ外ニハナイ今日ノ世界ノ有様ヲ見マスルト云



フト歐米ノ金貨ヲ用ヒテ居ル所ハトウカト申シマスルト一番難儀ヲ致シマスモノハ百姓テ百姓ハ生産物ノ直段カ下落シテ殆ト生産カ引合ハナイト云フ有様ニナツテ居ツテ一番難儀ヲ訴フルノモ百姓テコサイマス其百姓ト云フ者カ日本ニ於キマシテ幾ト三分ノ二ヲ占メルト云フ程ニ日本ノ百姓ハ澤山ニコサイマスカ日本ノ百姓ハ悉ク鼓腹撃壤致シテ居リマス今日ノ米價ナトノ騰貴ハ騰リ過キタト云フノハ先刻モ申シタ通騰貴シ過キルト思ヒマスカ是ハ昨年ノ不作カ手傳ツテ居リマスカラ是ハ平年ニ歸シマシタラモツト下落スル筈テアラウト思ヒマスガ先ツ八九圓モ米價カ致シマスレハ百姓ハ決シテ難儀テハナイ其ノ百姓ノ困難致シマセスタメニ内國ノ商賣カ繁昌致シテ居リマス工業ナドモソレガタメニ大ニ繁盛ヲ致シテ居ル雷ニ内國ハカリノ繁昌テハコサイマセスニ國外ニ向ヒマシテモマタ其ノ銀貨ノ下リマシタカ金カ騰リマシタカトチラニシテモ宜シイテコサイマスカ外國ニ對シテ出ス所ノ品物ハトウテアルカト云フト丁度五割程ノ保護稅カ掛ツテ居マシテ出シマスノハ丁度五割程ノ獎勵金ヲ與ヘテ居ルト云フヤウナ感ガアル又内ニ入レル所ノ外國ノ品物ヲ入レルニハ五割モ保護稅カコサイマシテ買フニムツカシクナツテ居ルト云フヤウナ形勢テコサイマシテ日本ノ貿易ノタメニハ殊ニ都合カ好クナツテ居リマス之カコサイマセスカツタラハ此ノ如ク日本ノ總テノ農工商ノ仕事カ繁昌シヤウトハ努メ思ヒマセス全ク此金銀貨ノ差ノタメニ斯ク繁盛ヲ致シマシテ今日總テニ苦情カナイト云フ次第ニナツテ居ル之ヲ今變ヘマスルト既ニ勞銀ナトモ高クナツテ居リソレカラ物價モ高クナツテ其製作品ニ使フ原料モ高クナツテ居ルカラ變ヘナケレハナラヌト云フコトテコサイマスカ成程物價ハ餘程高クナリマシタシ勞銀ナトモ高クナリマシタカマダ其

トウモ其極ニ至ツタトハ考ヘマセステ此勞銀カ高クナツタ物價カ高クナツタ騰ツタト申シマスレハ貧民カ一番難儀ヲシナケレハナラヌトコサイマスカ其貧民カ随分ソレガタメニ諸方ニ仕事カ起リ色々ノ事業カコサイマスタメニ決シテ貧民ハ困難致シテハ居リマセス今日騰貴ヲ來シタ所テ困難ヲ致シテ幣制ヲ改革セホハナラヌト云フモノハ頓ト聞カナイトコサイマス然ルニ之ニ反シテ歐米諸國テハ金カ騰貴シテ物價ノ下落シタタメニ勞銀ナトカ其割合ニハ下ラナイト申スコトテ貧民ノ中ノ一部分ハ大ニ都合カ宜シイト云フコトカコサイマセツカ跡ノモノハ悉ク難溢ヲ致シテ今日ノ幣制ニ堪ヘスシテ復本位ヲ用ヒナクテハナラヌト申スヤウニ總テノコトカトチラノ方カ幣制改革ノ必要カアルカト申シマスレハ歐米諸國ニハ幣制改革ノ必要カコサイマシテ諸方カラ委員ヲ派シタリ相談ヲ致シテ今日困難ヲ致シテ居ルモノカ多クコサイマス決シテ日本ニハ其例カナイ其ナイ所ハ竊ニ歐米諸國ノタメニ羨マレル程ノアル然ルヲ幣制ハ彼ノ變ニ倣フテ變ヘナケレハナラヌト云フ必要ハ何處カラドウ起リマスカ一向其所以ヲ殆ト存シマセス若シ之ヲ改正致シマシテ金貨國ニナリマシタナラハ是レカラ亞細亞ノ方ニ向ヒマシテノ商賣ハ大ニ困難ヲ感シマスヲウト思ヒマス支那ノ貿易ハ今日ハマア支那—亞細亞地方テコサイマス其亞細亞地方ノ貿易ハ總高ノ中ノ十分ノ三テ歐米ノ貿易カ七分程ニ居ルト申シマスルケレトモ是ハ今日マテノ有様テコサイマシテ其亞細亞ニ向ヒマシテ商賣ヲスル高ハ今日ハ段々増シテ參リマス際テコサイマス是ハ追々ニドウモ製造品ナトカ成立チマシタラ或ハ歐米ト相對シテ五分々々ニナリ或ハ亞細亞ノ商賣ノ方カ超ユルト云フ時期ニ達シマスコトテアラウト思ヒマス就中紡績ノ如キモノハ近頃成立チマシタモノテ今年カ始テ



タントノ輸出カアリマスヤウナ次第テコサイマスカ是ハ印度カ金貨制ニ變ハリマシタタメニ大ニ日本ノ方カ都合カ能クナツテ日本ノ品物カ這入ル又今年ハ黒死病ノタメニ印度テ出來マセヌタメニ日本ノ紡績カ大ニ輸入ノ見込カアルト云フ次第テ僅ニ兩三年ニ始リ掛ツタモノテ此盛大ニナリマシタノハトコマテ行クカ測ラレマセヌシテ見マスレハ亞細亞諸州ノ銀貨ノ行レテ居ル所ハ金貨ノ制度ニナレハ自然ニ物價カ高クナルニ付イテ非常ニ困難ヲ感シマス就中支那ハ日本ト丁度同シ生産物テ絲茶ト申スモノヲ最モ盛ニ拵ヘル所ノ國テコサイマス之ヲ以テ歐米諸國ニ販賣致シマスノハ支那ノ物ハ大ニ都合カ宜クナルタラウ日本ハ今日ヨリ變ルコトハ出來ナクナリマス管ニ亞細亞ニ向ヒマシテ日本カ不利益ナルノミナラス歐米ニ對シテモ支那トノ競争カ困難ヲ感スルヤウニナルソレト云フモノハドウシテモ不利ハ段々多クナリ其利益トナル所ハ歐米ノ諸國ニ向ツテ爲替ノ變動ノナイト云フコトハ是ハ利益ニ相違ハコサイマセヌカ其他ニハ餘リ之ヲ變ヘナケレハナラヌ必要ハ殆トアリマセヌデコサイマス殊ニ三十二年ヨリ三十一年三十二年ト云フ時ハ戰後ノ經營ノタメニ大ニ財政ニ困難ヲ感スル時テコサイマスカラ若シ此際ニ至リマシテ日本ノ貿易カ不振萎靡ト云フヤウナコトテ農工商ノ仕事カ振ヒマセヌト云フコトテアツタラハ是カラ先キ財政上ノ困難ハ一層甚シク困難ヲ感シヤウト存シマス今日ハ之ヲ改ムヘキ時機テナイト考ヘマス他日追々複本位論モ盛ニナリマス銀貨モ追々騰貴ニモ向フト云フ有様ニ向ヒマシタトキハソレハ成程急ナル騰貴カコサイマシテハ大變經濟上困難ヲ生シマス故其時ニ至リマシタナラハ幣制改革ヲシナケレハナラヌカ其時機マテハ未タ間カアリマス其間ニ成ルタケ製作物ヲ盛ニシ其販路ヲ擴張シ其間ニ職工ナトノ熱

練ヲ大ニ増シマスコトハ他年幣制改革ニ至ルマテノ時機カ大變間カコサイマスカ其間ニ十分手ヲ延スコトカ出來ル餘地カアルソレヲ今日ニ見切ツテソレヲ捨テ、金貨ニ移ラナケレハナラヌト云フハトント私ニハ理由ヲ認メマセヌ唯今日何ハ如何ニモ御尤ナコトテ金貨本位ニ變ヘルト云フコトノ準備ノ整ツテ居ルト云フコトハ是ハ如何ニモ政府モ申サレル通準備金ヲ借リテ來マセヌテモ償金カ取レマシタタメニ出來テ居ルト云フハ如何ニモ其通テワサト金貨ニ變ヘヤウト存シマスレハ是非外資テモ募ラナケレハナリマセヌカ今日御用意カ出來テ居ルト云フコトハ其通テ別段ノ外資ヲ募ラナクテ出來ルシ其準備ノ一端ニ至ツテハ其有様ハ殆ト事後承諾ト云ツテ宜イヤウナ有様ニナツテ居リマス銀貨國テアツテ銀カ僅ニナリ金ノ準備カ出來テ居ルト云ツテ宜イ是ハ事後承諾ト云ツテ宜シフコサイマス準備カ整ツテソレカソレ圓ノ銀貨ヲ以テ壹圓ノ金ニ換ヘルト云フコトモ是モ如何ニモ宜シイ政府カ經濟上ニ變動ヲ起サヌト言ハレタコトハ如何ニモ御尤テ此ニツタケハ本員ト雖モ其通ト考ヘマスカ此改革ハ必ス今日テナクテモ宜イト思ヒマス又是カ愈改革ニナリマス困難ヲ感シマシタトキハ或ハ今日幣制ヲ改革スルカタメニ準備ノ金ヲ取入レルト云フコトノ入り用ハナイノテアリマスカ他年財政ノ困難ヲ感シテ餘義ナク外資ヲ募ラナケレハナラヌト云フ時機カ達シマセウカ其點ニ至リマシテ心配ニ堪ヘヌ次第テコサイマス私ハ未タ銀ヲ捨テ、金ヲ採ラナケレハナラヌト云フ時機テナイト思ヒマスカラソレタケノ主意ヲ申シマス

貨幣法案以下四件ハ貴族院及衆議院ヲ通過シ三月二十六日裁可ヲ經同二十九日ヲ以テ左ノ如ク公布セラレタリ (法文ハ原案ニ同一ナ)



法律第十六號 貨幣法

法律第十七號 貨幣整理資金特別會計法

法律第十八號 明治十七年第十八號布告兌換銀行券條例中改正

法律第十九號 明治十八年第十四號布告中改正

法律第二十號 明治十二年第三十五號布告廢止

而シテ之ニ對シテ當時大藏大臣松方正義カ計畫セル實地ノ方針ハ即チ左ノ如キモノナリシナ

第一 償金ノ内ヲ以テ新金貨ヲ鑄造スルコト

清國ヨリ領收スヘキ償金ハ下ノ關條和條約第四條第二項ニ依レハ軍費賠償金及其利子竝遼東半島還付報償金ヲ合セ參億四千參百拾九萬參千六百八圓壹錢參厘ニシテ明治二十九年十二月ノ調査ニ依ル既定使用額ハ貳億九千貳拾五萬七千拾參圓八拾六錢八厘ナルヲ以テ差引五千貳百九拾參萬六千五百九拾四圓拾四錢五厘ト別ニ償金ノ利子參千貳百七萬六千五百拾壹圓八拾貳錢九厘ヲ合セ八千五百壹萬貳千六百四拾五圓九拾七錢四厘ハ用途未定ナルヲ以テ其多分ハ金貨ニ鑄造シ壹圓銀貨ト交換スルコトヲ得ヘシ又用途ノ定マリタル金貨ニテモ翌年以後ニ使用スヘキモノハ之ヲ以テ銀貨ヲ引上ケ更ニ其銀貨ヲ賣却シテ金貨ヲ得其使途ニ充ツルモ事實差支ナキ見込ナリトス

第二 將來金準備供給ノ見込

歐米各國ノ金本位ヲ實施シ若クハ將來之カ採用ヲ期スルモノニシテ其最モ困難トスル所ハ

金ノ準備ニ在リ然ルニ我邦ハ幸ニ償金ノ存スルアリテ今後數箇年ハ之カ缺乏ヲ感スルコトナキモ將來ニ於テ尙ホ缺乏ヲ來サ、ルノ策ヲ講セスンハ他日ニ於テ嗟跌ヲ生スルノ虞ナシトセス依テ我邦及附近諸國ノ產金ノ狀況ヲ案スルニ左ノ如シ

(一) 本邦ニ於ケル金ノ供給

本邦ハ元ト產金國ニアラス往昔金貨ノ充實セシハ或ハ外征ニ際シ收容セシモノナランカ明治六年以前ノ金產出ニ就テハ之ヲ調査スルニ由ナシ今農商務省ノ調査ニ係ル明治七年以降ノ金產出額ヲ舉クレハ左ノ如シ

|    |    |   |        |
|----|----|---|--------|
| 明治 | 七  | 年 | 二五、九五二 |
| 同  | 八  | 年 | 四六、四三〇 |
| 同  | 九  | 年 | 五九、二八〇 |
| 同  | 十  | 年 | 九三、四二一 |
| 同  | 十一 | 年 | 七二、六八七 |
| 同  | 十二 | 年 | 六九、六八八 |
| 同  | 十三 | 年 | 八三、三一七 |
| 同  | 十四 | 年 | 八一、二二三 |
| 同  | 十五 | 年 | 七二、四五五 |
| 同  | 十六 | 年 | 八〇、一九五 |
| 同  | 十七 | 年 | 七三、二二三 |



|       |         |
|-------|---------|
| 明治十八年 | 七三、〇八五  |
| 同十九年  | 一二三、八八八 |
| 同二十年  | 一三八、八三八 |
| 同二十一年 | 一六七、七八八 |
| 同二十二年 | 二〇四、九三九 |
| 同二十三年 | 一九三、七六二 |
| 同二十四年 | 一九二、五六〇 |
| 同二十五年 | 一八六、八〇五 |
| 同二十六年 | 一九六、三七二 |
| 同二十七年 | 二〇九、五〇九 |
| 同二十八年 | 一三九、〇四一 |
| 同二十九年 | 一五六、五一九 |

更ニ臺灣ニ於ケル金産出ニ付同總督府ノ調査ニ依レハ同島ハ本邦ノ版圖ニ歸シテ日尙ホ淺キヲ以テ諸事整頓セス未タ充分ナル調査アラサルモ同府技師ノ計算ヲ舉クレハ淘金者一人ノ得ル砂金ヲ一日二分乃至一匁トシ假ニ採掘者一千人トスレハ一日二百匁乃至一貫目トス然レトモ採掘ト淘金トハ普通分業ナルヲ以テ其半額ヲ得ルニ過キストスルモ一日百匁乃至五百匁トシ一箇年三十六貫乃至百八十貫ヲ得之ヲ市價ニ照シ砂金一匁ヲ參圓拾錢トスレハ一日ノ産額參百拾圓乃至千五百五拾圓平均九百參拾圓ニシテ一箇年ニハ參拾

參萬四千八百圓ヲ得ヘシ若シ採掘者ヲ二千人トスレハ一箇年ノ産出高六拾六萬九千六百圓ナリト云フ

右ノ如ク内地ノ金産出高ハ多クシテ二百貫又臺灣ニ於テハ百八拾貫乃至三百六十貫ナリト云ヘハ假ニ百八十貫トシ合計三百八十貫トス實ニ此三百八十貫ハ本邦一箇年ノ産出高ニシテ今假ニ百匁四百五拾圓トスレハ百七拾萬圓ナリ

(二) 朝鮮ニ於ケル金ノ供給 (本邦領事報告摘要)

朝鮮産金ノ種類ハ重ニ砂金ニシテ石金ハ一二ノ地方ニ於テ産出スルニ過キス而シテ金鑛ノ豊否ニ就テハ各其報スル所ヲ異ニシ或ハ八道ノ陸行ク所トシテ豊富ナラサルノ地ナク若シ相應ノ資ヲ投シ之ヲ採掘スルニ至ラハ其産出無盡藏ニシテ殆ト濠洲其他ヲ凌駕スヘシト稱シ或ハ金鑛ノ豊否ハ未タ専門家ノ調査ヲ經サルニ依リ之ヲ断定シ難シト稱シ彼此其正確ヲ判定シ難シト雖モ砂金ニ至テハ八道到ル處多少ノ産出アラサルナク殊ニ北部ヲ以テ重ナル産地トセルハ其附近ノ港口ヨリ輸出スル高ニ徴シテ明ナリ

産出高ニ就テモ亦正確ナル報告ナク未タ準據スヘキ計數ヲ得ス是レ當國ノ形勢ニ照シ敢テ理ナキニアラス然レトモ農業ノ豊凶ニ依リ其増減ヲ來スノ一事ハ實驗上明確ナルカ如シ是レ砂金業ハ薄利ニシテ之ヲ本業トスル者少ク豊年ニ當テハ各自家居シテ出稼ヲナサス凶年ニ當テハ困窮ノ餘リ之ニ從事スル者多キカ故ナリ今京城ニ於テ砂金買入ニ從事スル者ハ全國八道ニ於テ砂金採取ニ從事スル坑夫トヲ參酌シ一日平均産出スルコト二貫ヲ下ラストシ一箇年凡ソ七百貫ナルヘシト計算スル者アリ又當業者ノ計算ニ依レハ北部地



方即チ威鏡、平安、黃海ノ三道ニ於ケル產出高ハ毎年貳百萬圓内外ナリトセリ此砂金主要地ノ產出ヲ倍加シ四百萬圓ヲ以テ全國ノ產出高ト假定シ百々四百五拾圓ノ割ヲ以テ量目ヲ計算スレハ八百九十貫ニ當リ前段全國總產出高ヲ七百貫ヨリ下ラストスル敢テ無稽ニナラサルカ如シ

更ニ砂金ノ輸出高ニ就テ調査スルニ仁川、元山、釜山ノ三港竝ニ義州及慶興ヨリスルモノヲ合計シ毎年貳百萬圓ト見テ大差ナシトハ一般ニ唱道スル所ナリ今百々四百五拾圓トスレハ其量目四百四十四貫ニ當ル故ニ朝鮮全國ノ毎年外國ヘ輸出スル高ヲ五百貫ト見ルモ敢テ大差ナカラシカ

右ノ如ク全國ノ產出高ハ七百貫ニシテ其總輸出高ハ五百貫内外トセハ今日本邦ニ於テ一箇年間ニ朝鮮ヨリ買纏メ得ヘキ高ハ五百貫乃至七百貫即チ百々四百五拾圓トシテ貳百萬圓乃至參百萬圓ナリトス

(三) 清國ニ於ケル金ノ供給 (同上)

清國ニ於ケル金ノ產出地ニ就テハ當業者ト雖モ未タ之ヲ確知セス然レトモ北清地方竝ニ黑龍江、遼東地方ヲ以テ主要ナル產地トスヘキハ之ヲ其附近ノ港口ヨリ輸出スル高ニ徴シテ明ナリ而其集散ノ順路ヲ見ルニ先ツ北京ニ集合シ北京ヨリ天津ヲ經テ上海ニ出テ上海ヨリ海外各國ニ輸出セラル、モノ、如シ而シテ北京ニ集中スル所以ニ至テハ該地天豐、益豐ト稱スル有名ノ金店アリ其店印ヲ鐫刻シ證明書ヲ有スルモノハ皆ニ清國各省ノミナラス外國商業者間ニマテ信用ヲ有シ各地採收ノ金塊ハ其信用ヲ得ンカ爲メ一度ハ皆必ス北

京ニ輸送セラル、ト云フ又北京ハ各省官商ノ集合スル都會ノ地ニシテ爰ニ來ルモノハ爲替ノ不完全ナルト交通ノ不便且危險ナルトニ依リ其財產ヲ悉ク金塊ニ交換シテ持チ來ルニ依ルト云フ

此ノ如ク北京ニ集合スル金塊ハ天津ヨリ重ニ上海ヘ向ケ輸出セラル、モノニシテ最近十年間ニ於ケル輸出ノ形勢ニ依レハ毎年ノ輸出高ハ百萬兩(海關兩)乃至四百萬兩其平均二百三十萬兩トス是レ稅關ヲ經過セサルモノニシテ其稅關ヲ經過セルモノハ尙ホ經過高ノ三分ノ一ニ過クト云フ

此輸出高ニシテ上海ニ向フモノヲ調査スルニ最近五箇年間ノ計數ニ依レハ二百萬兩乃至四百萬兩平均三百萬兩トス今之ニ依レハ天津輸出高ト上海輸入高ト符合セス然レトモ是レ前ニ記スルカ如ク稅關ヲ經過セサルモノ多キニ依ルモノナラン斯ク輸出入符合セスト雖モ之ニ依テ天津ヨリ輸出スルモノハ大半上海ニ向フヲ知ルニ足ラン

上海ニ於ケル金塊ノ輸入ハ天津ヲ主トシ其他各地ヨリセルモノモ亦少カラス最近五箇年間ノ形勢ニ依レハ四百萬兩乃至七百萬兩ニシテ其平均五百萬兩トス更ニ上海ヨリ輸出セル高ハ概ネ六百萬兩乃至八百萬兩ニシテ最近五箇年間ニ於ケル平均ハ七百七十萬兩トス右ノ如ク清國金塊ノ輸出高ハ天津ニ於テ毎年二百三十萬兩又上海ニ於テ七百七十萬兩ナリ故ニ本邦ニ於テ清國ヨリ毎年買纏メ得ヘキ高ハ二百萬兩乃至八百萬兩即チ一兩壹圓貳拾錢トシテ貳百四拾萬圓乃至九百六拾萬圓トス

以上ノ調査ニ依レハ本邦ノ產金高ハ百七拾萬圓ニシテ朝鮮ヨリ吸收シ得ヘキ高ハ貳百萬圓



乃至參百萬圓清國ヨリ吸收シ得ヘキ高ハ貳百四拾萬圓トス今之ニ依リ本邦ノ金準備補充高ヲ考フレハ多クシテ千四百參拾萬圓少クシテ六百拾萬圓此平均千萬圓ニシテ敢テ金準備ノ補充ヲ缺クノ虞アルヲ見サルナリ

第三 從來發行ノ壹圓銀貨及壹圓銀貨成貨拂渡證書ハ金貨ヲ以テ引換フルコト

貨幣法ニ於テ本位ヲ金貨ト定メタルヲ以テ從來本位ノ地位ヲ占メタル壹圓銀貨ハ總テ之ヲ金貨ニ引換ヘサルヘカラス此引換高ニ就テハ若シ其豫定ニ超過スルトキハ引換ノ實行ヲナスコト能ハサルノミナラス爲ニ幣制ノ基礎ヲ破壞スルニ至ルヘキヲ以テ最モ慎重ニ之カ調査ヲナシ引換ヲナスヘキ壹圓銀貨ノ額ハ

内地流通壹圓銀貨引換見込高

三九、三二〇、〇〇〇<sup>円</sup>

海外ヨリ復歸スル壹圓銀貨引換見込高

一〇、〇〇〇、〇〇〇

成貨拂渡證書ニ對スル銀塊引換見込高

三〇、〇〇〇、〇〇〇

合計

七九、三二〇、〇〇〇

ト豫定ス

第四 引換濟壹圓銀貨處分見込ノコト

前項ニ依リ引換フヘキ壹圓銀貨四千九百餘萬圓ハ第五項ノ目的ニ從ヒテ之ヲ補助貨ニ改鑄シ又ハ之ヲ毀損シテ法律上其流通ノ效力ヲ失ハシムル爲メ極印ヲ施シテ之ヲ海外ニ賣却スルノ見込ナリ

第五 壹圓銀貨成貨拂渡證書ニ對スル銀塊處分ノコト

貨幣法發布ト共ニ壹圓銀貨ノ製造ハ之ヲ廢止スト雖モ是ヨリ先キ壹圓銀貨製造ノ爲メ造幣局ヘ輸納シタル銀塊ニシテ之ニ對シ壹圓銀貨成貨拂渡證書ヲ交付セシモノハ壹圓銀貨ト同一ノ方法ニ依リ其幾分ハ補助貨鑄造ノ材料ニ供シ他ハ海外ニ賣却スルノ見込ナリ

第六 補助銀貨増發ノコト

壹圓ニ相當スル金貨ハ之ヲ鑄造スルモ其容量甚タ微少ニシテ不便ナリシヲ以テ貨幣法ニ於テハ之ヲ設クルコトヲナサ、リシモ一國幣制ノ基礎ヲシテ鞏固ナラシムルニハ成ルヘク硬貨ヲ民間日用ノ小取引ニ使用セシムルヲ緊要ナリトス蓋シ兌換券ヲシテ民間日用ノ取引ニ使用セシムルトキハ正貨ハ其準備トシテ常ニ中央銀行ノ庫中ニ存スルモノナレハ一朝貿易ノ逆境ニ臨ミ正貨流出スルノ時ニ當リテハ其直接ノ影響ヲ受クルモノハ獨リ中央銀行ノミニシテ人民ハ直接ニ之カ痛痒ヲ感セサルヲ以テ毫モ警戒ヲ加フルコトナク爲ニ正貨ノ流出容易ニ停止セサルノ傾アリ之ニ反シ正貨ノ流通額多キトキハ右ノ如キ場合ニ當リテ人民モ亦中央銀行ト共ニ直接ニ之カ影響ヲ受クルヲ以テ各自相省ミテ消費減シ生産ヲ増スノ結果ヲ生シ大ニ正貨ノ流出ヲ防止スルノ效アリ又萬一非常ノ天災時變ニ際シ已ムヲ得ス兌換ノ制度ヲ停止セサルヲ得サル場合ニ遭遇スルモ補助貨ヲシテ多ク流通セシムルニ於テハ彼ノ不換紙幣ノ流通ニ比シ人民ヲシテ危惧ノ念ヲ起サシムルコト少シトス是ヲ以テ將來政府紙幣及銀行紙幣ヲ回收スルハ勿論壹圓兌換券ノ如ク其流通額多クシテ人民ノ利害ニ重大ノ關係ヲ有スルモノハ之ヲ回收シ代フルニ五拾錢以下ノ補助銀貨ヲ増發シ其缺位ヲ補填スルノ豫定ナリ



右ノ方針ヲ以テ大藏大臣松方正義ハ貨幣法ノ實施ニ著手シタリ

### 第五款 貨幣法實施ニ關スル諸法令

明治三十年三月貨幣法及ヒ附屬法律ノ公布セラルル、ヤ政府ハ直ニ之カ實施ニ著手シタリ今其ノ實施ニ關シテ制定シタル諸法令ヲ列擧スレハ左ノ如シ

#### 第一 造幣ニ關スル規則

造幣上ノ規定ニ關シテハ先ツ造幣ニ關スル規定ノ改正ヲ爲シタリ從來金銀地金精製及品位證明ノ規定ト造幣ノ規定ヲ混合シテ一規定ト爲セシハ穩當ナラサルヲ以テ之ヲ區分シテ明治三十年四月三十日勅令第三百三十八號ヲ以テ造幣規則ヲ同勅令第三百三十九號ヲ以テ金銀地金精製及品位證明ノ規則ヲ公布セリ

勅令第三百三十八號 (明治三十年)

#### 造幣規則

- 第一條 金貨幣ノ製造ヲ請ハントスル者ハ金地金ヲ造幣局ニ輸納スヘシ
- 第二條 貨幣製造ノ爲メ受取ル地金ハ品位一千分中金九百九十以上ニシテ其ノ含有物ノ性質造幣ニ障害ナキモノニ限ル但シ含有物銅ノミナルトキハ金九百以上トス
- 第三條 貨幣製造ノ爲メ受取ル地金ハ其ノ量目一百匁以上トス但シ金銀地金精製及品位證明規則ニ依リ貨幣ノ製造ヲ請フトキハ此限リニアラス
- 第四條 輸納ノ地金ハ輸納人又ハ其ノ代理者ヲ立會ハシメ之ヲ秤量シテ預リ證書ヲ交付スヘシ

シ

第五條 地金ノ品位及性質ハ試驗ノ上之ヲ定ム

第六條 地金ノ試驗了リタルトキハ勘定書ニ試驗表ヲ添ヘ之ヲ輸納人ニ送付スヘシ

第七條 輸納人前條書類ノ送付ヲ受ケ異議ナキトキハ預リ證書ヲ提出シテ貨幣拂渡證書ヲ請求スヘシ但シ異議アルモノハ三日以内ニ其ノ旨ヲ申告スヘシ

此期限内ニ異議ノ申告ヲナサ、ルトキハ承諾シタルモノト見做スヘシ

第八條 輸納人前條ニ依リ異議ノ申告ヲナシタルトキハ其輸納地金ヲ返付スヘシ此場合ニ於テハ手数料トシテ地金四匁及及其ノ端數毎ニ金參圓ヲ徴收ス

第九條 輸納地金ノ溶解減ハ輸納人ノ負擔トス

第十條 輸納地金ノ取扱ハ一般休暇日ノ外三月十六日ヨリ同三十一日マテノ間之ヲ停止ス但シ臨時停止ヲ要スルトキハ大藏大臣之ヲ告示ス

#### 附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

勅令第三百三十九號 (明治三十年)

#### 金銀地金製精及品位證明規則

- 第一條 造幣局ハ金銀地金ノ精製又ハ品位證明ヲ請フモノアルトキハ本規則ノ定ムル所ニ依リ其ノ精製又ハ證明ヲ爲スヘシ
- 第二條 精製又ハ品位證明ノ爲メ輸納スル地金ハ品位一千分中金銀七百五十以上量目一百匁



以上ノモノニ限ル但シ金銀混合地金ナルトキハ金銀合シテ七百五十以上トス

第三條 輸納ノ地金ハ輸納人又ハ其ノ代理者ヲ立會ハシメ之ヲ秤量シテ預リ證書ヲ交付スヘシ

第四條 品位證明ノ爲メ輸納シタル地金ハ定型塊トナシ其ノ品位ヲ證明シ之ヲ輸納人ニ交付スヘシ

金銀混合地金又ハ精製スルニアラサレハ定型塊トナシ難キ地金ノ品位證明ヲ請フ者アルトキ精製ノ上品位ヲ證明ス

第五條 造幣局ニ於テ製造スル定型塊ハ金銀各一百匁以上トス

第六條 精製ノ爲メ輸納シタル地金ノ品位證明ヲ請ヒ又ハ其金分ヲ以テ貨幣ノ製造ヲ請ハントスルモノハ輸納ノ際其ノ旨申告スヘシ

第七條 輸納シタル地金試験ノ後精製又ハ品位證明ヲ爲サスシテ返付ヲ要スルトキハ手数料トシテ地金一塊毎ニ金貳圓ヲ徴收ス

第八條 輸納地金ノ溶解減ハ輸納人ノ負擔トス

第九條 輸納地金ノ品位證明ヲ爲シタルトキハ手数料トシテ金ハ四貫匁又ハ其ノ端數毎ニ銀ハ八貫匁又ハ其ノ端數毎ニ各金參圓ヲ徴收ス

第十條 輸納地金ノ精製ヲ爲シタルトキハ左ノ割合ニ依リ手数料ヲ徴收ス

一千分中金銀九百五十以上  
一千分中金銀九百以上

純銀金 一百匁ニ付 金七拾六錢  
純銀金 一百匁ニ付 金貳拾七錢  
純銀金 一百匁ニ付 金貳拾參錢

一千分中金銀八百五十以上  
一千分中金銀八百以上  
一千分中金銀七百五十以上

純銀金 一百匁ニ付 金九拾七錢  
純銀金 一百匁ニ付 金貳拾七錢  
純銀金 一百匁ニ付 金參拾貳錢  
純銀金 一百匁ニ付 金參拾八錢

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

其後明治三十二年二月ニ至リ勅令第三十六號ヲ以テ造幣規則第二條ヲ改正シ銅ノミヲ含有スル造幣地金ノ品位九百以上ト爲セルヲ改テ八百九十八以上ニ改メ又同時ニ勅令第三十七號ヲ以テ金銀地金精製及品位證明規則第九條ヲ改正シ輸納地金品位證明手数料ノ參圓トアルヲ貳圓ニ改正セリ即左ノ如シ

勅令第三十六號 (明治三十二年三月十三日)

造幣規則中左ノ通り改正ス

第二條 貨幣製造ノ爲受取ル地金ハ品位一千分中金九百九十以上ニシテ其ノ含有物ノ性質造幣ニ障害ナキモノニ限ル但シ含有物銅ノミナルトキハ金八百九十八以上トス

勅令第三十七號 (明治三十二年三月十三日)

金銀地金精製及品位證明規則中左ノ通改正ス

第九條 輸納地金ノ品位證明ヲ爲シタルトキハ手数料トシテ金ハ四貫匁又ハ其ノ端數毎ニ銀ハ八貫匁又ハ其ノ端數毎ニ各金貳圓ヲ徴收ス

而シテ輸納地金精製手数料ハ之ヲ廢止スルノ必要アルヲ認め大藏大臣ハ明治三十二年一月三十



一日ヲ以テ左ノ閣議案ヲ提出スルニ至レリ

貨幣法實施以來我邦ノ幣制ハ純然タル金本位制ニ移リタリト雖モ我邦ニ於テハ從來巨額ノ金ノ產出ナキカ故ニ幣制ノ基礎ヲ鞏固ナラシメントスルニハ金準備ノコトハ十分慎重ナル注意ヲ加ヘサルヘカラス

近來我邦ニ於テハ比年輸入超過ノ趨勢ニ伴ヒ正貨ノ海外ニ流出スルモノ頗ル巨額ナリシト雖モ幸ニ倫敦ニ於テ英貨ヲ以テ償金ヲ保有シタルニヨリ其回收ニヨリテ僅ニ之カ補填ヲナスコトヲ得タリ然ルニ今ヤ回收スヘキ償金ノ英貨モ亦將ニ盡キントス故ニ此際別ニ金吸收ノ道ヲ講セサルヘカラス然ラサレハ一旦我外國貿易ノ逆勢ニ遭ヒ復タ正貨ノ流出スルカ如キコトアラハ我幣制ノ基礎モ亦爲ニ動搖スルノ虞ナシトセサルナリ

從來清國及韓國ニ於テハ年々貳千萬圓以上ノ金塊ヲ產出ス然ルニ近年此等金塊ハ盡ク歐洲ニ向テ輸出セラレ本邦ニ入ルモノハ其十分ノ一ニモ及ハス是レ畢竟歐洲諸國カ競ヒテ金塊ヲ吸收シ隨テ彼ニ於テハ金ノ價格騰貴セシカ故ニ外ナラス即チ倫敦ニ於ケル金塊相場ヲ見ルニ其平準點ハ金一「オンズ」ニ付三磅十七志十片半ナルニ關ラス往々ニシテ三磅十七志十一片ニ昇リ甚シキトキハ三磅十八志ニ及フコトアルヲ以テ之ヲ知ルヘキナリ

然ルニ願ミテ本邦ノ金塊相場ヲ見ルニ常ニ其平準點以下若クハ平準點ニ止リ加フルニ之ニ購入スルニ當リテハ高利ノ資本ヲ用ヒサルヲ得サルノミナラス造幣局ニ於テハ之カ精製料トシテ萬分ノ十五、二乃至二十二ヲ徵收スルカ故ニ清國及韓國ノ產出スル金ハ之ヲ歐洲ニ輸送スルヲ利トシ我邦ニ輸入スルヲ不利トスルノ狀況ニアリ故ニ本邦ノ金貨ハ流出スルノミニシテ流

入スルノ途ナシ今ニシテ之カ救済ノ方法ヲ設ケサルトキハ金貨在高減少シ終ニ貨幣制度ノ維持ニ苦ムニ至ルモ亦知ルヘカラサルナリ

金準備ノ維持ニツキテハ日本銀行モ多少ノ失費ヲ厭ハス金塊回收ノ道ヲ講スルハ固ヨリ勿論ナリト雖モ政府ニ於テモ之カ一手段トシテ造幣局カ金銀地金精製及品位證明規則第十條ニ依リテ徵收スル精製料ハ金ニツキテハ當分徵收セサルコト、爲サント欲ス

依テ別紙勅令案ヲ具シ茲ニ之ヲ閣議ニ提出ス

右ハ閣議ノ容ル、所トナリ同年二月十四日ヲ以テ勅令第三十八號ノ公布ヲ見ルニ至レリ即チ左ノ如シ

勅令第三十八號

金銀地金精製及品位證明規則第十條ニ依ル輸納地金ノ精製手数料ハ當分ノ內金分ニ付テハ之ヲ徵收セス

明治三十年五月五日大藏省告示第二十七號ヲ以テ造幣地金及成貨受渡取扱順序ヲ同第二十八號ヲ以テ金銀地金精製及品位證明取扱順序ヲ左ノ如ク定メタリ

大藏省告示第二十七號 (明治三十年五月五日)

造幣地金及成貨受渡取扱順序

第一條 造幣規則ニ依リ輸納ノ地金ハ輸納人ノ便宜ニ依リ大阪造幣局又ハ東京造幣支局ニ於テ之ヲ受取リ其代リ貨幣ハ日本銀行本店又ハ大阪同行支店ニ於テ之ヲ拂渡スヘシ

第二條 輸納地金受取ノ場所及成貨拂渡ノ場所ニ依リ左ノ割合ニ依リ運賃保險料ヲ仕拂フヘシ



大阪造幣局ニ地金ヲ輸納シ東京ニ於テ代リ  
 貨幣拂渡ヲ望ムモノノ東京造幣支局ニ地金ヲ百圓ニ付金九錢五厘  
 輸納シ大阪ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ  
 東京造幣支局ニ地金ヲ輸納シ東京ニ於テ代  
 リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ 百圓ニ付金拾九錢

第三條 輸納地金ニ對スル代リ貨幣ハ凡ソ左ノ期日ニ之ヲ拂渡スヘシ但輸納ノ地金幅快スル  
 トキハ別ニ期日ヲ定メ拂渡ヲナスヘシ

造幣適當地金價格ニ

大阪造幣局ニ輸納シタルモノノ試驗濟ノ翌日ヨリ  
 大阪ニ於テハ 五日目  
 東京ニ於テハ 十日目  
 東京造幣支局ニ輸納シタルモノノ試驗濟ノ翌日ヨリ  
 東京ニ於テハ 二十日目  
 大阪ニ於テハ 十日目  
 大阪造幣局ニ輸納シタルモノハ試驗濟ノ翌日ヨリ  
 大阪ニ於テハ 五日目  
 東京ニ於テハ 十日目  
 東京造幣支局ニ輸納シタルモノハ試驗濟ノ翌日ヨリ

精製分析ヲ要スル地金ノ金  
 分價格五千圓未滿

精製分析ヲ要スル地金ノ金  
 分價格壹萬圓未滿

精製分析ヲ要スル地金ノ金  
 分價格參萬圓未滿

精製分析ヲ要スル地金ノ金  
 分價格七萬圓未滿

東京ニ於テハ 二十日目  
 大阪ニ於テハ 十日目  
 大阪造幣局ニ輸納シタルモノノ試驗濟ノ翌日ヨリ  
 大阪ニ於テハ 十五日目  
 東京ニ於テハ 十五日目  
 東京造幣支局ニ輸納シタルモノノ試驗濟ノ翌日ヨリ  
 東京ニ於テハ 二十五日目  
 大阪ニ於テハ 十五日目  
 大阪造幣局ニ輸納シタルモノノ試驗濟ノ翌日ヨリ  
 大阪ニ於テハ 十五日目  
 東京ニ於テハ 二十日目  
 東京造幣支局ニ輸納シタルモノノ試驗濟ノ翌日ヨリ  
 東京ニ於テハ 三十日目  
 大阪ニ於テハ 二十日目  
 大阪造幣局ニ輸納シタルモノノ試驗濟ノ翌日ヨリ  
 大阪ニ於テハ 二十日目  
 東京ニ於テハ 二十五日目  
 東京造幣支局ニ輸納シタルモノノ試驗濟ノ翌日ヨリ



東京ニ於テハ 三十五日目  
 大阪ニ於テハ 二十五日目  
 大阪造幣局ニ輪納シタルモノ試験済ノ翌日ヨリ  
 大阪ニ於テハ 二十五日目  
 東京ニ於テハ 三十日目  
 東京造幣支局ニ輪納シタルモノ試験済ノ翌日ヨリ  
 東京ニ於テハ 四十日目  
 大阪ニ於テハ 三十日目

大藏省告示第二十八號 (明治三十年五月五日)

金銀地金精製及品位證明取扱順序

第一條 金銀地金精製及品位證明規則ニ依リ輪納ノ地金ハ輪納人ノ便宜ニ依リ大阪造幣局又ハ東京造幣支局ニ於テ受取り精製又ハ證明済ノ上大阪造幣局又ハ東京造幣支局ニ於テ之ヲ拂戻スヘシ

第二條 輪納地金受取ノ場所及拂戻ノ場所ニ依リ左ノ割合ニ依リ運賃保險料ヲ仕拂フヘシ  
 大阪造幣局ニ地金ヲ輪納シ東京造幣支局ニ於テ拂戻スモノ  
 金塊純金一百匁ニ付金貳拾參錢五厘  
 東京造幣支局ニ地金ヲ輪納シ大阪造幣局ニ銀塊純銀一百匁ニ付金貳錢九厘  
 於テ拂戻スモノ

東京造幣支局ニ地金ヲ輪納シ東京造幣支局ニ於テ拂戻スモノ  
 金塊純金一百匁ニ付四拾七錢壹厘  
 銀塊純銀一百匁ニ付金五錢九厘

第三條 輪納地金ニ對スル定型塊(量目一百匁)ハ凡ソ左ノ期日ニ之ヲ拂戻スヘシ但輪納ノ地金幅狭ストキハ別ニ期日ヲ定メ拂戻ヲナスヘシ

一 精製ヲ要セサル地金ハ輪納ノ翌日ヨリ七日目  
 一 精製ヲ要スル地金ハ左ノ如シ

大阪造幣局ニ輪納シタルモノ試験済ノ翌日ヨリ  
 本局ニ於テハ 十五日目  
 支局ニ於テハ 二十日目  
 東京造幣支局ニ輪納シタルモノ試験済ノ翌日ヨリ  
 支局ニ於テハ 三十日目  
 本局ニ於テハ 二十日目  
 大阪造幣局ニ輪納シタルモノ試験済ノ翌日ヨリ  
 本局ニ於テハ 二十日目  
 支局ニ於テハ 二十五日目  
 東京造幣支局ニ輪納シタルモノ試験済ノ翌日ヨリ  
 支局ニ於テハ 三十五日目  
 本局ニ於テハ 二十五日目



|            |                       |                        |        |       |
|------------|-----------------------|------------------------|--------|-------|
| 純金 三貫 匁 未滿 | 大阪造幣局ニ輸納シタルモノ試験済ノ翌日ヨリ | 本局ニ於テハ                 | 二十五日目  |       |
| 支局ニ於テハ     | 三十日目                  | 東京造幣支局ニ輸納シタルモノ試験済ノ翌日ヨリ | 支局ニ於テハ | 四十日目  |
| 本局ニ於テハ     | 三十日目                  | 大阪造幣局ニ輸納シタルモノ試験済ノ翌日ヨリ  | 本局ニ於テハ | 三十日目  |
| 支局ニ於テハ     | 三十五日目                 | 東京造幣支局ニ輸納シタルモノ試験済ノ翌日ヨリ | 支局ニ於テハ | 四十五日目 |
| 本局ニ於テハ     | 三十五日目                 | 大阪造幣局ニ輸納シタルモノ試験済ノ翌日ヨリ  | 本局ニ於テハ | 三十一日目 |
| 支局ニ於テハ     | 四十日目                  | 東京造幣支局ニ輸納シタルモノ試験済ノ翌日ヨリ | 支局ニ於テハ | 五十日目  |
| 本局ニ於テハ     | 四十日目                  |                        |        |       |

次テ明治三十年九月ニ大藏省告示第六十號ヲ以テ造幣地金及成貨受渡取扱順序中左ノ如ク改正ヲ加ヘタリ

大藏省告示第六十號 (明治三十年九月二十一日)

明治三十年五月告示第二十七號造幣地金及成貨受渡取扱順序中左ノ通改正來十月一日ヨリ施行ス

造幣地金及成貨受渡取扱順序

第二條 運賃保險料第一金九錢五厘ヲ金四錢七厘ニ第二金拾九錢ヲ金九錢五厘ニ改ム

第三條 精製分析ヲ要スル地金ノ金分價格第一五千圓ヲ壹萬圓ニ第二壹萬圓ヲ貳萬圓ニ第三參萬圓ヲ六萬圓ニ第四七萬圓ヲ拾四萬圓ニ第五七萬圓ヲ拾四萬圓ニ改ム

次テ同年十二月大藏省告示第八十一號ヲ以テ金銀地金精製及品位證明取扱順序中改正ヲ加ヘタリ即左ノ如シ

大藏省告示第八十一號 (明治三十年十二月十五日)

明治三十年五月告示第二十八號金銀地金精製及品位證明取扱順序中左ノ通り改正ス

金銀地金精製及品位證明取扱順序

第二條 末項東京造幣支局ニ地金ヲ輸納シ東京造幣支局ニ於テ拂戻スモノ、下ニ但シ運搬ヲ要セサル地金ハ此限ニアラスノ十八字ヲ追加ス

第三條 中定型塊(重量ハ一百匁)ノ下ニ及精製地金ノ五字ヲ追加ス

斯クテ明治三十二年四月ニ至リ大藏省告示第二十二號ヲ以テ金銀地金精製及品位證明取扱順序



中左ノ如ク改正ヲ施セリ

大藏省告示第二十二號 (明治三十二年四月二十九日)

明治三十年大藏省告示第二十八號金銀地金精製及品位證明取扱順序第二條第二項純銀一百分ニ付金貳錢九厘ヲ金參錢六厘ニ同三項純銀一百匁ニ付金五錢九厘ヲ金七錢貳厘ニ改ム  
又同年十一月大藏省告示第六十一號ヲ以テ造幣地金及成貨受渡取扱順序中改正ノ件ヲ左ノ如ク公布セリ蓋シ從來造幣局ニ於テ輸納地金ニ對スル代リ貨幣ヲ交付スル期日ハ造幣適當地金ト精製分析ヲ要スル地金トニヨリ之ヲ異ニシタルヲ改メテ之ヲ同一ト爲セルモノナリ

大藏省告示第六十一號 (明治三十二年十一月二十二日)

明治三十年五月告示第二十七號造幣地金及成貨受渡取扱順序中左ノ通改正ス

造幣地金及成貨受渡取扱順序

第三條 輸納地金ニ對スル代リ貨幣ハ凡ソ左ノ期日ニ之ヲ拂渡スヘシ但輸納ノ地金幅條スルトキハ別ニ期日ヲ定メ拂渡ヲナスベシ

|                        |      |
|------------------------|------|
| 大阪造幣局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ  |      |
| 大阪ニ於テハ                 | 五日目  |
| 東京ニ於テハ                 | 十日目  |
| 東京造幣支局ニ輸納シタルモノ試驗濟ノ翌日ヨリ |      |
| 東京ニ於テハ                 | 二十日目 |
| 大阪ニ於テハ                 | 十日目  |

造幣適當地金並精製分析ヲ

要スル地金ノ金分

次テ明治三十五年三月ニ至リ更ニ大藏省告示第九號ヲ以テ造幣地金及成貨受渡取扱順序中改正ヲ加ヘ又同告示第十號ヲ以テ金銀地金精製及品位證明取扱順序中改正ヲ加ヘタリ即左ノ如シ

大藏省告示第九號 (明治三十五年三月四日)

明治三十年大藏省告示第二十七號造幣地金及成貨受渡取扱順序中左ノ通改正ス  
但明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

第二條第二項 百圓ニ付ノ下(三十年九月告示第六十號改正)金四錢七厘ヲ拾壹錢七厘ニ改ム

同 第三項 百圓ニ付ノ下同上金九錢五厘ヲ貳拾參錢五厘ニ改ム

大藏省告示第十號 (明治三十五年三月四日)

明治三十年五月大藏省告示第二十八號金銀地金精製及品位證明取扱順序中左ノ通改正ス

但明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

第二條第二項 純金百匁ニ付ノ下金貳拾參錢五厘ヲ五拾八錢五厘ニ純銀百匁ニ付ノ下(三十二年四月二號改正)金參錢六厘ヲ四錢六厘ニ改ム

同 第三項 純金百匁ニ付ノ下金四拾七錢壹厘ヲ壹圓拾七錢壹厘ニ純銀百匁ニ付ノ下同上金七錢貳厘ヲ九錢貳厘ニ改ム

本局ニ於テハ 四十日目

第二 貨幣ノ形式ニ關スル規則

貨幣ノ形式ニ關シテハ貨幣法第八條ニ勅令ヲ以テ定ムトアルニ依リ明治三十年五月十三日勅



令第四百四十四號ヲ以テ左ノ如ク定タリ

勅令第四百四十四號 (明治三十五年四月十五日)

貨幣法第八條ニ依リ貨幣ノ形式ヲ定ムルコト左ノ如シ

| 補         |                                 | 貨   |            | 位                     |      | 本          |                        |
|-----------|---------------------------------|-----|------------|-----------------------|------|------------|------------------------|
| 錢拾五       |                                 | 圓五  |            | 圓拾                    |      | 圓拾貳        |                        |
|           |                                 |     |            |                       |      |            |                        |
| 性合        | 量目                              | 徑尺曲 | 性合         | 量目                    | 徑尺曲  | 性合         | 量目                     |
| 純銀<br>參和銅 | 一寸〇二厘<br>三々五分九厘四毛二(十三「グラム」四七八三) |     | 純金<br>參和銅  | 一々一分一厘一毛一(四「グラム」一六六六) | 五分六厘 | 純金<br>參和銅  | 二々二分二厘二毛二(八「グラム」三三三三)  |
|           | 八百分<br>二百分                      |     | 九百分<br>一百分 |                       |      | 純金<br>參和銅  | 四々四分四厘四毛四(十六「グラム」五六六五) |
|           |                                 |     |            |                       |      | 九百分<br>一百分 | 九分五厘                   |

| 貨         |                     | 助   |           | 補    |     | 貨         |                       | 助   |           | 補                     |     |
|-----------|---------------------|-----|-----------|------|-----|-----------|-----------------------|-----|-----------|-----------------------|-----|
| 錢拾        |                     | 錢拾貳 |           | 錢五   |     | 錢五        |                       | 錢壹  |           | 厘五                    |     |
|           |                     |     |           |      |     |           |                       |     |           |                       |     |
| 性合        | 量目                  | 徑尺曲 | 性合        | 量目   | 徑尺曲 | 性合        | 量目                    | 徑尺曲 | 性合        | 量目                    | 徑尺曲 |
| 純銀<br>參和銅 | 七分一厘八毛八(二「グラム」六九五五) |     | 純銀<br>參和銅 | 五分八厘 |     | 純銀<br>參和銅 | 七分                    |     | 純銀<br>參和銅 | 九分                    |     |
|           | 八百分<br>二百分          |     |           |      |     | 純銀<br>參和銅 | 一々二分四厘四毛一(四「グラム」五六五四) |     | 純銀<br>參和銅 | 一々九分〇厘〇毛八(七「グラム」二二八〇) |     |
|           |                     |     |           |      |     | 純銀<br>參和銅 | 七百分<br>二百五十分          |     | 純銀<br>參和銅 | 九分二厘                  |     |
|           |                     |     |           |      |     | 純銀<br>參和銅 | 九分五厘〇毛四(三「グラム」五六四〇)   |     | 純銀<br>參和銅 | 七分二厘                  |     |
|           |                     |     |           |      |     | 純銀<br>參和銅 | 九百五十分<br>四十分          |     | 純銀<br>參和銅 | 九百五十分<br>四十分          |     |

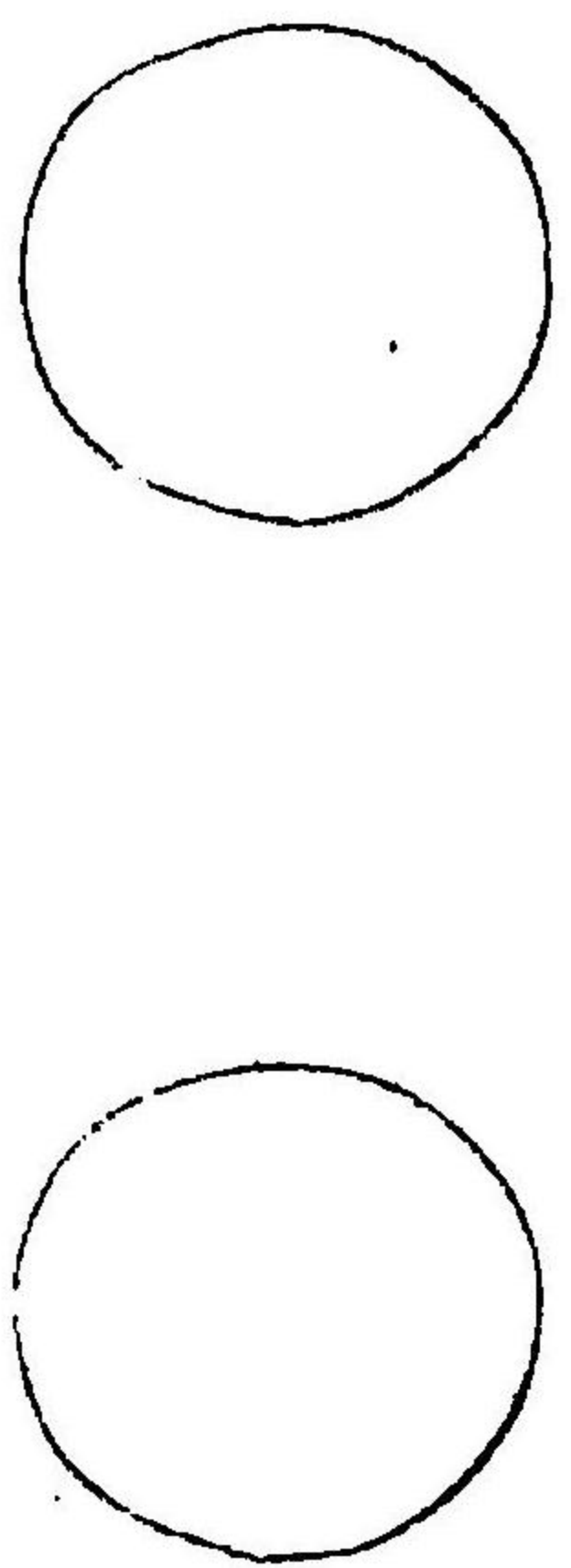


右ノ規定ニ於テ從來金貨ノ紋様ハ平面ノ部分多クシテ磨損シ易ク又白銅貨ノ紋様ハ極メテ單純ニシテ偽造ノ弊害アリシニ依リ之ヲ改正シタリシカ從來ノ銅貨ニ代ヘタル二種ノ青銅貨ノ紋様ハ當初從來ノ銅貨ノ形式ヲ襲用シタルモ五拾錢以下ノ補助銀貨ト類似シテ變造ノ憂アルニ依リ其後之カ形式ノ改正ヲ必要トシ大藏大臣松田正久ハ明治三十一年八月六日ヲ以テ左ノ如ク閣議案ヲ提出セリ

客年五月勅令第四十四號ヲ以テ貨幣ノ形式ヲ定メラレ候節青銅貨幣ハ舊銅貨ノ形式ヲ襲用セラル、事ニ相成候處該形式ハ五拾錢貳拾錢拾錢ノ銀貨幣ト同形式ナルヨリ往々之ヲ此等銀貨ニ變造スルモノ有之隨テ該貨受授上不便ヲ免レス殊ニ貨幣ノ其性質ヲ當ニスル毎ニ其形式ヲモ異ニスルハ幣制上最モ務ムヘキ所ト存候ニ就テハ此際青銅貨幣ノ形式ヲ別紙ノ通リ改定致度依テ別紙勅令案ヲ具シ茲ニ之ヲ閣議ニ提出ス

尋テ同年九月二十一日勅令第二百一十一號ヲ以テ青銅貨幣ノ形式ヲ改正セラレタリ即チ左ノ如シ勅令第二百一十七號

貨幣ノ形式ニ關スル明治三十年勅令第四百四十四號中補助銅貨ヲ補助青銅貨ニ改メ壹錢及五厘ノ形式ヲ左ノ通改ム



第三 流通不便貨幣ニ關スル規則

流通不便貨幣ニ關シテハ貨幣法第十二條ニ政府ハ無手数料ヲ以テ之カ引換ヲナスヘキコトヲ規定セルニ依リ明治三十年九月十六日大藏省告示第五十八號ヲ以テ其引換ノ場所ニ付左ノ如ク定メタリ

大藏省告示第五十八號

明治三十年法律第十六號貨幣法第十二條ニ依ル磨損其他流通不便貨幣ノ引換ハ中央金庫及大阪金庫ニ於テ之ヲ取扱フ

但其他ノ各本金庫ニ於テモ引換ノ取次ヲ爲スヘシ

又同日ニ於テ右取扱方ニ付左ノ通金庫出納役へ令達セリ

本年九月大藏省告示第五十八號ニ依ル磨損其他流通不便ノ貨幣引換方ハ左ノ通取扱フヘシ

- 一 磨損其他流通不便貨幣ノ引換ヲ請求スルモノアルトキハ來ル十月一日以後中央金庫及大阪本金庫ニ於テ其額面價格ニ依リ金庫現在金ヲ以テ無手数料ニテ交換スヘシ
- 一 前項引換方ヲ各地本金庫ニ就テ請求スルモノアルトキハ各地本金庫ハ之カ取次ヲ爲スヘシ



一 貨幣ニシテ模様ヲ認識シ難キモノ又ハ私ニ極印ヲ爲シ其他故意ニ毀傷セリト認ムルモノハ貨幣タルノ效用ナキモノナレハ之カ引換ノ請求ニ應スヘカラス

一 引換受入レタル貨幣ハ中央金庫及大阪本金庫ニ於テ現金中ニ區分保管シ追テ當省ノ令達ニ依リ貨幣整理資金ニツキ整理スル儀ト心得ヘシ

又同年十月四日ヲ以テ磨損其他流通不便貨幣交換順序ヲ定メ左ノ通金庫出納役へ令達セリ

本年大藏省告示第五十八號ニ依ル十月一日以降貨幣法施行ニ伴フ磨損其他流通不便貨幣交換順序別紙ノ通心得ヘシ

(別紙)

磨損其他流通不便貨幣交換順序

- 一 中央金庫及大阪本金庫ニ於テハ磨損其他流通不便貨幣ヲ持參シ通貨ト交換方請求スルモノアルトキハ直チニ引換方取計フヘシ
- 二 各地本金庫(大阪本金庫)ニ於テハ磨損其他流通不便貨幣ヲ持參シ引換方請求スルモノアルトキハ之ヲ領收(眞實ヲ鑑定シ製造及貨幣法第十三條ニシテ適宜ノ預リ證書ヲ請求者へ交付シ而シテ代リ貨幣ノ回送方ヲ中央金庫若クハ大阪本金庫へ要求ノ上到着後右預リ證書ト引換ニ請求者へ該貨幣ヲ交付スヘシ)但金庫有合ノ通貨ニテ直チニ引換ヲ爲ス場合ハ此限リニアラス
- 三 各地本金庫(大阪本金庫)ニ於テ引換濟ノ磨損其他流通不便貨幣ハ漸次中央金庫若クハ大阪本金庫へ回送スルモノトス

四 第二項ニ依リ各地本金庫(大阪本金庫)ニ於テ磨損其他流通不便貨幣ヲ預リタルトキハ現金出納原簿科目ハ貸方磨損其他流通不便貨幣交換受入トシテ整理シ代リ貨幣ノ回送ヲ得テ拂渡シタルトキハ同簿科目ハ借方磨損其他流通不便貨幣交換代金拂出トシテ整理スヘシ

五 中央金庫及大阪本金庫へ受入タル磨損其他流通不便貨幣ハ現金種類別簿中流通不便貨幣トシテ整理スヘシ

六 中央金庫ハ毎月末日交換濟磨損其他流通不便貨幣現在高表(舊式)ヲ調製シ大藏省へ差出スヘシ

七 各地ニ於テ受入タル磨損其他流通不便貨幣ヲ中央金庫若クハ大阪本金庫へ回送スル費用及代リ通貨ノ回送費用ハ引換請求者ニ關係ナキモノトス

流通不便貨幣ハ其交換順序ニ依リ引換ノ上中央金庫若クハ大阪本金庫ニ回送スルモノナルカ漸次堆積セシヨリ之ヲ造幣局ニ引渡シ處分スルコトニ決シ明治三十一年三月二十五日ヲ以テ其受拂手續ヲ左ノ如ク定メ之ヲ造幣局及金庫出納役ニ令達セリ

流通不便貨幣受拂手續

第一條 中央金庫ニ於ケル流通不便貨幣ハ適宜取纏メ大阪本金庫へ回送スヘシ

第二條 大藏大臣ハ大阪本金庫ニ於ケル流通不便貨幣ヲ貨幣整理資金部ニ於テ引揚ヲ要スルトキハ國庫中ノ移換ヲ金庫ニ令達スヘシ

第三條 金庫ハ第二條ノ令達ヲ受ケタルトキハ某年度貨幣整理資金歳出ヲ拂出シ某年度貨幣



整理資金引揚貨幣受入ノ科目ヲ以テ引換流通不便貨幣受入ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 大藏大臣ハ貨幣整理資金部へ受入タル引揚流通不便貨幣ヲ造幣局へ賣渡ノ順序トシテ之ヲ同局へ引渡方金庫へ令達スヘシ

第五條 金庫ハ第四條ノ令達ヲ受ケタルトキハ造幣局渡ノ科目ヲ以テ引揚流通不便貨幣ヲ拂出シ之ヲ造幣局へ引渡スヘシ

第六條 造幣局長ハ第五條ニ依リ金庫ヨリ引揚ニ係ル流通不便貨幣ノ引渡ヲ受ケタルトキハ貨幣ノ種類毎ニ其品位量目等ヲ調査(鑄解ノ精製ヲ要スルモ)シ別紙様式(略)ニ依リ大藏省へ報告スヘシ

第七條 大藏大臣ハ第六條造幣局長ノ報告ニ依リ受拂代價ヲ算定シ其流通不便貨幣ヲ造幣局へ賣渡ノ爲メ國庫中ノ移換ヲ金庫ニ令達スヘシ

第八條 金庫ハ第七條ノ令達ヲ受ケタルトキハ某年度作業歳出仕拂元金ヲ拂出シ某年度貨幣整理資金歳入へ受入ノ手續ヲ爲スヘシ但作業歳出仕拂元金ヲ拂出シタルトキハ其旨直チニ造幣局長ニ報告スヘシ

第九條 金庫ハ第八條ノ手續ヲ爲スト同時ニ第五條ニ依リ造幣局へ引渡シタル引揚流通不便貨幣ヲ造幣局受入科目ヲ以テ受入レ更ニ某年度貨幣整理資金引揚貨幣拂出ノ科目ヲ以テ拂出ノ記帳ヲ爲スヘシ

第四 壹圓銀貨引換ニ關スル規則

從來發行ノ壹圓銀貨ハ貨幣法第十六條ニ金貨壹圓ノ割合ヲ以テ漸次引換フヘキコトヲ規定セルニ依リ明治三十年九月二十一日ニ至リ大藏省告示第六十一號ヲ以テ其引換方ニ付左ノ如ク定メタリ

大藏省告示第六十一號

從來發行ノ壹圓銀貨幣ハ本年十月一日以後漸次金貨幣ト引換フヘキニ付引換望ノ者ハ中央金庫ニ申出ツヘシ但横濱神戸ハ日本銀行代理店ナル横濱正金銀行本支店其他ノ各地ハ各本金庫ニ於テ引換ノ取次ヲナスヘシ

而シテ壹圓銀貨ノ通用ニ關シテハ貨幣法第十六條二項ノ規定ニ依リ明治三十年十月一日勅令第三百三十八號ヲ以テ左ノ如ク定メタリ

勅令第三百三十八號

從來發行ノ壹圓銀貨幣ハ來ル明治三十一年四月一日限り其通用ヲ禁止ス

此ノ如ク壹圓銀貨ノ通用ハ明治三十一年四月一日限リトナセリト雖モ貨幣法第十六條ニ依レハ通用禁止後尙ホ五箇年間ハ之カ引換ヲナサ、ルヲ得ス然ルニ右通用禁止ノ後ニ至リ明治三十年十月以降ノ狀況ヲ見ルニ内地ニ於ケル引換ハ十分迅速ニ行ハレテ最早引換ヲ繼續スルニ至リタルト共ニ徒ニ五箇年ノ引換期限ヲ存スルトキ偽造壹圓銀貨ノ輸入セラル、危險アリタルヲ以テ是ヨリ先キ明治三十年ノ末ニ當リ大藏大臣伯爵松方正義ハ壹圓銀貨引換期限短縮ノ法律案ヲ閣議ニ提出シタルモ議會解散ノ爲メ議會ニ提出スルニ至ラザリシカ其後伯爵井上馨大藏大臣ニ任セラレ亦之カ必要ヲ認め引換期限短縮ノ法律案ヲ當時召集セラレタル臨時議會ニ提出シ其協賛



ヲ得明治三十一年六月十一日法律第五號ヲ以テ左ノ如ク決定セリ  
法律第五號

壹圓銀貨幣ノ引換ハ明治三十一年七月三十一日限リトス  
右壹圓銀貨ノ引換ハ從來金貨ニ限リ且唯中央金庫ニ於テノミ之ヲ取扱ヒ各地本金庫ハ其取次ヲ  
ナスニ過キサリシカ此引換期限短縮ト共ニ引換ヲシテ毫モ遺憾ナク行ハシメンカ爲ニ明治三十  
一年六月十五日大藏省告示第四十九號ヲ以テ左ノ如ク定メタリ

大藏省告示第四十九號

壹圓銀貨幣ヲ有合セノ通貨ト引換受ノ者ハ引換期限中各地本支金庫ニ申出ツヘシ  
壹圓銀貨幣ハ引換期限中租稅其他ノ公納ニ納付スルコトヲ得

第五 貨幣整理資金特別會計ニ關スル規則

引換壹圓銀貨ノ整理ニ就テハ貨幣法ノ制定ト共ニ明治三十年法律第十七號ヲ以テ貨幣整理資金  
特別會計法ヲ定メタリシカ其第六條ニ貨幣整理資金ノ收入支出ニ關スル規定ハ別ニ勅令ヲ以テ  
定ムルコトヲ規定セルニ依リ明治三十年四月二十八日勅令第二百二十八號ヲ以テ貨幣整理資金特  
別會計規則ヲ左ノ如ク定メタリ

貨幣整理資金特別會計規則

第一條 貨幣整理資金ハ地金賣拂代ヲ以テ歳入トシ貨幣交換金貨幣交換及地金賣拂ニ伴フ諸  
費ヲ以テ歳出トス (明治三十一年四月五日勅令第七十號ヲ以テ改正)

第二條 歳入歳出ノ豫定計算書及決定計算書ハ大藏大臣之ヲ調製シ帝國議會ニ提出ノ手續ヲ  
爲スヘシ

第三條 各年度ニ於テ歳入ヲ收入シ歳出ノ仕拂命令ヲ發スルハ毎年度三月三十一日ヲ限リト  
ス

第四條 大藏大臣ハ其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ受拂勘定表ヲ調製シ歳入歳出  
ノ豫定計算書ニ添付スヘシ

第五條 受拂勘定ノ受入ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一 歳入ノ收入済額

第二 收入未済額

第三 資金ニ屬スル現金ノ持越高

第四 造幣局作業益金ノ受入額

第五 總地金ノ價格

第六條 受拂勘定ノ拂出ニ屬スルモノ左ノ如シ

第一 歳出ノ支出済額

第二 資金額

第三 代價收入済地金ノ價格

第四 代價收入未済地金ノ價格

第七條 受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ控除シ過剩アルトキハ資金ニ編入シ不足ヲ生スルトキ



ハ資金ノ減額ト爲スヘシ

第八條 此ノ規則ニ規定セサルモノハ總テ一般會計規則ノ各條項ヲ適用ス  
而シテ同年十一月勅令第四百十九號ヲ以テ第一條中貨幣交換金ノ下ニ及交換ニ伴フ諸費ノ八字  
ヲ加ヘ更ニ三十一年四月五日勅令第七十號ヲ以テ第一條ヲ改メテ貨幣整理資金ハ地金賣拂代ヲ  
以テ歲入トシ貨幣交換金貨幣交換及地金賣拂ニ伴フ諸費ヲ以テ歲出トス下ナセリ  
右ノ如クニシテ政府ニ引揚ケタル壹圓銀貨ハ總テ一タヒ之ヲ貨幣整理資金特別會計ニ於テ額面  
價格ヲ以テ之ヲ引受ケ而シテ同特別會計ニ於テ地金トシテ之ヲ賣却シ之カ爲ニ生スル損失及費  
用ハ造幣局益金ヲ該資金ニ繰入レテ之カ補填ヲナスコト、セリ

### 第六項 償金ヲ以テ壹圓銀貨引換基ニ充用セシ順序

清國軍費賠償金ノ我幣制改革ニ重大ノ關係ヲ有スルハ既ニ記述セル所ノ如シ故ニ以下償金ヲ以  
テ壹圓銀貨ノ引換基金ニ充用シタル順序ヲ記述スヘシ  
清國ヨリ領收スヘキ償金ノ銀兩ヲ英貨ニ換算シテ倫敦ニ於テ領收スルコトニ決シタル所以ハ既  
ニ記述セル所ノ如シ而シテ明治二十八年十月第一回軍費賠償金ヲ倫敦ニ於テ領收スルヤ我邦カ  
該償金ヲ如何ニ運用スルカニツキ頗ル歐洲市場ノ注意ヲ惹キ或ハ我邦カ銀ヲ購入シテ之ヲ本邦  
ニ回收スルモノト想像スルモノアリテ銀價頗ニ騰貴ノ傾向ヲ示シ其他種々ノ流言臆説行ハレタ  
ルヲ以テ當時大藏大臣子爵渡邊國武ハ此際ニ當リ償金ノ回收ヲ始ムルハ益銀價ノ變動ヲ助成シ  
殊ニ每年下半年ヨリ翌年二月頃迄ノ間ハ本邦ノ生絲輸出ノ季節ナルヲ以テ之レカ爲メ我外國貿

易上ニ於テ不利ナル影響ヲ受ケンコトヲ慮リ直チニ正貨回送又ハ爲替取組ニ著手スルコトハ之  
ヲ避クルコト、シタリ

然ルニ明治二十九年ノ初ニ當リ本邦ニ於テハ戰後官民事業ノ擴張ト二十七八年戰役ニ際シテ資  
金ノ下級社會ニ散布セラレタルモノ多ク爲ニ物價ノ騰貴ヲ促カセシ等ノ結果我外國ノ貿易ハ輸  
入超過ノ傾向ヲ示シ從テ金融漸ク逼迫セントスルノ狀況ヲ呈シ日本銀行ノ制限外兌換券ノ發行  
ハ著シク増加シ準備正貨ハ漸次減少シ將來尙ホ正貨ハ益流出セントスルノ形勢ヲ示シ我兌換制  
度ノ爲メ頗ル憂フヘキモノアルニ至レリ而シテ歐洲市場ニ於ケル銀塊相場モ明治二十八年十二  
月以降稍平調ニ復シタルヲ以テ乃チ政府ハ爲替ノ出合ニ依リ正貨ノ輸出ヲ防遏シ以テ我兌換制  
度ノ權衡ヲ維持シ又時機ヲ酌量シテ正貨ノ輸入ヲ計ルノ方針ヲ採ルコト、シ明治二十九年一月  
十一日ヲ以テ日本銀行ニ命令シテ漸次償金ノ回收ニ著手セリ而シテ爲替ヲ取組ミ金銀塊ヲ購入  
セシムルニツキ當時大藏大臣子爵渡邊國武カ日本銀行ニ指示シタル方針ハ左ノ如シ

償金ハ時機ヲ見テ爲替又ハ金銀塊ヲ以テ可成速ニ本邦ニ取寄スルノ手段ヲ採ルト雖モ此數年  
間ハ英國ニ必ス巨額ノ預ケ金ヲナスコト、ナルヘシ該償金ハ國民ノ生命ヲ失ヒ國民ノ財產ヲ  
費シ將來ニ於テモ大ニ租税ノ負擔ヲ増ス等ノ損失ノ幾分ヲ償フモノナル故ニ其取扱方ニ就テ  
モ極メテ慎重ヲ加ヘ些少ノ利益ヲ量ルヨリハ寧ロ損失セサルノ覺悟ヲナスニ如カス尤モ熟考  
スルニ極メテ確實ノ方法アラハ其幾分ヲ利殖的ニ運用ヲナスハ差支ナカルヘシ依テ其運用法  
ヲ案スルニ  
一 英國ノ公債證書ヲ買入レ置クコト



目下歐米ハ戦争又ハ本位貨幣論アリテ幾分ノ懸念ナキ能ハサレトモ先以テ英國ノ公債ヲ一時買入レ置クハ大ナル懸念ナキモノ、如シ之ヲ賣拂フトキニ如何程ノ高マテナラハ市場ノ相場ニ影響ヲ來サスシテ賣拂ヒ得ヘキヤ  
又英國公債ノ價格ハ常ニ如何程ノ高下アルヤ自然非常ニ亂高下アルモノナラハ此危險ヲ避ケサルヘカラス

又向幾年間元金ノ返済ヲナサ、ルヤ

又印度殖民地ノ公債ハ英國公債ト同シク確實ナルモノナルヤ右ノ外ニ尙ホ確實ナル公債アルヤ右等ノ邊ヲ篤ト取調アリタシ

二 英國銀行ヘ定期ノ預ケ金ヲナシ利子ヲ徴シ得ヘキカ若シ利子ヲ出スナラハ其期限ト利子ノ歩合ハ如何

三 他ノ確實ナル銀行ニシテ定期預ケヲナスニ足ルヘキモノアルヤ

之ハ随分危險多キモノ故充分ノ考案ヲ要ス尤モ望ムヘキコトニアラサルノ感アレトモ先ツ取調ヲ要ス

右ノ外ニモ最モ確實ニシテ幾分ノ利殖ノ途ナキヤ取調ノコト

四 債金ヲ爲替ニナスコト

爲替ノ取組方ハ目下少シク上海孟買等ヲ經ルモノアルモ多クハ英國ト單獨ノ取組ヲナスモノ、如クナレトモ之ヲ今少シ進ンテ印度上海又ハ米國等ヲ經テ取寄スルコトニナラサルヤ此方法ヲ取調アリタシ

五 債金ヲ銀塊ニテ取寄スルコト

目下英米市場ノ景況ヲ酌量シ充分ニ注意シ買入ツ、アルモノナレトモ尙ホ一層利益ニナル買入ノ方法ナキヤ

或ハ先日園田氏ヨリ米國ノ銀鑛山等ト幾年間ノ約束ニテ銀ヲ買入ル、ノ相談等出來得ヘキヤノ說アリシ是等ニ就テハ將來銀塊ノ產出方ハ如何隨テ將來銀塊ノ相場ハ如何ノ景況ニ立至ルヘキヤ等歐米市場ヲ取調アリタシ

六 債金ヲ金塊ニテ取寄スルコト

金塊ヲ所有スル見込額ハ前項ニ論セシ如ク凡ソ金銀ヲ半額宛貯藏スル見込ナレトモ實際之ヲ購入スルニ當リ市場ノ景況ヲ酌量シ金銀共ニ相場ノ變動ヲ避クルノ手段ヲ取リ一方ニ偏セサル様ニ注意ヲ要ス

七 債金ヲ金銀塊ニテ取寄スル場合ニ之カ運賃其他取扱ノ費用ヲ成ルヘク節減シ得ル見込ナキヤ充分ノ調査ヲ要ス

即チ當時ノ大藏大臣子爵渡邊國武ハ債金ヲ回收スルニ當リ其正貨ヲ以テスルニ就テハ金銀ノ比價カ將來如何ナル方向ニ變動スルコトアリトモ之カ爲ニ國庫ニ巨額ノ損失ヲ蒙ムルコトノ避クルノ目的ヲ以テ金銀ヲ併收スルノ方針ヲ以テセリ蓋シ當時我國ハ銀貨國ナリシヲ以テ内地ノ支拂ニ銀貨ヲ必要トスルノ事情アリ又一方ニハ世界ノ大勢ハ貴金排銀ノ風盛ニシテ我國モ或ハ金貨制度ニ移ラサルヲ得サルノ時期ニ際會スルモ測リ難ク金貨準備ノ計畫モ亦必要ナリトノ考案ニ出テタルモノナリ爾來債金回收ハ暫ク此方針ヲ以テ進行シタリシカ明治二十九年九月ニ至リ



伯爵松方正義再ヒ大藏大臣ノ職ニ就クヤ幣制ヲ改革シ斷然金貨本位ヲ採用スルニ決シタルヲ以テ價金回收ノ方針モ亦之ヲ改メ主トシテ金塊ヲ購入スルコト、シ九月二十九日ヲ以テ日本銀行總裁ハ爲替取組及金銀塊購收ノ方針ニ就キ更ニ左ノ如ク通知セリ

一 爲替取組ノ事

爲替取組方ハ倫敦橫濱間ノ直接爲替ヲナシ又爲替相場ノ偏倚ヲ慮リ或ハ米國又ハ印度香港上海等ノ各地振換爲替ヲナセシテ間接ニ本邦へ取寄スルノ手段ヲモ併セテ施行スルコト又爲替ヲ取組ムニ就テハ輸入ヲ防遏スル一方法トシテ機械棉花等ノ如キ專ラ我生産ヲ助クルモノニ對シ爲替ヲ取組ミ奢侈品ノ如キ不生產品ニ對シテハ成ルヘク取組マサルノ方針ヲ採ルコト

一 金塊購收ノ事

本邦ニ取寄スル正貨ハ專ラ金塊又ハ金貨又ハ英貨ヲ以テ輸入スヘシ其金塊ノ相場ハ定位金塊「オンス」ニ付英貨三磅十七志十片半以下トス

一 銀塊購收ノ事

銀塊買入方ハ爲替又ハ金塊購收ノ都合ニ依リ其市價ノ平均ヲ得セシムル爲メ又ハ本邦銀貨ノ需要ヲ酌量シ銀塊ヲ併セテ購收スルモノトス

右ノ如ク價金回收ノ方針ヲ改メ專ラ金塊ノ購收ニ著手スルヤ倫敦ノ金塊相場ハ忽チニシテ昂騰シ計算上ニ於テハ專ラ英貨ヲ現送スルヲ以テ利益トスルニ至レリ然ルニ當時流通英貨ハ磨損甚

シク秤量シテ賣買スルトノ説アリシヲ以テ之ヲ現送スルニハ磨損ノ現狀ヲ調査スルノ必要アリ依テ橫濱正金銀行倫敦支店ニ之カ調査ヲ命セシニ其回答ノ要領左ノ如シ

一 倫敦ニテ外國貨幣ヲ秤量シテ賣買スルコトアレトモ英貨ヲ秤量シテ賣買スルコトナシ尤

モ數年前迄ハ英貨モ其公差範圍内ニ於ケル最輕量百二十二「ダレイン」(半)以下ノ貨幣ハ通用不適當トシテ英蘭銀行ニテ量目ニ基キ地金トシテ買入レタルヲ以テ市場ニテモ同様秤量ヲ以テ賣買セシモノナリト

一 今日ハ千八百八十九年八月三十日及千八百九十一年八月五日ノ法律ニ依リ假令最輕量目以下ノモノト雖モ故意缺損ニアラスシテ自然ノ磨滅ニ基ク場合ニハ英蘭銀行ニ持參スルトキハ同行ニ於テ何時ニテモ正當ノ英貨ト無打ニテ交換スルコト、ナレリ故ニ最早市中ニテ英貨ヲ量目ニテ賣買スルコトナシ

但英蘭銀行ハ此貨幣ヲ造幣局ニ輸入スル時ハ造幣局ハ之ト引換ニ正當ノ貨幣ヲ交付スルモノニテ即チ此差損ハ造幣局ノ負擔ナリ

一 前項ノ方法ニ依リ政府ニ於テ輕量英貨交換高竝政府ノ負擔ニ歸シタル損失高左ノ如シ  
自千八百九十二年四月三十一日滿三箇年間  
至千八百九十五年三月三十一日滿三箇年間

|            |                             |
|------------|-----------------------------|
| 交換高 (一磅分貨) | 一六、一〇六、〇〇〇、〇〇〇 <sub>片</sub> |
| 此不足高       | 一七七、四五四、〇七、一一               |
| 交換高 (半磅分貨) | 一〇、五九四、〇〇〇、〇〇〇              |
| 此不足高       | 二五一、六五九、〇九、〇三               |



合計交換高

二六、七〇〇、〇〇〇七片

合計不足高

四二九、一一三、一七、〇二

右ノ調査ニ依レハ現今英貨ヲ秤量シテ賣買スルコトナク千八百八十九年及千八百九十一年ノ法律發布以來英國政府ハ英蘭銀行ヲシテ法定最輕量以下ニ磨損セル貨幣ヲ引換ヘシメ其規定大ニ整理セシコト明ナルヲ以テ英貨ヲ現送スルモ大ナル損失ナキモノト認メ又磨損ノ減量千分ノ二、五以内トスルトキハ當時ノ金塊相場ニ於テ金塊ヲ購入スルヨリ英貨ヲ現送スルヲ以テ利益ナリト認メ且ツ英貨其物ヲ以テ直ニ本邦ニ取寄スルトキハ殊更ニ勝貴セシメシ金塊相場ヲ幾分カ公平ナル相場ニ復スヘキモノト認メタルヲ以テ十月二十四日ニ至リ英貨ノ現送ヲモナスヘキコトヲ日本銀行ニ命令セリ

元來倫敦ニ於テハ我邦及露、澳ヘ金塊ヲ回送スルニ依リ殊更ニ其價格ヲ騰貴セシメタルモノナルカ故ニ英貨ノ現送ニ著手スルヤ漸次下落ニ傾キ十一月ニ至リテハ買入標準相場以内ニ下リタルヲ以テ爾後著々改正方針ニ依リ金塊ノ購收ヲ實行シテ茲ニ新貨幣法實施ニ要スル壹圓銀貨引換ニ對スル金準備ヲ了セリ

以上陳ル如キ方針ヲ以テ政府ハ日本銀行及其代理店タル橫濱正金銀行ヲシテ償金回收ノ任ニ當ラシメタリト雖モ巨額ノ償金ヲ宇内ノ貿易及金融市場ニ影響ヲ及ホサスシテ本邦ヘ回收スルハ頗ル難事ニ屬スルヲ以テ日本銀行監理官ヲ倫敦ニ派遣シ又倫敦里昂、紐育、桑港、新嘉坡、孟買、香港、上海、廈門ニ駐在セル本邦各領事、日本銀行並ニ橫濱正金銀行各地支店等ニ經濟事情ノ調査ヲ委囑シ事ノ緩急ニ從ヒ郵便又ハ電信ヲ以テ之ヲ報告セシメ以テ内外經濟市場ノ情勢ヲ察シテ償金ノ回

收ヲ了セリ而シテ貨幣法ノ制定發布ノ前後ニ於テハ倫敦派遣ノ日本銀行監理官及橫濱正金銀行倫敦支店長ハ巧ニ巨額ノ金塊ノ購入ヲ了シ貨幣法ノ實施ニ毫モ支障ナカラシメタリ而シテ當初明治二十九年一月十一日償金ノ回收ニ著手以來同三十二年三月三十一日ニ至ル三箇年餘ノ間ニ於テ償金回收ノ爲メ日本銀行ヘ交換元トシテ交付セシ英貨ハ三千四百七十七萬六千六百四十二磅五志四片ニシテ其内爲替取組高（取組高）債金部ニテ爲替トセシモノヲ含ム（含ム）千五百八十一萬千二百六十一磅十志二片銀購入高三百九萬五千四百磅六志三片金購入高千五百五十七萬四千八百七十六磅八志十一片ナリ而シテ此金額購入高ノ内明治三十年九月末日マテニ購入スル高ハ七百七十三萬三千五百十六磅十七志九片ニシテ政府ハ直ニ之ヲ金貨ヲ鑄造シテ壹圓銀貨ノ交換ノ用ニ供セリ今交換元英貨受拂ノ計算ヲ示セハ左表ノ如シ

交換元英貨受拂計算表

| 月別      | 同上交換元英貨ヲ以テ金銀購入並爲替取組高 |               |              |              | 交換元英貨殘存高     |
|---------|----------------------|---------------|--------------|--------------|--------------|
|         | 日本銀行ヘ交換元英貨交付高        | 金購入高          | 銀購入高         | 爲替取組高        |              |
| 二十九年 一月 | 1,000,000.00         | 0             | 1,511,151.10 | 3,900,000.00 | 5,411,151.10 |
| 二月      | 1,010,000.00         | 11,000,000.00 | 2,787,151.10 | 3,900,000.00 | 5,577,151.10 |
| 三月      | 1,000,000.00         | 12,000,000.00 | 3,110,000.00 | 5,000,000.00 | 5,987,151.10 |
| 四月      | 1,000,000.00         | 11,000,000.00 | 1,875,000.00 | 1,500,000.00 | 5,607,151.10 |
| 五月      | 1,000,000.00         | 0             | 1,471,151.10 | 5,000,000.00 | 5,971,151.10 |







|      |                |           |                |                |                |
|------|----------------|-----------|----------------|----------------|----------------|
| 三十三年 | 10,910,000,000 | 0         | 0              | 0              | 0              |
| 計    | 29,064,200,000 | 5,150,100 | 0              | 30,754,300,000 | 30,754,300,000 |
| 累計   | 30,754,300,000 | 5,150,100 | 30,754,300,000 | 30,754,300,000 | 30,754,300,000 |

備考

日本銀行交換元ノ欄明治三十年七月同三十二年三月ニ於テ△印ヲ付スルハ英  
 蘭銀行寄託金ヘ戻入レタル高ナリ  
 又現存高ノ欄明治三十年九月同三十一年五月ニ於テ△印ヲ付スルハ交換元ニ  
 一時不足ヲ生シタル高ナリ

第七項 金貨ノ鑄造

既ニ記述セシカ如ク大藏大臣ハ償金回收ノ方針ヲ改メ著々金ノ購收ヲ努メ日本銀行ヲシテ其事  
 ニ從ハシメ日本銀行ハ之カ回收ヲ了スルニ從ヒ之ヲ造幣局ニ輪納シツ、アリシカ明治三十年貨  
 幣法ノ公布セラル、ヤ造幣局ハ其四月十五日ヲ以テ新金貨鑄造方ニ就キ上申スル所アリ大藏大  
 臣ハ同年九月三十日マテノ鑄造豫算ヲ拾圓金貨千貳百萬圓、貳拾圓金貨參千六百萬圓ト定メ四月  
 二十日ヲ以テ大藏大臣伯爵松方正義ハ左ノ如ク造幣局ニ命令セリ  
 本年四月十五日附上申日本銀行ヨリ輪納ノ金地金取扱方左ノ通り心得ヘシ  
 一 是迄日本銀行ヨリ輪納シタル金地金ニシテ之ニ對シ已ニ成貨拂渡證書交付済ノモノハ便

宜直ニ新金貨ニ鑄造シ十月一日以後ニ至リ新金貨ヲ以テ拂渡ノ手續ヲ爲スヘシ  
 一 日本銀行ヨリ輪納シタル金地金ニシテ目下試験中ノモノ竝ニ今後同行ヨリ輪納スル金地  
 金ニ對シテハ九月三十日迄ノ間ハ成貨拂渡證書ノ代リニ單ニ品位ト量目トヲ記載セル適  
 宜ノ預リ證書ヲ交付スヘシ但本地金モ前項ト同シク此際新金貨ニ鑄造スル儀ハ差支ナキ  
 モノトス

一 本年九月三十日迄ニ製造スヘシ新金貨幣ノ種類ハ左ノ如シ  
 金貨幣 四千八百萬圓

内

拾圓金貨 千貳百萬圓

貳拾圓金貨 參千六百萬圓

右ノ令達ニ依リ造幣局ハ其工程ヲ増加シ夜ヲ以テ日ニ繼キ之カ鑄造ヲ努メ九月二日ニ於テ左ノ  
 如ク鑄造ヲ了セリ

拾圓金貨 八百貳拾五萬圓

貳拾圓金貨 參千六百萬圓

計 四千四百貳拾五萬圓

十月一日ヨリ貨幣法ヲ實施シ壹圓銀貨ノ引換ヲ實行スルカ爲メ之カ準備トシテ新金貨ヲ金庫ヘ  
 配賦セサルヘカラス依テ九月七日ヲ以テ製造済金貨ヲ日本銀行ヘ假渡スヘキ旨左ノ通り造幣局  
 へ内達セリ







鑄シテ之ヲ補充シ商取引ノ用ニ供セラレタルモノニ對シ五圓以上ノ兌換券ヲ使用セシムルノ計畫ヲ立テタリ依テ明治三十一年二月十八日ヲ以テ壹圓兌換回收ニ關シ左ノ如ク金庫出納役へ令達セリ

各地本支金庫へ收入スル壹圓兌換券ハ中央金庫へ回送ノ上之カ代リニ五拾錢以下ノ補助銀貨ヲ使用シ又中央金庫へ回送シタル壹圓兌換券ハ日本銀行ニ就キ五圓以上ノ兌換券ト交換ノ上使用スヘシ

而シテ貨幣法發布ノ當時即チ明治三十年三月末ニ於ケル流通高ハ銀貨白銅貨銅貨ヲ合セテ參千九百六拾五萬六千四拾貳圓六拾九錢八厘內銀貨貳千參百七拾五萬七千參百九拾六圓參拾五錢外ニ政府紙幣ノ引揚未済ニ係ル五拾錢以下ノ紙幣貳百拾七萬參百拾壹圓七拾五錢合計四千八百八拾貳萬六千參百五拾四圓四拾四錢八厘ニシテ之ヲ本位貨幣兌換券及壹圓以上ノ政府紙幣合計貳億參千八百五拾參萬七百四拾參圓五拾八錢ニ對スルトキハ僅ニ一割七分ニ相當シ且各地ニ於テ頗ル補助貨ノ不足ニ感シツ、アリシヲ以テ此計畫ニ依リ四千萬圓ノ補助貨ヲ増發シ內參千貳百五拾萬圓ハ明治三十二年度末迄ニ發行スルコトニ決定セリ故ニ明治三十二年度末ニ於テハ前記補助貨紙幣ハ増加シテ七千四百參拾貳萬六千參百五拾四圓四拾四錢八厘トナリ又補助貨増發ニ相當スル壹圓兌換券ハ回收セララルヘキモノトシテ本位貨幣紙幣ハ貳億六百五拾參萬七千四拾參圓五拾八錢トナルカ故ニ補助貨ノ本位貨ニ對スル割合ハ凡ソ三割五分トナルヘシ而シテ明治三十三年度以降ニ於テ殘額七百五拾萬圓ノ補助貨ヲ増發スルトキハ更ニ補助貨ハ増加シテ八千八百八拾貳萬六千參百五拾四圓四拾四錢八厘トナリ補助貨増發ニ相當スル壹圓兌換券ヲ回收スルモノト

スレハ本位貨ハ壹億九千九百參萬七千四拾參圓五拾八錢ニ減シ補助貨ノ本位貨ニ對スル割合ハ更ニ増加スヘシト雖モ明治三十三年度以降ニ至レハ壹圓兌換券ノ回收ニ依リ生シタル空地ヲ補充シテ日常ノ小取引ニ一般ニ使用セララルヘク加之將來諸般ノ工業ノ増進ニ伴ヒ工夫職工ノ給與ニ多額ノ補助貨ヲ要スヘキヲ以テ之カ爲メ敢テ補助貨ノ過剩ヲ來ス憂ナカルヘク殊ニ經濟社會ノ發達ト共ニ本位貨ノ増加ヲ必要トスルノ見込ナルヲ以テ其割合ハ増加セサルヘキナリ而シテ補助銀貨四千萬圓増加後ニ於ケル國民分頭額ヲ世界重要國ノ割合ニ比較スルモ亦多額ナリト云フヘカラス今試ニ其比較表ヲ舉クレハ左ノ如シ

世界重要國補助銀貨分頭額表

| 國名                 | 補助銀貨        | 人口         | 分頭額   |
|--------------------|-------------|------------|-------|
| 日本                 | 二二,七五七,三九六  | 四二,七〇八,二六四 | 五五六   |
| 北米                 | 一五二,〇五五,〇〇〇 | 四二,七〇八,二六四 | 一四九三  |
| 英吉                 | 二四四,一三〇,〇〇〇 | 七二,九〇〇,〇〇〇 | 二〇八六  |
| 佛蘭                 | 一一六,一四七,〇〇〇 | 三九,六〇〇,〇〇〇 | 六〇六五  |
| 獨逸                 | 二二五,九〇六,〇〇〇 | 三九,五〇〇,〇〇〇 | 三〇一七  |
| 白耳                 | 一四,〇四二,〇〇〇  | 五二,三〇〇,〇〇〇 | 四・五一一 |
| 伊太利                | 五三,一五九,〇〇〇  | 六,四〇〇,〇〇〇  | 二・一九四 |
| 日本(貨幣法制定當時補助銀貨増發後) | 六三,七五七,三九六  | (同上)       | 一・六九八 |



| 國名    | 補助銀貨高      | 米國造幣局年報告ニ依リ北米合衆國ハ | 米國一邦ヲ金貨貳圓 |
|-------|------------|-------------------|-----------|
| 瑞 西   | 二,146,000  | 三,000,000         | 七・一五五     |
| 希 臘   | 二,006,000  | 二,200,000         | ・九一二      |
| 西 牙   | 九八,二九四,000 | 一八,000,000        | 五・四六一     |
| 葡 萄 牙 | 一九,〇五七,000 | 五,100,000         | 三・七三七     |
| 埃 國   | 八〇,二四〇,000 | 四五,000,000        | 一・七八三     |
| 和 蘭   | 六,六二〇,000  | 四,九〇〇,000         | 一・三五一     |
| 諾 威   | 四,〇一三,000  | 二,000,000         | 二・〇〇六     |
| 瑞 典   | 九,八二九,000  | 五,〇〇〇,000         | 一・九六六     |
| 丁 抹 典 | 一〇,八三三,000 | 二,三〇〇,000         | 四・七一〇     |
| 露 亞   | 八四,〇五一,000 | 二六,〇〇〇,000        | ・六六七      |
| 土 耳 其 | 二〇,〇六〇,000 | 二二,〇〇〇,000        | ・九一二      |
| 濠 洲   | 一四,〇四二,000 | 五,〇〇〇,000         | 二・八〇八     |
| 加 奈 太 | 一〇,〇三〇,000 | 五,三〇〇,000         | 一・八九二     |

備考 各國補助銀貨高ハ千八百九十七年米國造幣局年報告ニ依リ北米合衆國ハ明治三十年七月一日其他ハ同年一月一日ノ調査ニレテ米國一邦ヲ金貨貳圓六厘ノ割ヲ以テ換算シタルモノトス

右ニ表示スルカ如ク我邦ノ補助銀貨ハ其割合非常ニ少額ナルヲ以テ之ヲ増鑄スルコトニ決シ明

治三十年度以降其増發額ヲ四千萬圓トナシ左ノ年度内ニ發行スルコトヲ豫定セリ

| 年度      | 補助銀貨  | 千圓    |
|---------|-------|-------|
| 明治三十年度  | 補助銀貨  | 千圓    |
| 明治三十一年度 | 五拾錢銀貨 | 五百萬圓  |
|         | 貳拾錢銀貨 | 參百萬圓  |
|         | 拾錢銀貨  | 貳百萬圓  |
| 明治三十二年度 | 補助銀貨  | 貳千萬圓  |
|         | 內     |       |
|         | 五拾錢銀貨 | 千七百萬圓 |
|         | 貳拾錢銀貨 | 百萬圓   |
| 拾錢銀貨    | 貳百萬圓  |       |
| 補助銀貨    | 千萬圓   |       |
| 內譯未定    |       |       |

補助銀貨ノ原料ハ引揚ケ壹圓銀貨ヲ以テ之ニ充ツルノ方針ナリ而シテ圓銀ノ引揚ケハ十月以降貨幣法實施後ニアラサレハ實行シ難シト雖モ既ニ貨幣法發布以前造幣局へ輸納セシ銀地金ニシテ之ニ對シ成貨拂渡證書ヲ發行セシ分ハ貨幣法第十八條但書ニ依リ圓銀ト等シク處分セサルヘ



カラス又明治三十年度補助銀貨鑄造ハ總テ引揚ケ圓銀ヲ以テ貨幣整理資金部ヲ經由シテ之ニ充ツルノ計畫ニシテ既ニ貨幣整理資金特別會計法實施セラル、ニ至リタルニ依リ補助銀貨鑄造ノ手續モ亦之ヲ定メサルヘカラス依テ明治三十年四月十日ヲ以テ左ノ如ク之ヲ規定シ主計局造幣局及金庫出納役ヘ令達セリ

補助銀貨鑄造ニ關スル取扱手續

- 第一條 補助銀貨鑄造ノ爲メ國庫ヨリ鑄造基金ノ支出ヲ要スルトキハ其時々大藏大臣ヨリ造幣局ヘ該基金交付トシテ國庫中ノ移換ヲ金庫ニ令達スヘシ
- 第二條 金庫ハ第一條ノ令達ヲ受ケタルトキハ現金出納原簿造幣局渡ノ科目ヲ以テ其金額ヲ拂出シ其年度作業歳入ヘ受入ノ手續ヲ爲シ受入濟ノ上ハ其旨直ニ造幣局長ニ報告スヘシ
- 第三條 大藏大臣ハ第二條ニ依リ造幣局ヘ受入タル基金ヲ以テ更ニ貨幣整理資金特別會計部ニ就キ引揚壹圓銀貨(造幣局成貨)ト交換ノ順序トシテ國庫中ノ移換ヲ金庫ニ令達スヘシ
- 第四條 金庫ハ第三條ノ令達ヲ受ケタルトキハ其年度作業歳出仕拂元金ヲ拂出シ其年度貨幣整理資金歳入ヘ受入ノ手續ヲ爲スヘシ但作業歳出仕拂元金ヲ拂出シタルトキハ其旨直ニ造幣局長ニ報告スヘシ
- 第五條 大藏大臣ハ第四條ニ依リ貨幣整理資金部ヘノ受入金ヲ以テ國庫現在ノ壹圓銀貨(造幣局成貨)ト交換ノ爲メ國庫中ノ移換ヲ金庫ニ令達スヘシ
- 前項ノ壹圓銀貨ハ必要ニ臨ミ大藏大臣ヨリ國庫現在ノ兌換券ヲ以テ日本銀行ニ就キ交換方ヲ金庫ニ令達シ金庫ヲシテ豫メ準備セシムヘシ

第六條 金庫ハ第五條第一項ノ令達ヲ受ケタルトキハ其年度貨幣整理資金歳出ヲ拂出シ貨幣

整理資金引揚壹圓銀貨受入ノ科目ヲ以テ引揚壹圓銀貨(造幣局成貨)受入ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 金庫ハ第六條ニ依リ受入タル引揚壹圓銀貨ヲ直ニ貨幣整理資金引揚壹圓銀貨拂出ノ

科目ヲ以テ拂出シ造幣局物品會計官吏ヘ交付シ領收證書ヲ徴スヘシ

第八條 第一條乃至第七條ノ國庫中移換等ニ關スル手續ハ同時ニ之ヲ執行スルモノトス

第九條 造幣局ハ第七條ニ依リ引揚壹圓銀貨ヲ受入レ補助銀貨ヲ鑄造シ鑄造濟ノ上ハ漸次造

幣局長ノ納付書ヲ添ヘ大阪本金庫ヘ納入スヘシ

第十條 金庫ハ第九條鑄造濟ノ補助銀貨ヲ領收セントキハ現金出納原簿造幣局受入ノ科目ヲ

以テ受入レ一般ノ出納ト同ク計算報告ヲ爲スヘシ但領收セシ補助銀貨ニ對シ領收證書ヲ差

出スモノトス

然ルニ前述セシ如ク同月中ニ補助銀貨増鑄ノ議決セラレタルヲ以テ造幣局長ハ同月二十七日ヲ

以テ左ノ如ク上申セリ

本年度補助銀貨製造高ノ儀昨二十九年四月御達ニ依リ製造致候處今回貨幣法施行ノ爲メ尙巨額ノ補助銀貨増鑄ノ事ニ相成候ニ就テハ至急増鑄補助銀貨ノ金額及種類御達相成候様致度此段上申候也

即チ明治二十九年四月ノ令達ニ依レハ明治三十年度補助銀貨鑄造豫算ハ百萬圓ニシテ内譯貳拾錢銀貨四拾萬圓拾錢銀貨六拾萬圓又白銅貨ノ鑄造豫算ハ拾萬圓ナリ故ニ前記造幣局長ノ上申ニ依リ五月五日ヲ以テ貨幣發布當時ノ豫定額ニ基キ同年度補助銀貨増鑄高ヲ追加シ左ノ通り造幣



局へ合達セリ (白銅貨ハ元ノ)

(僅拾萬圓ナリ)

明治三十年度補助銀貨追加鑄造豫算左ノ通り相定ム

九百萬圓

補助銀貨鑄造追加高

内

五百萬圓

五拾錢銀貨

貳百六拾萬圓

貳拾錢銀貨

百四拾萬圓

拾錢銀貨

右合達ス

然ルニ明治三十年九月十六日ニ至リ金庫出納役ハ白銅貨ノ需要多ク金庫ノ在高僅少ナルニ依リ五拾錢銀貨ノ分ト繰合セ白銅貨及拾錢銀貨ノ兩種ヲ以テ貳百萬圓至急鑄造方ニ付左ノ如ク大藏省理財局長ニ請求セリ

本月十五日付坤第九五一號ヲ以テ本年度ニ以テ御鑄造可相成補助貨幣豫算額及九月以降鑄造豫定額御回報ノ趣了承右ノ内補助銀貨五拾錢ノ儀ハ過般モ申進候通各地ニ於テ目下已ニ不便利トシテ希望不致有様ニ付將來トテモ當分ノ内ハ同様ノ事ト被存候然ルニ白銅貨ノ儀ハ特ニ便利ナル旨ニテ回送方請求致來候モノ續々有之候處當今大阪本金庫ニ於テモ追々拂出シ現在額貳千圓ヲ缺キ候次第ニテ當中央金庫ニ於テモ殘高僅ニ四萬圓ヲ超ヘス爲ニ各地ヨリノ請求ニモ應シ難ク甚タ差支候ニ付此際可相成ハ補助銀貨五拾錢ノ分ト繰合セ白銅貨ト補助銀貨拾錢ト兩種ニテ貳百萬圓程至急御鑄造相成候様致度何分ノ御詮議相煩度此段

及御照會候也

此照會中五拾錢銀貨ノ鑄造ニ就テハ管ニ從來ノ慣例ニ依リ一般之ヲ不便トスルノ理由ヲ以テ減縮スルコト能ハス又拾錢銀貨ハ當時鑄造殘高百參拾萬圓餘アルヲ以テ之ヲ増加スルコト能ハス唯白銅貨ニ就テハ豫算拾萬圓ニシテ補助銀貨トノ比例其當ヲ得ス且ツ其需要モ少カラサルニ依リ理財局長ハ同月二十九日ヲ以テ之ヲ增加案ヲ提出セリ其議案左ノ如シ

明治三十年度白銅貨鑄造豫算左ノ通更正ス

白銅貨

六拾萬圓

幣制改革ノ結果ハ自然小貨幣ノ需要ヲ増加スヘキヲ以テ本年度補助銀貨ノ如キ當初ノ豫算ニ於テハ貳拾錢四拾萬圓拾錢六拾萬圓合計百萬圓ナリシモ本年五月更ニ五拾錢五百萬圓貳拾錢貳百六拾萬圓拾錢百四拾萬圓合計九百萬圓ヲ追加シ壹千萬圓トセシモ白銅貨ハ其額依然拾萬圓ニ止リ補助銀貨トノ比例其當ヲ得ス而シテ白銅貨ハ補助銀貨ト伯仲シテ其需要多ク補助銀貨缺乏ノ地方ハ亦概シテ白銅貨ノ缺乏ヲ聞ク故ニ昨年度ノ如キ補助銀貨百八拾萬圓ニ對シ白銅貨六拾五萬圓ヲ鑄造シ來ル三十一年度ニ於テモ亦補助銀貨貳千萬圓ニ對シ白銅貨百萬圓ヲ鑄造スルコトナレリ

今ヤ小貨幣ノ需要ハ漸次増加セントスルニ際シ本年度ノ白銅貨ハ已ニ八月ニ於テ之ヲ鑄造ヲ了セリ  
今後市場ノ需要アルモ來年度ヲ待タサレハ之ヲ供給ヲ爲スコトハ能ハサルナリ然ルニ茲ニ金庫出納役ヨリ白銅貨ハ特ニ便利ナリトシテ各地ヨリ回送ノ請求多キモ金庫ノ殘高僅少ニ



シテ之ニ應スルヲ得サルヲ以テ此際五拾錢銀貨ノ分ト綜合セ白銅貨及拾錢銀貨兩種ヲ以テ  
貳百萬圓至急鑄造ノ請求アリ案スルニ五拾錢銀貨ハ從來ノ慣習ヨリ一般之ヲ不便トスルニ  
モセヨ今之カ鑄造ヲ減縮スヘキニアラス拾錢銀貨モ尙ホ豫算殘高百參拾五萬餘圓アルヲ以  
テ是亦增額スルヲ要セス是レ他ノ種類ヲ動サスシテ特ニ本年度ニ於テ白銅貨五拾萬圓ヲ增  
額シ其不足ヲ補充スル所以ナリ

本年八月末ノ流通高六百六拾貳萬餘圓ニ前記五拾萬圓ヲ加ヘ七百拾貳萬餘圓ヲ人口四千三  
百萬人ニ分割スルトキハ一人拾六錢餘ニ當ルモノナリ

貨幣會議ニ於テ右增加ヲ可決セシニ依リ十月五日ヲ以テ明治三十年度白銅貨鑄造豫算ヲ更正シ  
左ノ如ク造幣局ニ令達セリ

本年度白銅貨鑄造豫算左ノ通更正候條至急鑄造方取計フヘシ

六拾萬圓 本年度白銅貨鑄造高

右令達ス

明治三十一年度補助貨鑄造豫算ニ就テハ幣制改革ノ當時銀貨貳千萬圓ノ豫定ナルヲ以テ其方針  
ニ從ヒ明治三十年五月七日ヲ以テ左ノ如ク造幣局ニ令達セリ

明治三十一年度補助銀貨白銅貨青銅貨鑄造豫算左ノ通相定ム

一 貳千萬圓 補助銀貨鑄造高

內

千七百萬圓

五拾錢銀貨

百萬圓 貳拾錢銀貨  
貳百萬圓 拾錢銀貨

一 百萬圓 五錢白銅貨鑄造高

一 拾萬圓 壹錢青銅貨鑄造高

計 貳千百拾萬圓

右令達ス

此豫算中青銅貨ニ就テハ最初貳拾萬圓ニ定メシカ造幣局長ヨリ貳拾萬圓ノ鑄造ヲ爲シ難キ旨內  
報アリタルヲ以テ之ヲ減額シテ拾萬圓トナセリ

然ルニ此時ニ當リ外國貿易ノ輸出入ハ非常ニ不平均ヲ生シ爲ニ金貨ノ流出甚ク日本銀行ノ準  
備金日々ニ減少ヲ來セリ是ニ於テ日本銀行ハ金貨參千萬圓鑄造ノ必要ヲ生シ造幣局ノ工程上同  
年度補助貨鑄造豫算高ヲ完成スルコト能ハサルニ至レリ依テ明治三十一年四月二十八日ヲ以テ  
其豫算減縮ニ關シ左ノ如ク內定セリ

本年度補助貨鑄造豫算ノ儀ハ補助銀貨貳千萬圓、白銅貨百萬圓、青銅貨拾萬圓ノ見込ニ有之候  
處昨今輸出入不平均ノ結果金貨追々流出ノ傾向相生シ候ニ付差向キ本年度ニ於テ金貨參千  
萬圓日本銀行ニ於テ鑄造ノ必要相生シ從テ造幣局ノ工程上補助銀貨千參百萬圓、白銅貨五拾  
萬圓、青銅貨拾萬圓ノ外鑄造出來致兼候次第ニ相成候就テハ本年度ニ於テ銀塊處分ヨリ生ス  
ル不足ヲ造幣局益金ヲ以テ補填スル見込別紙甲號ノ通ニ有之候處補助貨鑄造高減額ノ結果  
別紙乙號ノ通ノ計算ト相成凡ソ百四拾九萬圓程貨幣整理資金部ニ不足ヲ生スル豫算ト相成



候尤モ右ハ今後ノ市況ニテ或ハ尙ホ増減モ相生スヘク候得共自然年度末ニ至リ右様ノ不足ヲ生スルコト、ナレハ右不足額ハ一時償金部ヨリ借入レ支辨方取計申度一時償金部ヨリ借入レ置次年度ノ造幣益金ヲ以テ返済ノ見込若又右借入難相成場合ニハ貨幣整理資金部ニ於ケル處分未定ノ銀塊ヲ不足ノ生セサル計算ニテ一時償金部へ賣戻申度右等本年秋ノ議會マテニハ凡ソノ實況モ相定リ可申ニ付其節更ニ相伺可申候得共目下ノ處自然不足ヲ生スル節ハ右ノ方針ニ可致積リニ有之候右様御内定置相成度依テ此段相伺候也

(別紙略ス)

右ノ如ク明治三十一年度補助貨鑄造豫算ハ日本銀行ニ於テ金貨鑄造ノ必要ヲ生セシ爲メ銀貨ヲ千參百萬圓ニ白銅貨ヲ五拾萬圓ニ青銅貨ヲ拾萬圓ニ減額シ其損失ヲ償金部ヨリ補填スルノ内定ナリシカ其後償金部ニ於テ之ヲ補填スルノ餘裕存セサルニ至リシヲ以テ終ニ補助貨ヲ増鑄シ以テ其損失ヲ補填スルニ決シ十月十日ヲ以テ左ノ如ク内定ヲ改正セリ

本年度補助貨鑄造豫算ハ補助銀貨貳千萬圓、白銅貨百萬圓、青銅貨拾萬圓ニ有之候處去ル四月中俄ニ金貨ノ鑄造ヲ要シ候ヨリ右豫算額ノ内補助銀貨千參百萬圓、白銅貨五拾萬圓、青銅貨拾萬圓ニ減額シ從テ益金百四拾九萬餘圓ヲ減額スルコト、ナル故貨幣整理資金部ニ於テ圓銀賣却上同額ノ損失ヲ補填スル能ハス候條右不足ニ對スル金額ハ一時償金部ヨリ借入決算ヲ爲シ三十二年度ノ造幣益金ヲ以テ返還スルノ方法ヲ可取旨別紙第一號ノ通御内定相成居候處其後償金部ニハ公債買入ノ増額等有之他ニ繰換へ貸出スヘキ餘裕無之狀況ニ付キ更ニ右補填ノ方法ヲ勘考スルモ他ニ探ルヘキノ方法モ無之候條別紙第二號ノ通此際補助貨ノ鑄造

額ヲ千七百八拾五萬圓補助銀貨千七百萬圓、白銅貨七拾五萬圓、青銅貨拾萬圓ニ御改定相成候ヘハ前見不足額ヲ補填スル益金ヲ生スヘキ見込ニ付右ニ御決定相成度此段相伺候也  
追テ明年度補助銀貨鑄造ノ材料ニ供スヘキ圓銀ハ一時償金部ニ於テ引受ケ置キ明年度ニ至リ造幣局ニ引渡スヘキ見込ニ有之候本文ノ圓銀相場ハ二十七片半トシ明年造幣局へ賣渡ストキモ右相場ヲ以テ受渡候事ニ可致候也

(別紙略ス)

明治三十二年度補助貨鑄造豫算ハ明治三十一年度豫算ニ基キ明治三十一年五月十八日ヲ以テ左ノ如ク造幣局ニ令達セリ

明治三十二年度補助銀貨、白銅貨、青銅貨鑄造豫算左ノ通相定ム  
一 九百五拾萬圓 補助銀貨鑄造高

内

- 四百五拾萬圓 五拾錢銀貨
- 參百萬圓 貳拾錢銀貨
- 貳百萬圓 拾錢銀貨
- 一 參拾萬圓 白銅貨鑄造高
- 一 貳拾萬圓 青銅貨鑄造高

合計 壹千萬圓

右令達ス



然ルニ三十一年度豫算ハ已ニ記スルカ如ク十月十日ヲ以テ再ヒ更正セラレタルニ依リ三十二年  
度豫算ニモ亦更正ノ必要ヲ生シ十月十二日ヲ以テ之ヲ造幣局ニ令達セリ其更正ノ趣旨竝令達左  
ノ如シ

明治三十一年度補助貨鑄造豫算ノ儀ハ補助銀貨貳千萬圓、白銅貨百萬圓、壹錢青銅貨拾萬圓ニ  
有之候處本年四月中俄ニ金貨ノ鑄造ヲ要シ候ヨリ實際ノ鑄造ハ右豫算ヲ補助銀貨千參百萬  
圓、白銅貨五拾萬圓、青銅貨拾萬圓ニ減額致ス事ニ御内定相成候右御内定ニ基キ三十二年度補  
助貨鑄造豫算ヲ補助銀貨九百五拾萬圓、白銅貨參拾萬圓、青銅貨ニ拾萬圓ト規定候處今般貨幣  
整理資金部圓銀始末ノ都合ニ依リ前記内定ヲ補助銀貨千七百萬圓、白銅貨七拾五萬圓、青銅貨  
拾萬圓ニ御改定相成候ニ付自然三十二年度補助貨鑄造豫算ニ改正ノ必要有之左ニ改正令達  
案相伺候

案

明治三十二年度補助銀貨、白銅貨、青銅貨鑄造豫算左ノ通改正ス

- 一 五百五拾萬圓 補助銀貨鑄造高
- 内
  - 百五拾萬圓 五拾錢銀貨
  - 參百萬圓 貳拾錢銀貨
  - 百萬圓 拾錢銀貨
  - 一 參拾萬圓 白銅貨鑄造高

一 貳拾萬圓

青銅貨鑄造高

右令達ス

此ノ如ク補助銀貨ノ鑄造ヲ三十年度千萬圓、三十一年度千七百萬圓、三十二年度五百五拾萬圓合計  
參千貳百五拾萬圓ト改定セシニ依リ最初豫定額四千萬圓ノ殘額七百五拾萬圓ハ後年度ニ於テ時  
期ヲ見計ヒ便宜鑄造スルコト、ナレリ  
貨幣法實施後補助銀貨ノ鑄造ハ漸次歩ヲ進メ明治三十一年ニ至リ幣制改革當時ニ於ケル計畫ニ  
從ヒ壹圓兌換券ヲ回收スルノ機ニ連セシニ依リ同年二月十八日ヲ以テ左ノ如ク金庫ニ令達セリ  
各地本支金庫へ收入スル壹圓兌換券ハ中央金庫へ回送ノ上之カ代リニ五拾錢以下ノ補助銀  
貨ヲ使用シ又中央金庫へ回送シタル壹圓兌換券ハ日本銀行ニ就キ五圓以上ノ兌換券ト交換  
ノ上使用スヘシ

右壹圓兌換券回收ニ就テハ世間之ヲ不便トスルモノ少カラス佐賀商業會議所ノ如キハ同年七月  
十四日ヲ以テ左ノ建議ヲ提出セリ參考トシテ左ニ採録ス

建議書

之ヲ聞ク政府ニ於テハ貨幣法改定ノ當時流通シツ、アル壹圓紙幣六千八百萬圓ニ漸次回收  
シ補助銀貨ヲ發行シテ其後ヲ襲ハシムルノ豫定ナリト而シテ補助銀貨ノ發行高ハ參千四百  
萬圓ノ見込ナリト云ヘハ之ヲ以テ日常小口ノ取引ニ充テ他ノ一半參千四百萬圓ハ五圓以上  
ノ紙幣ヲ發行シ之ヲ以テ大口ノ授受ニ充テラルヘキモノト推測セラル今夫レ在來ノ壹圓紙  
幣ヲ廢センカ商業界ノ困難ヲ來スハ必然ナリ大口ノ取引ヲ爲スモノ即チ卸賣商等ノ如キハ



大ナル痛痒ヲ感セサルヘシト雖モ小口ノ取引ヲ爲スモノ即小賣商等ニ至テハ其影響ヲ蒙ルコト實ニ至大ナリトス何トナレハ顧客ノ多數ハ五圓以下ノ購買者ニシテ其代價ヲ拂フニ補助貨ヲ以テセンカ小賣商ハ多ク之ヲ受込ミ置キ他方ニ向テ仕入ノ際即チ大口ノ取引ニ當テハ此等ノ補助貨ヲ以テ支拂ハントスルモ相手方ニ於テ拒絕セララル、アラハ貨幣法ノ命スル所又奈何トモスル能ハサルヘシ而シテ全國商業者中其多數ハ即チ小賣商ニ屬ス殊ニ個人ニ於テモ其携帶ニ不便ナルカ故ニ自ラ之ヲ嫌惡スルノ風アルヲ以テ其利害ノ關スル所實ニ鮮少ナラサルモノアリ要スルニ壹圓紙幣ヲ廢シ之ニ代フルニ五圓以上ノ兌換券ト補助貨トヲ以テ補填シ以テ金融界ヲ支配セントスルハ管ニ幣制ノ宜シキヲ得サルノミナラス國民ニ非常ノ困難ヲ與フルモノトス故ニ當局者ハ前述ノ事情ヲ察シ兌換券條例ニ依リ適當ニ壹圓兌換券ヲ發行セラレンコトヲ望ム

右本會議所ノ決議ヲ具シ謹テ建議候也

補助銀貨ノ増發及壹圓兌換券ノ回收ヲ實行スルニ至ルヤ補助貨ノ集散配賦ハ政府ノ最モ注意ヲ要スヘキモノナルヲ以テ大藏省ニ於テ種々審議ノ末明治三十一年四月二十日ヲ以テ之カ施行方法ヲ左ノ如ク議決セリ

貨幣制度改正前ニ在テハ壹圓兌換券ノ流通多額ナルヨリ補助貨ハ之ニ應シテ流通少額ナル次第ニ有之候處客年幣制ノ改革ト共ニ壹圓兌換券ハ漸次引揚ケ五拾錢以下ノ銀貨ヲ以テ之ニ代ハラシメ以テ幣制ノ基礎ヲ鞏固ニセントス故ニ民間日常ノ取引ニハ重ニ硬貨ヲ受授スルコト、セリ就テハ政府ニ於テ補助貨供給ノ適度ヲ計リ其集散配賦ニハ最モ注意ヲ要スヘキコト、ス

右供給需用ノ平均ヲ得セシムルニハ

- 第一 政府ノ收入ニハ無制限ニ補助貨ヲ受領スルコト、シ以テ市場ニ溢ル、時ハ之ヲ國庫ニ吸收シ又不足ト見ルトキハ之ヲ支出シ又新ニ鑄造スルコト、スヘシ
- 第二 補助貨ハ全國ニ普及セシムルニハ相當ノ順序ヲ設ケ常ニ集散配賦ヲ適度ナラシメ人民ニ不便ノ感ナカラシムルコト
- 第三 集散配賦ニ要スル費用ハ特ニ國庫ヨリ支辯スルノ方針ヲ採ルコト

トシ金庫ヘモ關令致置度依テ左ノ件々審議ヲ要シ候

- 一 補助貨幣ヲ國庫ヘ收入スル場合ニハ貨幣法第七條ノ制限ニ依ラス無制限ニ受領スルコト
- 一 補助貨幣ニ供給需用ノ平均ヲ得セシムル爲メ各地支金庫又ハ其他ノ地方ヘ必要ヲ見テ配賦セシムルコト
- 一 右配賦セシムルニ付テノ運輸費用ハ特ニ日本銀行ヘ交付スルコト

右ノ方針第一項ニ就テハ四月中其旨金庫出納役ヘ口達セリ  
然ルニ金庫中ニハ尙ホ通用制限ヲ守リ拾圓以上ノ補助貨ハ之ヲ受領セサルモノアリ東京稅務管理局長ノ如キ其管内佐原稅務署長ノ申報ヲ具シ六月二十五日ヲ以テ左ノ如ク大藏省主稅局長宛申報セリ

當管内佐原稅務署長ヨリ納稅人金庫ヘ現金納付上貨幣法第七條ノ制限ニ關シ別紙寫ノ通申



出有之候ニ付尚ホ各地ノ實況取調候處幸橋藤澤忍松戸等ノ各稅務署ニ於テモ補助貨劇增ノ爲メ納稅上困難ノ狀況有之候右御參考迄別紙添付此段申報候也

(別紙)

現今各市場ノ金融逼迫ナルハ實ニ其極ニ達シタルモノ、如ク納稅上ノ狀況ニ付テモ亦之ヲ知ルヲ得タリ而シテ職ニ稅務ニ從事スルモノ、最モ注目ヲ要スヘキハ貨幣法實施後ノ今日ニ於ケル市場ニ通用スル貨幣ノ種類及紙幣ノ多少ニアリ然リ而シテ紙幣ハ銷却ノ爲メ政府ニ回收セラレツ、アルヲ以テ漸次減退シ補助貨之ニ代リ現時紙幣ト補助貨トノ比例ハ實ニ八ト二トノ如クニシテ金貨幣ハ殆ト形ヲ現ハサスト云フモ過言ニアラサルノ有様ナリ如此紙幣日ニ減退補助貨愈増加ノ勢ナルニ補助貨ハ法貨トシテ通用ニ制限セラレアルヲ以テ市場ノ拂方ハ任意取引ヲ爲スヲ得ルトスルモ茲ニ忽チ納稅上大ナル差支ヲ生スルニ至ラン若シ夫レ市町村ヨリ金庫ニ送付スル場合ノ如キハ仕譯書ヲ添付セハ差支ナシトスルモ酒造稅醬油造石稅ノ如ク一個人ニシテ多額ノ納稅ヲナサントスルニ制限以上ハ金庫之ヲ領收セサルヲ以テ已ムナク歩引ヲナシ紙幣ト交換セサルヲ得ス隨テ人民ニ不便ト不利トヲ生セシメ納稅期限ヲ過クルノ恐アルニ至ラン若シ又納稅人ニシテ歩引ノ損失ヲ厭ヒ故ラニ納稅ヲ怠リ稅務官吏ノ財產差押ニ臨ミタルトキ數千圓ノ補助貨ヲ提出シ以テ稅金ト處分費ヲ納メントスルトキノ如キハ之ヲ制限以外ハ法貨ニアラストシテ領收セサルコトヲ得サルヘク隨テ稅務官吏ヨリ金庫ニ拂込ムトキモ金庫又之ヲ拒ムヲ得サルヘシ今ヤ醬油造石稅ノ納期ニ際シ納稅人中此不便ト不利ヲ受ケタルモノ一二ニ止ラサルヲ聞ク右ハ徵稅上決シテ忽諸ニ付

スヘカラサルモノト思料候ニ付若シ納稅人ノ納稅ノトキニ限リ拂方ニ制限ヲ超過スルモ金庫ニ於テ之ヲ受領スルコトヲ得ル様御考慮ヲ蒙ラハ獨リ納稅人ノ便利ナルノミナラス一般金融上ニモ便利ヲ得ル大ナルヘキカト存候ニ付茲ニ狀況ヲ具シ此段申報候也

右ノ申報ニ依リ政府ハ既ニ補助貨集散ノ方法ヲ實行セルモ其趣旨尙ホ徹底セサルノ懸念アルヲ以テ八月一日ニ於テ大藏省理財局長ヲシテ各稅務管理局長並北海道廳長官各府縣知事及金庫ニ通知セシメタリ其趣旨並通知案左ノ如シ

別紙佐原稅務署長ヨリ東京稅務管理局長ニ對スル申報ハ補助銀貨ノ流通多額ニ相成候ニ付金庫ニ於テ制限外ノ補助貨ヲ受領セサルヨリ醬油造石稅納期ニ際シ爲ニ納稅人ノ不便ヲ受ケタルモノ一ニ止ラス或ハ息納ヲ促スノ恐アルヲ以テ今後金庫ニ於テ制限外ノ補助貨ヲ受領スルノ途ヲ開キタシト云フニ有之候處別紙參照略ノ通り政府ハ租稅其他ノ公納ニハ貨幣法第七條ノ制限ニ依ラス無制限ニ補助貨ヲ納入セシムルノ途ヲ開キ以テ補助貨ノ市場ニ溢ルルトキハ之ヲ國庫ニ吸收シ又不足ノ景況アルトキハ之ヲ支出スルコトニ御決裁相成居リ其集散配賦ニ最モ注意ヲ要シ候ニ就テハ中央金庫及大阪本金庫現在ノ補助銀貨ヲ各地本支金庫ニ送リテ一般ニ引換ヲ爲ス様便宜ノ方法ヲ以テ補助貨流通ノ普及ヲ謀ルヘキ旨金庫ニ達シ同時ニ右運送費ヲ三十一年度豫算ニ追加シ三十二年度概算額中ニ編入候事ニ相成居リ別紙佐原稅務署長上申ノ趣旨ノ通り金庫ハ補助貨ヲ無制限ニ受領スヘキ筈ニ候得共未タ右徹底不致向モ有之候様被存候條左案ノ通り各稅務管理局長並各府縣知事北海道廳長官金庫出納役へ御通知相成可然哉



案

貨幣法第七條補助貨幣受授制限ハ租稅其他ノ公納ニモ適用スヘキ様心得居ル向モ有之哉ニ  
存候處右第七條ハ民間取引上ニ於ケル小貨幣受授ノ制限ヲ設ケタルニ外ナラス金庫ニ於テ  
ハ租稅其他ノ公納ニハ無制限ニ小貨幣ヲ受領スヘキ儀ニ付爲念此段申進候也  
各稅務管理局長、北海道廳長官、各府縣知事宛

補助貨幣金庫受入ノ件ニ付別紙ノ通り各稅務管理局長並ニ北海道廳長官、各府縣知事へ通牒  
致候間此段及御通知候也

金庫出納役宛

補助貨流通ノ方針第二項即チ補助貨配賦ノ件ニ就テハ七月十四日金庫ニ於テ補助貨交換取扱手  
續ヲ定メ之ヲ商議セルニ依リ左ノ決議ヲ以テ其施行ヲ許可セリ  
貨幣ノ基礎ヲ鞏固ニスル爲メ民間日常ノ取引ニハ硬貨ヲ使用セシムルノ必要ヲ認メ壹圓ノ  
兌換券ヲ漸次引揚ケ其代リニ五拾錢、貳拾錢、拾錢ノ銀貨ヲ鑄造シ各地ノ市場ニ散布セシムル  
ノ計畫ヲ立テ以テ客年十月以降之カ施行ニ著手セシカ硬貨ハ紙幣ノ輕便ナルニ反シ其重量  
運搬ニ不便ナルニ依リ流通一方ニ偏シテ全國圓滿ニ普及セス故ニ或ル地方ニハ供給過多ヲ  
訴ヘ或ル地方ニハ不足ヲ告ク依テ熟考致候ニ元來貨幣法改正ノ結果トシテ一時右ノ如キ過  
不足ヲ生スルハ已ムヲ得サルコト故全國ニ平均セシムル爲メ各地不足ノ地方ハ交換元ヲ配

賦スルハ亦不得已コト、思考ス就テハ之カ方法ヲ日本銀行へ相談致置候處別紙ノ如ク各金  
庫へ通達スヘキ旨商議アリ目下ノ場合然ルヘキ手段ト存候ニ付施行可爲致ト存候  
但右運搬費ノ儀ハ別ニ交付ノ積リヲ以テ別紙何濟略ノ通り第十三議會ニ提出可致候

(別紙)

各地方へ補助貨普及方ノ儀ニ就テハ是迄申進置候次第モ有之候處目下ノ實況ニ依レハ或ル  
地方ニハ既ニ過分ニ有之候モ他ノ或ル地方ハ尙ホ缺乏ヲ告ケ日常ノ取引上ニ差支ヲ生シ居  
ル向有之哉ニ相聞候右ハ全ク交通不便ニシテ現金遞送上ニ鈔カラサル費用ヲ要スルカ爲ニ  
可有之被存候間當分本支金庫ニ交換基金トシテ補助貨ヲ備ヘ無手数料ヲ以テ一般需要者ニ  
交換ヲ許スノ途ヲ啓キ其他各金庫ニ於テ便宜ト認ムル方法ニ依リ補助貨ノ流通ヲ普及セシ  
メ候様致度候條左ノ手續ニ依リ可然御取扱相成度此段及御通達候也

補助貨交換取扱手續

第一條 補助貨以外ノ通貨ヲ以テ補助貨ト交換ヲ請求スルモノアルトキハ金庫(支金庫同權  
ナレ以下地)ハ其需ニ應スルモノトス

第二條 補助貨交換基金ハ本金庫ニ在テハ其請求ニ依リ中央金庫ヨリ又支金庫ニ在テハ其  
請求ニ依リ本金庫ヨリ回送スルモノトス但本金庫ヨリ中央金庫へ補助貨ノ回送請求ヲ爲  
ス場合ニハ交換基金ト普通仕拂基金ト區分スヘキモノトス

第三條 金庫ニ於テ收入セシ補助貨ハ其金庫ノ仕拂基金ニ不足セサル限りハ之ヲ交換基金  
ニ振換受入ル、モ差支ナキモノトス



第四條 本支金庫ハ補助貨受拂簿(舊式)ヲ設置シ補助貨ヲ交換基金トシテ受入(金庫收入金ヲ共)レタルモノ及交換ノ爲メ拂出シタルモノヲ各種類別ニ登記整理スルモノトス但金種類ノ交換ニ止マルモノハ現金出納原簿若クハ現金受拂簿ニハ登記セサルモノトス

第五條 本金庫ハ所屬支金庫ヨリ隨時報告ヲ徵シ其本支金庫ニ於テ取扱ヒタル補助貨交換基金ノ受拂及殘額竝ニ其流通景況ヲ詳細調査シ當分ノ間毎月十五日及月末ノ兩期ニ中央金庫ヘ報告(舊式)スルモノトス

第六條 本金庫ヨリ所屬支金庫ヘ交換基金トシテ補助貨ヲ回送セシ實費ハ明治二十三年七月二十二日第四十六號通達第五號書式本支金庫間銅貨遞送料請求書ニ準シ本支金庫間補助貨遞送料請求書(補助貨ノ區分)ヲ調製シ之ニ實費證書ヲ添付シ毎年四月及十月ノ兩期ニ中央金庫ヘ請求スルモノトス中央金庫ノ通知ニ依リ本金庫ヨリ他ノ本金庫ヘ回送セシ實費モ亦同シ

此ノ如ク金庫ニ於テ補助貨ノ交換方ヲ定メ之ヲ需要スル者ニ對シ無手数料ニテ交換スルニ至リタルヲ以テ之ヲ獨リ金庫内ノ手續ニ止メス普ク人民ニ周知セシムルノ得策ナルヲ認メ同月三十一日ヲ以テ大藏次官ヨリ左ノ如ク北海道廳長官竝各府縣知事ヘ通知セリ

補助銀貨ノ流通過多ヲ訴フル地方有之候處調査ノ結果多クハ不足ヲ告ケ居候實況ニ付補助貨ノ流通ヲ普及セシムルノ趣旨ヲ以テ各地本支金庫ヲシテ無手数料ニテ一般需要者ニ交換セシメ候條貴管内人民ニ周知セシムルノ必要モ可有之ト存候間爲念此段及御通知候也  
補助貨流通ノ方針即チ補助貨遞送料ニ就テハ明治三十一年四月十六日ヲ以テ其費用ヲ第十三議

會ニ提出スルニ決セリ其趣旨左ノ如シ

貨幣制度改正ノ結果幣制ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル爲メ民間ノ小取引ニハ五拾錢以下ノ硬貨ヲ專ラ通用セシムルコトニ御裁定相成三十年度以降ニ於テ補助銀貨四千萬圓鑄造ノ御計畫ニテ既ニ三十年度ニ千萬圓ハ鑄造済ト相成三十一年度ニハ貳千萬圓製造ノ筈ニ有之候處現今造幣局ノ工程ニテハ三十一年度ニ千參百萬圓ノ外鑄造出來兼候得共右鑄造済ノ分ヲ山間僻陬ノ地ニ至ル迄洽ネク流通セシメントスルニハ機關ノ作用ニ依リ全國一般ノ市場ヘ放下セサルヲ得ス隨テ各地方ヘ現貨ノ遞送ヲ必要トスルニ付其費用ヲ取調候處別紙略ノ通り補助銀貨各地ヘ回送總額五百六拾餘萬圓ニ對シ遞送費參萬餘圓ノ趣ニ之有故ニ三十一年度ニ鑄造スルモノ、内千萬圓ヲ各地ヘ散布スルニハ大約六萬圓ノ費用ヲ要シ候間之ヲ一般會計ヨリ支出ノ儀此臨時議會ニ要求致度候得共臨時議會ニ於ケル追加豫算額ハ最早閣議御決定後ノコトニ付次ノ通常議會ニ於テ此等ノ費用ヲ追加豫算トシテ要求相成可然哉此段豫メ相伺置候也

既ニ補助貨幣遞送費ヲ要求スルニ決セシカ當時造幣局鑄造済ノ補助貨中央及大阪ノ兩金庫ニ堆積セシニ依リ差當リ之ヲ各地本支金庫ヘ適宜回送セシメ市場ニ散布スルニ決シ六月二十八日ヲ以テ之ヲ理財局長ヨリ金庫ニ通達セリ其趣旨竝通達案左ノ如シ

市場流通ノ壹圓兌換券ヲ收縮シテ民間小取引ニハ五拾錢以下ノ補助銀貨ヲ以テ普ク通用セシメラル、御主旨ニ依リ造幣局ニ於テ鑄造済ノ分ニシテ追々國庫ニ受入レ今ヤ五拾錢銀貨幣ノミニテモ中央及大阪ノ兩庫ニハ凡五百萬圓ノ堆積有之候處目下全國ノ大體ヲ通觀スル







| 舊銅貨 |   |    |   |    |   | 新銅貨 |   |    |   |    |   |   |   |   |
|-----|---|----|---|----|---|-----|---|----|---|----|---|---|---|---|
| 皆   | 僅 | 稍  | 不 | 稍  | 過 | 皆   | 僅 | 稍  | 不 | 稍  | 過 |   |   |   |
| 無   | 少 | 不足 | 足 | 過多 | 多 | 無   | 少 | 不足 | 足 | 過多 | 多 |   |   |   |
| ○   | 五 | ○  | 五 | 二  | 六 | 一   | 二 | 八  | ○ | 五  | 三 | 一 | 二 | 三 |
| ○   | 五 | ○  | 八 | ○  | 三 | 二   | 二 | 九  | ○ | 一  | 一 | 一 | 二 | 四 |
| ○   | 五 | ○  | 四 | 一  | 五 | 一   | 三 | 一  | ○ | 一  | 三 | 六 | 二 | 七 |
| ○   | 五 | ○  | 四 | ○  | 七 | ○   | 三 | 一  | ○ | 一  | ○ | 八 | ○ | 九 |
| ○   | 六 | ○  | 三 | 二  | 五 | ○   | 三 | 一  | ○ | 三  | 一 | 四 | 三 | 六 |
| 二   | 三 | ○  | 一 | 二  | 五 | ○   | 三 | 四  | ○ | ○  | ○ | 一 | 四 | 一 |
| ○   | ○ | ○  | 四 | 三  | 七 | ○   | 三 | 三  | ○ | ○  | ○ | 一 | 四 | 二 |

前表ニ依レハ補助銀貨ノ流通景況ハ明治三十年ノ當初府縣中適度ヲ報スル地方僅ニ四縣ニシテ不足ヲ告クル地方三十五ノ多キニ達シ一般ニ補助銀貨ノ缺乏ヲ示セシカ爾來次第ニ潤澤ヲ來シ七月乃至九月ノ交ニ於テハ適度ノ地方二十五ノ多キニ達シ不足ノ地方九ニ減少セリ然ルニ年末

ニ至リ適度ノ地方少シク減シ不足ノ地方大ニ増加シ補助銀貨ノ需要ヲ増セシカ明治三十一年ノ初ニ於テ再ヒ適度ノ程度ニ回復シ不足ノ地方三ニ過キサルニ至リ又同四月乃至九月ニ於テ稍過多ノ觀ヲ呈セリ白銅貨新舊銅貨ニ就テモ明治三十年ノ初ハ流通額缺乏ノ景況ナリシカ漸次適度ノ域ニ達シ年末ニ於テ少シク需要ヲ増加シ明治三十一年ノ初ニ於テ再ヒ之ヲ回復セシモ同四月乃至九月ニ於テハ是レ亦稍過多ノ觀ヲ呈セリ

此ノ如ク明治三十年ノ初ニ於テ一般ニ補助貨ノ缺乏ヲ告ケシハ地方ニ依リ特種ノ原因アルヘシト雖モ之ヲ通シテ一般ノ原因ト認ムヘキモノヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一 明治二十七八年戰役ノ際ヨリ補助貨ノ朝鮮支那臺灣へ輸送セラレタルコト
- 二 明治二十七八年戰役ノ後ニ於テ農工業ノ勃興ノ結果勞力ノ需要増加ニ伴ヒ勞銀仕拂ニ多額ノ補助貨ヲ要セシコト
- 三 農工業ノ勃興ト共ニ商業活潑トナリ國民一般生計ノ度ヲ高メ購買力ノ増加セルト諸物價ノ騰貴セルト之ニ加フルニ補助貨使用者ノ増加ニ從ヒ補助貨取引ノ頻繁ヲ來セルコト
- 四 漸次交通ノ便開クルニ從ヒ山間僻陬ノ地ニ在リテモ物品交換ヲ以テ日常ノ必需ヲ充テタルモノモ小貨幣ヲ使用スルニ至レルト近來農業者ノ餘裕ヲ生スルニ至レルヲ以テ新鑄貨幣ヲ得レハ之ヲ愛貯貯藏スルノ傾アルコト
- 五 明治二十五年來全國風水ノ爲メ被害地多ク爲ニ復舊工事起リ工夫ノ必要ヲ生スルト共ニ之カ勞銀仕拂上補助貨ノ多額ノ必要ヲ生シタルコト
- 六 補助紙幣引上ケノ結果小貨幣ノ必要ヨリシテ缺乏ヲ感セシコト



然ルニ貨幣法發布以來補助貨増鑄ノ計畫ヲ立テ務メテ之ヲ普及セシメタルヲ以テ漸次流通ノ適度ヲ來シ明治三十一年ニ至リテハ或ハ却テ過多ヲ訴フルニ至リタルモノトス更ニ補助貨ノ便否ニ就キ調査スルニ銀貨ニ於テハ拾錢貳拾錢ヲ以テ最モ便トシ五錢五拾錢ヲ以テ最モ不便トス白銅貨ニ於テハ各地一般ニ便利トシ新銅貨ニ於テハ壹錢半錢ヲ便トシ貳錢壹厘ヲ不便トス又舊銅貨ニ於テハ壹厘貳厘ヲ便トシ文久錢ヲ最モ不便トス左ニ參照トシテ明治四年新貨發行以後正貨流通高表及正貨發行總高表ヲ添付ス

自明治四年新貨發行 正貨流通高表

| 年次種類 | 正貨        |           |           | 國內  |           | 現在        |    | 兌換銀行券準備正貨高 |           | 實際流通高 |
|------|-----------|-----------|-----------|-----|-----------|-----------|----|------------|-----------|-------|
|      | 金貨        | 壹圓銀貨      | 補助銀貨      | 白銅貨 | 新銅貨       | 合計        | 金貨 | 銀貨         |           |       |
| 明治四年 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0   | 1,000,000 | 1,000,000 | 0  | 0          | 1,000,000 |       |
| 同五年  | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0   | 1,000,000 | 1,000,000 | 0  | 0          | 1,000,000 |       |
| 同六年  | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0   | 1,000,000 | 1,000,000 | 0  | 0          | 1,000,000 |       |
| 同七年  | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0   | 1,000,000 | 1,000,000 | 0  | 0          | 1,000,000 |       |
| 同八年  | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0   | 1,000,000 | 1,000,000 | 0  | 0          | 1,000,000 |       |
| 同九年  | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0   | 1,000,000 | 1,000,000 | 0  | 0          | 1,000,000 |       |
| 同十年  | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0   | 1,000,000 | 1,000,000 | 0  | 0          | 1,000,000 |       |
| 同十一年 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0   | 1,000,000 | 1,000,000 | 0  | 0          | 1,000,000 |       |

|       |           |           |           |   |           |           |   |   |           |
|-------|-----------|-----------|-----------|---|-----------|-----------|---|---|-----------|
| 同十二年  | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 |
| 同十三年  | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 |
| 同十四年  | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 |
| 同十五年  | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 |
| 同十六年  | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 |
| 同十七年  | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 |
| 同十八年  | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 |
| 同十九年  | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 |
| 同二十年  | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 |
| 同二十一年 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 |
| 同二十二年 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 |
| 同二十三年 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 |
| 同二十四年 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 |
| 同二十五年 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 |
| 同二十六年 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 |
| 同二十七年 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 |
| 同二十八年 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 |
| 同二十九年 | 1,000,000 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 0 | 1,000,000 |



| 年次    | 金貨幣       | 壹圓銀貨幣 | 補助銀貨幣 | 白銅貨幣 | 銅貨幣 | 合計        |
|-------|-----------|-------|-------|------|-----|-----------|
| 明治三十年 | 4,999,999 | 0     | 0     | 0    | 0   | 4,999,999 |
| 同三十一  | 4,999,999 | 0     | 0     | 0    | 0   | 4,999,999 |
| 同三十二  | 4,999,999 | 0     | 0     | 0    | 0   | 4,999,999 |
| 同三十三  | 4,999,999 | 0     | 0     | 0    | 0   | 4,999,999 |
| 同三十四  | 4,999,999 | 0     | 0     | 0    | 0   | 4,999,999 |
| 同三十五  | 4,999,999 | 0     | 0     | 0    | 0   | 4,999,999 |

備考

一 正貨現在高ハ發行高ヨリ貯蓄高引揚高及純輸出高ヲ差引タルモノニシテ  
 明治三十年以降ニ於ケル舊金貨ハ貨幣法ニヨリ倍位計算シ各其年末日ノ  
 現在高ヲ揚ク  
 一 兌換銀行券正貨準備高銀貨中明治十八年ヨリ明治十九年マテハ洋銀ヲ含  
 ムト雖モ日本銀行ニ於テ之ヲ區別スル能ハサルニ由リ其儘掲出ス

自明治三十四年新貨發行正貨發行總高表

| 年次   | 金貨幣       | 壹圓銀貨幣     | 補助銀貨幣     | 白銅貨幣 | 銅貨幣       | 合計         |
|------|-----------|-----------|-----------|------|-----------|------------|
| 明治四年 | 2,666,639 | 2,740,245 | 1,499,331 | 0    | 0         | 6,906,215  |
| 同五年  | 2,630,357 | 2,668,049 | 3,858,535 | 0    | 0         | 9,156,941  |
| 同六年  | 4,671,333 | 3,685,049 | 7,615,903 | 0    | 1,301,400 | 16,273,685 |

| 年次    | 金貨幣       | 壹圓銀貨幣      | 補助銀貨幣     | 白銅貨幣 | 銅貨幣       | 合計         |
|-------|-----------|------------|-----------|------|-----------|------------|
| 同七年   | 4,999,999 | 4,617,055  | 9,680,884 | 0    | 4,386,661 | 19,683,599 |
| 同八年   | 5,033,810 | 4,863,953  | 1,011,067 | 0    | 1,311,594 | 12,220,424 |
| 同九年   | 5,108,699 | 6,378,583  | 1,433,800 | 0    | 1,330,897 | 14,252,979 |
| 同十年   | 5,198,859 | 7,530,855  | 1,706,966 | 0    | 1,446,715 | 15,883,435 |
| 同十一年  | 5,230,566 | 8,679,394  | 1,912,776 | 0    | 1,552,801 | 17,375,537 |
| 同十二年  | 5,262,273 | 10,592,712 | 1,914,136 | 0    | 1,668,919 | 19,438,040 |
| 同十三年  | 5,293,980 | 12,506,030 | 1,915,496 | 0    | 1,785,037 | 21,500,543 |
| 同十四年  | 5,325,687 | 14,419,348 | 1,916,856 | 0    | 1,901,155 | 23,562,046 |
| 同十五年  | 5,357,394 | 16,332,666 | 1,918,216 | 0    | 2,017,273 | 25,623,549 |
| 同十六年  | 5,389,101 | 18,245,984 | 1,919,576 | 0    | 2,133,391 | 27,685,052 |
| 同十七年  | 5,420,808 | 20,159,302 | 1,920,936 | 0    | 2,249,509 | 29,746,555 |
| 同十八年  | 5,452,515 | 22,072,620 | 1,922,296 | 0    | 2,365,627 | 31,808,058 |
| 同十九年  | 5,484,222 | 23,985,938 | 1,923,656 | 0    | 2,481,745 | 33,869,561 |
| 同二十年  | 5,515,929 | 25,899,256 | 1,925,016 | 0    | 2,597,863 | 35,931,064 |
| 同二十一年 | 5,547,636 | 27,812,574 | 1,926,376 | 0    | 2,713,981 | 37,992,567 |
| 同二十二年 | 5,579,343 | 29,725,892 | 1,927,736 | 0    | 2,830,099 | 40,054,070 |
| 同二十三年 | 5,611,050 | 31,639,210 | 1,929,096 | 0    | 2,946,217 | 42,115,573 |
| 同二十四年 | 5,642,757 | 33,552,528 | 1,930,456 | 0    | 3,062,335 | 44,177,076 |



|        |             |            |           |          |           |           |
|--------|-------------|------------|-----------|----------|-----------|-----------|
| 明治二十五年 | 六四、五三、四七三   | 九七、七〇、四二〇  | 二六、三三、五三三 | 四、七六、七五五 | 一一、四一、八〇五 | 二〇、五五、五九一 |
| 同 二十六年 | 六五、八三、七五九   | 一〇八、一〇、三九七 | 二八、二四、三三四 | 五、一〇、三三九 | 一一、四一、八〇五 | 二〇、五五、五九一 |
| 同 二十七年 | 六七、二九、〇五六   | 一一八、六八、二一三 | 三〇、二四、三三四 | 五、八三、七三三 | 一一、四一、八〇五 | 二〇、五五、五九一 |
| 同 二十八年 | 六八、八〇、七二九   | 一二〇、七九、九七三 | 三二、六二、四三三 | 六、八八、八四八 | 一一、四一、八〇五 | 二〇、五五、五九一 |
| 同 二十九年 | 六九、九四、四二九   | 一二二、二八、二三八 | 三四、九一、七三三 | 七、一四、四三三 | 一一、四一、八〇五 | 二〇、五五、五九一 |
| 同 三十年  | * 七〇、一〇、五三三 | 一二五、三三、七三〇 | 三六、九三、三三三 | 七、六五、五八八 | 一一、四一、八〇五 | 二〇、五五、五九一 |
| 同 三十一年 | * 七〇、一〇、五三三 | 一二五、三三、七三〇 | 三六、九三、三三三 | 七、六五、五八八 | 一一、四一、八〇五 | 二〇、五五、五九一 |
| 同 三十二年 | * 七〇、一〇、五三三 | 一二五、三三、七三〇 | 三六、九三、三三三 | 七、六五、五八八 | 一一、四一、八〇五 | 二〇、五五、五九一 |
| 同 三十三年 | * 七〇、一〇、五三三 | 一二五、三三、七三〇 | 三六、九三、三三三 | 七、六五、五八八 | 一一、四一、八〇五 | 二〇、五五、五九一 |
| 同 三十四年 | * 七〇、一〇、五三三 | 一二五、三三、七三〇 | 三六、九三、三三三 | 七、六五、五八八 | 一一、四一、八〇五 | 二〇、五五、五九一 |
| 同 三十五年 | * 七〇、一〇、五三三 | 一二五、三三、七三〇 | 三六、九三、三三三 | 七、六五、五八八 | 一一、四一、八〇五 | 二〇、五五、五九一 |

第九項 壹圓銀貨ノ引揚  
第一目 壹圓銀貨引揚ノ準備

備考  
一 明治三十年以降發行セル新金貨ハ\*印ヲ以テ之ヲ示ス  
一 明治三十一年以降壹圓銀貨ノ通用廢止セラレタルヲ以テ之ヲ掲出セズ

貨幣法實施ニ關シ當局者ノ最モ困難ヲ感セシモノ蓋シ壹圓銀貨ノ處分是ナリ然ルニ其計畫ハ著效ヲ奏シ速ニ之カ結了ヲ見ルニ至レリ以下其處分ノ顛末ヲ記述スヘシ  
貨幣法第十六條ニ於テ從來發行ノ壹圓銀貨ハ金貨幣壹圓ノ割合ヲ以テ政府ノ都合ニ依リ漸次之ヲ引換フヘシト規定シ明治三十年十月一日ヨリ實施スルコト、シ又貨幣法ト共ニ貨幣整理資金特別會計法ヲ發布シ壹圓銀貨及流通不便貨幣ノ引換交換ニ要スル資金ヲ設ケタリ是ニ於テ政府ハ壹圓銀貨引換ニ供スル新金貨ノ鑄造ニ從事シ專ラ引換準備ノ方法ヲ講セシカ同年七月初旬ニ當リ我開港場ニ於ケル外國銀行中ニハ我貨幣法ノ實施ニ疑念ヲ抱クモノアリ各得意先ニ對シ左ノ如キ通知ヲ發スルニ至レリ

本年十月一日以降各銀行ヨリ仕拂フ金種類ハ各銀行隨意ニ擇ヒ金貨又ハ銀貨ヲ以テ拂渡スヘシ云々

此ノ如キ通知ハ其得意先ヲシテ我貨幣法ノ實施ニ疑惑ヲ懷カシメ或ハ爲替相場ニ金銀兩様ノ相場ヲ立ツルカ或ハ銀ニ近キ相場ヲ立ツルノ恐アリシヲ以テ大藏省ハ七月十日ニ於テ壹圓銀貨ノ引換ニ付日本銀行ヲシテ左ノ方針ヲ採ラシムルコトニ決セリ

- 一 本年十月一日ニ至リ日本銀行及正金銀行ニ所有スル銀貨ハ悉皆政府ノ金貨ト交換セシムルコト
- 二 各港在留外國銀行ノ所有スル所ノ壹圓銀貨ハ本年十月一日以降ハ無限ニ金貨ト交換セシムルコト但シ此取扱ハ日本銀行ヘ命スルコト
- 三 前項ノ如ク施行スルニ就テハ橫濱神戶正金銀行本支店ノ取引ニハ總テ金貨ヲ以テ仕拂



ヲ爲サシムルコト

四 日本銀行總裁ハ外國銀行ニ於テモ金貨ヲ以テ仕拂ヲ爲ス様ニ周旋ノ勞ヲ取ルコト  
右ノ決議ニ基キ大藏大臣ハ七月十五日ヲ以テ左ノ如ク日本銀行ニ内達セリ  
本年十月一日ヨリ貨幣法實施可相成ニ就テハ目下市場ニ流通スル所ノ壹圓銀貨ハ左ノ順序ニ  
依リ交換方取計フヘシ

- 一 本年十月一日ニ於テ其行ニ所有スル所ノ壹圓銀貨竝ニ同日以降其行へ收納スル所ノ壹圓銀貨ハ總テ國庫ニ就キ金貨ト交換スヘシ
  - 二 橫濱正金銀行又ハ本邦各開港場ニ於ケル外國銀行等ニ於テ本年十月一日以後所有スル所ノ壹圓銀貨ハ其所有者ヲシテ成ルヘク金貨ト交換セシムヘシ
  - 三 橫濱正金銀行本支店ニ於ケル仕拂ハ其行代理事務上ニ於ケルト否ヤト問ハス本年十月一日以後ハ總テ金貨ヲ以テ執行セシムヘシ
- 右壹圓銀貨ヲ金貨ニ交換ノ儀ハ我貨幣法實施上大ニ注意ヲ要スヘキ點ニシテ壹圓銀貨ヲ金貨ニ交換スル上ニ於テ敏活ヲ失シ之カ爲メ萬一ニモ金銀間ニ相場ノ差ヲ生スルカ如キ事有之候テハ容易ナラサル儀ニ付貨幣法實施ノ前後ハ殊ニ注意ヲ加ヘ橫濱正金銀行へモ篤ト協議ヲ遂ケ外國銀行等ノ内情ヲ視察シ壹圓銀貨ノ引揚ヲシテ宜シキヲ得セシメ候様取計フヘシ
- 右豫メ及内達候也

此内達ニ依リ日本銀行ハ夫々準備スル所アリ隨テ橫濱正金銀行ハ日本銀行ト協議ノ上七月十九

日ヲ以テ左ノ回章ヲ各得意先ニ發シタリ

拜啓本年十月一日以後ハ當銀行ノ負擔ニ歸シ又ハ歸スヘキ債務ハ假令銀貨ヲ以テ御約束致候トモ金貨ヲ以テ御仕拂可申又銀貨ハ受取申候得共正貨ノ仕拂ニハ之ヲ用ヒ不申候右御承知相成度候也

追テ當銀行ハ前記期日以後日本銀行ノ兌換銀行券ハ請求次第如何ナル金額マテモ金貨ニ引換候様命セラレ居候

此等ノ方針ニ依リ一時外國人間ニ横ハリシ貨幣法實施ニ關スル疑惑ハ爾來其形跡ヲ絶チ爲替相場モ亦正當ニ近キ價位ヲ示スニ至レリ

其後壹圓銀貨ノ引換ニ充ツヘキ新金貨ノ鑄造漸次其歩ヲ進メ且ツ引揚圓銀ノ補充ニ供スヘキ補助貨ノ鑄造モ亦整フニ至リタルヲ以テ大藏大臣ハ九月二日ヲ以テ壹圓銀貨ノ通用ヲ明治三十一年四月一日限リ禁止スルノ議ヲ閣議ニ提出セリ其議左ノ如シ

明治三十年法律第十六號貨幣法第十六條第二項ニ依リ從來發行ノ壹圓銀貨幣ハ當分ノ内通用セシムルコトニ相成居候處引換ニ供スヘキ金貨ノ準備モ既ニ整ヒ又補助銀貨ノ鑄造モ出來シタルニ依リ壹圓銀貨幣ヲ引揚ケ候共民間取引上ニ不便ヲ來スノ恐無之依テ壹圓銀貨幣ハ明治三十一年四月一日限リ其通用ヲ禁止スルコト、爲シ貨幣法第十六條第二項ニ依リ六箇月前即チ本年十月一日ニ於テ右禁止ノ勅令公布相成可然ト存候依テ別紙勅令案ヲ具シ茲ニ之ヲ閣議ニ提出ス

(別紙)



從來發行ノ壹圓銀貨幣ハ來ル明治三十一年四月一日限り其通用ヲ禁止ス  
 又壹圓銀貨ノ内外流通景況ヲ調査セシニ成ルヘク速ニ之ガ引換ヲ結了スルノ必要アルヲ認メタ  
 リ然ルニ貨幣法ノ規定ニ依レハ其第十六條ニ壹圓銀貨ノ引換期限ヲ通用禁止ノ翌日ヨリ起算シ  
 滿五箇年トシ引換期限甚タ長キニ失スルヲ以テ之ヲ短縮シ通用禁止後三箇月即チ明治三十一年  
 六月三十日限リト爲スノ議ヲ決シ同日右法律案ヲ閣議ニ提出セリ其議左ノ如シ  
 壹圓銀貨幣ノ儀ハ本年法律第十六號貨幣法第十六條第二項ニ依リ通用禁止後滿五箇年間ヲ  
 引換期限ト定メラレ候得共爾後其流通ノ景況ニ徴スルニ可成速ニ其引換ヲ結了スル方利便  
 ト存候ニ付別ニ提出セシ勅令案ニ依リ壹圓銀貨幣ノ通用ヲ明治三十一年四月一日限り禁止  
 セラレ其引換期限モ亦明治三十一年六月三十日限リニ短縮スル方可然ト存候尤モ此ノ如ク  
 引換期限ヲ短縮致候テモ内外ノ交換上ニハ別ニ差支ヲ來サ、ルノ見込ニ有之候依テ別紙法  
 律案ヲ具シ茲ニ之ヲ閣議ニ提出ス

(別紙)

壹圓銀貨幣ノ引換ハ明治三十一年六月三十日限リトス

前項期限内ニ引換ヲ請求セサルモノハ爾後地金トシテ取扱フヘシ

理由

壹圓銀貨幣ハ成ルヘク速ニ引揚クルヲ以テ貨幣整理上ノ利便ト爲スニヨリ本年勅令第何  
 號ヲ以テ明治三十一年四月一日限り其通用ヲ禁止セラレタリ就テハ其引換期限モ亦之ヲ  
 短縮シ明治三十一年六月三十日限リト定メントス之ヲ内外流通ノ狀況ニ徴スルニ交換上

不便ナキモノト認ム是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

之ニ依リ九月十八日勅令第三百三十八號ヲ以テ壹圓銀貨ノ通用ヲ禁止スルコトヲ定メタリ其勅  
 令ハ即チ左ノ如シ

從來發行ノ壹圓銀貨幣ハ來ル明治三十一年四月一日限り其通用ヲ禁止ス

是レヨリ先キ壹圓銀貨引換實施ノ期日近ツクヤ之カ準備ニ就キ大藏大臣ハ九月七日ヲ以テ左ノ  
 如ク金庫出納役ニ内達セリ

一 從來發行ノ壹圓銀貨幣ハ本年十月一日以後之ヲ新金貨ト交換スル積リヲ以テ夫々準備  
 フ爲スヘシ

一 前項ノ交換ハ専ラ中央金庫ニ於テ取扱フ積リナレトモ各地ニ於テ交換ヲ望ムモノアル  
 トキハ各地本金庫ニ於テ之ヲ取次キ交換基金ノ廻送ヲ受ケ交換方取計フヘシ  
 但横濱神戸ハ日本銀行代理店ナル横濱正金銀行本支店ニ於テ交換取次ヲ爲ス機ト心  
 得ヘシ

一 壹圓銀貨幣ノ交換基金ニ充ツヘキ新金貨幣ハ曩ニ日本銀行ノ名義ニテ造幣局へ輸納セ  
 シ金塊ヲ以テ製造シタル新金貨幣四千參百萬圓ヲ日本銀行へ假渡ヲ爲サシメ之ヲ日本  
 銀行ヨリ大阪本金庫へ假納セシメ同金庫ハ之ヲ雜部へ受入レ本月末迄ニ夫々配賦方取  
 計フヘシ

但造幣局及日本銀行へハ別紙略ノ通相達シタルニ依リ右ニ依リ受授ヲ取計フヘシ  
 一 前項日本銀行ヨリ大阪本金庫へ假納セシ新金貨幣ニ對スル決算ハ本年十月一日以後ニ



至リ之ヲ整理スヘシ

壹圓銀貨引換ノ準備ヲ爲スニ當リ清國ニ於ケル我國銀貨製造ノ件ニ關シ兵庫縣知事ヨリ兼テ探偵ノ爲メ上海ヘ派遣セシ者ノ報告ヲ得テ之ヲ大藏省ニ内報セリ其報告ニ曰ク當地(上海)ノ銀貨相場ハ非常ニ下落セシヨリ本邦壹圓銀貨ハ幣制改革ノ結果金貨ヲ以テ交換セラル、ニ依リ俄ニ其價格ヲ騰貴シ爲ニ香港地方ニ於テハ廉價ノ銀地金ヲ以テ圓銀ト全ク同一ノモノヲ鑄造シ之ヲ我邦ニ輸入シ金貨ト交換セハ利益少カラサルヨリ從來ノ如キ贋造手段ヲ廢シ眞貨ト同一ノモノヲ鑄造スル手段ニ出テ巨利ヲ博スル準備ヲ爲スモノアリトノ風説アリト當時銀價甚シク下落セシヲ以テ大藏省ニ於テモ此等ノ企圖亦敢テ無稽ニアラサルヘシト認メ一方ニハ東洋各地ノ領事ニ通牒シテ警戒ヲ加ヘ一方ニハ十月一日以後内地ニ於テ圓銀引換ノ際其鑑定ヲ嚴重ニスヘキ必要ヲ認メ九月八日ヲ以テ其鑑定方竝ニ引換濟圓銀ノ取扱方ニ付造幣局及金庫出納役ニ内達セリ其趣旨竝ニ金庫出納役ヘノ内達左ノ如シ

本年十月一日ヨリ貨幣法實施相成從來發行ノ壹圓銀貨ハ金貨ト交換引揚ノ儀御決定ニ相成候處近時海外ニ於テ我壹圓銀貨ヲ贋造偽造變造シ(枚數目品位等總テ眞貨ト同一ノモノ云フ)又ハ壹圓銀貨ヲ二ツニ割リ内部ノ銀分ヲ削リ取り代リニ他ノ金屬ヲ填込ミ外見眞正壹圓銀貨ノ如ク裝ヒ使用スルモノアリ右等ハ交換ノ際充分鑑定ヲ要シ候ニ付其心得方金庫出納役ヘ相達置度又右引揚ケタル壹圓銀貨ハ別ニ鑄潰スニモ及間敷乍去果シテ眞貨ナルヤ否ヤハ一應造幣局ニ於テ鑑定セシメ候方可然ト存候間引揚壹圓銀貨ハ悉皆造幣局ヘ輸納セシメ其眞貨ニハ同局ニ於テ極印ヲ打チ國庫ニ貯ヘ置度候尤モ右極印製造方ハ造幣局ヘ問合セ候處原

版彫刻ニ一週間ヲ要シ其上ハ毎日三十個ヨリ五十個ノ極印版ヲ製造スルハ容易ニシラ凡ソ一版ニテ五六千枚マテハ使用シ得ヘク押印モ一日ニ五六千枚宛打込ミ得ルトノ事ニ有之候間強チ巨多ノ手數及費用等モ要セサル儀ト存候依テ同局ヘモ鑑定押印方御下命相成度御内達案(後ニ出ツ)相添此段相伺候也

金庫出納役ヘノ内達

壹圓銀貨ノ鑑定竝ニ引換濟壹圓銀貨ノ取扱方左ノ通心得ヘシ

- 一 來ル十月一日ヨリ壹圓銀貨ヲ新金貨ト引換候ニ就テハ引換ノ際壹圓銀貨ノ鑑定ハ最モ嚴重ニ取扱フヘシ
  - 二 近時壹圓銀貨ノ贋造偽造變造等尠カラス或ハ貨面ノ表裏ヲ剝キ内部ノ銀分ヲ削リ取り代ハリニ鑄又ハ他ノ金屬ヲ填込ミ一見眞貨ニ異ナラサルモノヲ製造スルモノアリ殊ニ甚シキニ至テハ近日量目品位紋樣等毫モ眞貨ト異ナラサルモノアリト其他種々ノ奸策ヲ施スモノアルモ難計ニ付其引換ノ際ニハ嚴密ニ鑑定シ贋造偽造變造等ノ銀貨ヲ受取ラサル様充分注意スヘシ
  - 三 多額ノ壹圓銀貨ヲ引換フルニ際シ之カ鑑定ニ長時間ヲ要スルトキハ其旨引換申込人ニ申入レ漸次引換方取計フヘシ
  - 四 引換濟ノ壹圓銀貨ハ漸次造幣局ヘ輸送シ同局ニ於テ極印ヲ押捺シ之ヲ金庫ニ保管スル儀ト心得ヘシ
- 但本文ノ出納ハ其時々令達スヘシ



壹圓銀貨鑑定方ニ就テハ尙ホ特ニ造幣局ニ照會シ其注意スヘキ點ヲ調査シ理財局長ヨリ九月十三日ヲ以テ左ノ如ク金庫出納役ニ通牒セリ

壹圓銀貨ノ眞贋鑑定方注意ノ點ニ付造幣局へ問合候處別紙ノ通回答有之候ニ付右御心得ノ爲メ及御通牒候也

追テ本件ハ各金庫交換取扱者ノ外可成他ニ洩レサル様御注意有之度此段申添候也

(別紙)

來ル十月一日ヨリ貨幣法實施相成從來發行ノ壹圓銀貨幣ハ漸次御引換可相成筈就テハ眞贋鑑定ノ儀ニ付御照會之趣了承然ルニ鑑定上特ニ注目スヘキ點ハ表面側面ノ丸點並刻ミ線等ニ有之即チ從來ノ經驗ニ依レハ贋造變造等ノ巧妙眞ヲ欺クヘキモノト雖モ概シテ圓形側面ノ刻ミ線及表面龍ヲ圍ミタル丸點若クハ縁際ノ馬ノ齒形等正整鮮明ナラス一見其邊ニ疑アルモノハ假令量目音響ニ差異ナキモ試驗分析上果シテ偽造又ハ變造タルコトヲ認メ候モノ多ク有之候詳細ハ別紙記述ノ通ニ付其邊へ專ラ御注意相成候外目視上他ニ簡易ノ方法有之間敷被存候此段及御回答候也

(別紙)

壹圓銀貨眞贋鑑定ノ際贋物ニハ概ネ左ノ缺點ヲ多少有スルコトヲ記臆スヘシ

- 一 模様文字鮮明ナラス極印凸凹ノ部分修飾ノ刀痕ヲ止ムルモノアリ
- 二 表面ノ丸線眞圓ナラス又個々ノ丸點眞圓ナラス且ツ大小不整ナルモノアリ
- 三 側面ノ刻ミ線不整ニシテ往々二線重ナリ合ヒタル部分アルモノアリ

四 兩面縁際ノ馬齒形不整ニシテ重ナリ合ヒタル部分アルモノアリ

五 貨幣ノ全體眞圓ナラサルモノアリ

六 音響惡シキモノアリ

尙ホ從來造幣局ニ於テ鑑定シタル眞造壹圓銀ノ數種ニ就テ之ヲ左ニ記述ス

黃銅又ハ劣等金屬臺ニ鍍銀セルモノ

此種類ハ多クハ鑄物製ニシテ鑄膚荒ハ色澤惡シク模様文字刻ミ線皆鮮明ヲ缺ケリ直徑ハ稍膨大ナル者アリ又概ネ歪圓ナリ稀ニハ鍍銀ニアラスニツケル鍍ナルモノアリ兩面眞物ニテ中心ニ陥ヲ入レタルモノ

此種類ハ外見眞物ト異ナラス顯微鏡ニテ見レハ兩面ノ合セ目ヨリ接合用錫鐵ノ流レタル跡ヲ認メ得ヘキモノアリ音響概シテ惡シク比重低シ

水銀入ノ地金ニテ造レルモノ

此種類ハ製造最モ巧妙ナルモノトス墨哥銀壹圓銀共ニ贋造アリ其色澤音響大ニ良シ切斷スルモ内部マテ同一色トス然レトモ極メテ微ナル黃色ヲ帶フルニ似タリ比重ハ眞物一〇三六ナルニ比シ稍輕ク一〇一二乃至一〇二四ナリ側面ノ刻ミ線及縁際ノ馬齒形往々重ナリ合セタル部分アリ

眞物ト同一品位ノ地金ヲ以テ造レルモノ及眞物ヨリ眞寫セルニアラスシテ新ニ彫刻シタル極印ヲ以テ壓寫セリト認ムルモノ

此種類ハ本局ニ於テ未タ發見セス



### 第二目 壹圓銀貨引揚ノ實況

壹圓銀貨引換ノ準備既ニ整ヒタルヲ以テ一般人民ノ引換方ニ付九月二十一日大藏省告示第六十一號ヲ以テ左ノ如ク告示セリ

從來發行ノ壹圓銀貨幣ハ本年十月一日以後漸次金貨幣ト引換フヘキニ付引換望ノ者ハ中央金庫ニ申出ツヘシ但横濱神戸ハ日本銀行代理店ナル横濱正金銀行本支店其他ノ各地ハ各本金庫ニ於テ引換ノ取次ヲ爲スヘシ

此告示ニ依リ金庫ニ於テ取扱フ壹圓銀貨ノ交換順序ハ同日ヲ以テ左ノ如ク金庫出納役ニ令達セリ

本年大藏省告示第六十一號ニ依ル十月一日以降貨幣法施行ニ伴フ壹圓銀貨幣交換順序別紙ノ通心得ヘシ

(別紙)

#### 壹圓銀貨幣交換順序

- 一 中央金庫ニ於テハ壹圓銀貨幣(買取以下同シ)ヲ持參シ金貨幣ト引換方請求スルモノアルトキハ直ニ金貨幣ヲ以テ引換方取計フヘシ
- 二 各地本金庫(大阪横濱神戸)ニ於テハ壹圓銀貨幣ヲ持參シ金貨幣ト引換方請求スルモノアルトキハ之ヲ領收(買取)ニ依ルモノハ相絶スルコト勿論トスシ適宜ノ預リ證書ヲ請求者ヘ交付シ而シテ代リ金貨幣ノ回送方ヲ中央金庫ヘ要求ノ上到着後右預リ證書ト引換ニ請求

者ヘ該金貨幣ヲ交付スヘシ

引換濟ノ壹圓銀貨幣ハ漸次中央金庫若クハ大阪本金庫ヘ回送スルモノトス

- 三 大阪本金庫ニ於テハ壹圓銀貨幣ヲ持參シ金貨幣ト引換方請求スルモノアルトキハ直ニ金貨幣ヲ以テ引換方取計フヘシ

横濱神戸ノ日本銀行代理店ニ於テモ前項ト同シク直ニ引換方差支ヘサル様取扱フモノトス

- 四 壹圓銀貨幣ヲ以テ各地本支金庫ニ就キ有合ノ通貨(金貨以外)ト引換ヲ望ムモノアルトキハ直ニ引換ヲ爲スヘシ(明治三十一年六月十四日逕ノ以テ)但本項ニ依リ引換ヘタル壹圓銀貨幣ハ單ニ金種類ノ交換ニ止メ金貨幣引換トシテ取扱ハサルモノトス又本項ニ依リ引換ヘタル壹圓銀貨幣其他本支金庫ニ收納シタル壹圓銀貨幣ハ之ヲ再ヒ支出セス漸次中央金庫若クハ大阪本金庫ヘ回送スルモノトス

- 五 大阪本金庫ニ於テハ第三項ニ依リ金貨幣ト引換ノ爲メ壹圓銀貨ヲ領收セシトキハ毎日之ヲ中央金庫ヘ報告スヘシ

- 六 金貨幣ト引換フヘキ壹圓銀貨幣ヲ受入レタルトキハ現金出納原簿科目ハ貸方壹圓銀貨交換受入トシテ整理シ代リ金貨幣ヲ拂出シタルトキハ同簿科目ハ借方壹圓銀貨交換代リ金貨拂出トシテ整理スヘシ

- 七 中央金庫ハ別紙書式(略)ノ報告書ヲ調製シ毎日大藏省ヘ差出スヘシ

- 八 各地ニ於テ第二項第三項ニ依リ受入レタル壹圓銀貨幣ヲ中央金庫若クハ大阪本金庫ヘ



回送スル費用及代リ金貨ノ回送費用ハ引換請求者ニ關係ナキモノトス

壹圓銀貨ノ引換ニ供スヘキ新金貨ハ既ニ金庫ニ假渡セシカ其種類ハ貳拾圓及拾圓ノ二種ニシテ五圓ノ金貨ハ之ヲ交付セサルニ依リ若シ十圓以下ノ交換ヲ請求スルモノアルトキハ如何ニ處分スヘキカニ付金庫出納役ハ九月二十八日ヲ以テ理財局長ニ宛左ノ如ク照會セリ

一 十月一日以後壹圓銀貨五個ヲ以テ金貨五圓ト交換ノ請求ヲ爲ス者ニ對シテハ如何ニ可取扱哉

一 十月一日以後壹圓銀貨ヲ以テ從來發行ノ金貨壹圓及貳圓ト交換ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ金庫ニ從來發行ノ金貨壹圓若クハ貳圓ノ分ヲ現在スル場合ト雖モ交換ノ請求ニ應セサル儀ニ有之候哉

一 壹圓銀貨通用禁止以前ニ於テ前兩項ニ該當スル交換ノ請求ヲ受ケタルトキ金庫ハ交換スヘキモノトナスモ金庫ニ金貨ナキ場合ニハ請求人ニ於テ金庫ノ在合セ貨幣ヲ以テ交換ヲ希望スル者ハ格別ノ儀ニ有之候得共其他ハ總テ拒絕スヘキ儀ニ有之候哉

右ニ對シ理財局長ハ即日左ノ如ク回答セリ

一 十月以後壹圓銀貨五個ヲ以テ金貨五圓ト交換ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ補助貨ヲ以テ拂渡スヘキコト

一 十月以後壹圓銀貨ヲ以テ從來發行ノ金貨壹圓及貳圓ト交換ノ請求ヲ爲ス者アルモ壹圓銀貨ハ新金貨ヲ以テ引換フヘキ見込ニ付總テ新金貨ヲ以テ拂渡シ拾圓未滿ノ場合ニハ前項ノ通補助貨ヲ以テ拂渡スヘキコト

一 壹圓銀貨通用禁止前ニ前兩項ニ該當スル交換ノ請求ヲ受ケタルトキ金庫ニ於テ五圓ノ金貨無之時ハ補助貨或ハ有合ヒノ貨幣ヲ以テ拂渡スヘキコト

此ノ如クシテ壹圓銀貨ノ引換ハ十月一日ヲ以テ貨幣法ノ實施ト共ニ開始セラレタリ  
壹圓銀貨ハ同日以後各地金庫ニ於テ金貨トノ引換取次ヲ爲スノミナラス之ヲ公納ニ收受スルモノナルカ其引換收受ノ際ニ於ケル眞贋鑑定方ニ就テハ既ニ九月ニ於テ金庫ニ令達スル所アリ當時清國地方ニ於テ眞貨ト紋様量目品位等總テ同一ノ貨幣ヲ製造スルノ内報アリ專ラ警戒中ナルヨリシテ其鑑定ヲ嚴密ナラシメタリ然ルニ金庫ニ於ケル鑑定嚴シ失シ眞貨ト雖モ極メテ些少ノ損傷ニ依リ之カ引換ヲ拒絕スルモノアルカ如キ苦情ヲ訴フルモノ少カラス十二月二十七日ニ至リ静岡縣知事ヨリ大藏大臣ニ宛左ノ如ク上申セリ

近來壹圓銀貨殊ニ明治三年發行壹圓銀貨ハ流通圓滑ナラス銀行又ハ商家ニ於テ之カ取引ヲ拒絕スル者有之趣相聞ヘ候ニ付實況調査候處本縣下ニ在ル支金庫ヨリ静岡本金庫タル第三十五銀行ニ對シ金貨引換ノ爲メ或ハ租稅納入等ニ際シ眞貨幣タル圓銀ニテモ瑕瑾アルモノハ何レモ之カ納入ヲ拒絕還付スル趣ニ有之然レトモ如何ナル種類ニ屬スルモノヲ以テ瑕瑾アルト爲スカノ點ニ至テハ其現物ヲ見ルニアラサレハ詳細ヲ答フル能ハストノコトヨリ支金庫タル銀行ニ於テハ其鑑定ニ苦ミ明治三年發行ノ圓銀中瑕瑾アリトシテ納入ヲ拒絕セラレ、モノ最モ多キ所ヨリ同年發行ノ圓銀ハ一切取引ヲ拒絕スル銀行ヲ生シ從テ商家ニ於テモ銀行トノ關係ヨリシテ一般圓銀ノ取引ヲ喜ハサルノミナラス明治三年發行ノ銀貨ハ壹圓銀貨ハ勿論補助貨タル五拾錢銀貨ヲモ取引ヲ拒絕シ其風漸ク縣下一般ニ及ハントスルノ狀



況ヲ呈シ銀貨流通ノ圓滑ヲ缺クノ虞アルヲ以テ静岡本金庫ニ就キ瑕瑾アリトシテ還付スル銀貨ノ種類調査爲致タル處本金庫ノ答フル所ハ現物ニ接セサレハ説明スル能ハサルモ凡ソ左ノ諸點ニ該當スルモノハ還付スル趣ニ有之候

- 第一 模様及文字鮮明ナラス極印凹凸ノ部分修飾ノ刀痕ヲ止ムルモノ
- 第二 表面ノ丸線眞圓ナラス又個々ノ丸點眞圓ナラス且ツ大小不整ナルモノ
- 第三 側面ノ刻ミ線不整ニシテ二線重リ合ヒタル部分アルモノ
- 第四 兩面縁際ノ馬齒形不整ニシテ重リ合ヒタル部分アルモノ
- 第五 貨幣全體眞圓ナラス音響惡シキモノ

前項ノ如キ本金庫ノ説明ナリト雖モ聞ク所ニ依レハ銀貨ノ表裏中銹傷即チ多少ノ凸線アルモノ或ハ僅々タル裂傷アルモノ等モ(明治三年發行ニ悉ク納入ヲ拒絕スル趣ニ有之而シテ拒絕ノ理由ハ贋造ナリトハ云ハス眞貨ナレトモ瑕瑾ノ爲メ眞價ナシト云フニアリテ瑕瑾ノ説明ヲ盡サ、ルヲ以テ銀行ハ勿論一般商家ニ於テモ鑑定ノ標準ニ苦ミ拒絕スルノ已ムヲ得サルニ至リタルモノ、如シ若シ今日ノ儘ニシテ經過セハ銀貨流通上至大ノ關係ヲ生スルニ至ルヘシト思料被致候ニ付現況及上申候也

右上申ニ對シ大藏省ハ直ニ其實況調査ヲ金庫出納役ニ照會セシニ金庫出納役ハ明治三十一年二月一日ヲ以テ左ノ如ク回答セリ

静岡本金庫ニ於テ壹圓銀貨(明治三十二年發行ノ分)ノ納入ヲ拒絕セシ儀ニ付調査ノ上且申可致旨御照會ノ趣了承右取調候處當該本金庫ニ於テハ壹圓銀貨ノ鑑定ニ付當庫ヨリ御省達ニ準據ン金庫

一般へ通達致置候壹圓銀貨鑑定取扱方ノ條項ニ依リ交換又ハ國庫收入取扱候趣ニ候尤モ客年十二月中所屬川崎支金庫ニ於テ明治三年發行銀貨ノ鑑定ヲ誤リ候事一回有之候由申出候モ静岡縣知事ノ上申トハ事實相違ノ廉モ有之候間別紙寫相添此段及御回答候也

(別紙)

本月二十一日付ヲ以テ當本金庫及各支金庫ニ於テ壹圓銀貨交換又ハ國庫收入ニ持參スルトキハ銹傷即チ多少ノ凸線アルモノ或ハ僅々タル裂傷アルモノ等ニハ假令眞貨ナリト雖モ瑕瑾ノ爲メ眞價ナシトシ拒絕スルヲ以テ市場一般ノ取引流通上圓滑ナラサル趣本縣知事ヨリ大藏大臣へ具申相成候ニ付テハ其顛末詳細可申出旨御照會相成拜承仕候右ハ金庫取扱上容易ナラサル儀ニ付篤ト調査ヲ遂ケ候處當本金庫ハ勿論所屬各支金庫ニ於テハ客年九月二十五日付圖第一三四一號ヲ以テ交換ニ接シタルトキハ殊ニ注意スヘキ御通牒ノ條項モ有之候ニ付各支金庫へモ夫々注意ヲ加ヘ候得共右御通牒ノ條項ニ該當スルモノ、外ハ凡テ無差支交換又ハ國庫收入ニ取計限ニ還付致候様ノ儀ハ無之尤モ客年十二月中一度川崎支金庫ニ於テ明治三年發行銀貨ニシテ鑑定ヲ誤リ正貨ナルヲ瑕瑾アリト認メ郡衙ノ納入ニ對シ取換ヲ需メタル事有之候由夫レカ爲メ管轄郡長ヨリ本縣警察本部へ照會トナリ同本部ヨリ本金庫へ該件照會相成候是ハ全ク同支金庫ノ不注意ヨリ生シタルニ依リ以後右様ノ不都合無之様篤ト鑑定上交換又ハ納入取計可申儀嚴達仕候處別紙寫略ノ通回答有之全ク一時鑑定ヲ誤リタルマテニシテ其後ハ決シテ右様ノ事無之候將タ壹圓銀貨ハ引上ノ爲メ交換ノ手數ノミナラス極印アルモノ或ハ贋造變造其他瑕瑾等ノモノ往々有之取引ヲ喜ハサルハ自然ノ結果ナ



リトス又五十錢銀貨モ壹圓銀貨ノ通用期限ト共ニ停止相成モノト誤認シ流通上圓滑ヲ缺キタル次第ニ有之候此段御回答申上候也

此回答ニ接シ大藏省ハ二月二十日ヲ以テ尙ホ實況調査方ヲ静岡縣知事ニ照會セシニ同知事ハ同二十三日ヲ以テ左ノ如ク回答シ以テ本件ヲ終了セリ

本月十日乾第三六〇號ヲ以テ静岡本金庫等ニ於ケル壹圓銀貨取扱方ノ儀ニ付御調査上川崎支金庫ニ於テ一回鑑定ヲ誤リタルノミニシテ一般人民ニ於テ取引ヲ喜ハサルハ偽造變造其他瑕瑾アルモノ往々アリ且又他ニ人民ノ誤認ニ出テタルコトアリテ不圓滑ヲ來スニ至リシモノニシテ本官ノ上申事實相違スル所アル旨申出タル趣ニテ再應調査方御申越ノ趣了承即チ本件調査ノ實狀左ニ

本件調査著手ノ起因ノ客年十二月三日日本縣榛原郡長ヨリ別紙寫略ノ如キ照會ニ接シタルノミナラス現ニ静岡市内ニ在テモ流通圓滑ナラサルヲ以テ本金庫所在地静岡警察署及川崎支金庫所在地相良警察署長ニ命シ調査爲致タル處別紙寫略ノ如キ申出アリ川崎支金庫ノ如キハ巡查部長巡查山本力カ現ニ支金庫ニ於テ出納ヲ取扱フ笠原某ニ就キ直接聞糾セル所ニシテ静岡本金庫ニ於テ撥出サレタル金員ノ仕拂ニ困ミ印紙賣下所ニ仕拂ヒ爾後之カ納入ヲ拒絶スルニ至リシハ稍明ナランカ且ツ山本巡查復命書ニアル大石謙三宛支金庫ノ書面ハ本人ニ於テ既ニ破棄シテ現存セサル趣ナルモ其書面ハ笠原某ノ發シタルモノニシテ文意ハ偽造變造ナリトハ云ハサルモ鑑定行届カサルヲ以テ受納シ難シト云フニ在リテ支金庫ニ於テ一回鑑定ヲ誤リタリト云フハ同人ニ返付セシ壹圓銀貨一個ヲ本廳ニ於テ一時ヲ受領シ本金

庫ノ鑑定ニ付シタルヲ以テ本支金庫ノ申出ハ其一個ノミヲ指シタルニハアラサルカ抑本件ハ静岡本金庫ニ於テ中央金庫ニ圓銀納付ノ際刻印等アル圓銀ヲ回付シ數個撥出サレタル事アル趣ニテ其際ヨリ頗ル嚴重ナル調査ヲ爲スニ至リシハ之ヲ以テ流通ノ不圓滑或ハ共邊ニ起因セシニハアラサヤト被察而シテ客年來本金庫ハ勿論一般人民ヨリ壹圓銀貨ノ偽造變造ハ一個モ届出ニ接セス且商家ノ云フ所モ銀行ニ於テ何故カ納入ヲ拒ムコト多キヲ以テ受納シ難シト云フニ在リ又縣下全般ノ調査上ニ依ルモ歸スル所本金庫ニ於テ撥出サレシコトヲ虞レ各銀行警戒ヲ加ヘ取引ヲ喜ハサルヨリ不圓滑ヲ來セリト云フニ在リ然レトモ縣下支金庫等ニ於テハ今日一切ノ取引ヲ拒絕スルモノハ之ナキニ至レリ

要スルニ事實ハ客年十二月二十七日上申書ト前述ノ如クニシテ更ニ相違ノ廉無之或ハ本金庫申出ノ如ク不圓滑ヲ起セシ起因ノ一部賈貨ニアリトスレハ本支金庫ニ於テ其手續ヲ盡ササルモノナランカト思料セラル、モ實際縣下ニ於テハ之ヲ發見セサルハ信シテ疑ハサルナリ或ハ事ノ茲ニ至リシハ中央金庫等ニ於テ撥出サレタルモノハ通貨トシテ使用シ得サルハ言フ俟タス故ニ其損失ニ歸スル賠償ハ取扱人ノ負擔タル趣ニ付取扱嚴密ト云ハンヨリハ寧ロ可成取扱ハサルニ若カストノ結果圓滑ヲ缺クニ至リシニハアラサヤトノ評アルモ金庫ニ於テ明ニ不流通貨幣タル説明ヲ與ヘス支金庫亦之ヲ陰ニ他ニ仕拂フカ如キ事實ニ胚胎シテ不圓滑トナリシハ事實ニ徴シ推定シ得ヘシト信ス

又長崎縣下ニ於テモ圓銀納稅ニ關スル金庫ノ鑑定方ニ付三月十五日ヲ以テ長崎稅務管理局長ヨリ主稅局長ニ宛左ノ如ク報告セリ



管内平戸稅務署ニ於ケル三十年度地租第四期分貳千參百六拾餘圓未納ノ狀況ニ關シ別紙ノ通該署長ヨリ報告有之又新聞紙上別ニ添付スル切抜ノ如キ記事有之事體稍容易ナラサルヲ以テ長崎本金庫ニ就キ其事由承合セシメタルニ平戸支金庫ヨリモ既ニ鑑定上ニ付打合來リ本金庫ノ取扱振ヲモ知了セル趣ナルヲ以テ將來重ネテ納稅上斯ル不都合之ナカルヘク存候得共不取敢此段及報告候也

(別紙)

三十年第四期田租未收入額非常ニ多キヲ以テ事實取調候處全ク納租人ノ滯納ハ僅々ナルモ圓銀ヲ以テ納付ニ際シ支金庫ニ於テ肉眼ヲ以テ認識シ得サル程ノ細微ノ瑕瑾ト雖モ顯微鏡ヲ以テ之ヲ鑑定シ既ニ受理セサル者無慮貳千參百六拾餘圓ニ及ヒ一時他ニ繰換金ノ途ナキヨリ不得已分納シタル次第ニ有之就中圓銀ヲ數多徵收セシ村役場ニ在テハ數百人ノ納租人ヨリ徵收シタルモノニ付何レヨリ受取リシヤ不明ナルノミナラス一旦收入セシ租金ナレハ金庫ノ受理セサルモノナリトテ之ヲ下戻若クハ引換ヲナス事能ハサルモノハ何レモ困難ノ情況ナルニ依リ受理セサル事由金庫へ質問ニ及候處右ハ貨幣法第十三條法文ノ範圍ニ於テ取扱ヲ爲シ眞實鑑定ハ勿論私ニ極印ヲ施シタルモノ及故意ニ毀傷セリト認メタル貨幣ニ限リ受理セサル次第ニテ從來ノ鑑定ハ簡易ノ取扱ナリシモ其筋ヨリ鑑定上嚴重ノ取扱ヲ爲スヘキ旨ノ注意ニ依リ此際一層嚴密ノ鑑定ヲ爲スノ結果多數ノ毀傷圓銀ヲ發見セシ次第ナリト回答致候案スルニ當平戸支金庫ノ鑑定ハ嚴密ニ失シ微細ノ瑕瑾ト雖モ故意ト毀傷ト認ムルハ稍見解ヲ誤リ居ルモノニハ無之哉ニ被考候密カニ聞ク金庫ニ於テハ昨今鑑定法ニ就テ

本金庫へ交渉致居候趣ニ付此際鑑定ノ方針ヲ變更シ容易ク受理スルニ至レハ忽チ完納シ得ルモ現今ノ趨勢ニテハ納稅者ノ滯納ニアラサルヲ以テ滯納處分ヲ執行シ能ハサルハ勿論強テ納付セシムル能ハサルニ付之ヲ完納セシムル處置上ニ就テハ殆ト苦慮致居候尤モ右未納村ノ内平戸村中津良村ハ漸クニシテ繰換完納シタルモ尙ホ未納ノ分九箇村モ有之容易ニ完結ヲ見ル能ハス今ヤ第五期田租及後半年分所得稅納期モ差懸リ且ツ第四期酒造稅納期ハ切迫候處右圓銀ノ結果ニ依リ世上一般金融壅塞シ稅務上少カラス影響ヲ及ホシ爲ニ完納ハ期セラレ難ク甚タ懸念ニ堪ヘス候右ハ曾テ御達ノ次第モ有之候ニ付景況ヲ具シ此段上申候也

(新聞紙切抜)

○全郡大恐慌 本月二日三日ニ掛ケ各村ヨリ支金庫へ納込ムヘキ税金持參ノ處壹圓銀貨ハ十ノ七八マテ引出サレ何レモ當惑ノ外ナク時ヲ移サス平戸町内ハ壹圓銀貨通用禁止ト同然ニ立至リ先カラ先へ傳へ各村役場ノ租稅一切銀貨ヲ收納セス郵便貯金竝爲替亦之ヲ引受ケス殆ト賣買休業ト云フ有様ニ立至リ目下全郡ノ大恐慌ヲ呈セリ

○奸商 壹圓銀貨ニ故障付キシヲ聞クヤ奸商等銀貨ノ買入ヲ爲スト稱シ持參人アレハ種々ノ批難ヲ加ヘ間ニハ賸物ナリトテ刻返シ更ニ潰シ金トシテ長崎ニ送ラント唱ヘ尤モラシキ言語ヲ以テ數多ノ銀貨ヲ買入ル、由ニテ目下ノ處八拾錢乃至八拾五錢位ナリト云フ

尙ホ長崎縣知事ハ三月四日附ヲ以テ壹圓銀貨鑑定ニ付大藏省ノ省議ニ關シ左ノ如ク理財局長及監督局長ニ宛照會セリ

壹圓銀貨ハ本月三十一日限り通用禁止セラレ候處昨今地租ノ納期ニシテ各町村ヨリ納付ス



ル貨幣ノ内壹圓銀貨ハ金庫ニ於テ俄ニ綿密ノ調査ヲ爲シ(二重頭徴稅ヲ)金庫ニ收入スルハ概シテ該貨幣ノ凡ソ十分ノ一ニ當リ餘ハ收入セサル趣ニ有之爲メニ納稅者ノ困却ハ申迄モナク徵稅上ニモ差支尠カラサル趣有之而シテ其收入セサル銀貨ヲ檢査スルニ別ニ賈造ニ無之通用上是迄差支ヘタルモノト難認候得共些疵アレハ總テ收入拒絶スル有様ナルヲ以テ從テ商業取引ニ於テモ壹圓銀貨ハ通用セサル景況ニ立至リ人心恟々致居候旨北松浦郡長ヨリ申立候右ハ貨幣ノ性質上多少ノ磨損瑕疵ハ免カレサルモノナレハ著シク損傷瑕瑾ナキモノハ收入セシメラレ可然存候得共何カ御都合有之候儀ニ候哉御省議ノ在ル處承知致度此段及御問合候也

此照會ニ對シテハ同月十二日ヲ以テ左ノ如ク回答シ尙ホ金庫出納役ニ其實況調査方ヲ照會セリ  
 本月四日ヲ以テ貴縣下金庫ニ於ケル壹圓銀貨鑑定方ニ付御照會ノ趣了承致候壹圓銀貨ハ近時賈偽變造其他不正ノモノ少カラス甚シキニ至リテハ紋樣品位量目等全ク眞貨同一ノモノヲ鑄造スルヤノ懸念モ有之專ラ警戒ヲ加ヘ居リ候次第ニ付右鑑定方ニ就テハ已ニ客年中夫夫金庫へ嚴重ナル取扱方ヲ命令致候右ハ賈造貨幣ニ對スル取扱方ニ有之候得共眞貨ニ就テハ貨幣法第十三條ニ規定有之候通り模様ノ認識シ難キモノ又ハ私ニ極印ヲ爲シ其他故意ニ毀傷セリト認ムルモノハ貨幣タルノ效用ナキモノニ候間其貨幣ニシテ眞正ノモノニ有之候共金庫ノ收入ハ勿論民間ノ流通ニモ使用スル能ハス全ク地金トシテ取扱候外致方ナキモノニ候尤モ右ノ事項ニ當ラスシテ通用ニ差支アルモノハ貨幣法第十二條ニ規定有之候通り流通不便貨幣トシテ其額面通り無手数料ニテ金庫ニ於テ引換ヘ得ルモノニ有之候

以上ハ壹圓銀貨ノ金庫ニ於テ引換又ハ收入ニ際スル取扱方ノ規定ニ有之候然ルニ御照會ニ依レハ貴縣下金庫ハ賈造ニアラスシテ通用ニ差支ナキモノト雖モ些疵アレハ一切拒絶シ收入セサル趣右ハ前段ノ規定ニ戻リ候モノナルヤ否ヤ明白ナラス候間夫々調査ノ上處分可致又貨幣ハ性質上多少ノ磨損瑕疵ハ免カレ難キモノナレハ其顯著ナラサルモノハ收入セシメ度趣右ハ無論規定ニ戻ラサル以上ハ金庫ニ於テ收受スヘキノミナラス民間ノ流通ニ差支ナキモノニ有之候間右御了承相成度此段及御回答候也

本件ニ就キ金庫出納役ハ同月二十八日ヲ以テ左ノ如ク回答セリ

本月十二日ヲ以テ長崎縣知事ヨリ同縣下金庫ニ於ケル壹圓銀貨ノ鑑定方ニ付照會有之候趣ヲ以テ尙ホ實際調査ノ上具申可致旨御照會ノ趣了承右取調候處別紙寫之通り當該本金庫ヨリ申出候間左様御承知相成度此段及御回答候也

(別紙)

壹圓銀貨鑑定方ノ儀ニ付本月十六日付ヲ以テ御照會ノ趣拜承當本金庫所屬平戸支金庫ニ於テ國稅納期ニ際シ各町村長ヨリ納付金ノ内壹圓銀貨ニ對シ綿密ノ調査ヲ爲シ多額ノ引出ヲ爲シタル爲メ多額ノ不納相生候趣聞込候ニ付不容易儀ト相考直ニ支金庫取扱人召喚シ取調候處磨損セシモノ多々有之ニ付右等ハ悉ク引出收納不致趣申出候就テハ尙ホ調査方ニ關シ詳細ノ調示ヲナシ曩ニ引出シタル分ヲモ再ヒ調査ノ上著シク磨損瑕瑾アル分ヲ除クノ外總テ收納セシメタル次第ニ御座候近來當庫ニ於テモ壹圓銀貨ノ收納多額有之候處極印付ハ勿論往々賈造等發見候ニ付調査方充分慎重ヲ加ヘ取扱致居候



又四日市商業會議所モ壹圓銀貨鑑定方ニ付四月二十日ヲ以テ左ノ如ク大藏大臣ニ宛建議セリ  
 貨幣制度改正ノ結果壹圓銀貨ノ通用ヲ禁止シ刻下之ヲ引換ヘラル、ニ際シ日本銀行ニ於テ  
 其取扱額ル苛酷ニ失スルモノ、如ク右壹圓銀貨ニ極メテ些少ノ損傷アルモ悉ク之カ引換ヲ  
 拒絕セラル、ニ依リ其所有者ノ迷惑甚シク之カ損失實ニ容易ナラサルモノアリ已ムナク之  
 ヲ地金トシテ賣却セントスレハ昨今ノ市價ハ圓銀一個ニ付僅ニ七拾七八錢ヲ超ヘス即チ圓  
 銀所有者ハ其一個毎ニ目前貳拾貳參錢宛ノ損耗ヲ蒙ラサルヲ得ス之カ多額ヲ所有スルモノ  
 ハ其損失誠ニ莫大ナルヲ見ル抑右圓銀ハ元ト政府發行ノ通貨ナルカ故ニ其汎ク民間ニ通用  
 シタルハ即チ通貨ノ通貨タル實效ヲ奏シタルモノト謂フヘク其間多少ノ損傷ヲ受クルカ如  
 キハ固ヨリ當然ノ結果ナリトス然ルニ其通貨トシテ能ク實際ニ使用セラレタルモノヲ刻下  
 政府カ回收スルニ當リ日本銀行ノ措置寬嚴其宜シキヲ失シ極メテ些少ノ損傷即チ俗ニ所謂  
 「カスリ傷等」ノ如キモノニ至ルマテ一々之カ引換ヲ拒絕セラル、ニ於テハ實ニ一般人民ノ耐  
 ヲ能ハサル所ナルノミナラス或ハ是レ既往ニ於ケル通貨ノ本分ニ矛盾スルノ嫌ナキヤヲ  
 疑ハサルヲ得サルナリ前陳ノ次第ニ付一般圓銀所有者ノ少カラサル不利ヲ免レシムルカ爲  
 メ此際速ニ日本銀行ヲシテ今少シク其取扱ヲ寬ニシ極メテ微少ノ損傷ノ如キハ必シモ之ヲ  
 問ハス其形體ニ於テ著シキ毀損ナク又其量目ニ於テ甚シキ減耗ナキ限リハ成ルヘク之カ引  
 換ニ應スルノ方針ヲ採ラシメラレシコトヲ希望ノ至ニ堪ヘス此段總會ノ決議ニ依リ及建議  
 候也

此建議書ハ直ニ金庫ニ送付セシニ金庫出納役ハ四月二十九日ヲ以テ壹圓銀貨鑑定方ニ付其取扱

ノ方針ヲ改メ其認定ヲ金庫ヘ一任アリ度旨理財局長ニ宛左ノ如ク照會セリ

圓銀引換取扱方ノ儀ニ就テハ客歲新幣制實施ノ當時日本銀行監理官ヨリ御指示相成候次第  
 有之候ニ付金庫ニ於テハ爾后右ノ御方針ニ依リ即チ該貨幣ニシテ損傷ノ跡アルモノハ可成  
 引換ヲ拒絕致來居候然ルニ今般右ニ關シ四日市商業會議所ヨリ建議ノ次第有之其他ノ地方  
 ニ於テモ近來右同様ノ苦情ヲ訴フル向ナキニアラス候間右金庫取扱ノ方針ヲ改メ自今少シ  
 ク其取扱ヲ緩ニシ且其故意ニ毀損セラレシモノナルト否トノ認定方ハ取扱金庫ヘ御一任相  
 成候様致度就テハ右ノ趣各地本金庫ヘモ通達及置候方可然ト存候條右ニテ御差支無之候ヤ  
 何分ノ儀至急御回答被下候様致度此段及御照會候也

此時ニ當リ壹圓銀貨鑑定方ニ付世上ノ物議少カラサルヨリ右鑑定方ニ付大藏省ハ四月二十八日  
 ヲ以テ左ノ決議ヲ爲シ之ヲ日本銀行金庫局長並造幣局長ヘ内談セリ

壹圓銀貨引換交換ニ當リ其鑑定方ニ就テハ貨幣法第十三條ニ規定セル模様ノ認識シ難キモ  
 ノト私ニ極印セルモノトハ之ヲ判定スル容易ニ有之候ヘ共故意ニ毀傷セリト認ムルモノニ  
 至リテハ全ク鑑定者ノ判定ニ在リテ之ヲ區別スルコト甚タ困難ナルモノニ有之候然ルニ此  
 點ニ關シテハ當初橫濱正金銀行高橋氏等ト面談ノ上兎ニ角貨幣面ニ毀損アルモノハ之ヲ受  
 取ラサル方針ヲ取り來リ居候處實際引換ヲ實行セシ以來各地ニ於テ自然毀損セシモノヲモ  
 引換ヘサルノ實況アルニ至リタルヲ以テ種々苦情ヲ訴フルニ至レリ就テハ向後ハ明ニ故意  
 ニ毀傷セシト認メ得ルモノヲ交換セサルハ勿論ニ候ヘ共又顯微鏡ヲ以テ之ヲ檢スルカ如キ  
 精密ナル檢定法ヲ取ルニモ不及事ト存シ其旨日本銀行金庫局長及造幣局長ヘ相談致置候右



一應上申致置候也

右ノ決議ニ依リ五月一日ヲ以テ金庫出納役ニ對シ左ノ通回答セリ

昨二十九日ヲ以テ圓銀引換取扱方ノ儀ニ付御照會ノ趣了承致候右ハ昨年交換ノ初ニ當リ正金銀行等ト相談ノ際ニハ外國ヨリ輸入スル圓銀等ニ種々ノ不正品多キ傾キ有之候ニ付兎ニ角貨幣面ニ毀傷アルモノハ交換セサルノ方針ニ致來候處之カ爲メ海峽地方ヨリ本邦へ輸入スル圓銀ニハ右等毀傷ノ虞アルモノヲ差加ヘサル趣ニテ海外ニ對シテハ一段ノ警戒ヲ加ヘ候然レトモ内國流通ノモノニ至リテハ海外ヨリ輸入スルモノ、如キ手入セシモノ無之故ニ是等ハ貨幣法第十三條ニ在ル故意ニ毀傷セリト認ムルモノ、外ハ交換シテ差支ナキコト、存候就テハ故意ニ毀傷セシモノト認ムルト認メサルトハ鑑定者ノ判定ニ一任シテ可然コトト存候ニ付自今此主旨ヲ以テ各地本金庫へ引換方爲御取扱相成可然ト存候

尙ホ本件ニ關シ兵庫縣知事ハ五月二十五日ヲ以テ大藏大臣ニ宛左ノ如ク上申セリ

客年三月法律第十六號ヲ以テ貨幣法ヲ發布セラレ續キテ同年九月勅令第三百三十八號ヲ以テ壹圓銀貨通用禁止期限ヲ定メラレ候處本年三月以來管下各郡長ヨリ其所轄町村役場ニ於テ地租其他上納金等金庫ニ送納スルニ當リ殆ト肉眼ヲ以テ識別スヘカラサル微疵アルモノモ悉皆貨幣法第十三條ニ該當スルモノトシテ拒絶セラレ之カ爲メ受授ノ間ニ紛議ヲ生セシ趣其事情ヲ具シテ本官ニ申立ル者不少然レトモ如此事件ハ銀貨其物ニ就キ法律ニ抵觸スルヤ否ヲ究ムルニアラサレハ其當否ヲ決スルニ難キモノ有之就テハ法律ノ明文ニ照シ自ラ決斷シテ金庫ニ照會セシムヘキ趣旨ヲ以テ書面ハ悉皆却下致シタル次第ニ有之候然ルニ其後

同一ノ申立ヲ爲ス者未タ全ク跡ヲ絶タス昨今ニ至リ又々納租及引換等ニ關シ別紙(略)ノ通申立ルモノ有之殊ニ城崎郡香住村長ノ如キ遂ニ事情ヲ貴省ニ具陳シ以テ其採納ヲ願フモノアルニ至リ候其要旨ハ別紙(願書略)ノ通ニシテ一タヒ管轄稅務管理局長ニ訴フル等事實頗ル困難ヲ極メタルモノ、如ク充分取調ヲ要スル儀ト思料致候因テ之ヲ貨幣法ニ照スニ同法第十三條ニ規定スル所ニ依レハ圓銀ニシテ模様ノ認識シ難キモノ私ニ極印ヲ爲シタルモノ故意ニ毀傷セシト認ムルモノニアラサルヨリハ孰モ貨幣タルノ效用ヲ失ハサル筈ナルニ付假令多少ノ損所アルモノト雖モ多數ナル中ニハ右三件ノ範圍内ニ入ラサルモノモ可有之尤モ模様ノ認識シ難キモノ私ニ極印ヲ爲シタルモノ、二件ハ一看瞭然ニシテ別ニ紛議ヲ起スニ至ル間敷候得共獨リ故意ニ毀傷セシト認ムルモノ、一件ニ至テハ所謂認定ニ任スヘキモノナルヲ以テ果シテ故意ニ出テタルモノナルヤ否ヤニ就キ甲乙見解ヲ異ニスル場合アル尙ニ已ムヲ得サルモノニシテ別紙申立ノ如キモ多クハ此點ニ出ルモノナルヘク隨テ申立ノ當否ヲ判斷センコト甚タ困難ナル筋ト被存候然レトモ銀貨其物ノ性質トシテ發行以來數年ヲ經過スルニ隨ヒ多人受授ノ間相磨シ相觸ル等動モスレハ損所ヲ生シ易キモノアリ殊ニ肉眼ヲ以テ識別シ難キ程ノ微疵ナカラシメンコト到底出來得ヘキ儀ニ無之今之ヲ擧ケテ悉ク故意ニ毀傷セシモノト見做シ貨幣法第十六條ノ規定アルニモ關セス一切其受入ヲ拒絶シ又其引換ヲ爲サ、ル等ノ事有之候テハ事態穩當ナラサル儀ト存候是等ハ畢竟金庫ニ於ケル取扱方ノ寬苛如何ニ因ルモノニシテ其及ホス所ノ影響ハ忽チ民間ノ損失ト相成中ニモ町村役場ノ如キハ其中間ニ立チ取扱上最モ困難ヲ極ムル次第ニ候條其故意ニ出タルニアラサルモノハ勿



論事實稍不明瞭ニ屬スルモノト雖モ精々寛大ニ取扱ヒ可成人民ヲシテ損失ヲ被ラシメサル様其向ヘ御示達相成度此段及上申候也

右申ニ對シ大藏次官ハ六月十五日ヲ以テ左ノ如ク通牒セリ

客月二十五日付ヲ以テ圓銀納租及引換ニ付御上申ノ趣了承致候壹圓銀貨ノ鑑定方ニ就テハ貨幣法第十三條ノ規定ニ依リ模様ノ認識シ難キモノ及ヒ私ニ極印ヲ爲シタルモノハ無論貨幣タルノ效用ナキモノニ有之候間金庫ニ於テモ之ヲ收受セサル儀ニ候得共故意ニ毀傷セルト否トニ至テハ全ク鑑定者ノ認定ニ依ルモノニ有之候間右鑑定方ニ就テハ夫々金庫ニ令達ノ手續ニ及ヒ明ニ故意ニ毀傷セシモノト認ムルモノハ勿論拒絕スヘキモ肉眼ヲ以テ識別シ難キ程ノ自然ノ微疵アルモノマテ收受セサルカ如キ嚴密ナル檢定法ヲ行フ儀ニハ無之次第ニ付右御承引相成度候尙ホ今般當省告示第四十九號ヲ以テ壹圓銀貨幣ト通貨トノ引換方竝ニ之ヲ公納ニ供スヘキ途ヲ相開キ候ニ就テハ爾後圓銀所有者ニ對シ一層ノ便益ヲ加ヘ候儀ト存候間此段申添候也

右壹圓銀貨眞價鑑定方ニ就テハ各地ニ於テ物議少カラサリシモ前記四月二十八日ノ決議ニ依リ其方針ヲ一定シ爾來些ノ支障ナクシテ進行セリ

又明治三十年九月二日ヲ以テ大藏大臣伯爵松方正義ヨリ閣議ニ提出セル壹圓銀貨引換期限短縮法律案ハ同年十二月第十一議會ニ提出セラレシカ同期ノ議會ハ同月二十五日ニ於テ解散セラレタルヲ以テ遂ニ之カ決議ヲ見ルニ至ラス其後明治三十一年一月十二日伯爵松方正義大藏大臣ヲ辭シ伯爵井上馨大藏大臣ニ任セラレタリ而シテ井上伯モ亦右法案提出ノ必要ヲ認メ同年三月十

七日ヲ以テ左ノ如ク閣議ニ提出セリ

壹圓銀貨幣ノ儀ハ昨年法律第十六號貨幣法第十六條第二項ニ依リテ通用禁止後其引換期限ヲ滿五箇年間ト定メラレ引續勅令第三百三十八號ヲ以テ明治三十一年四月一日限リ其通用ヲ禁止セラレ候處貨幣整理上ノ便宜ヲ考ヘ候トキハ可成速ニ其引換ヲ終ルコト得策ニ有之且又爾後銀貨ノ下落ニ伴ヒ其價造ヲ促スノ危險モ有之候ニ付來ル七月三十一日限リニ引換期限ヲ短縮致候方可然ト存候尤モ最早内地ニアリテハ引換ヲ請求シ來ルモノモ僅少ト相成候次第ニ有之候ヘハ之カ爲メ別ニ差支ヲ來サ、ル見込ニ有之候依テ別紙法律案ヲ具シ茲ニ之ヲ閣議ニ提出ス

(別紙)

壹圓銀貨幣ノ引換ハ明治三十一年七月三十一日限リトス

理由

壹圓銀貨幣ハ可成速ニ引揚クルヲ以テ貨幣整理上ノ利便ト爲スニ依リ昨年勅令第三百三十八號ヲ以テ明治三十一年四月一日限リ其通用ヲ禁止セラレタリ然ルニ將來尙ホ五箇年間其引換期限ヲ存スルノ必要ヲ見サルニ依リ來ル七月三十一日限リ其引換ヲ爲サ、ラントス之ヲ内外流通ノ狀況ニ徵スルニ交換上不便ナキモノト認ム是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

壹圓銀貨幣引換期限ニ關スル法律案ハ明治三十一年五月十九日開會ノ第十二帝國議會ニ提出セラレ五月二十一日衆議院議事日程ニ上リ政府委員ノ説明終ルヤ直ニ特別委員ニ付託セラレ同二



十七日特別委員長ハ右法案ヲ審議ノ上可決セシ旨報告シ之ヲ議事ニ付セシカ其引換鑑定ノ嚴ニ失スルトノ議起リタルヲ以テ政府委員ハ引換方圓滑ノ策ヲ探ルヘキコトヲ約シ直ニ讀會省略ノ上可決確定セラレタリ

貴族院ニ於テハ同月三十一日ノ議事日程ニ上リ政府委員ノ説明終ルヤ直ニ特別委員ニ付託セラレ越テ六月四日特別委員長ハ審議可決セシ旨ヲ報告シ議事ニ付セシカ讀會省略ヲ以テ直ニ可決セラレタリ

右法案ハ毫モ修正ナク兩院ヲ通過シ六月十日ヲ以テ裁可ヲ得同十一日法律第五號トシテ公布セラレタリ

壹圓銀貨ノ引換ハ既ニ記スルカ如ク大藏省告示第六十一號ニ依リ金貨ニ交換セラレツ、アリシカ右法律第五號ヲ以テ其引換期限ヲ短縮セラレ且ツ議會ニ於テ引換方ニ就キ成ルヘク圓銀所有者ニ便宜ヲ加ヘンコトヲ望ミ政府モ之ヲ承諾セシニ依リ壹圓銀貨ノ引換ハ獨リ金貨ニ限ラス其他ノ通貨ヲ以テ引換ノ途ヲ開キ又支金庫ニ於テ之ヲ取扱フコト、シ尙ホ引換期限中ハ政府ヘノ公納ニ使用スルコトヲ許シ即チ六月十五日大藏省告示第四十九號ヲ以テ左ノ如ク告示セリ

壹圓銀貨幣ヲ有合セノ通貨ト引換望ノ者ハ引換期限中各地本支金庫ニ申出ツヘシ

壹圓銀貨幣ハ引換期限中租稅其他ノ公納ニ納付スルコトヲ得

右告示ニ基キ壹圓銀貨交換順序ヲ改メ支金庫ニ於テモ亦其引換ヲ取扱ハシメサルヲ得サルヲ以テ六月十四日左ノ如ク金庫出納役ニ令達セリ

本年大藏省告示第四十九號ヲ以テ壹圓銀貨幣引換方相定メラレ候ニ就テハ明治三十年九月

二十一日敕第一〇六〇號ヲ以テ相達候壹圓銀貨交換順序第四項各地本金庫トアルハ各地本支金庫ト改ム

右壹圓銀貨引換施行中大藏大臣ノ更迭三回ニ及ヘリ然レトモ貨幣法實施ノ方針ハ松方伯爵ノ計畫ヲ繼續シ壹圓銀貨ノ引換モ完全ニ其效ヲ奏シ明治三十一年七月三十一日ヲ以テ其終結ヲ告ケタリ今右引換ノ狀況ヲ舉ケレハ左ノ如シ

明治三十一年七月末壹圓銀貨引換概況

總發行高

一六五、一三三、七一〇円

内

鑄造高

四六〇、九〇四

純輸出高

九九、五〇八、七四〇

日清戰役中戰地携帶使用高

一一、〇二八、六三三

臺灣へ回送使用高

八、六九五、〇〇〇

金貨ト交換受入高

三八、六四八、二九七

租稅其他ニテ收入引揚高

三、九七七、〇九九

差引國內引換未済高 (數失シテ引換ヲ要セサルモノ)

二、八一五、〇三七

外

臺灣ノ分

内地ヨリ回送高

八、六九五、〇〇〇



但臺灣輸出入調査上ニ於テ明治三十一年七月末日輸入超過壹圓銀貨八百六拾六萬五百貳拾七圓アリトノコトナレトモ右ハ私ニ極印ヲ爲シタル銀貨ヲモ混同セシモノナルヲ以テ壹圓銀貨ノ輸出入調査ニ加算セス

内

臺灣ニテ租税其他公納引揚高

二、九六二、九七三

差引臺灣引揚未済高

(清國地方ニシテ引換ヲ要セサルモノ)

五、七三三、〇二七

貨幣法實施ニ就テハ從來發行ノ壹圓銀貨ハ總テ金貨ト交換セサルヘカラサルヲ以テ海外ニ於テ流通セルモノモ亦復歸スヘク若シ此額ニシテ巨額ナランカ金貨ハ之カ爲ニ引換ヘ吸收セラレ遂ニ幣制ノ基礎ヲ危クスルノ虞アルヲ以テ松方伯ハ其復歸スヘキ豫定高ニ就テハ最モ慎重ニ調査ヲ加ヘタリ

幣制改革前即チ明治三十年一月月末ニ於ケル壹圓銀貨ノ總發行高輸出高及純輸出高ヲ見ルニ左ノ如シ

|        |             |
|--------|-------------|
| 總發行高   | 一六二、五一九、〇一  |
| 輸出高    | 一一九、八一六、三八九 |
| 輸入高    | 七、四六一、二三五   |
| 純差引輸出高 | 一一二、三五五、二五四 |

壹圓銀貨ノ輸出高ハ此ノ如ク巨額ニシテ將來復歸スヘキモ甚タ多額ナルカ如シト雖モ此圓銀ハ主トシテ海峽附近ノ諸島ニ於ケル通貨トシテ小取引ニ使用スルモノアリテ容易ニ本邦ニ輸送シ

テ金貨ニ交換セラル、ノ餘裕ヲ有セス且其輸出セラレタルモノ、大半ハ清國人ノ手ニ渡リ或ハ溶解シテ兩銀ニ改鑄セラレ或ハ慣習ニ依リ私ニ極印ヲ施サレ概ネ貨幣タルノ資格ヲ失ヒタルモノナルヲ以テ完全ナル貨幣トシテ本邦ヘ復歸スヘキモノハ純輸出高ノ一割即チ千萬圓内外ニ過キサルヘシト豫定セリ然ルニ其後二月十九日ニ於テ特ニ東洋各港領事ニ照會シ之ヲ調査セシメタル其流通高ノ概算左ノ如クニシテ當初壹千萬圓ノ豫定ニ大差ナキヲ示セリ

|     |           |
|-----|-----------|
| 仁川  | 一〇〇、〇〇〇   |
| 釜山  | 二〇、〇〇〇    |
| 元山  | 四三、五〇〇    |
| 芝罘  | 七〇〇       |
| 天津  | 五、〇〇〇     |
| 上海  | 〇         |
| 香港  | 五〇〇、〇〇〇   |
| 新嘉坡 | 八、〇〇〇、〇〇〇 |
| 合計  | 八、六六九、二〇〇 |

此ノ如ク政府ハ圓銀ノ復歸スヘキモノ壹千萬圓内外ト豫定セシカ世上之ヲ以テ過少ニ失ストナシ少クモ四五千萬圓ノ輸入ヲ來スヘシト論スルモノ少カラサリシカ今貨幣法案提出ノ時即チ明治三十年一月末及圓銀交換終結ノ時即チ明治三十一年七月末ニ於ケル純輸出額ヲ比較スルニ前表ニ示スカ如ク前者ハ壹億壹千貳百參拾五萬五千貳百五拾四圓ニシテ後者ハ九千九百五拾萬八



千七百四拾圓ナレハ其差壹千貳百八拾四萬六千五百拾四圓ハ明治三十年二月ヨリ同三十一年七月末マテニ復歸セシモノニ外ナラサルヘシ而シテ實際交換ヲ開始シタル明治三十年十月ヨリ同三十一年七月マテノ復歸輸入高ハ壹千〇八拾四萬六千四百六拾五圓ナリシヲ以テ政府ノ豫定高ニ對シテ僅々ノ差額ヲ以テ交換ヲ結了シタルモノニシテ國家ノ大幸ト謂ハサルヘカラス

尙ホ壹圓銀貨ノ海外流通ニ關シテハ幣制改革ノ初ヨリ壹圓銀貨引換ノ終了ニ至ルマテ其調査ヲ繼續シ或ハ各地ノ領事ニ託シテ時々其景況ヲ報告セシメ或ハ銀行員ヲシテ親シク視察セシメ常ニ其動靜ヲ窺フニ怠ラサリキ今當時壹圓銀貨海外流通ニ關スル諸報告ヲ左ニ摘録スヘシ

釜山地方ニ於ケル圓銀流通景況 (明治三十年八月 釜山商業會議所報告)

一 本港貿易上ニ最モ關係ノ大ナル慶尙全羅兩道ニ於ケル我貨幣流通ノ景況及其流通高ハ精密ナル調査ヲ遂ケントスルモ準據スヘキ材料甚タ乏シク且内地ニ往返スル我商人及朝鮮人其他居留地ノ人々ニ就キ親シク聞得タル實地ノ狀況ヲ參照シテ臆測算定スルノ外ナシトス併シ右等各人稱謂スル所モ亦區々一定セス特ニ全羅道ノ如キハ其信用流通最モ良厚ニシテ朝鮮人相互ノ間ニ於ケル取引ニモ我貨幣ヲ好ンテ用フルト云ヒ或ハ之ニ反シ毫モ朝鮮人間ニ通用セス唯政府へ上納スル爲ニ我貨幣ヲ蒐集スルニ過キスト云フ因テ尙ホ實地ノ景況ヲ視察スルニ後者ノ說眞ニ近キカ如シ而シテ右兩道間ニ我貨幣ノ現存セル高ハ大略貳拾萬圓乃至參拾萬圓(五拾萬圓内外アルヘシトノ說モアリ)ニシテ此内四分ノ三八慶尙道ニ屬シ他ノ四分ノ一ハ全羅道ニ於ケルモノナリ尙ホ之ヲ銀紙兩種ニ區別スレハ慶尙道ニ在テハ大抵壹圓銀貨ト紙幣ト等分ナルヘク全羅道ニ在テハ壹

圓銀貨其大部分ヲ占メ紙幣ノ如キハ僅ニ二三分ニ過キス又補助銀銅小貨ニ至テハ極メテ僅少ニシテ殆ト數フルニ足ラサルカ如シ而シテ右ノ外單ニ當居留地内外ニ流通セル高ハ凡ソ參拾萬圓ニ下ラサルヘシ

但紙幣ノ種類ハ壹圓、五圓、拾圓ノ三種ナリトス

金羅道地方ハ前述ノ如ク政府へ上納スル目的ヲ以テ我銀貨ヲ蒐集スルノ外普通人民間ニ在テモ之ヲ望ムモノナキニアラサレトモ其目的ノ多クハ流通ニアラスシテ之ヲ以テ地金トナシ或ハ斧斧或ハ腕輪或ハ指輪又ハ煙管等ノ裝飾器物ヲ製スルニ在リ故ニ何地ニ到ルモ壹圓銀貨ヲ以テ韓錢五百文乃至五百拾文ニ交換スルハ極メテ容易ナリトス或地方ニテハ五百貳拾文ニマテ交換セリト云フ是レ即チ邦人カ一タヒ内地ニ入レハ到處我銀貨ヲ信用スルノ厚キハ其品質ノ良好ナルト其賤造ノ極メテ稀ナルニ依ラスンハアラシ朝鮮人ニシテ我貨幣ヲ好ムノ理由ハ右ニテ略ホ其要領ヲ知ルヲ得ヘシ而シテ朝鮮人ニシテ我紙幣ハ何時ニテモ銀貨ニ引換ヘラル、コトヲ認識スルモノハ其取引ハ勿論其携帶ノ便利ナルト貯藏ノ容易ナルトニ依リ圓銀ヨリハ寧ロ紙幣ヲ好ムニ至レリ是レ即チ本港ニ接近セル慶尙道内ニ在テハ他道ニ比シ紙幣ノ多ク流入シ朝鮮人間ニモ通用スル所以ナリトス

二 右ノ如ク從來我貨幣ハ近數年間ニ於テ當國內地ニ流入セルモノ頗ル多額ナリシカ我貨幣制度改革セラル、モ我壹圓銀貨(特ニ地方貨)及之ト兌換シ得ヘキ紙幣又ハ手形在朝鮮居留人間ニ流通スルニ至ラハ朝鮮政府ニ於テ從前ノ如ク是等貨幣ヲ以テ租稅ヲ納ム



ルコトヲ許ス者ト假定セハ將來當地方ノ韓人ハ是等貨幣手形ヲ信用流通スルヤ否ノ點ニ對シテハ頗ル重大ニ屬シ又大ニ研究ヲ要スル事ニシテ俄ニ斷定ヲ下シ難シト雖モ我政府ニ於テ改定貨幣制度實施ノ後ニ至ルモ特ニ居留地間ノ地方貨幣トシテ現今圓銀ノ通用ヲ許サレ居留人民亦疑念ナク通用スル事トナレハ韓人間ニ於テモ從テ支障ナク通用スヘシ其手形ノ如キニ至リテモ亦同様ナラン今試ニ既往現在ノ實歴ニ徵スルニ先年第一銀行ト當港海關ノ間ニ於テ税金取扱ノ契約成リシ當時納稅者ノ便宜ヲ圖リ第一銀行ヨリ(海關ト約)何時モ銀貨ニ引換フヘキ預券ヲ發セシカ忽チ信用ヲ得獨リ海關納稅ノミナラス殆ト紙幣ト同様ニ取引流通スルニ至レリ(現今ハ)又信用アル居留商店ノ發セシ韓錢預手形ノ如キハ目下我居留地内外ニ行ハレ彼不便ナル韓錢現物ノ取引ヨリハ此手形ヲ以テスルコト甚タ多ク而シテ一タヒ信用ヲ博シタル以上ハ轉々流通毫モ疑念ヲ其間ニ夾ムコトナシ是レ畢竟取引ノ便宜上ヨリ起リタル現状ナリトス然シ即チ假令我幣制改革後ニ至ルモ圓銀ヲ以テ地方貨幣トシ我居留地内ニ流通シ得ルコト及之ト兌換シ得ヘキ手形發行(平均ヲ置)ヲ其筋ヨリ特ニ公許セテレ朝鮮政府亦是等ヲ租稅ニ收納スルコトヲ許サハ從テ韓人間ニ信用流通スルコト疑ナカルヘシト信ス

三 元來貨幣ニ極印ヲ打レタルモノハ貨幣タル效用ヲ失ヒ其發行シタル政府ハ引換ノ責ナキモノナリ(單ニ地金ト)然ルニ清國各開港地等ニ行ハル「チヨツブド、ダラ」即チ刻印銀貨ナルモノハ我邦及メキシコノ銀貨ニ其手ヲ經タル各商人等ノ印ヲ刻セルモノニテ其刻印ノ多キ程信用アル貨幣トシテ取引シ即チ賈造ニアラサルコトヲ檢證スルモノナリ

故ニ新シキ光澤アル美觀ノモノハ反テ受授ヲ拒マルト云ヘリ然ルニ我幣制改革後朝鮮居留地間ニ地方貨幣トシテ特ニ圓銀ノ通用ヲ許サレ其圓銀ニハ刻印ヲ打セラレ、トスルモ此刻印アルカ爲メ貨幣ノ效用ヲ失ハサルモノトナシ我居留民間ニ疑念ナク通用スレハ朝鮮人民間ニモ亦無論信用流用スルニ至ラン之ヲ要スルニ刻印銀貨ノ信用流通ハ

一ニ我居留民ニ依テ朝鮮人民間ニ及フモノナルヘシ唯是等貨幣ニ對シテハ將來我政府ニ於テ如何ノ措置ヲナスヤヲ確メ置クコト最モ必要ナラン

四 墨銀ニ就テハ本港ハ目下殆ト其影タモ見ス但去明治九年開港トナリタル後今ヲ距ル十數年前ハ往々墨銀流入セルコトアリシ這ハ一時寄航ノ外國軍艦及西洋人本邦人等カ齎シ來リタルモノニテ其數甚タ多カラサリシカ其當時ニ於テモ餘リ信用ナク甚シキハ幾干ノ打歩ヲ出シテ我貨幣ニ交換セラレタリ其後ハ上述ノ如ク殆ト其影ヲ絶チタリ然ルニ今若シ墨銀ヲ以テ韓人間ニ流通セシメント強ヒ力ヲ用フルモノアリト假定スルモ目下ノ有様ニテハ容易ニ信用流通スルニハ至ラサルヘシ該貨幣ハ世人ノ知悉スル如ク賈造多クシテ往々鑑識ニ苦ムノミナラス所謂先入爲主のハ朝鮮人ニ於テ最モ甚シキモノナレ從來ニ用ヒ慣レサル且賈造ノ多キ墨銀ヲ流入スルモ當地方ニ在テハ輒ク之ニ信用ヲ措カサルヘシ但若我銀貨通用ナキニ至リ朝鮮貨幣ノ鑄造モナケレハ或ハ將來墨銀ノ流入ナキヲ保スヘカラス是レ一考ヲ要スヘキ歟

五 當國ニ於テ我圓銀若クハ之ト兌換シ得ヘキ紙幣ノ外他ノ金銀貨及紙幣流通セスト假定セハ我貨幣幾干ヲ以テ其需用ヲ充タスヤ否ニ付テハ亦容易ニ斷定ニ苦ムト雖モ表面上